

岩手県教育年報

平成23年度版

平成24年12月

岩手県教育委員会

序

本県教育委員会は、教育委員会制度発足以来、毎年、教育年報を
発刊し、本県教育の動向を把握して参りました。

平成23年3月11日に発生した東日本大震災津波により、本県では
児童生徒や教職員の尊い命が失われ、また、多数の学校施設が被災
するなど、教育環境が大きく損なわれました。発災から1年8か月
が経過しましたが、未だに間借りをして授業を行っていたり、校庭
が十分に使えないなど、教育活動が制限されている学校も多くあり、
一刻も早い学び舎の正常化が求められております。

このため、県教育委員会は、最優先課題である大震災からの学び
の場の復興に全力で取り組むとともに、「知・徳・体」を備え調和
のとれた人間形成という教育目的の実現に向けて、「いわて県民計
画」及び「岩手の教育振興」をもとに、学校教育、社会教育、生涯
教育、文化芸術、スポーツの振興を図って参りました。

この教育年報は、平成23年度における教育施策の概要や実績等を
幅広く収録しております。

震災以来、本県の子どもたちに国内外の皆様方からいただきました
数多くの御支援や励ましに対し、心から感謝申し上げますととも
に、この年報が、教育に直接携わる方々はもとより、関係各位に広
く御活用いただければ幸いです。

平成24年12月

岩手県教育委員会

教育長 菅野 洋樹

平成23年度版 岩手県教育年報について

岩手県教育委員会では、「いわて県民計画」（平成21年12月策定：計画期間 平成21年度～平成30年度）に掲げる教育政策のうち、教育委員会が所管する分野の今後10年間の基本方向について、より理解を深めるためのガイドラインとして、平成22年3月に「岩手の教育振興」を策定しました。

平成23年度版岩手県教育年報は、この「岩手の教育振興」の施策の体系を基礎として作成しています。

また、平成23年3月11日に発生した東日本大震災津波による被害状況と岩手県教育委員会の取組みについては、冒頭に第1章として取りまとめ、主に授業再開後の取組みを収録しました。

※ 授業再開までの取組みについては「平成22年度版 岩手県教育年報」をご覧ください。

目 次

第 1 章 東日本大震災津波に対する岩手県教育委員会の取組について

第 1	主な被害状況等	1
第 2	学校再開の状況等	2
第 3	県教育委員会の取組（主に授業再開後の取組）	4

第 2 章 教育行財政

第 1 節 教育行政

第 1	平成23年度 岩手県教育委員会経営計画	11
第 2	岩手県教育委員会	21
第 3	表彰及び栄典	22

第 2 節 教育財政

[参考]	管理部門	28
[参考]	市町村教育委員会	30

第 3 章 教育施策の推進状況

第 1 節 社会の変化に対応する教育の推進

第 1	目標達成型の学校教育の推進	33
第 2	社会人として自立できる能力の育成	35
第 3	児童生徒の健やかな成長を支える取組の推進	43
第 4	教員の適正配置	44
第 5	教員研修の充実	45
第 6	教員研究等の充実	47

第 2 節 確かな学力をはぐくむ教育の推進

第 1	学習指導要領改訂に伴う教育課程の編成	49
第 2	学習面における基礎・基本の定着	49
第 3	学力を伸ばし、生きる力をはぐくむ教育の推進	51

第 3 節 豊かな人間性や社会性をはぐくむ教育の推進

第 1	道徳教育、体験活動・読書活動等の推進	53
第 2	生活面における基礎・基本の定着	56
第 3	問題行動等の未然防止、早期発見・早期対応のための適応指導の充実	56

第 4 節 健やかな体をはぐくむ教育の推進

第 1	体力向上や運動に親しむ態度の育成	60
第 2	健康教育の充実	61
第 3	指導者の資質・授業力向上	64

第 5 節 「共に学び、共に育つ教育」の推進

第 1	「就学指導」から「就学支援」へ	67
第 2	幼、保、小、中、高等学校における特別支援教育の充実	67
第 3	特別支援教育の理解促進	68
第 4	特別支援学校生徒の就労支援の充実	69

第6節	学校教育を支える教育環境の充実	
第1	県立高校の望ましい教育環境の整備	70
第2	学校施設の耐震化の推進	75
第3	修学資金の支援等	76
第4	教育環境の整備	81
第7節	教育振興運動を基盤とした地域ぐるみで取り組む教育の推進	
第1	学校・家庭・地域が連携するための仕組みづくり	88
第2	多様な体験学習の充実（学習機会の確保）	93
第3	地域の教育課題の解決・家庭教育の充実	96
第8節	広がりと深まりのある生涯学習の振興	
第1	多様な学習活動を支援する環境の整備充実	99
第2	生涯にわたる学習機会の充実	101
	（1 県立生涯学習推進センター）	109
	（2 県立図書館）	112
	（3 県立青少年の家）	116
	（4 県立博物館）	119
	[参考] 県内社会教育施設の設置・利用状況（県立を除く）	125
第9節	地域の「創造力」向上を目指した文化芸術の振興	
第1	文化振興基金を活用した支援等	127
第2	中学生・高校生に対する文化活動支援	137
第3	文化芸術による地域振興体制づくりへの支援	140
第10節	郷土への誇りと愛着を深める歴史遺産と伝統文化の振興	
第1	世界遺産登録の推進と柳之御所遺跡の整備活用	141
第2	伝統芸能等の伝承や郷土理解のための学校教育との連携	143
第11節	生涯スポーツの振興	
第1	運動・スポーツに親しむ人々の広がり	147
第2	運動・スポーツに親しめる場の広がり	148
第3	ネットワークの広がり	154
第12節	競技スポーツの強化	
第1	中長期的な視点に立った選手育成並びに指導者養成	155
第2	競技団体・学校体育団体等の組織体制の充実に向けた支援	156
第3	広いスポーツの基盤に支えられたスポーツ拠点化に向けた支援	156
第4	スポーツ医・科学サポート体制の充実	157
	[参考] 各県営施設で開催された主な競技会・イベント等	158

第4章 厚生福利

第1節	公立学校共済組合	
第1	短期給付事業	159
第2	長期給付事業	159
第3	福利厚生事業	160
第4	貸付事業	161
第5	宿泊施設	161

第2節 教職員互助会

第1	短期給付事業	162
第2	長期給付事業	162
第3	厚生福利事業	162
第4	特別弔慰積立事業	164
第5	貸付事業	164

[参考資料]

1	県教育委員会機構図	165
2	県教育委員会が所管する附属機関の委員	166
3	県教育委員会会議	168
4	県教育委員会関係主要行事	170
5	私立学校	172
6	県教育委員会が所管する特例民法法人・公益信託	174
7	県教育関係諸団体	176

第1章 東日本大震災津波に対する岩手県教育委員会の取組について

第1 主な被害状況等

1 人的被害（平成24年3月31日現在）

	児童生徒		教職員	
	死亡	行方不明	死亡	行方不明
小学校	17人	4人	1人	2人
中学校	15人	—	—	—
県立高校	43人	9人	1人	1人
特別支援学校	3人	—	—	—
その他	—	—	1人	—
計	78人	13人	3人	3人

2 物的被害（平成24年3月31日現在）

	被害箇所数	被害額	
県立	中学校	1校/ 1校	1,500千円
	高校	60校/ 68校	1,690,399千円
	特別支援学校	12校/ 14校	19,626千円
	教育関係施設	15施設	914,480千円
市町村立	小学校	214校/392校	10,648,932千円
	中学校	114校/189校	6,485,606千円
	幼稚園	36園/ 60園	284,122千円
	その他の学校関係施設	6か所	
	社会教育施設	248施設/679施設	9,099,198千円
	社会体育施設	134施設/1214施設	5,640,131千円

【参考】1億円以上の被害が確認された県立学校・施設

施設名	被害額	被害の概要
高田松原野外活動センター	860,352千円	全壊（管理棟の最上階まで浸水）
高田高校	752,720千円	本校舎：3階まで浸水、第一体育館全壊 広田校舎：実習棟1階浸水
宮古工業高校	499,588千円	校舎1階・体育館浸水、校庭に瓦礫流入
宮古高校	101,133千円	ヨット部部室全壊、教員住宅1階浸水

第1章 東日本大震災津波に対する岩手県教育委員会の取組みについて

第1 主な被害状況等

第2 学校再開の状況等

3 震災に起因する児童・生徒の転校（平成23年9月1日現在）

	県内→県外	県内→県内	県外→県内
小 学 校	177人	522人	154人
中 学 校	54人	137人	43人
高 等 学 校	45人	56人	19人
特別支援学校	0人	3人	1人
計	276人	718人	217人

注1) 文部科学省調査「東日本大震災により被災した幼児児童生徒の学校における受入れ状況について」より抜粋

注2) 中学校には中等教育学校を含む。

4 避難場所となった学校・教育関係施設

避難住民の仮設住宅への入居が進み、平成23年8月31日をもって、学校・教育関係施設の避難場所については、すべて閉鎖された。

(参考)

県内で避難所がもっとも多かったのは、平成23年3月19日時点で、避難所となった学校は7市町村において、小学校33校、中学校13校、高等学校9校、特別支援学校3校、幼稚園1園（学校以外の教育施設、廃校施設を除く）であり、避難者の数は15,857人であった。

第2 学校再開の状況等

1 学校再開の状況

(1) 小中学校の再開の状況

- ・ 始業式（平成23年4月5日～4月25日）、入学式（平成23年4月6日～4月27日）
- ・ 沿岸地域の小中学校182校中、24校が他校又は他施設等で授業を再開した。
- ・ 内陸地域では、盛岡市立厨川中学校が地震被害のため3校（1年生：大新小学校、2年生：青山小学校、3年生：厨川中学校）に分散して授業を再開した。また、県南部の学校を中心に、東日本大震災津波及び平成23年4月7日に発生した余震被害のため、校舎の一部が使用不能となる学校があった。

ア 他校又は他施設で授業再開した小学校

学校名	使用校舎（施設）	始業式	入学式
大船渡市立赤崎小学校	大船渡市立蛸ノ浦小学校	4月20日	4月21日
大船渡市立越喜来小学校	大船渡市立甫嶺小学校	4月20日	4月21日
大船渡市立崎浜小学校	大船渡市立甫嶺小学校	4月20日	4月21日
陸前高田市立気仙小学校	陸前高田市立長部小学校	4月20日	4月21日
釜石市立唐丹小学校	釜石市立平田小学校 ※1/16仮設校舎整備	4月21日	4月23日
釜石市立鶴住居小学校	釜石市立双葉小学校（1～4年生）／釜石市立小佐野小学校（5～6年生） ※2/27仮設校舎整備	4月26日	4月27日

第1章 東日本大震災津波に対する岩手県教育委員会の取組みについて

第2 学校再開の状況等

大槌町立大槌小学校	岩手県立陸中海岸青少年の家 ※9/20仮設校舎整備	4月20日	4月25日
大槌町立安渡小学校	大槌町立吉里吉里小学校 ※9/20仮設校舎整備	4月20日	4月25日
大槌町立赤浜小学校	大槌町立吉里吉里小学校 ※9/20仮設校舎整備	4月20日	4月25日
大槌町立大槌北小学校	大槌町立吉里吉里小学校 ※9/20仮設校舎整備	4月20日	4月25日
宮古市立鶴磯小学校	宮古市立重茂小学校	4月25日	4月26日
宮古市立千鶏小学校	宮古市立重茂小学校	4月25日	4月26日
山田町立船越小学校	岩手県立陸中海岸青少年の家	4月25日	4月26日
岩泉町立小本小学校	岩泉町立岩泉小学校 ※1/19仮設校舎整備	4月13日	4月14日

イ 他校又は他施設で授業再開した中学校

学校名	使用校舎（施設）	始業式	入学式
盛岡市立厨川中学校	盛岡市立大新小学校（1年生） 盛岡市立青山小学校（2年生）	4月6日	4月6日
大船渡市立赤崎中学校	大船渡市立大船渡中学校	4月21日	4月22日
陸前高田市立気仙中学校	旧陸前高田市立矢作中学校	4月20日	4月21日
陸前高田市立広田中学校	陸前高田市立広田小学校	4月20日	4月21日
陸前高田市立小友中学校	陸前高田市立小友小学校	4月22日	4月23日
陸前高田市立米崎中学校	陸前高田市立米崎小学校	4月20日	4月21日
釜石市立唐丹中学校	自校体育館 ※1/17仮設校舎整備	4月22日	4月23日
釜石市立釜石東中学校	釜石市立釜石中学校 ※3/26仮設校舎整備	4月25日	4月25日
大槌町立大槌中学校	大槌町立吉里吉里中学校（1～2年生）／県立大槌高等学校（3年生） ※9/22仮設校舎整備	4月20日	4月25日
宮古市立田老第一中学校	宮古市立田老第一小学校 ※9/21～自校を使用	4月25日	4月25日
岩泉町立小本中学校	岩泉町立岩泉中学校 ※1/19仮設校舎整備	4月13日	4月14日

(2) 高等学校の再開の状況

- ・ 始業式（平成23年4月6日～5月2日）、入学式（平成23年4月6日～5月10日）
- ・ 高田高校は大船渡東高校萱中校舎（旧大船渡農業高校）を仮校舎として再開した。
- ・ 宮古工業高校は宮古水産高校（1、3年生）と宮古商業高校（2年生）に分散して再開した。

第1章 東日本大震災津波に対する岩手県教育委員会の取組みについて

第2 学校再開の状況等

第3 県教育委員会の取組（主に授業再開後の取組）

沿岸地域県立高等学校の再開状況

学校名	始業式	入学式
高田高校（大船渡東高校萱中校舎使用）	5月2日	5月10日
大船渡高校	4月22日	4月27日
大船渡東高校	4月25日	4月26日
釜石高校	4月12日	4月15日
釜石商工高校	4月14日	4月15日
大槌高校	4月20日	4月22日
山田高校	4月27日	4月28日
宮古高校	4月27日	4月28日
宮古北高校	4月27日	4月28日
宮古工業高校	4月27日	4月28日
宮古商業高校	4月27日	4月28日
宮古水産高校	4月27日	4月28日
久慈高校	4月7日	4月15日
久慈東高校	4月13日	4月15日
久慈工業高校	4月14日	4月15日
種市高校	4月14日	4月15日

2 学校施設の整備復旧状況

	校種区分	学校数		被害校数		H24.3末復旧整備済			
			沿岸部		沿岸部	全体		沿岸部	
							復旧率		復旧率
市町村立	小学校	校 392	校 122	校 214	校 44	校 180	% 84.1	校 15	% 34.1
	中学校	189	60	114	23	94	82.5	7	30.4
	計	581	182	328	67	274	83.5	22	32.8
県立	中学校	1		1		1	100.0		
	高等学校	68	20	60	16	53	88.3	10	62.5
	特別支援学校	14	4	12	3	12	100.0	3	100.0
	計	83	24	73	19	66	90.4	13	68.4

第3 県教育委員会の取組（主に授業再開後の取組）

1 きめ細かな学校教育の実践と教育環境の整備・充実

(1) 学校教育復興プロジェクトチームの設置

・平成23年3月18日に設置した「学校再開支援プロジェクトチーム」について、被災児童生徒の学びの場を再構築、未来に向けて学校教育の復興を図ることを目的とし、同年5月9日に「学校教育復興プロジェクトチーム」に改編した。

・平成23年3月31日に作成した「学校再開に向けたガイドライン（初版）」を中長期的な支援の視点で見直し、同年12月に「学校再開～復興に向けたガイドライン（第2版）」を作成し、小中学校及び市町村教育委員会へ配布した。

(2) 大震災津波体験を踏まえた「いわての復興教育」の推進

・平成23年8月に「いわての復興教育」プログラム編集委員会を立ち上げ、11月までに委員会を3回開催し、復興教育プログラムの作成に取組むとともに、各地区の先行事例の収集を行った。

・平成23年11月下旬より、各地区で行われた主任クラスの研修会を活用して説明を行い、これを受け、各校において平成24年度教育計画への反映を進めた。

・平成24年3月に、具体的な実践事例を加えた「いわての復興教育」プログラム（初版）を全小・中・高・特別支援学校に配布した。

(3) 臨床心理士の被災校への派遣による幼児児童生徒の心のサポート

ア こころのサポート研修会

- ・平成23年4月に、教員等を対象とした「こころのサポート研修会」を17会場で開催し、急性期における子どもの心の理解とサポート等の研修を実施した。
- ・平成23年7月下旬から8月上旬にかけて、教員等を対象とした「こころのサポート研修会」を13会場で開催し、中期におけるトラウマ反応とその対処法について理解を深めるとともに、「こころのサポート授業」の模擬授業を通して児童生徒のセルフケアの力を高めるための指導方法の研修を実施した。
- ・平成23年12月下旬から平成24年1月にかけて、教員等を対象とした「こころのサポート研修会」を8会場で開催し、「心とからだの健康観察」結果の活用の仕方、児童生徒のストレス反応に対処する指導法の研修を実施した。

イ 臨床心理士によるこころのサポート

- ・平成23年5月から6月にかけて6週間にわたり、児童生徒及び教職員の心のサポートの充実を図るための緊急支援対応として、1週間につき58名の県外臨床心理士を被災地の学校に派遣し、「こころのサポート授業」等を実施した。
- ・平成23年6月から8月まで、沿岸6市町（大船渡市、陸前高田市、釜石市、大槌町、宮古市、山田町）及び6県立学校にカウンセリングルームを設置した。
- ・平成23年9月から沿岸6市町（大船渡市、陸前高田市、釜石市、大槌町、宮古市、山田町）を対象に県外の臨床心理士4名が常駐し、被災校を巡回した。加えて、12月以降は県北教育事務所に1名常駐させた。

ウ 心とからだの健康観察

- ・平成23年9月に、県内全公立学校の児童生徒14万人を対象としたアンケート「心とからだの健康観察」を実施、12月に県の集計結果を公表した。
- ・平成24年3月には地域別、市町村別のデータを取りまとめ、市町村教育委員会、各学校へフィードバックを行った。

(4) 学校施設の復旧整備と通学手段の確保

- ・早期に教育環境の改善を図るため、被災した県立学校の災害復旧、校内清掃、机・椅子の購入、事務機器の借り上げ、備品購入、いわて教育情報ネットワークの再敷設等を実施した。
- ・津波により全壊した高田高校について、大船渡東高校萱中校舎（旧大船渡農業高校）を仮校舎として再開するため、同校舎に必要な改修を実施した。
- ・津波で1階が浸水した宮古工業高校については、現施設の改修を実施し、平成23年8月29日から自校での授業を再開した。（復旧までの間は、1・3年生が宮古水産高校、2年生が宮古商業高校で授業を実施した。）
- ・市町村立学校施設の早期復旧が図られるよう、国の災害復旧事業の実施に関して市町村教育委員会に対し必要な指導助言を行うとともに、災害復旧事業が円滑に実施できるよう文部科学省等との連絡・調整を行った。（国の公立学校施設災害復旧事業として申請を予定している103施設のうち、90施設について文部科学省による災害復旧費調査を実施）
- ・高田高校の生徒が、陸前高田市周辺から大船渡市の仮校舎まで通学するため、通学バスを運行した。また、大船渡高校及び大船渡東高校の生徒については、陸前高田市中心部以遠において公共交通が復旧していない区間の通学バスへの乗車を可とし、路線バスと乗り継いで通学できるようにした。

(5) 学校運営及び学校教育の早期正常化

- ・自校のグラウンド等に仮設住宅が建設されている中学校及び高校では、運動部活動が十分に行えないことから、近隣の体育施設に移動して活動するためのバス借上費用を負担した。（施設使用料についても負担することとしていたが、実績がなかったもの。）
- ・被災した高田高校広田校舎で水産教育実習が困難となったため、同校海洋システム科の操船、潜水及び製造実習等を秋田県立男鹿海洋高校で実施した。

(6) 被災児童生徒の学習支援等のための加配教員の配置

- ・平成23年度においては、早期に学校を再開し児童生徒の心のサポート、学習進度の遅れに対応するため、被災地の学校へ小中学校134人、県立学校21人の加配教員を配置した。
- ・また、被災地の状況の変化に伴い、平成23年度に更に追加配置が必要となったことから、文科省に追加加配を申請し、当該追加加配（小中学校教員67人、県立学校13人）が認められ、加配教員を配置した。

(7) 「震災孤児・遺児」等の支援のための「いわての学び希望基金」を活用した給付型奨学金制度の創設

- ・東日本大震災津波により著しい被害を受けた幼児、児童、生徒、学生等の就学の支援、教育の充実等のための事業に要する経費の財源に充てるため、平成23年6月に「いわての学び希望基金」を設置し、国内外から寄附を募集した。
- ・被災により親権者を失った児童生徒及び学生に対し、返還不要の奨学金を給付し、就学援助を行うため、同基金の財源とした奨学金を創設した。
- ・奨学給付金決定児童・生徒・学生数 542人（H24.3末現在）

(8) 被災高校生を対象とした奨学金制度の創設

- ・(財)岩手育英奨学会を通じ、東日本大震災津波により被災し、経済的理由により修学が困難となった高校生を支援するため、新たな奨学金制度「タイプC（東日本大震災津波等特例採用）」を創設した。

貸与月額 18,000円～35,000円

無利子であるほか、卒業後の奨学生本人の向こう1年間の収入見込み額が一定額に満たない場合、願出により返還義務を免除

奨学金貸与申込生徒数 165人（H24.3末現在）

(9) 教職員の居住環境の確保と心と体のケアの体制整備

- ・沿岸地域においては、小中学校の教職員2,363人中475人、県立学校の教職員835人中197人の住居に被害があり、県教委や各教育事務所では、他地区の教員住宅、民間賃貸住宅、県立学校のセミナーハウスの情報を収集して、各学校や教職員に情報提供するなどにより、住宅の確保を支援した。
- ・平成23年度定期人事異動により沿岸地域へ赴任する教職員については、各教育事務所、市町村教育委員会並びに県立学校において、民間賃貸住宅の情報提供や県立学校間での教職員公舎の入居調整により、教職員の住宅を確保した。
- ・保健師2名と臨時看護師1名が、教育事務所、県立学校等からの情報をもとに学校を訪問し、教職員に対する健康相談や面談を実施した。また、沿岸地区に勤務する教職員を対象にメンタルチェックを実施（平成23年5～8月）し、各教職員がストレス状態を把握したうえでセルフケアを実践する機会を提供した。

- ・震災後から中長期における心理的ストレスや対応について理解を深め、組織内ストレスと心的トラウマの軽減を図り教職員の精神的健康を高めるため、管理監督者を対象としたメンタルヘルスセミナーを開催した。（平成23年7月 沿岸4回、内陸1回）

2 文化芸術環境の整備や伝統文化等の保存と継承

(1) 被災市町村における文化施設の復旧支援

- ・公立社会教育施設災害復旧費補助金（国庫補助事業）を活用し、申請予定11施設のうち、県立1施設及び5市町7施設の現地調査が終了した。

(2) 被災市町村における埋蔵文化財発掘調査支援

- ・被災した野田村保育園の新規建設予定地について、野田村教育委員会の要請を受け、平成24年1月30日～2月8日に埋蔵文化財発掘調査を実施した。
- ・被災した山田町立船越小学校建設予定地について、山田町教育委員会の要請を受け、平成24年3月12日、13日に埋蔵文化財発掘調査を実施した。

(3) 被災地域の歴史資料や文化財等の修復・保存

- ・「文化財レスキュー」として、国の被災文化財等救援委員会や県文化振興事業団や市町村の協力を得ながら、被災した陸前高田市、釜石市、宮古市等の文化財の保全を実施した。

【岩手県立博物館における主な被災文化財等の救援状況】

市町村	機関・施設	資料	措置内容
陸前高田市	市立図書館	岩手県指定文化財吉田家文書及び関連資料等	救出、安定化处理
	海と貝のミュージアム 他	貝類標本 他	救出、安定化处理 他
大船渡市	教育委員会	絵図	安定化处理
釜石市	教育委員会	古文書、軸物	安定化处理
	教育委員会	民具	収蔵庫内及び収蔵資料洗浄
大槌町	教育委員会	絵図及び古文書	安定化处理
		土器	救出
山田町	山田町	海藻標本	安定化处理のための技術指導及び一部保管
	教育委員会	古文書及び書簡類	安定化处理
宮古市	市役所・市民文化会館	絵画	乾燥、くん蒸
	教育委員会	森合家調度品	乾燥、くん蒸

(4) 県立図書館による震災関連資料の収集及び公開

- ・震災の記録を風化させることなく後世に引き継ぐため、震災関連資料を収集した。
- ・岩手県立図書館において収集した震災関連資料を公開する「震災関連資料コーナー」を平成23年10月21日にプレオープン（本オープンは平成24年4月1日）した。

3 社会教育・生涯学習環境の整備

(1) 被災市町村における社会教育施設の復旧支援

- ・公立社会教育施設災害復旧費補助金（国庫補助事業）を活用し、申請予定61施設のうち、10市町村35施設の現地調査が終了した。

(2) 「学びを通じた被災地の地域コミュニティ再生支援事業」の推進

- ・国庫委託事業（第3次補正）により、陸前高田市において「学びの部屋」を3か所開設し、中高生の学習支援を展開した。
- ・平成24年1月から岩手大学との連携により、地域コミュニティの再生を図るために、沿岸市町村へ大学生ボランティアを派遣した。（陸前高田市「5回、39人」、釜石市「1回、7人」、住田町「1回、6人」、宮古市「1回、6人」）

(3) 地域人材を活用した被災地における児童生徒の居場所づくりの推進

・緊急雇用創出事業により雇用した放課後指導員等が、放課後児童の居場所づくりを行い、遊びや学びのプログラムを提供することで、遊びを通じた心的ストレスの解放と精神的な安定をサポートするとともに、放課後における教職員の負担軽減を図る「被災地における放課後の児童生徒の安心サポート事業」を展開した。（山田町5教室、陸前高田市5教室）

4 スポーツ・レクリエーション環境の整備

(1) 被災市町村における社会体育施設の復旧支援

・公立社会教育施設災害復旧費補助金（国庫補助事業）を活用し、申請予定67施設のうち、10市町村31施設の現地調査を終了した。

(2) 被災沿岸地域のスポーツ・レクリエーション活動団体の運営体制への支援

・震災の影響で活動が停滞している総合型地域スポーツクラブに対して、広域スポーツセンター専任指導員を派遣して、運営状況を把握し、クラブの再活性化に向けた支援を実施した。併せて、総合型地域スポーツクラブが未創設の市町村を巡回して啓発活動などを実施し、総合型地域スポーツクラブの創設を促進した。

5 学校における放射線量の調査と低減措置等

(1) 学校における放射能のサンプリング調査等の実施

・東京電力(株)福島第一原子力発電所から拡散した放射性物質の影響について、平成23年7月から9月にかけて（月1回ずつ計3回）、他の地域と比べ空間線量率が比較的高い値となっている一関市や奥州市など県南の4市町に所在する小中学校6校を抽出、空間線量率やプールの水を調査し、調査の結果、いずれも健康に影響を与えるレベルではないことを確認した。

(2) 放射線量低減に向けた取組等

・平成23年8月臨時県議会において、県内全域の学校等を対象に「空間線量率が局所的に高い箇所を特定し、線量低減のための土壌処理等を行う」ことを決定。県立学校82校について、県南部を先行する形で8月中に事業に着手した。
 ・平成23年11月7日までにすべての県立学校で測定を終え、その結果、校庭においてはいずれも文部科学省が目安としている毎時1.0マイクロシーベルトを下回っており、健康に影響を与えるレベルではないことを確認しているが、局所的に高い値(※1)を示している箇所(※2)もあることから、そのような場所については立入制限等の措置を行ったうえで、土壌処理等の除染を実施し、12月27日までに完了した。

※1 局所的に高い値：毎時1.0マイクロシーベルト以上（実測値：1.0～3.3）

※2 高い値を示している箇所：雨どい下、軒下、側溝等

【除染対象：10校109ヵ所】

高校名	水沢	水沢工業	前沢	一関第一	一関第二	一関工業	花泉	千厩	前沢明峰	一関清明	計
箇所数	1	2	4	1	2	2	2	13	33	49	109

・引き続き放射線の影響等を把握し生徒の安全を確保する必要があることから、教育事務所等に配置したサーベイメーター（7台）により、定期的に（月1回程度）各学校において教職員等が空間線量率の測定を行い、測定結果をHPで公表するとともに、除染を必要とする箇所が確認された場合には除染作業を行っていくこととした。

・市町村立学校については、設置者である市町村において学校等における放射線量の測定及び除染を行い、事業に要する経費については、県（環境生活部）が新たに市町村等への助成制度を創設し支援を行った。

(3) 学校給食に対する取組

- ・学校給食のより一層の安全・安心を確保する観点から、学校給食を自校調理で実施している県立学校（特別支援学校8、夜間定時制高等学校3）に測定機器を各1台設置し、平成24年度より自校における食材の測定のほか測定機器を持たない市町村等からの測定依頼に対応できるよう測定体制を整備した。
- ・市町村が学校給食に係る放射性物質濃度測定検査機器を購入する際の費用に対する補助金制度を県（教育委員会）が創設し、20市町村が補助金を活用し整備することとした。
平成23年度補助済 13市町村 30,441,300円（機器台数：26台）
平成24年度補助予定額（繰越分） 7市町村 14,698,300円（機器台数：10台）

(4) 放射線学習に向けた取組

- ・学校における放射線学習の取組を支援するための補助教材を作成するとともに、平成23年11月から12月にかけて県内全ての公立学校の教員1名（理科担当教員等）を対象に、放射線学習の指導内容や指導方法などについての研修会を9回実施した。
- ・研修内容をもとに、県立学校においては、平成23年11月から平成24年3月にかけて全校で放射線学習を実施するとともに、各市町村立学校においても、可能な限り実施するよう市町村教育委員会に依頼した。

6 教育委員会における危機管理対応の見直し

- ・東日本大震災津波による被災及びその対応の状況等を踏まえ、県教育委員会における危機管理体制の充実に向けて、児童・生徒等の安全を確保する観点から、危機発生時における対応を各フェーズ毎に再整理するとともに、児童生徒の引渡し方法を見直すなど、必要な見直しを行った。
- ・平成24年1月25日、「学校防災・災害対応指針」及び「教育委員会危機管理マニュアル」の案を公表するとともに、この案に関し、関係機関等から意見を聴取した。
- ・平成24年3月27日、「学校防災・災害対応指針」及び「教育委員会危機管理マニュアル（改訂版）」策定した。

7 岩手県東日本大震災津波復興計画の策定

- ・県では、復興に向けての目指す姿や原則、まちづくりのグランドデザイン、具体的取組の内容、復興への歩み等を明らかにするため、平成23年8月に「岩手県東日本大震災津波復興計画」を策定した。
- ・県教育委員会では、復興基本計画の策定に当たり、岩手県教育振興基本対策審議会を開催し、教育委員会の被害状況、取組状況等を説明するとともに、復興に向けた取組について意見を聴取した。

【岩手県教育振興基本対策審議会の開催状況】

開催年月日	議題（内容）
平成23年5月23日 （第6回審議会）	①東日本大震災津波からの復旧・復興方策について （平成23年6月30日までの任期の委員による開催）
平成23年7月25日 （第1回審議会）	①会長、副会長の選任について ②東日本大震災津波からの復旧・復興方策について （平成23年7月1日からの任期の委員による開催）

8 国への要望等

(1) 政府への要望等

年月日	内 容
平成 23 年 3 月 27 日	東内閣府副大臣が来県した機会をとらえ、知事から政府に対し「平成 23 年東北地方太平洋沖地震に関する緊急要望」を実施。
4 月 22 日	知事から政府等に対し「東日本大震災津波に関する要望」を実施。
5 月 10 日	副知事から衆議院総務委員会委員長に対し「東日本大震災津波に関する要望」を実施。
5 月 18 日	知事から衆議院予算委員会調査団団長に対し「東日本大震災津波に関する要望」を実施。
5 月 22 日	知事から内閣官房長官に対し「東日本大震災津波に関する要望」を実施。
5 月 27 日	知事から衆議院東日本大震災復興特別委員会委員長に対し「東日本大震災津波に関する要望」を実施。
7 月 1 日	知事から菅総理大臣、民主党（幹事長）等に対し「東日本大震災津波に関する要望」を実施。 岩手県沿岸市町村復興期成同盟会（会長：釜石市長）も同行し要望書を提出。
8 月 3 日	知事から政府等に対し「東日本大震災津波に関する要望」を実施。
9 月 10 日	野田総理大臣が来県した機会をとらえ、副知事から「東日本大震災津波に関する要望」を実施。
9 月 15 日	知事から政府等に対し「東日本大震災津波に関する要望」を実施。
11 月 24 日	知事から政府等に対し「東日本大震災津波に関する要望」を実施。
11 月 27 日	平野復興担当大臣が来県した機会をとらえ、知事から「東日本大震災津波に関する要望」を実施。
12 月 5 日	知事から政府等に対し「東日本大震災津波に関する要望」を実施。
平成 24 年 1 月 10 日	野田総理大臣が来県した機会をとらえ、知事から「東日本大震災津波に関する要望」を実施。
2 月 19 日	平野復興大臣が来県した機会をとらえ、知事から「東日本大震災津波に関する要望」を実施。
3 月 24 日	平野復興大臣が来県した機会をとらえ、知事から「東日本大震災津波に関する要望」を実施。

(2) 文部科学大臣への要望等

年月日	内 容
平成 23 年 3 月 20 日	笠文部科学大臣政務官が来県した機会をとらえ、委員長及び知事の連名で文部科学大臣への緊急要望を実施。
3 月 28 日	鈴木文部科学副大臣が来県した機会をとらえ、委員長及び知事の連名で文部科学大臣への緊急要望を実施。
4 月 20 日	東日本大震災に係る全国都道府県・政令市教育長会議が開催され、教育長から本県の状況等について説明するとともに、会議終了後、被災県及び政令市教育長と文部科学大臣等との意見交換を実施。
6 月 30 日	高木文部科学大臣が来県した機会をとらえ、委員長及び知事の連名で文部科学大臣への要望を実施。
7 月 4 日	教育長が中央教育審議会教育振興基本計画部会に出席し、県教委のこれまでの取組や今後の復興教育の在り方等について説明。
7 月 29 日	民主党岩手県連を通じて、高校授業料無償化制度の継続等について、委員長及び知事の連名で文部科学大臣への緊急要望を実施。
10 月 12 日	中川文部科学大臣が来県した機会をとらえ、委員長及び知事の連名で文部科学大臣への要望を実施。

第2章 教育行財政

第1節 教育行政

第1 平成23年度 岩手県教育委員会経営計画

震災からの復興

平成23年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震による未曾有の被害から早期に復旧・復興を果たすことを最優先に、教育委員会の総力を結集して対応していくものである。

震災により児童生徒や教職員の尊い命が失われ、教育関係施設も甚大な被害を受けたが、これらを克服し、県民の学びの機会、環境を整えるため、教職員一人ひとりが高い使命感と主体性を発揮し、前例にとらわれることなくあらゆる工夫を凝らしながら、学校の再建等必要不可欠な教育環境の整備から重点的に進めていく。

また、一日も早く安定した学校生活を取り戻せるよう、被災した児童生徒の就学の機会の確保に最大限配慮する。特に、児童生徒の心の健康問題に適切に対応するための相談支援体制を強化する。

序

子どもたちが、岩手の未来を切り拓き、変容する社会の中を生き抜く力を身に付けるうえで、教育の果たす役割は極めて大きいものがあります。また、県民の教育に対する関心、期待はますます多様化、高度化しています。

教育委員会では、この役割や期待に応えるため、「知・徳・体」を備え調和のとれた人間形成という教育目的の実現に向けて、「いわて県民計画」及び「岩手の教育振興」をもとに中長期的展望に立ち、学校教育の施策の重点化を図るとともに、時代のニーズに的確に対応しながら社会教育、生涯学習、文化芸術、スポーツの振興を図っていくものです。

また、平泉の文化遺産の世界遺産登録に係る審議をはじめ、第11回全国中学校総合文化祭岩手大会、平成23年度全国高等学校総合体育大会（北東北総体）など全国規模のイベントが本県で開催されることを機に、本県の総合的な教育力の向上に努めていきます。

いうまでもなく、教育行政を推進するに当たり県民の理解、協力が得られる前提となるのは「信頼」です。確固たる信頼関係を確立するためには、全ての教職員が原点に立ち返り、あらゆる機会をとらえてコンプライアンスの徹底を図り、不祥事の未然防止に向けて個人の意識確立と自律した組織風土の形成に全教職員を挙げて取り組んでいかなければなりません。

以下の取組は、平常時をもとにした内容であり、実施に当たっては、常に震災のあらゆる影響に配慮しながら、内容を変更・修正するなど個別に判断していくものであること。

1 学校教育の充実

被災した学校における早期の教育活動再開に向けて、学校再開（復興）支援プロジェクトを強力に推進

仮校舎の整備、教員の充足、児童生徒のケア等、教材等の確保、市町村教育委員会への全面的かつ強力な支援

- 〔重点事項〕 目標達成型学校経営の推進
 児童生徒の学力向上、授業改善の推進と家庭学習の充実
 中学校教育の充実強化 キャリア教育の推進
 教育相談機能の充実 特別支援教育の充実

学校教育の根幹である学習面の基礎・基本を確実に定着させるとともに基本的な生活習慣や規範意識の確立を通して社会人になるということの意義を教えることは不易であり、最も大切なことです。

また、同時に、子ども一人ひとりの個性や特性等にきめ細かに対応し、小学校、中学校、高等学校の各段階を一連のものと捉えてその伸長を図ることが求められます。

さらに、平成 23 年度から順次行われる新学習指導要領の完全実施への適切な対応が求められています。

(1) 教育推進に関する諸計画の一体的な推進

「いわて県民計画」においては、「岩手の未来を担う子どもたちを育てるひとづくりは、長期的な視点で取り組んでいくことが必要」と明記されていることも踏まえ、次に掲げる教育施策に関する諸計画を中心に、義務教育、高等学校教育、特別支援教育等の各プランの連携、整合をとりながら、一体的な推進を図っていくものです。

人口減少・少子化が進行する中、自立した社会人としての資質を有する人材育成等を図るため、県立高校における教育環境の整備について検討します。併せて、新しい県立高校入学者選抜制度の方向性をとりまとめます。（平成 22 年度まで検討を進めていた第二次県立高等学校整備計画（仮称）の策定については、復興状況等を勘案し、しかるべき時期に今後の道筋を示す。）

* 教育推進に関する諸計画体系

- いわて県民計画 (H21. 12 策定 H21～H30)
- いわて県民計画第2期アクションプラン (H23 策定予定 H23～H26)
- 岩手の教育振興 (H22. 3 策定 H21～H30)
- これからの岩手の義務教育 (H21. 3 策定 概ね 10 年間)
- 今後の高等学校育の基本的方向 (H22. 3 策定 概ね 10 数年間)
 - ・ 第二次県立高等学校整備計画（仮称） (時期未定)
- いわてキャリア教育指針 (H22. 3 策定)
- いわて特別支援教育推進プラン (H21. 12 策定 H21～H24)
- 岩手県子どもの読書活動推進計画（第2次） (H21. 6 策定 H21～H25)

(2) 家庭・地域との協働による学校経営の推進

ア 目標達成型の学校経営の推進

「目標達成型の学校経営」「まなびフェスト」の一層の質的な向上を図るため、教員の参画意識の高揚や学校の組織力の向上、また、保護者、地域との課題共有による協働体制の構築などにより、学校評価を生かした特色ある学校経営の取組を支援します。

また、いわて型コミュニティ・スクール構想と教育振興運動との連携を図るとともに、学校と地域の協働推進事業を進めながら、学校の教育活動の成果・課題等を積極的に情報発信し、地域、保護者等の理解促進に努めます。

イ 学校経営における組織力の向上

各学校が、地域や子どもの実態に即した創意工夫ある教育活動を行えるよう、教員の多忙化解消の観点から仕事をしやすい環境整備、仕組みづくりに取り組みます。また、主幹教諭を活用した学校の諸課題の解決に向けた体制整備を推進します。

ウ 学校と家庭・地域との協働の推進

家庭や地域社会がそれぞれの教育的機能を発揮し、学校と一体となって子どもたちの教育ができるように、家庭や地域社会の教育力向上のための支援を充実します。

エ 児童生徒の居場所づくりの推進

地域の人材を活用した「放課後子どもプラン」による児童の安全安心な居場所づくりの一層の充実を図るとともに、中学生の居場所づくりのあり方や学びに向かう環境づくりに関する検討を進めます。

(3) 児童生徒の学力向上

子どもたちがもつ可能性を十分に引き出し、自分の将来を自ら切り拓いていけるよう、少人数教育の一層の推進や教員研修の充実などにより、子どもたちの学習面の基礎・基本の確実な定着を図ります。

ア 数学（算数）・英語の学力向上

中・高校生の英語能力の実態把握に基づいた英語力向上を図るため、中学校・高等学校が連携した指導改善を推進します。

学力・授業力向上担当による、中学校・高等学校への個別訪問及び授業力向上セミナーを充実・継続するとともに、各地区での研修や校内研修の活性化により教員の授業力のより一層の向上を図ります。

イ 授業改善の推進と家庭学習の充実

小・中学校においては、学習定着度状況調査等の分析結果を活用した指導改善に学校全体で取り組み、まなびフェスト等の作成に反映されるよう支援します。また、高等学校においては、基礎力確認調査の継続実施により、生徒個々に応じた指導方法の工夫と授業改善を行います。

また、学習習慣の定着のため、各市町村（学校）で取り組まれている家庭学習の仕方に関する優良事例の普及を図るとともに、全ての学校において授業と連動した家庭学習の充実を図り、

与えた課題の評価、指導に学校全体で取り組みます。

授業力向上研修については、本県の教育課題に直結する研修として効果的に実施していきます。

ウ 小中一貫教育モデル事業の推進

柔軟な教育課程の編成及び特色ある教育の推進に資するため、小中一貫教育のモデル構築に関する調査研究（H22～H24）に取り組み、小学校高学年での教科担任制や小中の教員双方向乗り入れによる教育展開の試行など、導入マニュアルの作成に向けて具体的な検討の支援を行います。

エ 中学校における学校生活サポートの充実

中学校において、生徒の学習定着上の課題や生徒指導上の諸課題に対応するため、引き続き、必要な学校に教員の日常の活動を支援する経験豊かな非常勤教職員を配置します。

オ 少人数学級の推進

小学校1年生での35人以下学級編制や学級編制権に係る市町村裁量の拡大に適切に対応しながら、中学校1年生での35人学級を継続して試行し、児童生徒一人ひとりに目の届く環境を整え、基礎学力の向上を図ります。

カ 併設型中高一貫校における教育環境の整備

併設型中高一貫教育校について、平成24年度において一関第一高等学校附属中学校の卒業生が併設高校に進学することから、その円滑な接続に向けた教育環境の整備を進めます。

(4) キャリア教育の推進

ア 「いわてキャリア教育指針」の実践

学校の教育活動全体を通して、児童生徒一人ひとりに「総合生活力」^{※1}と「人生設計力」^{※2}を育成することを目的として、小・中・高の発達段階に応じた体系的・計画的なキャリア教育を推進します。

推進にあたっては、「いわてキャリア教育の手引き」（H22.8）に基づき各学校がキャリア教育全体計画を作成し、学校全体でキャリア教育に取り組むこととし、学校と地域の連携による体験的な活動の充実や地域の歴史、産業等についての理解促進に取り組みます。

※1 総合生活力：児童生徒が将来の社会人・職業人として自立して生きるために必要な能力

※2 人生設計力：児童生徒が主体的に人生計画を立て、進路選択をし、決定できる能力

イ 進路実現の支援

生徒一人ひとりの多様な進路希望の達成と、将来の本県を支える人材の育成のための各高等学校の取組を支援します。

(5) 豊かな心を育む教育の推進

ア 道徳教育の充実

道徳副読本『わたしたちのふるさとを見つめて～郷土の先人の生き方に学ぶ～』（H23.3）の

活用等により本県独自の道徳教育に取り組み、規範意識や自尊感情、他者への思いやりなど、道徳教育の充実を図ります。また、地域や企業等と連携しながら、岩手の先人、歴史、文化、産業などを系統的に学び、自己の生き方等を考える学習を進めます。

イ 学級経営、学級集団づくりの充実

教員の学級経営、ホームルーム運営に係る資質の向上を図り、児童生徒理解を進め、好ましい人間関係や規範意識の醸成に努めます。

ウ 教育相談機能の充実

暴力行為、いじめなどの問題行動や不登校などの学校不適応の未然防止、早期発見・早期対応のために、引き続き全ての中学校、高等学校でスクールカウンセラーによる専門的な相談が可能な体制を整えるとともに、学校心理士の資格を有する教員を養成し、児童生徒の教育相談体制の充実を図ります。また、中学校1年生での少人数学級の試行や学校生活サポート推進事業による非常勤講師の配置等を総合的に活用しながら、生徒個々に対するきめ細かな指導体制の整備を進めます。

エ 情報モラル教育の推進

情報機器利用における危険性や問題点を理解させる情報モラルに関する指導の充実と保護者への啓発活動を推進して、携帯電話等による問題行動の防止を図ります。

(6) 健やかな体を育む教育の推進

ア 家庭と連携した健康教育の充実

児童生徒の肥満傾向や運動習慣・体力低下の改善などに向けて、岩手県食育推進計画等をもとに関係部局との連携を図りながら、家庭における生活習慣の改善や食育の充実を図ります。

イ 体育の授業力の向上

体力向上事例集等を活用して授業力向上に取り組むとともに、小学校体育実技アシスタントの派遣により体育授業の充実を図ります。また、中学校・高校運動部の指導者として地域のスポーツ人材を活用し、運動部活動の活性化を図ります。

(7) 特別支援教育の充実

ア 「いわて特別支援教育推進プラン」の推進

「共に学び、共に育つ教育」を理念とした「いわて特別支援教育推進プラン」を実践します。また、その推進にあたっては、保健、福祉、労働等関係する機関との連携を一層促進します。

イ 就学前における特別支援教育の推進

特別支援学校からの訪問支援等により幼稚園・保育所での指導充実を図るとともに、円滑な就学に向けた相談支援に関するモデル事業を推進します。また、県就学指導委員会を「就学支援委員会」（仮称）へ改組し、市町村就学指導委員会への助言、支援を行う組織として機能を見直します。

ウ 各校種における特別支援教育の充実

小・中・高等学校における特別支援教育体制づくり及び個別の指導計画や個別の教育支援計画の作成、活用促進による指導、相談支援の充実・強化のため、全校種の教員に対する研修を一層推進するとともに、特別支援学校においてはセンター的機能と就業支援の充実を図ります。

エ 県民と協働した特別支援教育体制づくり

特別支援教育に対する県民の理解を広げ、ボランティアの養成や地域人材の活用を進めます。

2 社会教育の充実と生涯を通じた学びの環境づくり

〔重点事項〕 教育振興運動の活性化 「学びの場いわて」の形成
家庭教育の積極的支援 読書活動の推進

県内各地域の現状把握に努めながら、学校、家庭、地域住民等の連携協力による家庭や地域の教育力向上に重点を置いた社会教育の充実に取り組みます。

また、県民の学習意欲や学びの成果が地域で生かされる環境づくりを推進します。

(1) 教育振興運動といわて型コミュニティ・スクール構想の連携

教育振興運動の全県共通課題（「家庭学習の充実」と「読書活動の推進」）の取組（H21～H23）の最終年度として、効果的な実践事例の普及等により全県的な広がりにつなげ、教育振興運動といわて型コミュニティ・スクール構想の取組の連動による家庭・地域の教育力の向上を図ります。

(2) 生涯学習の振興

生涯を通じた学びや充実したコミュニティの形成に向け、学習情報提供や相談体制の充実を図り、「学びの場いわて」の形成に向けた取組を進めます。

(3) 家庭教育の充実

家庭教育や子育てについて、孤立しがちな家庭と地域や企業との連携の充実など他者や地域との関わりをより多く持つことができる仕組みづくりを進めます。

(4) 読書活動の推進

「岩手県子どもの読書活動推進計画（第2次）」（いわて子ども読書プラン 2009）に基づき、子どもの読書活動を一層推進します。また、ブックリスト『いわての中高生のためのおすすめ図書 100 選』（H23.2）の活用や中学生を主な対象とした読み聞かせキャラバンの展開など、中高生の読書離れ傾向の課題解決に取り組みます。

(5) 社会教育施設におけるサービス向上

図書館、博物館、美術館、青少年の家等県立の各種社会教育施設における県民サービスの向上を図るとともに、県民の多様なニーズに適切に対応した生涯学習の推進に努めます。

3 文化芸術の振興

〔重点事項〕 文化芸術をテーマとしたまちづくりの支援 世界遺産登録の推進

文化芸術は、地域の「ゆたかさ」や「ひと」を育むものであり、県民が郷土に誇りや愛着を持ち、地域に伝わる歴史、文化等の理解を深めるとともに、地域の特色ある文化芸術が暮らしに根付くよう取組を進め、その継承と振興を図ります。

(1) 岩手県文化芸術振興指針の推進

文化振興基金の効果的な活用を図りながら、豊かな創造性の涵養と地域の文化の理解を進めるため、地域の特色ある文化芸術をテーマとした住民参加型のまちづくりや新進・若手芸術家等を支援するとともに、文化芸術情報の発信を推進します。

(2) 世界遺産登録の推進

「平泉の文化遺産」については、イコモスによる勧告及び世界遺産委員会による審議を迎えることから、登録が確実なものとなるよう、国、関係市町等との連携を一層密にして、対応に万全を期します。さらに、「平泉」の価値についての理解を深めるとともに、文化遺産の保存管理の重要性について周知を図ります。

また、「北海道・北東北を中心とした縄文遺跡群」及び「九州・山口の近代化産業遺産群」については、関係自治体と連携し、共同で世界遺産登録に向けた取組を推進します。

4 豊かなスポーツライフの振興

〔重点事項〕 平成28年岩手国体に向けた競技力向上の取組強化 ※ 国体への対応（ドーム建設を含む。）は、事業仕分け等で協議

スポーツは、県民に大きな夢と感動を与えるものであり、県民の誰もがスポーツに親しみ、健康で活力ある豊かな地域づくりにつながるための取組を支援します。

平成28年の岩手国体に向けて、県民機運の醸成と本県の競技力向上に向けた取組を一層強化します。特に、国体開催年に中心選手となる児童生徒の重点強化を計画的に推進します。

(1) インターハイに向けた取組

7～8月に北東北3県で開催する全国高等学校総合体育大会の円滑な大会運営に努めるとともに、本県選手の育成・強化に向けた取組を進めます。

(2) 平成28年の岩手国体に向けた競技力向上のための取組

平成28年に開催される第71回国民体育大会において開催県としてふさわしい成績を収めるため、これまでの「基盤整備期」に続き、平成23年度から3年間を「育成期」として、各競技団体との連携をより密にし、有力競技の一層の競技力向上と実績の少ない競技の底上げを図る取組を進めます。

また、トップアスリートの輩出を目指すスーパーキッズ発掘・育成事業の推進、活躍がめざましいジュニア層のレベル向上に計画的に取り組めます。

(3) スポーツ医・科学サポート体制の充実

スポーツ医・科学サポートを受けながら計画的・継続的なトレーニングを行うことが可能となる多目的屋内練習施設（ドーム）の整備を推進し、競技スポーツの強化や、県民の健康づくりの拠点となるよう、早期の完成、供用開始を目指します。

また、いわてアスレティックトレーナーの養成や代表チームへの帯同等の支援活動を進めます。

(4) 生涯スポーツの振興

総合型地域スポーツクラブの創設・育成支援など、県民の生涯スポーツへの取組を推進します。

5 業務推進の基本姿勢

(1) 行動規範の確保

岩手県職員憲章及び岩手県教職員コンプライアンス・マニュアル（H22.10 改定）に則り、教育に携わる職員としての自信と誇りを持ち、質の高い教育活動を創出します。

近年、教職員による不祥事が悪質化しており、日常のチェックや個人の意識高揚はもちろんのこと、予兆を見逃さない、自浄作用が発揮できる組織風土づくりを強化します。また、主幹教諭を活用した学校の諸課題の解決に向けた体制整備を推進します。

(2) 学校現場でのOJTの推進

学校現場の知（ノウハウ）を共有しながら学校内での日常業務を通じた人材育成を推進し、教職員の指導力向上を図るため、OJT（On the Job Training）による指導、啓発のための取組を推進します。

(3) 現場支援としての事務局体制の強化

教育は学校現場、子どもが主役であることを基底として、事務局の価値は現場支援にあることを再認識し、現場の実態に即した解決が図られるよう、現場主義を一層徹底します。

(4) 組織横断的な業務推進

教育に関わる分野は、自組織のみでは解決困難な業務課題が多くなりつつあり、また、他部門からの協力要請も多く、関係機関との緊密な連携が必要であり、特に、福祉・商工労働・地域振興部門やPTA等各種団体、市町村との連携と役割分担の明確化により課題解決に向けた取組を進めます。

(5) 業務の効率化及び質の向上

各所属においては業務の改善・効率化に主体的、継続的に取り組むものとし、それぞれの顧客に対する満足度を高めていきます。

教育現場においては、教員が子ども一人ひとりに向き合う時間が最大限確保されるよう、常に工夫・改善に努めます。

(6) P D C Aサイクルを踏まえた経営計画の推進

各所属における経営計画の推進に当たっては、常にP D C Aサイクルを意識し、的確な現状分析を踏まえた目標を掲げ、その達成状況を確認しながら必要な改善策を講じ、施策への反映に向けた業務遂行に努めます。

また、各教育施策の立案に当たっては、事務事業の点検・評価、サマーレビュー、政策評価等を通じて一体的、計画的に行います。

(7) 「いわて県民計画」アクションプランの策定及び推進

「いわて県民計画」第2期アクションプランの策定に当たっては、これまでの取組の成果、課題を踏まえ、今後4年間の重点的な取組の方向性について関係団体等と共有、連携を図りながら明らかにするとともに、目指す姿の実現に向けて取り組んでいきます。

(別記) いわて県民計画アクションプラン【政策編】に掲げる目標値（目指す姿指標）

※ H23目標値は震災の影響を加味しているものであること

◆ 家庭・地域との協働による学校経営の推進

- ① 学校評価（自己評価及び学校関係者評価）結果等を踏まえて学校運営の改善に具体的に取り組んでいる学校の割合

（現状：H20）58% →（目標：H23）63%

- ② 「いわての復興教育」を学校経営計画等に位置付けて取り組んでいる学校の割合

（現状：H22）—% →（目標：H23）—% ※（参考）H24目標：80%

◆ 児童生徒の学力向上

学習定着度状況調査及び基礎力確認調査において、「授業の内容がわかる」と答えた児童生徒の割合

（現状：H22）64% →（目標：H23）64%

◆ 豊かな心を育む教育の推進

- ① 自分にはよいところがあると思っている児童生徒の割合

（現状：H22）56% →（目標：H23）57%

- ② 「人が困っているときは、進んで助けている」と答えた児童生徒の割合

（現状：H22）78% →（目標：H23）79%

◆ 健やかな体を育む教育の推進

- ① 児童生徒の「体力・運動能力調査」の全国平均値以上の項目割合（小・中学校全学年）

（現状：H22）73.6% →（目標：H23）74.0%

- ② 児童の「定期健康診断」の肥満度が正常の範囲内と判定される児童の割合（小学校全学年）

（現状：H22）87.4% →（目標：H23）87.8%

◆ 特別支援教育の充実

- ① 作成が必要なすべての児童生徒について「個別の教育支援計画」を作成している学校の割合

（現状：H22）38% →（目標：H23）53%

- ② 特別支援学校高等部の就職希望者のうち、就職を達成した生徒の割合

（現状：H22）92.0% →（目標：H23）92.5%

◆ 生涯を通じた学びの環境づくり

生涯学習リーダー登録者数（累計）

（現状：H22）614人 →（目標：H23）630人

◆ 文化芸術の振興

① 県内の公立文化施設における催事数

（現状：H22）912件 →（目標：H23）730件

② 民俗芸能ネットワーク加盟団体数

（現状：H22）343団体 →（目標：H23）350団体

◆ 豊かなスポーツライフの振興

① スポーツ実施率（週1回以上のスポーツ実施率）

（現状：H22）38.1% →（目標：H23）43%

② 国民体育大会天皇杯得点順位

（現状：H22）33位 →（目標：H23）41位

第2 岩手県教育委員会

1 教育委員会委員及び教育長（平成24年3月31日現在）

職名	氏名	委員としての任期
委員長 (平成21年10月10日～)	八重樫 勝	平成23年10月11日～平成27年10月10日 (平成19年10月11日～平成23年10月10日)
委員長職務代理者[第1順位] (平成21年10月10日～)	藤波 洋香	平成20年10月1日～平成24年9月30日 (平成16年10月1日～平成20年9月30日)
委員長職務代理者[第2順位] (平成21年10月10日～)	村井 三郎	平成20年10月1日～平成24年9月30日
委員	坂本 ゆり	平成22年10月1日～平成26年9月30日 (平成14年10月1日～平成22年9月30日)
委員	小平 忠孝	平成21年10月11日～平成25年10月10日
委員・教育長	菅野 洋樹	平成24年4月1日～平成28年3月31日 (平成23年4月1日～平成24年3月31日)

2 事務局及び学校以外の教育機関の職員の異動状況（平成23年度定期人事異動、単位：人）

職の区分	異動区分	退職	転出	昇任	配置換等	転入	採用	計
	指導主事、社会教育主事等の専門職員		0	41	23	28	38	0
教育長・事務職員	教育長	1	0	0	0	1	0	2
	次長級	0	3	0	0	3	0	6
	総括課長級	2	6	2	3	7	0	20
	担当課長級	0	4	1	5	4	0	14
	主任主査級	0	13	7	3	6	0	29
	主査級	0	12	3	13	15	0	43
	主事級	0	5	0	1	5	4	15
	小計	3	43	13	25	41	4	129
技能労務職員		0	0	0	0	0	0	0
計		3	84	36	53	79	4	259

3 教育委員会議開催状況（平成23年度）

区分	開催回数（回）
定例会	12
臨時会	3
委員協議会	5

第3 表彰及び栄典

1 平成23年度文部科学大臣表彰（本県関係）

(1) 教育者表彰

山田市雄（岩手県立盛岡第三高等学校長）
玉山英喜（盛岡市立松園中学校長）
阿部敬行（盛岡市立城南小学校長）

(2) 優秀教員表彰

柿崎朗（岩手県立宮古高等学校）
佐々木洋（花巻東高等学校）

(3) 地方教育行政功労者表彰

岩渕英生（前 藤沢町教育委員会教育長）
高橋豊（前 花巻市教育委員会委員長）
高橋一臣（前 北上市教育委員会教育長）

(4) 優良PTA表彰

一戸南小学校父母と先生の会（一戸町）
一関小学校PTA（一関市）
岩手県立大船渡高等学校PTA（大船渡市）

(5) 社会教育功労者表彰

北本昭二（元 岩手県緑の少年団連盟理事）
石川亀一（元 滝沢村少年団体指導員協議会会長）

(6) 優良公民館表彰

盛岡市立洪民公民館
一関市立猿沢公民館

(7) 地域文化功労者表彰

村里さち子（書家 岩手県書道協会顧問）
黒森神楽保存会（宮古市）

(8) 生涯スポーツ功労者表彰

藤原富雄（花巻民踊研究会会長）
小野寺吾老（社）岩手県サッカー協会顧問

(9) 学校保健及び学校安全表彰

- ア 学校保健関係
千葉和夫（学校医）
熊谷正代（学校薬剤師）
二戸市立石切所小学校
- イ 学校安全関係
北上市立成田小学校

(10) 視聴覚教育功労者表彰

佐々木喜美男（大船渡市）

(11) スポーツ推進委員功労者

伊東まさ（盛岡市）

(12) 子どもの読書活動優秀実践表彰

- ア 団体（者）表彰
よしきり会（北上市）
- イ 図書館表彰
花巻市立東和図書館
- ウ 学校表彰
久慈市立久慈小学校
八幡平市立大更小学校
紫波町立赤石小学校

2 平成23年度岩手県教育表彰

(1) 事績顕著者

本県教育文化の発展向上に尽力した功労者27名、5団体を表彰した。

ア 学校教育

- 岩手県立宮古水産高等学校
- 岩手高等学校囲碁将棋部

イ 学校保健

- 篠村達雅（学校医）
- 森田友明（学校医）
- 臼井由紀子（学校医）
- 齋弘行（学校医）
- 山浦玄嗣（学校医）
- 鳥谷宗正（学校医）
- 鈴木充（学校歯科医）
- 佐藤譲（学校歯科医）
- 岡本潤一（学校歯科医）
- 小柳壽美子（学校歯科医）
- 藤原秀世（学校歯科医）
- 遠宥秀則（学校歯科医）
- 菅一史（学校薬剤師）
- 畑澤博巳（学校薬剤師）
- 守屋彰子（学校薬剤師）
- 橋本邦子（学校薬剤師）

ウ 社会教育

- 盛岡市立厨川小学校PTA
- 久慈市立大川目小学校PTA
- 岩手県立福岡高等学校PTA

エ 社会体育

- 高瀬一行（岩手県水泳連盟副会長）
- 田上聰男（岩手県サッカー協会前副会長）
- 佐藤正男（釜石市体育協会前副会長）
- 佐藤勇（岩手県マスタース陸上競技連盟副会長）
- 島崎壽徳（一関市体育指導委員協議会副会長）
- 小林潤志郎（スキー競技）

オ 学術、文化

高橋 竹水 (岩手県民謡協会参与)
 熊谷 志衣子 (岩手工芸美術協会監事)
 紺野 孝 (住田町文化財調査委員)

カ 教育行政

八巻 恒雄 (前 盛岡市教育委員会教育長)
 中野 新一 (軽米町教育委員会教育長)

(2) 永年勤続者 565人

3 平成23年度叙勲 (本県関係)

春秋の別	職名等	氏名	年齢	勲等
春	岩手県水泳連盟副会長、岩手県パン工業組合理事長	村井良和	77	旭日双光章
春	元 岩手県立盛岡第二高等学校長	高瀬尚紀	70	瑞宝小綬章
春	元 岩手県立黒沢尻北高等学校長	吉田鵬次	76	瑞宝小綬章
春	元 盛岡市立山岸小学校長	高橋繁	76	瑞宝双光章
春	元 一関市立一関中学校長	大澤弘毅	75	瑞宝双光章
春	元 盛岡市立城南小学校長	石川智康	74	瑞宝双光章
春	元 都南村立津志田小学校長	浅沼健次郎	78	瑞宝双光章
春	元 盛岡市立仙北小学校長	舞田慶文	79	瑞宝双光章
春	元 盛岡市立桜城小学校長	伊藤満久	70	瑞宝双光章
秋	元 岩手県立盛岡第四高等学校長	小山卓也	73	瑞宝小綬章
秋	元 岩手県立盛岡南高等学校長	遠藤弘	79	瑞宝小綬章
秋	元 盛岡市立大新小学校長	藤田利彦	78	瑞宝双光章
秋	元 遠野市立遠野小学校長	浅沼傳一	79	瑞宝双光章
秋	元 二戸市立福岡小学校長	秋元義也	78	瑞宝双光章
秋	元 盛岡市立上田中学校長	菅田篤	74	瑞宝双光章
秋	元 盛岡市立仙北小学校長	吉野重雄	76	瑞宝双光章
秋	元 盛岡市立永井小学校長	佐々木杜子	74	瑞宝双光章
秋	元 盛岡市立桜城小学校長	柏崎麟太郎	74	瑞宝双光章
秋	岩手県柔道連盟会長	千葉翠	70	旭日双光章

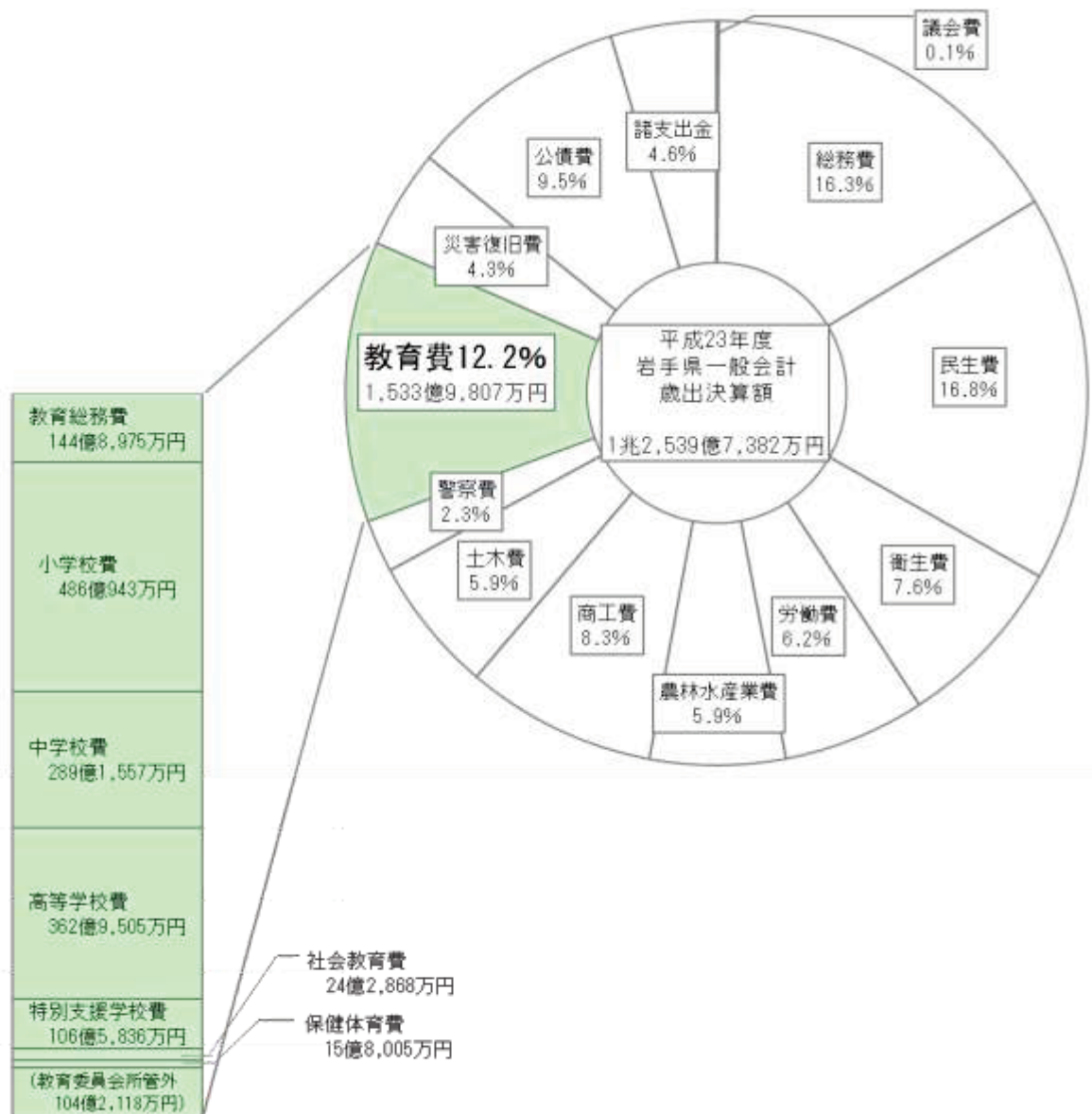
第2節 教育財政

○ 平成23年度岩手県一般会計決算と教育費決算の概要

平成23年度の岩手県一般会計歳入歳出決算額は、歳入1兆3,488億2,595万円、歳出1兆2,539億7,382万円であり、これを前年度決算額に比べると、歳入83.0%、歳出79.9%とそれぞれ増加した。

一般会計歳出決算額のうち教育委員会所管分は、教育費1,533億9,807万円のうち1,429億7,689万円及び災害復旧費542億8,220万円のうち8億3,201万円の計1,438億890万円であり、一般会計歳出決算額に占める割合は、11.5%となっている。

【平成23年度岩手県一般会計歳出決算額 目的別構成比】



【平成23年度 教育費 歳出予算・決算額】

区 分	最終予算額 (A)	決 算 額 (B)	翌年度繰越額 (C)	不 用 額 (A - B - C)
一般会計総額	1,580,453,463,453	1,253,973,824,345	277,896,540,390	48,583,098,718
教育費（教委所管分）	145,148,138,087	142,976,886,845	345,413,000	1,825,838,242
教育総務費	14,867,524,941	14,489,753,884	42,484,000	335,287,057
教育委員会費	16,755,000	15,262,821	0	1,492,179
事務局費	3,032,842,928	2,755,872,522	0	276,970,406
教職員人事費	10,094,693,000	10,063,640,863	0	31,052,137
教育指導費	1,028,978,913	968,681,600	42,484,000	17,813,313
教育センター費	524,758,100	518,970,398	0	5,787,702
恩給及び退職年金費	169,497,000	167,325,680	0	2,171,320
小学校費	48,944,189,000	48,609,432,339	0	334,756,661
教職員費	48,944,189,000	48,609,432,339	0	334,756,661
中学校費	29,113,775,000	28,915,564,173	0	198,210,827
教職員費	29,105,029,000	28,907,042,934	0	197,986,066
学校管理費	8,746,000	8,521,239	0	224,761
高等学校費	37,134,084,607	36,295,050,736	257,321,000	581,712,871
高等学校総務費	26,350,902,000	26,309,835,735	0	41,066,265
全日制高等学校管理費	1,567,844,920	1,553,389,286	0	14,455,634
定時制高等学校管理費	85,343,996	83,970,235	0	1,373,761
教育振興費	7,630,760,367	7,139,747,555	0	491,012,812
学校建設費	1,491,954,883	1,200,929,946	257,321,000	33,703,937
通信教育費	7,278,441	7,177,979	0	100,462
特別支援学校費	10,804,725,061	10,658,356,335	0	146,368,726
特別支援学校費	10,804,725,061	10,658,356,335	0	146,368,726
社会教育費	2,463,482,618	2,428,681,761	19,019,000	15,781,857
社会教育総務費	944,911,775	937,772,293	0	7,139,482
文化財保護費	394,664,843	372,227,833	19,019,000	3,418,010
芸術文化振興費	240,793,000	239,761,046	0	1,031,954
図書館費	186,586,000	185,884,677	0	701,323
博物館費	302,237,000	301,813,811	0	423,189
美術館費	394,290,000	391,222,101	0	3,067,899
保健体育費	1,820,356,860	1,580,047,617	26,589,000	213,720,243
保健体育総務費	810,285,000	607,825,647	14,699,000	187,760,353
体育振興費	574,722,860	561,276,224	0	13,446,636
体育施設費	435,349,000	410,945,746	11,890,000	12,513,254
災害復旧費（教委所管分）	1,164,319,000	832,014,978	226,340,000	105,964,022
教育施設災害復旧費	1,164,319,000	832,014,978	226,340,000	105,964,022
学校施設災害復旧費	1,112,178,000	780,249,139	226,340,000	105,588,861
社会教育施設災害復旧費	17,381,000	17,078,828	0	302,172
体育施設災害復旧費	34,760,000	34,687,011	0	72,989
（教育委員会所管分計）	146,312,457,087	143,808,901,823	571,753,000	1,931,802,264

[単位：円、%]

区 分	前年度最終予算額 (D)	対前年比(金額) E (A-D)	対前年比(増減率) E/D
一般会計総額	763,225,458,891	817,228,004,562	107.1
教育費(教委所管分)	139,781,735,000	5,366,403,087	3.8
教育総務費	14,209,505,000	658,019,941	4.6
教育委員会費	15,430,000	1,325,000	8.6
事務局費	2,187,614,000	845,228,928	38.6
教職員人事費	10,081,783,000	12,910,000	0.1
教育指導費	913,159,000	115,819,913	12.7
教育センター費	806,298,000	△ 281,539,900	△ 34.9
恩給及び退職年金費	205,221,000	△ 35,724,000	△ 17.4
小学校費	48,431,345,000	512,844,000	1.1
教職員費	48,431,345,000	512,844,000	1.1
中学校費	28,429,048,000	684,727,000	2.4
教職員費	28,420,345,000	684,684,000	2.4
学校管理費	8,703,000	43,000	0.5
高等学校費	31,801,619,000	5,332,465,607	16.8
高等学校総務費	26,224,499,000	126,403,000	0.5
全日制高等学校管理費	1,595,039,000	△ 27,194,080	△ 1.7
定時制高等学校管理費	109,654,000	△ 24,310,004	△ 22.2
教育振興費	1,720,265,000	5,910,495,367	343.6
学校建設費	2,145,666,000	△ 653,711,117	△ 30.5
通信教育費	6,496,000	782,441	12.0
特別支援学校費	11,268,130,000	△ 463,404,939	△ 4.1
特別支援学校費	11,268,130,000	△ 463,404,939	△ 4.1
社会教育費	2,812,291,000	△ 348,808,382	△ 12.4
社会教育総務費	1,065,126,000	△ 120,214,225	△ 11.3
文化財保護費	351,181,000	43,483,843	12.4
芸術文化振興費	242,591,000	△ 1,798,000	△ 0.7
図書館費	277,563,000	△ 90,977,000	△ 32.8
博物館費	378,337,000	△ 76,100,000	△ 20.1
美術館費	497,493,000	△ 103,203,000	△ 20.7
保健体育費	2,829,797,000	△ 1,009,440,140	△ 35.7
保健体育総務費	587,418,000	222,867,000	37.9
体育振興費	561,273,000	13,449,860	2.4
体育施設費	1,681,106,000	△ 1,245,757,000	△ 74.1
災害復旧費(教委所管分)	103,786,000	1,060,533,000	1,021.8
教育施設災害復旧費	103,786,000	1,060,533,000	1,021.8
学校施設災害復旧費	103,786,000	1,008,392,000	971.6
社会教育施設災害復旧費	0	17,381,000	皆増
体育施設災害復旧費	0	34,760,000	皆増
(教育委員会所管分計)	139,885,521,000	6,426,936,087	4.6

[参考] 管理部門

1 市町村立学校

(1) 教職員の人事異動

平成23年度公立小中学校教職員定期人事異動は、全県の視野に立った教職員の適正配置及び人事の刷新を図り、本県教育の一層の活性化と充実向上を期するため、公立小中学校教職員定期人事異動方針及び人事異動要領に基づき、以下のとおり、全県の視野に立った交流を進めるとともに、教職員の構成等にも配慮する適正な配置を行った。

ただし、異動内示後、3月11日に発生した東日本大震災津波への対応（児童生徒の心のケア等）を最優先に考慮し、異動の停止を含む見直しを行った。

- ア 県内をA(盛岡・岩手)、B(花巻・遠野・北上・西和賀)、C(奥州・一関)、D(久慈・二戸)、E(宮古・宮古北)、F(釜石・大船渡)の6ブロック14地区とし、在任中に2ブロック3地区以上勤務することを原則とした。
- イ ABCブロックとDEFブロック間の異動を積極的に行い、交流をより一層活発にした。
- ウ へき地学校とその他の学校との交流を行い、3級以上のへき地学校に3年以上勤務した者の配置換えを行った。
- エ 小中学校併設校8校全校に副校長を置き（小中学校兼務を含む）、地域における学校運営体制の充実を図った。
- オ 管理職については、広く有為な人材の発掘に努め、若手、女性を積極的に登用した。
新たに41人の校長と34人の副校長を登用した。
- カ 新採用教員については、沿岸被災地への配置を行わないこととし、4教育事務所に配置した。
教諭の新規採用は55人であった。
- キ 退職者は195人であり、校長は60人、副校長は15人であった。

【平成23年度公立小中学校教職員定期人事異動集計表】

[単位：人]

	小学校			中学校			計		
	同一市町村内	同一市町村外	計	同一市町村内	同一市町村外	計	同一市町村内	同一市町村外	計
校長	38	85	123	13	32	45	51	117	168
副校長	43	82	125	12	34	46	55	116	171
主幹教諭	4	13	17	2	7	9	6	20	26
教諭（指導教諭含）	306	336	642	133	214	347	439	550	989
養護教諭	29	45	74	14	19	33	43	64	107
栄養教諭	9	7	16	6	6	12	15	13	28
学校栄養職員	1	1	2	0	2	2	1	3	4
事務職員	27	65	92	14	39	53	41	104	155
小計	457	634	1,091	194	353	537	651	987	1,648
市町村教委等転出者	6			10			16		
合計	1,097			547			1,664		

注：事務局及び県立学校への転出者（小学校24人、中学校12人、計36人）を含まない。

校種間異動者（中学校から小学校へ3人、小学校から中学校へ13人）を含んでいる。

【校長登用者】 [単位：人]

	小学校	中学校	計
同一教育事務所管内	0	0	0
同一教育事務所管外	28	13	41
計	28	13	41

【副校長登用者】 [単位：人]

	小学校	中学校	計
同一教育事務所管内	2	0	2
同一教育事務所管外	21	11	32
計	23	11	34

【新採用職員】 [単位：人]

	小学校	中学校	計
教諭	16	39	55
養護教諭	0	1	1
栄養教諭	3	1	4
事務職員	4	1	5

【退職者】 [単位：人]

	小学校	中学校	計
校長	43	17	60
副校長	12	3	15
教諭	53	34	87
養護教諭	8	2	10
学校栄養職員	3	1	4
事務職員	9	10	19
計	128	67	195

(2) 教育相談員

教育相談員は、公立小中学校の教育に関する事項について教職員の相談に応じ助言を与え、教育効果の向上を図るため、各教育事務所に配置している。

各相談員とも、年度当初訪問に計画を立て、積極的に学校訪問をし、一人当たりの平均訪問学校数は66.9校であった。

相談内容は多岐にわたるが、特に新任校長、新任副校長や、へき地学校の教職員に対しては貴重な相談機会となっている。

2 県立学校

【平成23年度県立学校教職員定期人事異動集計表】

[単位：人]

	退 職	昇任、配置換、転出	転入、採用	計
高等学校教員	93	117	61	271
特別支援学校教員	16	30	32	78
実習助手	8	2	8	18
寄宿舎指導員	4	0	3	7
事務職員	9	93	19	121
栄養教諭・栄養士	0	0	0	0
技能労務・海事職員	7	18	2	27
計	137	260	125	522

このうち、校長は、退職が24人であり、任命換、昇任、転入及び採用が34人であった。

(1) 校長・副校長

学校・学科の別にとらわれることなく、適材を適所に配置する観点から、21人を校長に登用した。また、広く全県的視野に立って、19人の中堅教員を副校長に登用した。

(2) 一般職員

次の観点から交流を行い、組織の活性化を図った。

ア 東北新幹線沿線地域に勤務する教員と、それ以外の地域に勤務する教員との交流、特に、人事上のへき地及び県北地域に勤務する教員の異動に重点を置いた。

イ 全日制と定時制・通信制、また、普通高校と専門高校の間の教員の交流を図った。

ただし、異動内示後、東日本大震災津波による被災児童・生徒に対し最大限配慮するため、退職者の補充等一部を除き、定期人事異動を原則凍結とした。また、新採用者の配置は、沿岸部の学校に負担をかけないよう、内陸部を中心とした。

[参考] 市町村教育委員会

1 市町村教育委員会委員長（平成24年3月31日現在）

市町村名	委員長		委員長の任期
盛岡市	川村 登	(再)	平成23年10月1日～平成24年9月30日
八幡平市	小山田 洋子	(新)	平成23年11月15日～平成24年11月14日
雫石町	杉村 祐一	(再)	平成24年2月25日～平成24年9月30日
葛巻町	千葉 洋一	(再)	平成23年10月1日～平成24年9月30日
岩手町	遠藤 武光	(再)	平成23年7月21日～平成24年7月20日
滝沢村	内村 宣夫	(再)	平成23年12月23日～平成24年12月22日
紫波町	高橋 榮幸	(再)	平成23年10月1日～平成24年9月30日
矢巾町	合田 武	(再)	平成23年10月1日～平成24年9月30日
花巻市	照井 善耕	(再)	平成24年3月25日～平成25年3月24日
遠野市	似内 宏和	(再)	平成23年11月26日～平成24年11月25日
北上市	石川 秀司	(再)	平成23年6月1日～平成24年5月31日
西和賀町	深澤 武志	(再)	平成23年12月1日～平成24年11月30日
奥州市	三田 信一	(新)	平成24年3月31日～平成25年3月30日
金ヶ崎町	及川 紀美子	(再)	平成23年10月1日～平成24年9月30日
一関市	鈴木 功	(再)	平成23年10月29日～平成24年10月28日
平泉町	佐熊 睦子	(再)	平成24年1月1日～平成24年12月31日
大船渡市	佐藤 浩一	(再)	平成23年10月1日～平成24年9月30日
陸前高田市	横田 佑信	(新)	平成23年6月28日～平成24年9月30日
住田町	千葉 英夫	(再)	平成23年10月1日～平成24年9月30日
釜石市	及川 好	(新)	平成23年10月1日～平成24年9月30日
大槌町	植田 俊郎	(新)	平成23年9月25日～平成24年9月24日
宮古市	坂下 昭弘	(再)	平成23年4月1日～平成24年3月31日
山田町	山崎 喜六	(新)	平成23年10月19日～平成24年10月18日
岩泉町	伊東 勝幸	(再)	平成23年12月21日～平成24年12月20日
田野畑村	佐々木 源良	(再)	平成23年11月1日～平成24年10月31日
久慈市	鹿糠 敏文	(再)	平成23年5月9日～平成24年5月8日
洋野町	青澤 侑子	(再)	平成24年2月16日～平成25年2月15日
野田村	大沢 伸子	(再)	平成23年10月1日～平成24年9月30日
普代村	道合 多喜夫	(再)	平成23年10月1日～平成24年9月30日
二戸市	清川 泰	(再)	平成23年8月11日～平成24年8月10日
軽米町	菅波 俊美	(新)	平成23年9月26日～平成24年9月25日
九戸村	千葉 和彦	(再)	平成23年8月12日～平成24年8月11日
一戸町	下田 和夫	(再)	平成23年12月25日～平成24年12月24日

注：(新)、(再)はそれぞれ平成23年4月1日から平成24年3月31日までの間に新任、再任されたことを表す。

2 市町村教育委員会教育長（平成24年3月31日現在）

市町村名	教 育 長		教育長の任期
盛岡市	千葉仁一	(新)	平成23年4月1日～平成24年9月30日
八幡平市	高橋北英		平成21年11月15日～平成25年11月14日
雫石町	吉川健次		平成23年3月1日～平成25年12月25日
葛巻町	村木登		平成21年12月25日～平成25年12月24日
岩手町	佐々木恵治		平成20年11月1日～平成24年10月31日
滝沢村	盛川通正		平成21年4月2日～平成25年4月1日
紫波町	川村秀彦		平成20年10月1日～平成24年9月30日
矢巾町	松尾光則		平成20年10月1日～平成24年9月30日
花巻市	及川宣夫		平成22年4月1日～平成26年3月31日
遠野市	藤澤俊明		平成21年11月26日～平成25年11月25日
北上市	小原善則	(新)	平成23年6月1日～平成27年5月31日
西和賀町	野中孝勇		平成21年12月25日～平成25年12月24日
奥州市	佐藤孝守		平成22年4月1日～平成26年3月31日
金ヶ崎町	新田章		平成20年10月1日～平成24年9月30日
一関市	藤堂隆則		平成21年10月29日～平成25年10月28日
平泉町	南館廣太郎		平成23年1月1日～平成26年12月31日
大船渡市	今野洋二		平成22年4月2日～平成26年4月1日
陸前高田市	(不在)		
住田町	佐賀篤		平成22年1月2日～平成26年1月1日
釜石市	川崎一弘	(新)	平成23年10月1日～平成24年9月30日
大槌町	伊藤正治	(再)	平成24年3月31日～平成28年3月30日
宮古市	佐々木敏夫		平成22年4月1日～平成25年8月29日
山田町	岩船敏行		平成20年10月30日～平成24年10月29日
岩泉町	三上潤	(新)	平成23年4月1日～平成25年3月31日
田野畑村	石岡三郎		平成21年10月1日～平成25年9月30日
久慈市	亀田公明		平成22年4月28日～平成26年4月27日
洋野町	麦澤正剛		平成23年1月4日～平成25年2月13日
野田村	大崎英雄		平成21年1月1日～平成24年12月31日
普代村	熊坂伸子		平成22年4月1日～平成26年3月31日
二戸市	鳩岡矩雄		平成22年2月22日～平成26年2月21日
軽米町	中野新一	(再)	平成23年6月17日～平成27年6月16日
九戸村	千葉利夫		平成20年7月9日～平成24年7月8日
一戸町	遠藤裕一		平成22年4月1日～平成26年3月31日

注：(新)、(再)はそれぞれ平成23年4月1日から平成24年3月31日までの間に新任、再任されたことを表す。

3 市町村教育委員等研修

- 平成23年度市町村教育委員会研究協議会（第一ブロック）
 - 【平成23年10月27日、秋田県秋田市秋田県児童会館けやきシアター】
 - ・行政説明「初等中等教育をめぐる最近の動向について」
 - ：文部科学省初等中等教育局初等中等教育企画課長 中岡 司
 - ・講演「グローバル社会に対応する人材の育成」
 - ：国際教養大学学長 中嶋 嶺雄氏
 - ・パネルディスカッション「グローバル社会に対応する人材を育成するための取組について」
 - 【平成23年10月28日、秋田県ホテルメトロポリタン秋田 ジュエル、グランデA、グランデB】
 - ・分科会「キャリア教育を推進するための取組について」
 - 「防災教育を推進するための取組について」
 - 「教員の指導力向上を図るための取組について」

第3章 教育施策の推進状況

第1節 社会の変化に対応する教育の推進

第1 目標達成型の学校経営の推進

各学校がそれぞれの学校の現状と地域の状況、東日本大震災からの復旧・復興状況などを踏まえながら、中長期的な目標のもと、毎年度の達成目標とその実現方策を明らかにした学校経営計画を定め、実行し、その成果と課題を検証していくというPDCAサイクルに基づく学校経営の取組を推進した。

1 目標達成型の学校経営の推進

校長のリーダーシップのもと、家庭・地域との協働の強化を図り、学校経営計画の方針策定や実行プロセスへの校内教職員の参画、学校内外の評価なども取り入れたPDCAサイクルに基づく学校経営を推進した。

- 重視する教育活動について、目指すべき成果やそれに向けた取組の具体的な目標を定めた「まなびフェスト」の公立小中学校における作成状況は100%であった。

2 家庭・地域社会との協働の促進

学校・家庭・地域社会が一体となって子どもたちの生きる力を育むため、学校では、家庭や地域と協働する「いわて型コミュニティ・スクール構想」の実現に向けて、家庭や地域との相互交流を積極的に促進するとともに、学校運営についても、家庭や地域の願い・意見等を把握しながら絶えず見直し、改善の努力をしていく「開かれた学校づくり」を推進した。

3 「開かれた学校づくり」の推進

(1) 地域連携の窓口となる教員の配置

地域や学校の実態に応じて、地域連携の窓口となる教員を配置し、積極的に地域社会と連携した開かれた学校づくりを推進した。

配置の状況は、小中学校 100%、高校96.8%、特別支援学校100%であった。

(2) 学校評議員の設置

児童生徒や保護者、地域住民の学校教育に対する意向を把握するとともに、学校運営などについて説明責任を果たすため、学校評議員の設置を推進した。全ての県立学校で設置され、小中学校においても75%で設置されている。

【目標】

児童・生徒や保護者、地域住民の意向を把握するとともに、学校運営などの説明責任を果たすため、全ての県立学校において学校評議員を設置することとする。

なお、小中学校に対しては、各学校の実情に応じた積極的な取組について指導する。

【進捗状況】

	H23岩手県	H20全国平均
公立小学校	291校(78.0%)	91.1%
公立中学校	130校(71.0%)	91.6%
県立学校	78校(100%)	96.8%

【今後の取組】

学校評議員の積極的な活用を図るため、各校に学校評議員の活用状況等に係る情報を提供する旨にも、各市町村教育委員会に対して設置の働きかけを行う。

(3) 学校評価の実施

学校運営の改善や活性化を進め、教育活動に係る家庭や地域等への説明責任を果たすため、学校自己評価及び評価結果の公表を推進するとともに、自己評価結果に対する学校関係者評価を推奨している。ほとんどの学校が自己評価を行ったが、学校関係者評価については小中学校で66%程度の実施にとどまっている。

【目標】

平成19年に改正された学校教育法及び施行規則等の規定に沿った学校評価の実施を推進する。

- (1) 学校は自ら評価を行い、その結果を公表する（義務規定）。
- (2) 学校は、学校関係者評価を行い、その結果を公表するよう務める（努力規定）。
- (3) 学校は、自己評価及び学校関係者評価を行った場合は、その結果を設置者に報告する。

【実施状況】

	自己評価の実施		自己評価結果の公表		学校関係者評価の実施	
	岩手県 (H23)	全国 (H20)	岩手県 (H23)	全国 (H20)	岩手県 (H23)	全国 (H20)
公立小学校	373校(100%)	99.9%	373校(100%)	89.7%	313校(83.9%)	84.9%
公立中学校	180校(98.3%)	99.9%	180校(100%)		156校(85.2%)	84.3%
県立学校	78校(100%)	100%	78校(100%)		68校(87.1%)	90.9%

(4) ホームページの開設

学校からの情報発信力を強化するため、全ての県立学校においてホームページを開設しているが、小中学校における開設状況は5割程度にとどまっている。

【目標】

全学校でのホームページの開設及び学校情報の発信に取り組む。

【進捗状況】

	H22岩手県
公立小学校	48.3%
公立中学校	50.3%
県立学校	100%

【今後の取組】

学校運営等の積極的な情報発信の趣旨からもその充実を図るため、運用に際しての掲載すべき内容を指導するとともに、先進事例を紹介する。

第3章 教育施策の推進状況

第1節 社会の変化に対応する教育の推進

第1 目標達成型の学校経営の推進

第2 社会人として自立できる能力の育成

4 地域との交流の促進

地域におけるボランティア活動、伝統芸能等の継承、行事や祭事への積極的な参加、社会福祉施設との連携等、地域に開かれた学校づくりを実践的に推進した。

5 地域の人材の活用

地域の伝統文化・芸能の継承活動等において、保護者や地域の方々を指導者として招き、児童生徒が地域を理解する学習の推進を図った。

また、日常の各教科や総合的な学習の時間等においても、保護者や地域の専門的な知識・技能を有する方々をゲストティーチャーとして積極的に活用するなど、地域の人材の活用を積極的に推進した。

6 学校の開放

地域住民の交流や学習の拠点としての役割を担う観点から、学校の体育施設等や学校図書館、空き教室等の積極的な開放を行った。

第2 社会人として自立できる能力の育成

社会の仕組みや経済社会の構造、高度情報化社会の特性、持続可能な社会をつくる取組等について、国際理解教育、情報教育、環境教育等を推進することにより、高校卒業までに、社会を生きる人間として必要な知識・技能を習得させ、自ら学ぶ態度を養うよう努めた。

さらに、児童生徒が自己の在り方・生き方を考え、主体的に進路を選択し、社会人・職業人として自立する能力を育成するため、「いわてキャリア教育指針」に基づき、「いわてキャリア教育の手引き」を活用して、学校の取組促進に努めた。

1 児童生徒一人一人の主体的な「学び」の支援・指導の充実

各学校が児童生徒の実態等に応じて、わかる授業を基盤とした、習熟の程度に応じた指導などの少人数指導や繰り返し学習などきめ細かな指導ができるように、児童生徒一人一人の主体的な「学び」の支援・指導の充実に努めた。

2 社会の変化に主体的に対応する新たな「学び」の創造等

各学校が総合的な学習の時間などを中心に体験的な学習を積極的に取り入れ、児童生徒の関心・意欲や思考力、判断力、表現力を育成し、社会の変化に主体的に対応する新たな「学び」の創造に取り組むことができるよう、支援・指導の充実に努めた。

第3章 教育施策の推進状況

第1節 社会の変化に対応する教育の推進

第2 社会人として自立できる能力の育成

3 学校裁量を生かした創意工夫

(1) 平成23年度文部科学省・岩手県教育委員会研究指定校（高等学校を除く）

文部科学省指定

指 定 領 域	教育事務所	学校（地域）名	指定年度
学力向上実践研究推進事業（確かな学力育成のための実践研究事業）	県 北	洋野町（種市小）	H23
発達段階に応じたキャリア教育支援事業	県 南	一関市（南小、一関中、本寺小、本寺中、摺沢小、大東中）	H21・22・23
	県 北	軽米町（軽米小、軽米中、小軽米小、小軽米中）	H21・22・23
		九戸村（江刺家小、九戸中）	H21・22・23
問題を抱える子ども等の自立支援事業	県 南	奥州市	H22・23
	県 北	二戸市	H23

(2) 教科書関係

ア 採択の概要

平成22年度に小学校用教科書の採択替えを行い、平成23年度に中学校用教科書の採択替えを行った。

イ 教科用図書選定審議会

県教育委員会は、市町村教育委員会及び国立、私立学校の校長の行う教科書採択が円滑適正になされるよう指導、助言、又は援助をするために、平成23年度使用教科用図書選定審議会委員を委嘱した。

教科用図書選定審議会に対し、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律第11条第1項の規定により、次の事項について諮問し、その答申を受けて各採択権者に対し、指導、助言、援助を行った。

(ア) 平成24年度において使用する義務教育諸学校の教科用図書を各採択権者が採択する場合における採択基準について

(イ) 教科用図書選定のための資料について

ウ 教科書展示会

教科書の発行に関する臨時措置法第5条第1項の規定により、平成23年度使用教科書展示会を、平成23年6月17日から14日間、次の18カ所の教科書センターにおいて開催した。

【教科書センター】岩手中央／盛岡／八幡平／葛巻／花巻／北上／奥州／金ヶ崎／県南／川崎／大船渡／住田／遠野／釜石／宮古／岩泉／久慈／二戸

第3章 教育施策の推進状況

第1節 社会の変化に対応する教育の推進

第2 社会人として自立できる能力の育成

(3) 高等学校教育全般

平成22年度3月に策定された「今後の高等学校教育の基本的方向」では、高校教育の目標について、「「知・徳・体」を備え調和のとれた人間形成」、言い換えれば「自立した社会人としての資質を有する人財（生徒）の育成」としている。

また、平成23年度の高等学校教育指導指針では、学校教育全般にわたる指導の要点を次の18項目とし、教育の本質に根ざした学力の向上と健全育成を目指す学校教育の充実推進に努めた。

【各校共通して取り組む内容の指導の要点】

学校経営改革／学力・授業力向上／キャリア教育／豊かな人間性の育成／特別支援教育／健康教育

【各学校の経営計画により取り組む内容の指導の要点】

特別活動／総合的な学習の時間／国際理解教育／環境教育／ボランティア教育／情報教育／読書指導／交流及び共同学習／定時制・通信制教育／研修・研究

【スポーツや伝統・文化に関わって各学校が取り組む内容の指導の要点】

競技スポーツの強化／伝統文化の教育

また、下表のとおり研究指定校を指定（いずれも文部科学省指定）するとともに、学習指導・授業研修等による訪問や生徒指導等による訪問を行い、指導した。

【平成23年度 岩手県公立高等学校等教育研究指定校】

研究主題	研究校	指定年度
スーパーサイエンスハイスクール（SSH）（理数系教育）	水沢	H23
	盛岡第三	H23～27

(4) 定時制・通信教育

平成23年度における定時制課程の学校数は、11校（独立本校1校、併置校8校、分校2校）であり、通信制課程は、杜陵高校本校（宮古分室含む。）、奥州校の2校である。

昭和56年度から定時制高校と県立高等職業訓練校（1年課程）7校との間に技能連携教育が始まり、さらに昭和57年度には雇用促進事業団立総合高等職業訓練校（2年課程）2校が加わった。この制度により高校を卒業した生徒は541人にのぼっており、平成23年度における技能連携教育は、杜陵高校通信制と岩手看護高等専修学校で行われている。

昭和63年4月には杜陵高校定時制に全国初の単位制を導入し、平成5年度からは3部制にして、働きながら学ぶ生徒を支援する教育に加え、多様な生徒の学習ニーズに対応している。

第3章 教育施策の推進状況

第1節 社会の変化に対応する教育の推進

第2 社会人として自立できる能力の育成

ア 定時制、通信制学科別入学及び在籍生徒数

(ア) 入学生徒数（平成23年5月1日現在） [単位：人、%]

課程	定員	普通科	農業科	生活科	衛生 看護科	工業科	産業科	商業科	計	定員充足率
定時制	560	192	—	—	—	3	—	—	195	34.8
通信制	300	143	—	—	1	—	—	—	144	48.0
合計	860	335	—	—	1	3	—	—	339	39.4

[平成22年5月1日現在の生徒数計は、定時制250人、通信制161人、合計411人であり、それぞれ55人減、17人減、72人減]

(イ) 在籍生徒数（平成23年5月1日現在） [単位：人、%]

課程	定員	普通科	農業科	生活科	衛生 看護科	工業科	産業科	商業科	計	定員充足率
定時制	2,240	665	—	—	—	30	7	7	709	31.7
通信制	—	1,496	—	—	2	—	—	—	1,498	—
合計	—	2,161	—	—	2	30	7	7	2,207	—

[平成22年5月1日現在の生徒数計は、定時制740人、通信制1,471人、合計2,211人であり、それぞれ31人減、27人増、4人減]

イ 就学奨励事業

就学促進のための施策の一環として「高等学校定時制課程及び通信制就学奨励費貸付事業」を実施し、関連事業として、教科書の無償給与、夜間定時制高校生徒夜食費補助等も実施した。

ウ 主な事業（主催及び共催）

(ア) 岩手県高等学校定時制通信制教育振興会理事会・総会

期日……………平成23年5月13日

会場……………杜陵高校

参加者……………50人

(イ) 第61回岩手県高等学校定時制通信制生徒生活体験発表会

期日……………平成23年9月25日

会場……………胆江地区勤労者教育文化センター

参加者等……………100人（発表13人）

第3章 教育施策の推進状況

第1節 社会の変化に対応する教育の推進

第2 社会人として自立できる能力の育成

4 情報教育の充実

社会の情報化に対応した教育を行うため、「教育の情報化」を推進することとし、情報機器の整備促進及びその活用充実等のための研修や、IT活用能力及び指導力の向上のための各種研修を積極的に実施した。

(1) 情報関連機器の整備状況（平成24年3月現在） [単位：人、%]

学校種別	コンピュータ1台あたりの児童生徒数		普通教室における校内LAN整備率		超高速インターネット接続率	
	岩手県	全国平均	岩手県	全国平均	岩手県	全国平均
小学校	5.9	7.5	58.5	81.5	51.7	71.4
中学校	4.8	6.5	62.6	80.7	52.2	73.1
高等学校	4.6	5.1	97.7	93.6	88.4	66.5
特別支援学校	2.5	3.5	94.6	90.1	92.9	69.1
合計	5.2	6.6	68.1	83.6	56.7	71.3

(参考) 平成18年度から平成22年度までの新基準（文部科学省）

コンピュータ1台あたりの児童生徒数	普通教室における校内LAN整備率	超高速インターネット接続率
3.6人	概ね100%	概ね100%

(小学校、中学校、高等学校、特別支援学校共通)

(2) 教員の指導力の向上

ア 教員のICT活用指導力の状況（平成24年3月現在）

「わりにできる」「ややできる」と回答した教員の割合[単位:%]	岩手県	全国平均
教材研究・指導の準備・評価などにICTを活用する能力	81.6	78.1
授業中にICTを活用して指導する能力	69.6	65.1
児童・生徒のICT活用を指導する能力	69.7	62.8
情報モラルなどを指導する能力	76.8	73.3
校務にICTを活用する能力	79.0	74.2

イ 教員情報活用能力向上のための研修

小中高等学校及び特別支援学校の教員を対象に、総合教育センターで各種研修を行った。

ウ 初任者研修

初任者研修において、情報モラル指導や教育の情報化のための研修を行った。

5 国際理解教育の充実

国際化の進展に対応し、語学指導等を行う外国青年招致事業（JETプログラム）により外国青年を招聘し、県立学校等における外国語教育や国際理解教育の充実を図った。

(1) 外国青年招致事業

ア 招致人員 10人

イ 国籍

米国、英国、カナダ、オーストラリア、ニュージーランド

ウ 配置先

学校教育室 1人

総合教育センター 1人

県立高校 8人

【配置高校名】

盛岡第三、盛岡北、不来方、花巻北、花巻南、水沢、一関第一、釜石

(2) 外国語教育推進事業

これまで活用してきた語学指導等を行う外国青年招致事業（JETプログラム）における外国語指導助手に関する事業について、外国語指導の向上を目的として、より効率的かつ効果的な運用を図ることとし、平成20年度から一部の業務を民間業者に委託して、県内すべての高等学校に外国語指導助手を配置している。

（平成23年度 民間業者による外国語指導助手37名）

6 キャリア教育の推進

近年の社会構造や就業形態の複雑化を背景として、高校や大学を卒業した若者の早期離職傾向や勤労観・職業観の未熟さ、社会人・職業人としての資質や能力の不足等が社会的に大きな課題となっており、小・中・高の発達段階に応じたキャリア教育が重要であることから、「いわてキャリア教育指針」及び「いわてキャリア教育の手引き」を策定し、各学校におけるキャリア教育推進の支援に努めた。

(1) 「いわてキャリア教育指針」に基づく取組の推進

平成21年度に策定した「いわてキャリア教育指針」に基づき、「いわてキャリア教育の手引き」を活用するとともに、リーフレット「いわてが目指すキャリア教育」を作成、配布し、各学校におけるキャリア教育の取組を促進した。

(2) 発達段階に応じたキャリア教育推進支援事業の実施

小中学校において、学ぶことや働くこと、生きることについて考えさせ、学ぶ意欲の向上を図り、将来の社会的自立・職業的自立の基盤となる資質・能力・態度を育て、発達段階に応じた組織的・系統的なキャリア教育を効果的・効率的に実施するため、3市町村（一関市・軽米町・九戸村）が文部科学省の指定を受け、研究事業を実施した。

(3) 小中高キャリア教育研究協議会の開催

キャリア教育を担当する教諭を対象に、小・中・高等学校におけるキャリア教育の在り方について研修し、各校のキャリア教育の改善・充実と担当者の資質の向上を図った。

地区名	期 日	会 場	担当教育事務所
盛岡南	平成23年8月23日(火)	矢巾町公民館	盛岡教育事務所
奥州	平成23年9月2日(金)	江刺生涯学習センター	県南教育事務所

(4) キャリア教育指導者養成研修への派遣

キャリア教育を担当する指導主事や小・中・高等学校のキャリア教育担当者・進路指導主事等に対し、発達段階に応じたキャリア教育、キャリア・カウンセリング等について必要な知識を習得させることをねらいとした文部科学省主催の講座であり、小学校2人、中学校2人、高等学校2人が受講した。

(5) キャリアアップサポート事業の実施

岩手県産業教育振興会が行うキャリアアップサポート推進事業（各学校が実施する外部講師による講演会、生徒の企業見学等）を支援した。

7 職業教育の充実

(1) 職業教育の現状

本県における職業教育は、専門高校を中心に行われており、有為な職業人を育成するために、望ましい勤労観や職業観を培い、創造性を身に付けた総合的な人間育成の場としても大きな役割を果たしている。

また、近年、社会や産業構造、就労環境等も変化してきており、専門高校の教育内容等の一層の改善が求められているところである。

今後は、普通高校におけるキャリア教育の推進とともに、職業教育のさらなる充実が求められていくものと考えられる。

(2) 職業教育の活性化に向けて

ア 新しい教育課程の実施

高等学校における職業教育のスタート段階では、専門分野の基礎的・基本的な知識・技能を定着させることが重要であり、平成21年3月に告示された新学習指導要領の改訂の趣旨を踏まえ、各教科・科目の基礎的・基本的な知識・技能の一層の定着を図るとともに、「課題研究」等の実践をとおした問題解決能力や自発的・創造的な学習態度の育成を進め、職業教育の活性化に努めた。

また、地域の産業や社会を担う人材を育成するためには、さらに、産業界と連携しながら、体験的な学習を推進していく必要がある。

イ 学校・地域の協働によるキャリア教育推進事業の実施

平成19年度から平成22年度まで実施した文部科学省と経済産業省、農林水産省、水産庁との連携による「地域産業の担い手育成プロジェクト」の成果を踏まえ、平成22年度から県単独事業として実施している「学校・地域の協働によるキャリア教育推進事業」において、企業内実習や企業技術者による学校での実践的指導、日本版デュアルシステムなどを実施することにより生徒の実践力の向上が図られた。

分 野	対 象 校
ものづくり分野	盛岡工業高校、花北青雲高校、黒沢尻工業高校、水沢工業高校、一関工業高校、千厩高校
農 業 分 野	盛岡農業高校、花巻農業高校、水沢農業高校
水 産 分 野	宮古水産高校
商 業 分 野	盛岡商業高校、花北青雲高校、水沢商業高校、一関第二高校、大東高校、釜石商工高校、宮古商業高校、久慈東高校

第3章 教育施策の推進状況

第1節 社会の変化に対応する教育の推進

第3 児童生徒の健やかな成長を支える取組の推進

第3 児童生徒の健やかな成長を支える取組の推進

社会の変化の中で、児童生徒の健やかな成長を支援するため、教員の資質と能力の向上を図るとともに、少人数教育の充実に努めた。

1 特色ある学校づくり

各学校は、児童生徒一人ひとりが在り方生き方を自覚し、将来の目標の設定や自己実現を図ることができるような、魅力ある学校づくりを進める必要がある。

そこで、平成21年度から、家庭、地域と協働して岩手の特色ある産業、文化を支える人材を育成するなど、生徒一人一人の多様な進路実現に向けた学校の取組を支援する「いわて未来創造人サポート事業」を実施している。

2 小規模校の振興

本県のへき地指定校は、平成23年5月1日現在小学校89校、中学校41校となっており、全学校に占める割合は、小学校23.4%、中学校22.0%で、小中学校全体では23.1%となっている。

また、複式学級を有する学校は、小学校110校（29.3%）、中学校9校（4.8%）である。

(1) 複式指導資料の作成

へき地・小規模複式指導DVDを活用し、複式学級における学習指導の充実を図った。

(2) 複式指導等改善巡回講座の実施

複式学級の特性を生かした学習指導の充実を図るため、複式学級の実態に即した研修を実施し、指導力の向上を図った。

教育事務所	学校名	期 日	研修内容
県 北	洋野町立林郷小学校	平成23年6月1日	授業、研究協議、講義 実践交流

第4 教員の適正配置

1 教員採用試験の改善等

教員としての資質・能力のみならず、多角的な視点から判断できるような面接試験、論文試験を行っている。

また、実践的、専門的な技術、技芸等を教えることができる人材を確保するため、スポーツ・社会人・理療科特別選考を実施し、学校活性化のための人材の確保に努めた。

2 人事管理の改善

義務教育諸学校においては第6次配置改善計画、高等学校においては第5次配置改善計画により、ティームティーチングや多様な教科・科目の開設など指導方法の改善に伴う加配措置がなされ成果を上げてきた。第7次配置改善計画においては、きめ細やかな指導と基礎学力の向上を図るため、少人数指導を可能にする加配措置がなされた。

また、学級編制については、平成18年度から小学校1年生に35人学級編制を導入し、平成19年度には小学校2年生まで拡大した。平成21年度には、中学校1年生における35人学級編制を導入し、市町村教育委員会の意向を踏まえ選択的に実施した。

3 司書教諭の養成

平成15年4月1日から12学級以上の学校には司書教諭を配置することになったため、計画的な司書教諭の養成に努めた。

【平成23年度図書館司書教諭有資格者数】

小学校	501人
中学校	163人
高等学校	146人
特別支援学校	87人

4 教職員の養成・免許・検定

領域別免許状の保有状況等を勘案し、平成21年度は特別支援学校の教員を対象とした認定講習を開催するなど県として条件整備に努めた。

(1) 免許法認定講習

会場	盛岡市内3会場
期日	平成23年8月2日～8月9日
受講者	99人
単位授与者	99人
開設講座	3講座

(2) 教育職員の免許状授与状況

(右表のとおり)

【教育職員の免許状授与状況（単位：件）】

免許状の種類	平成23年度	平成22年度
授与・再交付・書換え		
普通免許状		
小学校教諭	335	347
中学校教諭	330	336
高等学校教諭	373	436
養護教諭	25	11
特別支援学校教諭	90	92
自立教科教諭(理療)	1	1
特別支援自立活動	0	0
幼稚園教諭	449	455
栄養教諭	15	36
計	1,618	1,714
臨時免許状		
小学校助教諭	14	15
中学校助教諭	12	4
高等学校助教諭	55	49
養護助教諭	2	0
特別支援学校助教諭	16	14
自立教科助教諭(理療)	1	0
幼稚園助教諭	0	2
計	100	84
特別免許状	0	1
再交付・書換え		
再交付	164	164
書換え	285	283
計	449	447
合計	2,167	2,246
免許状授与証明書	540	531

第5 教員研修の充実

本県教員のより一層の資質向上と教育課題の解決を図るため、これまでの研修体系を見直し、「授業力向上研修」を中心とする教員のキャリア・ライフステージに沿った新しい研修体系を平成21年度に策定し、研修を実施した。（管理職研修の一部は、震災の影響で縮小開催。）

特に、新学習指導要領の趣旨や内容の徹底を図るとともに、児童生徒の学力向上・健全育成を中心課題として、教員の指導力の向上を図った。

1 平成23年度研修実績

(1) 管理職研修

[単位：人]

講座名	受講対象	講座内容	日数等	研修者数
校長研修講座	小中学校長	人事・サービス上の諸問題、学校再開・復興プロジェクト、復興教育・教育課程、生徒指導・こころのサポート、岩手の義務教育の目指すもの	1	549
副校長研修講座	小中学校副校長	副校長に期待すること、人事管理上の諸問題、復興教育講話、講演、研究協議等	1	545
新任校長研修講座	小中学校新任校長	管理職としての心構え、先輩校長から学ぶ、指導行政の課題と学校経営、新任校長に望む、コンプライアンス、教職員のメンタルヘルス、経営ビジョンづくりと共有化（研究協議）	2	40
新任副校長研修講座	小中学校新任副校長	副校長としての心構え、先輩副校長から学ぶ、人事管理上の諸課題、いわての教育課題、学校経営上の諸課題（研究協議）、コンプライアンス、教職員のメンタルヘルス	2	37
新任校長研修講座	県立学校新任校長	各学校の課題・取組状況についての意見交換会、学校経営、教育法規演習、危機管理の在り方、コンプライアンス、新任校長に期待する	3	22
新任副校長研修講座	県立学校新任副校長	各学校の課題・取組状況についての意見交換会、学校経営、教育法規演習、教職員のメンタルヘルス、コンプライアンス、新任副校長に期待する	2	27

(2) 初任者研修（小学校・中学校、新採用教員対象）

[単位：人]

講座名	コース名	講座内容	日数等	研修者数	
初任者研修講座	総合教育センター研修	学習指導要領、年間指導計画の作成、教育相談、学級経営、教科・道徳・特別活動、総合的な学習の時間の意義と進め方、情報モラル 等	I	4	52
			II	4	51
			III	3	52
			宿泊研修	3	52
初任者研修講座	教育事務所研修	身分とサービス、教育課程の編成、授業実習と授業研究、課題研修の進め方、社会奉仕体験の心構え 等	8	52	
	市町村教育委員会研修	各市町村の教育課題、教科・領域授業研究、各実践課題への取組 等	3	52	
	校内研修	各種教育指導、学級経営、教科・道徳・特別活動・総合的な学習の時間の指導、生徒指導の実際 等	300時間程度	52	

第3章 教育施策の推進状況

第1節 社会の変化に対応する教育の推進

第5 教員研修の充実

(3) 初任者研修（高等学校・特別支援学校、新採用教員対象）

[単位：人]

講座名	コース名	講座内容	日数等	研修者数	
初任者研修	本庁研修	学習指導要領解説、教科・教育の現状と課題、授業参観、授業研究、他校種授業参観	6	67 (高校39、特支28)	
	総合教育センター研修	任用・服務、勤務、学習指導、生徒指導、接遇、総合的な学習の時間、ボランティア活動、校務における情報活用、情報モラル、教育相談、授業改善の事例発表 等	教職基礎	2	83
			教科別(高等学校)	4	39
			授業基礎(特別支援)	4	28
			領域実技Ⅰ(高等学校)	4	39
			実技(特別支援)	3	28
			領域実技Ⅱ(高等学校)	3	39
			特支一般(特別支援)	4	29
			授業改善(高等学校)	3	39
			課題研究(特別支援)	3	27
		宿泊研修	3	67	
所属校研修	基礎的素養、ホームルーム経営、教科指導、特別活動、生徒指導等	300時間程度	67		

(4) 新任教務主任研修（小学校・中学校、新任教務主任対象）

[単位：人]

講座名	コース名	講座内容	日数	研修者数
新任教務主任研修	新任教務主任研修	教務主任の役割、教育活動と教育法規、教育課程の編成、高校教育の現状と課題、文書事務等	2	68 (小44、中24)

(5) 新任教務主任研修（高等学校・特別支援学校、新任教務主任対象）

[単位：人]

講座名	コース名	講座内容	日数	研修者数
新任教務主任研修	新任教務主任研修	教務主任の役割、教育活動と教育法規、特色ある学校づくり、教務課運営の実際、文書事務等	3	18(高校15、特支3)

第3章 教育施策の推進状況

第1節 社会の変化に対応する教育の推進

第5 教員研修の充実 第6 教育研究等の充実

2 平成23年度研修事業受講者一覧（総合教育センター実施分）

(1) 所属種別研修講座数、研修者数

[単位：人]

講座\所属	幼稚園・保育所	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校	計
研修講座数	13	61	64	56	41	235 (延)
研修者数	106	1,894	1,454	1,142	540	5,136

(2) 所属種別研修講座別研修者数

[単位：人]

研修名	講座名	研修者数										計	
		単 独					合 併						
		幼・保	小学校	中学校	高校	特支	幼・保	小学校	中学校	高校	特支		
基本研修	初任者研修	87	59	148	245	173							712
	教職経験5年研修		59	33	34	15							141
	教職経験10年研修	11											11
	授業力向上研修		770	413	452	127	1	469	244	235	67		2,778
	小 計	98	888	594	731	315	1	469	244	235	67		3,642
特別研修	新任研修	新任者		138	67	78	4						333
		免外等			46								
	養成研修	教科		23									54
		領域等							19	12			
	専門研修		26	117		62							205
	派遣研修							12	7	4	1		24
小 計	0	187	230	78	66	0	31	19	4	1		616	
希望研修	教科研修			48					1	83	2	134	
	領域等研修						1	137	124	135	53	450	
	公開研修		84				6	98	30	40	36	294	
	要請研修	1,473	2,639	1,087	1,681	197						7,077	
	随時研修	91	96	102	37	18						344	
	小 計	1,564	2,819	1,237	1,718	215	7	235	155	258	91	8,299	
総 計	1,662	3,879	2,188	2,324	568	8	750	455	536	187	12,557		

第6 教員研究等の充実

県立総合教育センターを中心に、本県教育における重要性・緊急性が高い諸課題について、以下の調査・研究を行った。

1 小・中学校の校内研究推進に対する効果的な支援の在り方に関する研究 一校内研究推進モデルプラン・校内研究支援モデルプランの作成を通して一

授業改善、ひいては児童生徒の学力向上を目指したとき、校内研究推進をどのように充実させていくかということが、大きな課題となっている。

この研究は、県内小・中学校の校内研究推進にかかわる成果・課題について、実施主体である学校と支援に当たる教育関係機関の二つの側面から整理し、効果的な校内研究推進のためのシステムを明らかにすることにより、県内小・中学校の校内研究推進の充実を図ろうとするものである。

2 中学校技術・家庭科家庭分野における実践的・体験的な学習活動に関する研究 ー住生活の内容における題材開発と指導資料の作成を通してー

中学校技術・家庭科家庭分野住生活の内容では、家族が住まう空間としての住居の機能を理解し、安全で快適な室内環境の整え方を知り、よりよい住まい方を工夫する能力が求められている。

この研究は、日常生活を想定した場面設定や簡易実験などの実践的・体験的な学習活動を盛り込んだ題材開発や指導資料を作成することによって、技術・家庭科家庭分野の学習指導の充実に役立てようとするものである。

3 児童生徒のゲーム機利用における情報モラル指導の在り方に関する研究 ー利用実態の調査を通じた指導教材の開発ー

小・中学校、高等学校の学習指導要領解説総則編には、「携帯電話の利用問題に関しては、学校においては、家庭との連携を図りつつ、情報モラルを身に付けさせる指導を適切に行う必要がある」と示されており、本県においては体験型の情報モラル指導を実施しているところである。

しかし、ネットに接続できる機器は、携帯電話だけでなくゲーム機も接続できることから、その所持やネット利用実態の調査を通して教材を開発し、情報モラル指導の充実に役立てる。

4 岩手県内特別支援学校・特別支援学級・通級指導教室における自閉症のある児童生徒への指導・支援状況等に関する調査研究

特別支援学校（知的障がい）においては、約25%の児童生徒が自閉症を併せ有していると言われている。自閉症は知的障がいや情緒障がいとは異なる障がいであり、その障がい特性に応じた研究の重要性が指摘されている。

この研究では、障がい特性に応じた適切な指導をするための基礎資料として、県内特別支援学校・特別支援学級・通級指導教室における自閉症のある児童生徒の実態や教育課程、指導・支援状況等を調査する。

5 「いわてスタンダード」及び「Gアップシート」の改訂

本県中学生の学力向上に資することや、授業改善・家庭学習の充実を図ることを目的に、平成18年度に「いわてスタンダード」及び「Gアップシート」を作成した。

今回、この「いわてスタンダード」及び「Gアップシート」を中学校新学習指導要領に対応したものに改訂し、県内配付する。

6 学習指導要領改訂に伴う中学校理科観察・実験指導資料の作成

中学校の理科教師にとって、授業で使える観察・実験の進め方のポイントを示した「中学校理科観察・実験書」を作成する。

この観察・実験書は、学習指導要領改訂に伴い発刊された教科書に基づいたもので、観察・実験中心の理科授業の成立を目指し、準備から授業までの見通しや失敗しないポイント等を示したものである。

第2節 確かな学力をはぐくむ教育の推進

第1 学習指導要領改訂に伴う教育課程の編成

学習指導要領の趣旨の確実な周知と理解を図り、移行期間における教育課程を適切に実施するとともに、本実施に向けた効果的な教育課程の編成と実践に向けた指導の在り方を支援し、地域や児童生徒の実態に即した柔軟で特色ある教育を推進するよう努めた。

また、学習指導要領の趣旨を踏まえて、児童生徒の人間として調和のとれた育成を目指し、地域や学校の実態と特色を生かした、柔軟で適切な教育課程を編成するために、9年間の義務教育を効果的なものにしていく一つの方策として、小中連携・一貫教育に関する取組への支援を進める状況を整備した。

具体的には、次のとおりである。

- 1 児童生徒に生きる力をはぐくむことを目指し、創意工夫を生かした特色ある教育活動を展開することができたこと
- 2 基礎的・基本的な内容の確実な定着を図り、個性を生かす教育の充実に努めることができたこと
- 3 教育課程を計画的・組織的に評価し、教育課程の見直しと改善を図ることができたこと

第2 学習面における基礎・基本の定着

基礎的・基本的な知識や技能、さらには、習得した知識や技能を活用し、自らの人生を切り拓いていくために必要な能力である思考力、判断力、表現力を身に付けさせるよう努めた。

このため、きめ細かな指導を通じて、児童生徒に自信と意欲をもたせるとともに、家庭と連携して学習習慣の確立を図った。

また、少人数教育による児童生徒の実態や状況に応じた柔軟な指導を推進するよう努めた。

1 児童生徒一人一人の学習面における基礎・基本の確実な定着

(1) 学習面における基礎・基本の確実な定着

各種調査により明らかになった課題を解決するための取組の推進

- ・ 授業力の向上・分析力の向上（学習定着度状況調査分析システムの活用）
- ・ 分析結果を活用した授業改善の推進（授業力向上ブラッシュアッププラン）
- ・ 基礎力の定着状況の把握（基礎力確認調査）

(2) 社会の状況や学校の実態を踏まえ、市町村教育委員会や関係機関などと連携した、少人数教育の推進

2 学力・授業力向上の取組

(1) 学校訪問の趣旨

学習定着度状況調査の分析及び学力向上のための学校訪問指導の結果等から、数学・英語の学力向上について取り組むべき課題が明らかになっている。この対策に早急に取り組むため、学校教育室に「学力・授業力向上担当」を配置し、算数・数学、英語に携わる教員に対して授業力の向上につながる支援を行うとともに、教員一人ひとりが更なる授業改善に取り組み、授業力の向上を図ることによって、各教科の課題解決を目指すものである。

この取組は、平成21年度から23年度までの3年間で集中的に実施している。

(2) 取組内容

授 業 力 向 上 セ ミ ナ ー
<ul style="list-style-type: none"> ● 県内各地区の優れた授業実践（数学・英語）や、岩手の教育課題の解決に基づいた授業を紹介するほか、児童、生徒の学力向上に向けた授業力向上のための講義や演習の実施 ⇒モデル授業＋付箋紙ワークショップ＋講義による参加型の半日の研修会が基本 ⇒平成23年度は、数学、英語とも各教育事務所管内中学校2、高等学校1校で実施（大震災・津波により宮古・沿岸南部は実施せず） ⇒小・中・高の教員が同一の授業を見て気付き合うことや情報交換できるような場を提供
個 別 訪 問
<ul style="list-style-type: none"> ●【目的】諸調査から見える県全体の課題解決と、各校の課題に応じた授業改善に向けた個別支援 ●【訪問対象校】 <ul style="list-style-type: none"> ⇒フォローアップ対象者の所属する学校（※1） ⇒県教委が指定する学校（※2） ⇒訪問を希望する学校（※3） ●【訪問内容】 <ul style="list-style-type: none"> ⇒授業参観（1単位時間）の後、指導助言及び授業者と個別相談、教科部会についての協議 ⇒校長・副校長との生徒の学力向上に向けた情報交換 ⇒上記のほか、各校の実情や要望を考慮し、指導主事による模擬授業や録画した授業ビデオを使用した研修なども実施（※4） <div style="border: 1px dashed green; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ※1 前年度初任研、5年研を受講した教員の所属する学校 ※2 中学校は県学調や英語チャレンジテスト等の結果に基づいて指定 高等学校の数学は原則として全校指定、英語は平成22年度英語力向上事業の24校を指定 ※3 個人、学校、地教委として希望することも可能 ※4 日程調整が必要なため、予め連絡が必要 </div>

(3) 授業力向上セミナー・個別訪問実績

表-1 平成23年度 授業力向上セミナー・個別訪問 実績

	授業力向上セミナー							個別訪問		
	校種	年間実施計画 (校)	実施校 (校)	授業者 (人)	参加者(人)			年間実施計画 (校)	実施校 (校)	授業者 (人)
					小中学校	県立学校	合計			
数学	中学校	8	8	9	195	43	238	142	127	138
	高等学校	4	4	4	16	85	101	71	68	83
	小学校									
	特別支援学校								1	1
	計	12	12	13	211	128	339	213	196	222
英語	中学校	8	8	8	202	42	244	68	74	79
	高等学校	4	4	4	41	143	184	47	45	86
	計	12	12	12	243	185	428	115	119	165

第3 学力を伸ばし、生きる力をはぐくむ教育の推進

すべての教科等を通じて児童生徒の言語活動を充実させ、論理的な思考や表現する力、人間関係を豊かにする力などをはぐくむよう努めた。

また、児童生徒が自ら将来を考え、希望する進路を実現するために、それぞれの学校において学力向上に取り組むとともに、自立した社会人となるための意識の醸成や、学習に主体的に取り組むための動機付けなどを積極的に推進した。

1 進路指導の充実

進路指導は生徒の「人間としての在り方生き方」についての指導、援助であるとともに、個々の生徒の職業的発達を促進し、主体的な進路の選択能力を育て、自己実現に最善の努力ができる人間の育成を図ることにある。このため、次のような点に留意して実施した。

- ① 校内進路指導体制の確立
- ② 年間指導計画の整備
- ③ 生徒理解の強化と生徒の自己理解の深化
- ④ 個人資料及び進路情報資料の収集と整備
- ⑤ 進路指導研修の充実と中・高連携の強化
- ⑥ 中高の望ましい接続のあり方についての研修

第3章 教育施策の推進状況

第2節 確かな学力をはぐくむ教育の推進

第3 学力を伸ばし、生きる力をはぐくむ教育の推進

2 魅力ある学校づくりの推進

各学校が自らの裁量で創意工夫を凝らした様々な活動を通じて、学校の活性化と個性化を推進する事業であり、大学講習など進学指導に関する事業を実施した。

【いわて進学支援ネットワーク事業（28校）】

生徒一人ひとりの進路希望の実現とともに、医師、弁護士、高度先端技術分野の研究者や技術者等の、将来の本県を支える人材を育成するために、生徒の医学部等のいわゆる難関大学・学部等への進学希望も実現できるよう、学校の取組を支援した。

3 中学生用公立高等学校案内「岩手の高校」Webページの公開

- ① 設置学科等
- ② 本校のめざす生徒像
- ③ 入学者選抜方法について
- ④ 特色ある教育活動
- ⑤ 学校長から一言

第3節 豊かな人間性や社会性をはぐくむ教育の推進

第1 道徳教育、体験活動・読書活動等の推進

人間としての在り方、生き方について考える力の育成と心の教育の充実を図り、他人を思いやり、良好な人間関係を築くことのできる力、自然や命あるものを大切に作る心など、児童生徒の内面に根ざした道徳性の育成を図った。

また、ボランティア活動など様々な体験活動や多様な読書活動に取り組み、物事に主体的にかかわり素直に感動できる豊かな情操を育てるよう努めた。

1 道徳教育の推進

学校の教育活動全体を通じた道徳教育を推進し、児童生徒の豊かな心の育成を図った。

教員の指導力向上のため、道徳教育の中核となる指導者養成研修に教員等を派遣し、指導力の向上を図るとともに、教育センターにおいて特別研修を実施し、道徳教育推進教師の資質向上を図った。

(1) 研修事業

- 平成23年度道徳教育指導者養成研修（ブロック別指導者研修）（札幌市）
平成23年8月10日～12日（3日間）指導主事、教諭
（高等学校を含む）

(2) 研究推進事業

- 児童生徒の心を耕す教育推進事業
中央指導者研修、ブロック別指導者研修への派遣研修者を活用し、授業研究会、理論研究会、教材研究の場等への講師を派遣することにより、道徳教育の質の向上を図った。

(3) 道徳副読本作成事業

高校生を対象に、人間としての在り方生き方について深く考察させることを企図し、ホームルームや総合的な学習の時間等における活用を念頭においた、岩手県高等学校道徳資料集「こころの道標」を作成した。

2 体験活動・読書活動の推進

学習指導要領の趣旨を踏まえて、児童生徒の人間として調和のとれた育成を目指し、地域や学校の実態と特色を生かした豊かな体験活動や読書活動を推進した。

(1) 体験活動の状況

豊かな体験活動推進事業を中心とした効果的な体験活動の教育活動への位置付けと多様な推進方策についての情報提供を図るとともに、各学校においては、地域や学校の特色を生かした体験活動への取組を進めた。

(2) ボランティア教育・環境教育の状況

福祉活動や環境保護などボランティア教育に対する理解と関心を高め、社会貢献の精神を育てるとともに、児童生徒の豊かな人間性を育み、自らの生き方を主体的に考える態度の育成を図る教育を推進した。

ア ボランティア教育

ほぼ全ての小・中学校でボランティア活動が実施されており、特に、地域における清掃活動や募金活動を実施する学校が増えてきた。老人施設・福祉施設・特別支援学校等での交流活動や介護体験、キャップハンディー体験等を、総合的な学習の時間をはじめ、各教科、道徳、特別活動に積極的に取り入れ、体験的な学習としてボランティア活動に取り組むことが広まっている。

- ・社会福祉協議会等関係機関との連携による、ボランティア教育の推進
- ・県社会福祉協議会指定により市町村社会福祉協議会で実施する「地域で育む福祉教育推進モデル事業」における、学校と関係諸団体の協働による地域型福祉教育の推進

※ 指定地域：盛岡市、久慈市、二戸市

イ 環境教育

かつてない広がりや複雑さをもって環境問題が顕在化している現状を踏まえ、将来を生きる児童生徒が、この問題に関する正しい理解を深め、環境保全に参加する態度及び問題解決能力などを身に付け、責任をもって環境を守るための行動ができるよう指導を行った。

(3) 読書活動の状況

読書活動については、学校図書館担当者研修を実施し、児童生徒の読書活動を支援し、より豊かなものとしていくための環境整備に努めた。

- ・盛岡、県南、宮古教育事務所管内において学校図書館担当者の研修を実施
- ・平成16年3月に策定された、子どもたちが主体的に読書活動に取り組むことのできる環境作りを進めるための「いわて子ども読書プラン」に基づく読書活動を推進

第3章 教育施策の推進状況

第3節 豊かな人間性や社会性をはぐくむ教育の推進

第1 道徳教育、体験活動・読書活動等の推進

3 幼児教育の推進

幼稚園教育要領に基づく教育の充実のために、幼稚園教育の内容、幼稚園の運営・管理、保育技術等に関する説明や研究協議、演習を行った。また、教員の資質の向上を図るため、幼稚園等新規採用教員研修、教職経験者10年研修を実施した。

(1) 園長等運営管理協議会（主催：岩手県教育委員会）

会 場	実 施 期 日	参 加 人 数 (人)				
		公立	私立	保育所	その他	合計
サンセール盛岡	平成23年 6月 7日	40	42	1	3	86

(2) 保育技術協議会（主催：岩手県教育委員会）

会 場	実 施 期 日	参 加 人 数 (人)				
		公立	私立	保育所	その他	合計
生涯学習推進センター	平成23年 7月12日	20	1	20	0	41

(3) 幼稚園教育研究協議会（主催：岩手県教育委員会）

会 場	実 施 期 日	参 加 人 数 (人)				
		公立	私立	保育所	その他	合計
生涯学習推進センター	平成23年 8月17日	60	42	23	8	133

(4) 親の教育力を高める子育て支援協議会（主催：岩手県教育委員会）

会 場	実 施 期 日	参 加 人 数 (人)				
		公立	私立	保育所	その他	合計
生涯学習推進センター	平成23年11月17日	15	7	20	0	42

(5) 幼稚園等新規採用教員研修（主催：岩手県教育委員会）

区 分	会 場	実 施 期 日	参 加 人 数 (人)			
			公立	私立	保育所	合計
センター研修Ⅰ	総合教育センター	平成23年 5月31日～ 6月 1日	15	15	1	31
センター研修Ⅱ	総合教育センター	平成23年 8月 1日～ 8月 3日	15	17	1	33
センター研修Ⅲ	総合教育センター	平成23年10月18日～10月20日	15	10	1	26

(6) 幼稚園教職経験者10年研修（主催：岩手県教育委員会）

会 場	実 施 期 日	参 加 人 数 (人)		
		公立	私立	合計
総合教育センター	平成24年 1月16日～ 1月18日	5	7	12

第2 生活面における基礎・基本の充実

家庭や地域社会における教育力を生かし、学校、家庭、地域と連携・協働した教育を充実させ、児童生徒に基本的な生活習慣を身に付けさせる取組を推進した。

○ 生活面における基礎・基本の充実

学習定着度状況調査等における児童生徒質問紙調査の生活習慣や家庭での生活に関する内容の結果を分析・検証し、各学校に情報提供するとともに、県PTA連合会との連携を図り、家庭や地域との一体となった取組に努めた。

第3 問題行動等の未然防止、早期発見・早期対応のための適応指導の充実

家庭教育、体験や経験を通して身につける社会生活を営むためのルールや規範意識、コミュニケーション能力の低下により、暴力行為、いじめなどの問題行動や不登校、中途退学などの学校不適應の問題が大きな教育問題となっている。

平成23年度児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題の調査（文部科学省）によると、暴力行為の発生件数は137件で前年度から7件増加した。一方、いじめの認知件数は331件であり、前年度に比べ147件減少した。不登校児童生徒の状況については、小学校133人、中学校734人、高等学校444人であり、中学校・高等学校では不登校の比率が低下し、小学校では横ばいの傾向を示している。また、中途退学者は、平成19年度から減少傾向にあり、平成23年度は314人と前年度から48人減少した。

本県の児童生徒は、全国と比較すると概ね落ち着いた状況にあるが、これらの問題の解決のためには、学級経営、学級集団づくりを充実させ、一人ひとりの児童生徒にしっかりと向き合い自己実現を支援することが必要である。また、不適應傾向をもつ児童生徒に対しては学校全体で情報を共有し、チームによる指導、援助を行っていくとともに、関係機関との日常的な連携の強化、就学後の福祉サイドからのサポートなどの親への支援、家庭を孤立させない地域コミュニティの確立を通して、学校不適應を解消する組織的、広域的な取組が必要である。

1 高等学校生徒指導連絡協議会（主催：岩手県教育委員会）

【期 日】平成23年5月11日～5月23日

【会 場】地区別8会場

【参加者】校長、教員、在学青少年指導員 178人（延べ）

2 児童生徒の表彰

県内各学校の児童生徒を対象に、他の模範となる行為や活動を表彰することにより、児童生徒の社会的行動や道徳的態度、実践力の向上など学校教育の一層の充実に資するため、昭和60年度から児童生徒の表彰を実施している。

平成23年度の表彰は次のとおりであり、計24個人・団体を表彰している。内訳は、善行表彰が0、奨励表彰が23、努力表彰が1であり、小学校が3（個人2、団体1）、中学校が5（個人3、団体2）、高校が16（個人11、団体5）である。

第3章 教育施策の推進状況

第3節 豊かな人間性や社会性をはぐくむ教育の推進

第3 問題行動等の未然防止、早期発見・早期対応のための適応指導の充実

平成23年度第1回児童生徒表彰（はばたき賞） 受賞者一覧

番号	項目	校種	所属・氏名	内容
1	奨励 (文化活動)	小団	山田町立大沢小学校 児童会	学校新聞「海よ光れ」を発行し、全国小・中学校・PTA新聞コンクールにおいて、平成21年度内閣総理大臣賞、22年度名誉大賞・毎日小学生新聞賞を受賞した。
2	奨励 (文化活動)	中団	住田町立世田米中学校 特設木工部	日本木材青壮年団体連合会主催第35回全国児童・生徒木工工作コンクールにおいて、農林水産大臣賞を受賞した。
3	奨励 (文化活動)	高個	黒沢尻工業高等学校 1年 高橋 佳生	第16回全日本高校・大学生書道展において、全日本高校・大学生書道展大賞を受賞した。
4	奨励 (文化活動)	高個	大船渡高等学校 2年 高橋 瞳子	内閣府食育推進室主催平成23年度食育推進に関するポスター高校生部の部において、銀賞を受賞した。
5	奨励 (文化活動)	高団	黒沢尻北高等学校 放送部	第58回NHK杯全国高校放送コンテスト創作ラジオドラマ部門において、準優勝した。
6	奨励 (文化活動)	高団	岩手高等学校 囲碁将棋部	第35回全国高等学校総合文化祭将棋部門男子団体戦において、優勝した。
7	奨励 (スポーツ)	高個	一関第二高等学校 3年 千葉 春菜	平成23年度全国高等学校総合体育大会フェンシング競技個人対抗女子エペにおいて、第2位に入賞した。
8	奨励 (スポーツ)	高個	紫波総合高等学校 2年 矢羽々 正臣	平成23年度全国高等学校総合体育大会自転車競技スクラッチにおいて、第2位に入賞した。
9	奨励 (スポーツ)	高団	盛岡南高等学校 女子登山部	平成23年度全国高等学校総合体育大会登山競技団体女子において、第2位に入賞した。
10	奨励 (スポーツ)	高団	福岡工業高等学校 弓道部	平成23年度全国高等学校総合体育大会弓道競技男子団体において、準優勝した。

平成23年度第2回児童生徒表彰（はばたき賞） 受賞者一覧

番号	項目	校種	所属・氏名	内容
1	奨励 (文化活動)	小個	宮古市立山口小学校 5年 坂下 莉音	第61回全国小・中学校作文コンクール小学校高学年の部において、読売新聞社賞を受賞した。
2	奨励 (文化活動)	中個	岩手大学教育学部附属中学校 3年 三船 恭太郎	第61回全国小・中学校作文コンクール中学校の部において、文部科学大臣賞を受賞した。
3	奨励 (文化活動)	高個	杜陵高等学校 4年 飯岡 美沙子	第59回全国高等学校定時制通信制生徒生活体験発表大会において、厚生労働大臣賞を受賞した。
4	奨励 (スポーツ)	小個	滝沢村立滝沢小学校 4年 中島 千咲代	第34回全国JOCジュニアオリンピックカップ夏季水泳競技大会10歳以下女子50mバタフライにおいて、第2位に入賞した
5	奨励 (スポーツ)	中個	盛岡市立厨川中学校 2年 齋藤 明希	第6回アジアジュニア武術選手権大会24式太極拳及び32式太極剣において、第2位に入賞した。
6	奨励 (スポーツ)	中団	岩手町立沼宮内中学校 男子ホッケー部	第41回全日本中学生ホッケー選手権大会において準優勝した。

第3章 教育施策の推進状況

第3節 豊かな人間性や社会性をはぐくむ教育の推進

第3 問題行動等の未然防止、早期発見・早期対応のための適応指導の充実

7	奨励 (スポーツ)	高 個	盛岡白百合学園高等学校 3年 平澤 光	第6回アジアジュニア武術選手権大会42式太極拳において、第1位に入賞した。
8	奨励 (スポーツ)	高 個	盛岡視覚支援学校 高等部1年 藤戸 雅也	第11回全国障害者スポーツ大会陸上競技男子走幅跳において第1位、男子50mにおいて、第2位に入賞した。
9	奨励 (スポーツ)	高 個	盛岡みたけ支援学校 高等部2年 磯部 香住	第11回全国障害者スポーツ大会卓球競技において、第1位に入賞した。
10	奨励 (スポーツ)	高 個	前沢明峰支援学校 高等部2年 菅原 直哉	第11回全国障害者スポーツ大会卓球競技において、第1位に入賞した。
11	奨励 (スポーツ)	高 個	盛岡みたけ支援学校 高等部2年 齊藤 翔太	第11回全国障害者スポーツ大会フライングディスク競技男子ディスタンスにおいて、第2位に入賞した。
12	奨励 (スポーツ)	高 個	盛岡聴覚支援学校 高等部3年 佐々木 琢磨	第11回全国障害者スポーツ大会陸上競技男子100m、200mにおいて、第1位に入賞した。
13	奨励 (スポーツ)	高 団	盛岡聴覚支援学校 高等部陸上部	第48回全国聾学校陸上競技大会男子1部4×100mRにおいて、第1位に入賞した。
14	努力 (文化活動)	中 個	盛岡視覚支援学校 中学部3年 石川 夏緒	第26回障害者による書道・写真全国コンテスト書道部門において、銀賞を受賞し周囲に感動を与えた。

第3章 教育施策の推進状況

第3節 豊かな人間性や社会性をはぐくむ教育の推進

第3 問題行動等の未然防止、早期発見・早期対応のための適応指導の充実

3 教育相談

平成23年度の相談受理件数は434件、延べ相談件数は1,886件であった。うち、電話相談が1,250件、面接による相談が636件（来所相談367件、訪問相談269件）である。

相談受理件数を内容別に見ると、小・中・高いずれの校種も「性格・行動に関すること」が最も多く、全体で224件と51.6%を占めた。次いで、「知能・学業に関すること」が56件（12.9%）となっている。主訴別の相談件数では「集団不適応」が69件と多く、「集団になじめない」「教室に入れない」子どもたちの姿が浮かび上がってくる。

不登校の校種別の相談件数は、高校が18件（38.3%）で最も多くなっている。さらに学年別に見ると高校では1年生が最も多く、中学校は2年生、小学校は4、5年生の相談が多かった。また、不登校の性別の相談件数は、小・中学校では女子が多く、高校は男子が多い。

平成23年度の「いじめ相談電話・メール」での相談受理件数は、電話は64件、メールは19件である。いじめの被害を訴える相談件数は、電話相談では33件（52%）、メール相談では5件（26%）である。

(1) 内容別・校種別相談件数

[単位：件、（ ）内は%]

内容	校種	就学前	小学校	中学校	高等学校	その他	計(割合)
知能・学業に関すること		0	21	13	21	1	56(12.9)
性格・行動に関すること		7	64	76	75	2	224(51.6)
性に関すること		0	0	4	0	0	4(0.9)
進路・適性に関すること		2	4	7	8	3	24(5.5)
精神衛生に関すること		0	1	1	8	2	12(2.8)
家庭教育一般に関すること		2	29	10	13	1	55(12.7)
その他		4	16	15	17	7	59(13.6)
計(割合)		15(3.5)	135(31.1)	126(29.0)	142(32.7)	16(3.7)	434(100.0)

(2) 主訴別相談件数

[単位：件、（ ）内は%]

主訴	件数(割合)
不登校	47(10.8)
集団不適応	69(15.9)
精神衛生 <small>(情緒障がい 神経症・同疑い)</small>	12(2.8)
進路相談	24(5.5)
学業	56(12.9)
いじめ	10(2.3)
家庭教育 <small>(家庭内暴力等)</small>	55(12.7)
生活指導	26(6.0)
対人関係 <small>(交友関係等)</small>	67(15.4)
非行	5(1.2)
性	4(0.9)
その他	59(13.6)
計	434(100.0)

(3) 校種別・性別不登校相談件数

[単位：件]

校種	性別		計
	男	女	
就学前	0	0	0
小学校	4	7	11
中学校	5	12	17
高校	11	7	18
その他	0	1	1
計	20	27	47

(4) 学年別不登校相談件数

[単位：件]

学年	件数	
小1	1	11
小2	0	
小3	2	
小4	4	
小5	4	
小6	0	
中1	4	17
中2	9	
中3	4	
高1	10	18
高2	6	
高3	2	
その他	1	1
計	47	47

第4節 健やかな体をはぐくむ教育の推進

第1 体力向上や運動に親しむ態度の育成

体力・運動能力調査を適切に実施し、各学校の現状と課題を的確に捉えた支援や運動部活動の活性化を図るために、地域スポーツ人材の活用や指導主事の学校訪問指導等に取り組むとともに、児童生徒の体力・運動能力の向上に努めた。また、家庭や地域との連携により、運動に親しむ態度を育成し、運動の習慣化が図られるように努めた。

1 岩手っ子体力アップ運動

(1) 学校経営計画における健やかな体の育成に係る目標設定校及び実施割合

[単位：校、%]

	対象校数	実施校数	実施割合
小学校	334	334	100.0
中学校	161	161	100.0
合計	495	495	100.0

※沿岸南部教育事務所管内62校（小学校39校・中学校23校）除く

(2) 指導主事兼保健体育主事等の学校訪問指導

実施回数……小学校253回、中学校154回、合計407回

(3) 地域スポーツ人材を活用した運動部活動等推進事業

ア 公立小学校体育実技アシスタント派遣事業

(ア) 派遣期間……平成23年6月～平成24年2月（県内全域）

(イ) 登録者数……52人

(ウ) 派遣校数……56校

イ 中学校・高等学校運動部活動地域スポーツ人材派遣事業

(ア) 派遣期間……平成23年6月～平成24年2月（県内全域）

(イ) 登録者数……55人

(ウ) 派遣校数……55校

(4) 小学校体育ステップアップ講習会

ア 期 日……平成24年1月

イ 会 場……遠野市

ウ 参加者……小学校教員40人

第2 健康教育の充実

生涯を通じて健康・安全で活力ある生活を送るための基礎を培うため、学校保健・学校安全活動や食育などを充実させるとともに、家庭や地域と連携し望ましい生活習慣の確立に努めた。

1 学校保健

(1) 保健教育の充実及び保健管理の徹底

ア 学校保健計画の立案、実施の徹底

学校保健においては、保健教育と保健管理の活動を適切に行うことによって、児童生徒及び教職員の健康の保持増進を図り、学校教育目標の達成に寄与することとし、児童生徒自らの意思決定により健康な生活が実践できるよう健康教育を推進した。

また、学校保健を組織的に推進するために、教職員の協力体制を確立し、家庭や地域の関係機関との連携を図った。

イ 関係機関団体等との連携及び学校保健組織活動の充実

(ア) 学校内の組織の設置促進と活動の充実

- ・学校保健委員会の活動
- ・児童生徒保健委員会の活動促進

(イ) 関係機関団体との連携

- ・(社)岩手県医師会学校医部会
- ・(社)岩手県歯科医師会
- ・(社)岩手県薬剤師会岩手県学校薬剤師会
- ・岩手県学校保健会
- ・岩手県学校保健会養護教諭部会
- ・岩手県学校保健会高等学校部会
- ・岩手県高等学校教育研究会学校保健部会

(2) 岩手県学校保健功労者表彰

	氏名	職名	現所属等
1	内田 瑛子	宮古市学校保健会会長	宮古市学校保健会
2	田中 健一	学校歯科医	盛岡市立厨川中学校
3	近藤 駿	学校医	盛岡市立見前小学校ほか
4	遠藤 憲正	学校歯科医	葛巻町立葛巻小学校ほか
5	武政 文彦	学校薬剤師	花巻市立東和小学校
6	伊藤 陽子	学校薬剤師	一関市立長坂小学校ほか
7	吉田 克則	学校歯科医	奥州市立江刺南中学校ほか
8	熊谷 英人	学校歯科医	大船渡市立大船渡小学校
9	近藤 泉	学校歯科医	大槌町立安渡小学校ほか
10	田口 淳	学校歯科医	久慈市立山形小学校ほか
11	高林 幸子	学校薬剤師	軽米町立軽米中学校
12	菅野 由紀子	養護教諭	岩手県立杜陵高等学校
13	川嶋 範子	養護教諭	盛岡市立上田中学校

(3) 健康教育指定校の実践 (H23～H24)

一関市立摺沢幼稚園（歯・口の健康づくり推進事業〔日本学校歯科医会〕）

2 学校安全

学校管理下における児童生徒の災害は、毎年約1万件も発生し、これらの学校災害の防止と後を絶たない交通事故の防止に加え、学校への不審者侵入や通学路での連れ去り、声かけといった犯罪に対する安全確保を図るため、安全指導、安全管理の推進、充実が重要な課題となっている。

独立行政法人日本スポーツ振興センター仙台支所が調査した平成23年度の学校管理下における児童生徒の災害発生件数は右表のとおりとなっており、以下の事業を通して児童生徒の事故、災害の防止を図り、学校における安全教育の充実に取り組んだ。

【災害発生件数】 [単位：件、%]

区分	発生件数	発生率
幼稚園・保育所	528	1.48
小学校	3,151	4.47
中学校	3,961	8.28
高等学校	2,845	7.13
高等専門学校	27	3.19
計	10,512	5.68

(1) 学校安全関係職員研修

[単位：人]

研修の名称	期日	場所	参加者数[内訳]
学校安全指導者養成研修	平成23年12月19日～22日	茨城県つくば市	4 [小1、中1、高1、指導主事1]
交通安全教育指導者講習会	平成23年9月22日	盛岡市	89 [小4、中2、高79、特4]
防犯教室講習会	平成23年7月12日	盛岡市	76 [小24、中10、高24、特10、他8]

(2) 学校安全優良校の表彰

金ケ崎町立第一小学校
久慈市立平山小学校
二戸市立御辺地小学校
盛岡市立太田幼稚園

3 食育・学校給食

小中学校においては、食育担当者を中心とした食育推進のための校内体制が整備され、「食に関する指導の全体計画」及び「年間指導計画」により、計画的な推進が図られているが、震災の影響のためか、「計画」を作成している学校の割合が若干前年度と比較して下がった。また、小中学校、高校の管理職、教諭を対象とした食育推進研修会において、学校における食育の推進が図られるよう、小学校、高等学校における実践例発表の機会を設けた。

被災した沿岸市町村の学校給食については、各位方面からの支援を受け、比較的早期に再開することができた市町村が多く、学校給食の提供により通常の教育活動を行うことができた。また、継続して学校給食衛生管理の基準に基づいた衛生管理の徹底を図るとともに、学校給食施設に関してドライシステムの導入（ドライシステムを導入していない場合はドライ運用）及び学校給食施設の区分に従い汚染作業区域・非汚染作業区域に区分するよう整備促進に努めた。また、関係職員の資質向上を図るため、各種研修会、講習会を開催し、食に関する指導の充実、食事内容の充実及び安全、衛生管理の充実に努めた。

震災により、平成23年度、本県は文部科学省が実施している「学校給食等状況調査」の対象とならなかったことから、以下の(1)～(5)については、平成22年度調査のものであること。

第3章 教育施策の推進状況

第4節 健やかな体をはぐくむ教育の推進

第2 健康教育の充実

(1) 学校給食の実施状況（平成22年5月1日現在） [単位：校、人、（ ）内は実施率で%]

区分	完全給食		その他の方式		補食給食		ミルク給食		計	
	学校数	児童生徒数	学校数	児童生徒数	学校数	児童生徒数	学校数	児童生徒数	学校数	児童生徒数
小学校	372 (95.2)	68,781 (96.7)	— (—)	— (—)	11 (2.8)	1,335 (1.9)	8 (2.0)	973 (1.4)	391 (100)	71,089 (100)
中学校	155 (82.4)	27,636 (74.3)	(3)	431 (1.1)	5 (2.7)	812 (2.2)	28 (14.9)	8,319 (22.4)	188 (100)	37,198 (100)
夜間定時制高等学校	3 (100)	134 (100)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	3 (100)	134 (100)
特別支援学校	11 (78.6)	1,046 (84.6)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	3 (21.4)	191 (15.4)	14 (100)	1,237 (100)

注1：小学校及び中学校は市町村立学校、夜間定時制高等学校及び特別支援学校は県立学校分

注2：その他の方式は、選択制給食（ ）は、ミルク給食の内数

(2) 調理方法別の完全給食の実施状況（平成22年5月1日現在）[単位：校、人、（ ）内は実施率で%]

区分	単独調理方式		共同調理方式 (69か所)		その他の調理方式		計	
	学校数	児童生徒数	学校数	児童生徒数	学校数	児童生徒数	学校数	児童生徒数
小学校	67 (18.0)	20,192 (29.4)	305 (82.0)	48,589 (70.6)	— (—)	— (—)	372 (100)	68,781 (100)
中学校	6 (3.9)	1,192 (4.2)	149 (96.1)	26,444 (94.2)	(3)	431 (1.5)	155 (100)	28,067 (100)

注1：小学校及び中学校は市町村立学校

注2：その他の方式は、選択制給食

(3) 米飯給食の実施状況（平成22年5月1日現在） [単位：校、人、（ ）内は実施率で%]

区分	自校（共同調理場）炊飯		委託炊飯		自校・委託併用		計	
	学校数	児童生徒数	学校数	児童生徒数	学校数	児童生徒数	学校数	児童生徒数
小学校	156 (41.9)	26,650 (38.7)	205 (55.1)	38,020 (55.3)	11 (3.0)	4,111 (6.0)	372 (100)	68,781 (100)
中学校	56 (36.1)	9,435 (33.6)	99 (63.9)	18,632 (66.4)	— (—)	— (—)	155 (100)	28,067 (100)

注：小学校及び中学校は市町村立学校

第3章 教育施策の推進状況

第4節 健やかな体をはぐくむ教育の推進

第2 健康教育の充実 第3 指導者の資質・授業力向上

(4) 栄養教諭、学校栄養職員及び学校給食調理員配置状況（平成22年5月1日現在） [単位：人]

区 分	(給与負担)	職員数			
		単独調理方式	共同調理方式	教育委員会	計
栄養教諭	(県 費)	13	32	1	46
学校栄養職員	(県 費)	20	49	—	69
	(市町村費)	18	8	7	33
(計)		(51)	(89)	(8)	(148)
調理員	(市町村費)	166	248	—	414

注：国立、私立、県立学校を除く本採用職員のみ、調理員は常勤職員のみ

(5) 学校給食費の状況（保護者負担額、平成22年5月1日現在） [単位：円、回]

区 分	1食あたり平均単価	平均月額	年間実施予定回数
小学校	255	4,101	177
中学校	288	4,622	178

注：小学校は中学年（3・4年）分

(6) 学校給食優良学校等表彰

該当なし

(7) 学校給食功労者表彰

盛岡市立本宮小学校 主任学校栄養職員 吉田江美子

第3 指導者の資質・授業力向上

学校の教育活動全体を通じて「生きる力」の基礎となる健やかな体をはぐくむため、中核となる体育、食育、健康教育などを担当する指導者の資質や授業力向上を図った。

1 学校体育関係職員の研修

[単位：人]

No.	研修会名 [内容]	期 日	会 場	参加者数
1	小学校体育実技指導者講習会 [体づくり運動]	平成23年6月15日～16日	盛岡市	小学校教員 30
2	中・高等学校体育実技指導者講習会 [体づくり運動]	平成23年6月29日～30日	盛岡市	中学校教員 55 高校教員 59
3	地区別小学校体育実技講習会	平成23年6月～8月	各教育事務所管内	小学校教員 474
4	運動部活動指導者研修会 [剣道、陸上競技]	平成23年10月24日～25日	盛岡市	中学校教員 45 高校教員 15
5	子どもの体力向上指導者養成研修 ・小学校 [体づくり運動] ・中学校・高校 [体づくり運動]	平成23年5月10日～11日	松江市	指導主事 2

第3章 教育施策の推進状況

第4節 健やかな体をはぐくむ教育の推進

第3 指導者の資質・授業力向上

6	第50回全国学校体育研究大会長野大会	平成23年10月27日～28日	長野市	小学校教員 5 中学校教員 5 高校教員 2 指導主事 2
7	国立教育政策研究所教育課程研究センター 関係指定事業研究協議会	平成24年1月30日～2月2日	東京都	小学校教員 0 中学校教員 1 高校教員 8 指導主事 2

2 学校保健関係職員の研修

(1) 県内

[単位：人]

No.	研修名	期日	場所	参加者数[内訳]
1	薬物乱用防止教育研修会	平成23年6月10日	盛岡市	39[小11、中18、高10、私立0]
2	学校保健講習会兼エイズ教育指導者講習会	平成23年9月9日	盛岡市	46[小15、中14、高15、特2]
3	養護教諭研修会	平成23年8月9日～11日	盛岡市	33[小17、中13、高3]
4	第47回岩手県学校健康教育研究大会	平成24年1月5日	盛岡市	368

(2) 県外

[単位：人]

No.	研修名	期日	場所	参加者数
1	全国学校保健研究大会	平成23年10月27日～28日	静岡県静岡市	4
2	健康教育指導者養成研修（推進コース）	平成23年11月7日～9日	茨城県つくば市	3[小1、中1、高1]
3	健康教育指導者養成研修（専門コース）	平成23年11月7日～11日	茨城県つくば市	4[小2、中1、高1]

3 学校安全関係職員研修

本節第2の2(1)を参照。(p.62)

4 食育・学校給食関係職員の研修

[単位：人]

No.	主催	研修会名	期日	会場	参加者数
1	文部科学省	全国栄養教諭・学校栄養職員研究大会	平成23年8月18日 ～8月19日	高知県	3
2		全国学校給食研究協議大会	平成23年11月8日 ～11月9日	広島県	2
3	独立行政法人教員研修センター・文部科学省[共催]	食育指導者養成研修 (推進コース)	平成23年7月19日 ～7月22日	茨城県	2
4		食育指導者養成研修 (専門コース)	平成23年9月6日 ～9月9日	茨城県	3

第3章 教育施策の推進状況

第4節 健やかな体をはぐくむ教育の推進

第3 指導者の資質・授業力向上

5	日本スポーツ振興センター	食の安全に関する講習会	平成23年6月16日 ～6月17日	東京都	2
6		食の安全に関する実技講習会	平成23年10月5日 ～10月7日	東京都	1
7	岩手県	衛生管理推進等研修会	平成23年6月2日	盛岡市	79
8		食育推進研究会	平成23年9月16日	盛岡市	59
9		栄養教諭等研修会	平成23年9月13日	盛岡市	24
10	(社)全国学校栄養士協議会岩手県支部・岩手県[共催]	岩手県栄養教諭・学校栄養職員研修会	平成23年6月17日	盛岡市	119
11		岩手県栄養教諭・学校栄養職員研究大会	平成23年11月25日	盛岡市	124
12	(財)岩手県学校給食会・岩手県[共催]	学校給食調理講習会	平成23年7月26日 ～7月27日	盛岡市	延べ57
13		学校給食調理員研修会	平成23年8月4日	盛岡市	194
14		学校給食調理コンクール	平成24年1月6日	盛岡市	(8チーム) 24

第5節 「共に学び、共に育つ教育」の推進

第1 「就学指導」から「就学支援」へ

国においては、障がい者制度改革推進会議において、インクルーシブ教育の推進を基本的な理念とした制度改革にかかわる検討が行われ、その結果を受け、文部科学省中央教育審議会初等中等教育分科会「特別支援教育の在り方に関する特別委員会」では、現在の就学指導の在り方を改善する方向性を含んだ「特別支援教育の在り方に関する特別委員会における論点整理」（平成22年12月）が公表された。こうした動向に合わせ、現在の県就学指導委員会の機能を向上させるよう以下の取組を行った。

1 市町村教育委員会を対象とした就学指導にかかわる支援体制の整備

就学指導にかかわって各市町村就学指導委員会の抱える課題やニーズ、市町村就学指導委員会が抱える就学指導にかかわる困難なケース等の相談、支援への助言を行うために、特別支援教育エリアコーディネーターを県就学指導委員会調査員（就学支援アドバイザー）に任命し、市町村における就学指導委員会を支援する体制を整えた。

就学支援アドバイザーの活動状況（平成23年7月～平成24年3月）は、計60回であった。

2 県就学指導委員会委員の在り方の検討

平成24年度には文部科学省中央教育審議会初等中等教育分科会「特別支援教育の在り方に関する特別委員会」から報告が出される予定となっており、これを受けて県就学指導委員会の名称及び在り方について検討していく予定である。

第2 幼、保、小、中、高等学校における特別支援教育の充実

1 特別支援教育エリアコーディネーターの指名及び配置

特別支援教育にかかわる研修や相談にかかわる業務を効果的に推進するため、各教育事務所単位に特別支援教育エリアコーディネーター（教諭兼指導主事）を1名配置した。特別支援教育エリアコーディネーターは、学校教育室及び教育事務所と連携しながら管内の特別支援教育に課題に対応するとともに、全県的な課題にも同一步調で対応するなど効果的な業務の推進を図った。

2 特別支援学校による相談、研修等の支援

各特別支援学校のセンター的機能により地域の幼稚園、保育所、小、中学校、高等学校等への相談や研修等への支援が進められた。また、幼稚園、小、中学校特別支援学級等87校を対象に、年数回訪問しての継続型訪問支援を実施した。

3 特別支援教育研修資料の作成

平成21年度に小学校向け研修資料を作成し、平成22年度には中学校及び高等学校向けの特別支援教育研修資料を作成し各学校に配付した。平成23年度は各種研修会等においてそれら研修資料の活用を図った。

4 いわて特別支援教育かがやきプラン推進事業の継続実施

県単独事業により県立高等学校21校へ特別支援教育支援員24名を配置し、障がい等によって個別の指導及び支援の必要な生徒への支援の充実を図った。

(特別支援教育支援員配置校)

平館高等学校、雫石高等学校、紫波総合高等学校、大迫高等学校、花北青雲高等学校、西和賀高等学校、前沢高等学校、岩谷堂高等学校、一関第二高等学校、花泉高等学校、住田高等学校、大船渡東高等学校、釜石商工高等学校、遠野高等学校、遠野緑峰高等学校、宮古北高等学校、宮古水産高等学校、久慈高等学校長内校、種市高等学校、福岡高等学校及び定時制

第3 特別支援教育の理解促進

1 特別支援教育講演会の開催

東日本大震災津波により、平成23年度の特別支援教育講演会は開催を見送った。

2 小・中学校 PTA 学習会の実施

障がいを有しない児童生徒の保護者を対象とした特別支援教育や発達障がいに関わる理解を図るためのPTA学習会を実施した。平成23年度は30校において実施した。

3 幼稚園及び保育所を対象とした研修会の実施

幼稚園、保育所、療育関係者等を対象として幼児期の障がいの基本的理解や対応について、また園内の特別支援教育の推進を図るための研修会を盛岡市と一関市の2か所で実施した。盛岡会場では40名が参加し、一関会場では28名の参加を得た。

4 特別支援教育ボランティアの育成と活用

平成23年度は、東日本大震災津波により、特別支援教育ボランティア養成講座の開催を中止した。また、修了者が登録するボランティアバンクについては周知と活用を図り、小・中学校及び特別支援学校における活用を図った。

平成23年度のボランティア活動実績は、小学校と特別支援学校において延べ67件、145名が活用された。

第4 特別支援学校生徒の就労支援の充実

1 公的機関における職場実習の受け入れ

県庁の各部においては、教育委員会（3名）、商工労働観光部（2名）、保健福祉部（2名）、総務部、環境生活部、盛岡広域振興局、労働委員会事務局（6名、1週間交代）との連携した事業により、県庁内で特別支援学校高等部生徒13名の現場実習を受け入れた。各機関において、4日～2週間に渡って実習を実施した。

2 関係機関との連携

労働局、障がい者職業センターと共催で「就労支援セミナー」を3校（盛岡青松支援学校、盛岡みたけ支援学校、三愛学舎）で開催するなど、関係機関と連携を図った。

3 啓発リーフレットの作成

特別支援学校卒業生の雇用及び職場実習先の開拓のため、企業事業所向けの啓発リーフレットを作成し、学校の進路指導において活用できるようにした。

4 企業との連携協議会の設置

平成23年度は、盛岡地区（盛岡峰南高等支援学校及び盛岡みたけ支援学校）6企業、久慈地区（久慈拓陽支援学校）7企業・事業所の参加を得て企業との連携協議会を立ち上げ、各地区で2回実施した。特別支援学校の指導や高等部生徒の学習の様子について企業の理解を深め、また、参加企業から指導内容等についての助言を受けることができた。

第6節 学校教育を支える教育環境の充実

第1 県立高校の望ましい教育環境の整備

1 県立高等学校新整備計画

(1) 概要

国際化、情報化、少子高齢化等著しい社会の変化に主体的に対応できる人材の育成が求められていることから、県立高等学校長期構想検討委員会（船越昭治委員長）の報告をもとに、生徒が活力ある環境の中で、一人一人の個性・能力を最大限に伸ばせるような学習環境を構築する観点から、平成12年度以降10年間を見通した学校・学科の適正な配置等について慎重に検討を進め、平成12年1月に「県立高等学校新整備計画」として、平成12年度から16年度（前期）の学校別の計画並びに平成17年度から21年度（後期）の計画の大まかな見通しを示した。

平成17年度から21年度の後期計画の策定では、平成16年1月に「県立高等学校新整備計画後期マスタープラン」として基本的な方針を示した後、8月に「県立高等学校新整備計画（後期計画）案」、平成17年1月に調整案、6月に再調整案を公表し、各段階において、パブリックコメントを実施したほか、各地で意見を聴く会や出前説明会などを重ね、7月に「県立高等学校新整備計画（後期計画）」を策定・公表した。

後期計画では、学科改編を含む学級数の取扱いは、中学校卒業予定者数の状況、高校進学希望者の志望動向、各高校の定員充足状況等を勘案して毎年度調整するものとし、小規模校等の統合は、一定の基準を設けて実施することとした。

平成20年度においては、

- ・花巻北高校と東和高校を統合して花巻北高校とし（東和高校は平成21年度末まで存続）、
- ・水沢高校と胆沢高校を統合して水沢高校とし（胆沢高校は平成21年度末まで存続）、
- ・高田高校と広田水産高校を統合して高田高校とし、
- ・大船渡農業高校と大船渡工業高校を統合して大船渡東高校とし、
- ・釜石南高校と釜石北高校を統合して釜石高校とするとともに、
- ・遠野高校情報ビジネス校、宮古高校川井校、久慈高校山形校の3分校を本校に統合し（3分校とも平成21年度末まで存続）、
- ・久慈高校長内校を昼間部と夜間部の多部制高校とし、
- ・浄法寺高校を福岡高校の分校とした。

平成21年度においては、黒沢尻工業高校定時制課程と水沢商業高校定時制課程を募集停止するとともに、杜陵高校奥州校を多部制単位制高校として設置した（両課程とも平成23年度末まで存続）。

なお、後期計画終了後において、教育環境を整える観点から、平成22年度に岩泉高校田野畑校を本校に統合した（岩泉高校田野畑校は平成23年度末まで存続）。

第3章 教育施策の推進状況

第6節 学校教育を支える教育環境の充実

第1 県立高校の望ましい教育環境の整備

(2) 全体計画（平成12年1月24日公表、平成17年7月19日後期計画により変更）

年度	中学校卒業 予定者数（人）	高等学校設置学級数（学級）			高等学校数 （校）	
		うち普通科	専門学科	総合学科		
11	18,440	368	229	134	5	83
17	14,857	301	177	91	33	77
21	13,797	266	159	75	32	61～68

(3) 後期計画の総括表（平成17年7月19日公表）

	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度
総合的な専門高校				<input type="checkbox"/> 高田(商業科)・広田水産(家政科)・大船渡農・大船渡工[統合]	<input type="checkbox"/> 釜石工・釜石商[統合]
普通科と専門学科併設高校		<input type="checkbox"/> 大東・大原商[統合]	<input type="checkbox"/> 藤沢・千厩[統合]	<input type="checkbox"/> 高田(普通科)・広田水産(水産科)・住田(※)[統合]	
総合学科高校	<input type="checkbox"/> 一戸[改編]				<input type="checkbox"/> 岩谷堂・岩谷堂農林[統合]
普通高校				<input type="checkbox"/> 釜石南・釜石北[統合] <input type="checkbox"/> 花巻北・東和[統合] <input type="checkbox"/> 水沢・胆沢[統合] <input type="checkbox"/> 遠野・情報ビジネス[統合] <input type="checkbox"/> 宮古・川井[統合] <input type="checkbox"/> 岩泉・田野畑[統合] <input type="checkbox"/> 久慈・山形[統合]	<input type="checkbox"/> 伊保内・福岡・浄法寺[統合]
定時制（多部制・単位制）				久慈ブロック <input type="checkbox"/> 胆江ブロックにおいてもできるだけ後期計画中に整備に努める。	
中高一貫教育校 コミュニティ・スクール		<input type="checkbox"/> 新しいタイプの学校である、中等教育学校・併設型中高一貫教育校やコミュニティ・スクールについては、継続して検討する。			

※ 住田高校については、県の中高一貫教育に関する検討委員会の検討結果等を踏まえ、別途検討する。

【学級数の取扱いについて】

学級数（学科改編を含む）の取扱いは、中学校卒業予定者数、高校進学希望者の志望動向、各高校の定員充足状況等を勘案しながら毎年度調整する。

【1学年2学級校の取扱い】

- (1) 1学年2学級の募集定員に対し、1学級定員の半数を超える欠員が2年続いた場合には、原則として翌年度に学級減を行う。なお、通学困難な地域は、高校教育を受ける機会を確保するという観点から学級減を行わないことも検討する。
- (2) 募集定員に対して1学級相当程度の欠員が生じている場合には、原則として翌年度に学級減を行う。ただし、中学校卒業予定者数に回復の見通しがあれば、学級減を行わないことも検討する。

(3) 各学年とも2学級を維持できない場合には統合を基本とするが、広大な県土を有する本県の通学事情等に鑑み、地域の実情に応じて分校（1学級規模）の設置も検討する。

【分校の取扱い】

入学者が募集定員の半数を下回る状況又は当該分校に進学した者のうち分校所在地の中学校からの進学者の割合が半数以下となる状況が、2年続いた場合には、原則として翌年度から募集停止とし、統合する。

2 第二次県立高等学校整備計画（仮称）

今後の少子化によるさらなる生徒減少や社会情勢の変化に対応するため、教育の原点に立ち返り、高校教育として子供たちの確かな成長を支える仕組みや取組みを強固にすることが重要であることから、「第二次県立高等学校長期構想検討委員会」を設置し、委員会において教育環境の整備や将来の岩手県を担う人財育成について検討の上、平成21年5月に「今後の県立高等学校の在り方」〔中間まとめ〕を取りまとめ、県内9ブロックにおいて地域懇談会を開催し、県民からのご意見、ご提言等をいただき、9月17日に県教育委員会に成案が報告された。

これを基に、県教育委員会において平成21年12月24日に、概ね10年先を展望し、今後の人口減少と超高齢社会の到来や厳しい国際競争などに対応し、明日の日本や岩手の未来を担う人財の育成に向けた今後の県立高校における教育の基本的考え方と方向性を示した「今後の高等学校教育の基本的方向」（案）を作成、公表し、パブリックコメント、地域説明会、意見を聴く会を通じ、ご意見等をいただき、平成22年3月17日に成案を策定した。

これを指針として、平成23年上半期の策定を目途に「第二次県立高等学校整備計画（仮称）」を策定することとし、その検討のため、平成22年度において、市町村長、市町村教育委員会教育長、PTA関係者、産業関係者、中学校長代表者で構成される「今後の県立高校に関する地域検討会議」を県内9ブロックにおいて3回ずつ、また、一般県民を対象とした「今後の県立高校に関する地域別懇談会」を県内9ブロックにおいて2回ずつ、併せて、地域等の要望に応じて出前懇談会を実施し（計11回）、「今後の高等学校教育の基本的方向」への理解を図るとともに、各ブロックにおける高校のあるべき姿や地域実情に応じた高校配置等について意見交換を行った。

しかし、東日本大震災津波の発生に伴い、甚大な被害及びその影響を踏まえ計画の策定は見送ることとし、策定の時期については、県内各ブロックにおける、震災後の児童・生徒数の動向・推移等を見据えつつ、被災地における公共交通機関の復旧による通学事情の改善など、教育に関わる環境整備の状況も考慮しながら、改めて調整・検討することとした。

3 中高一貫教育の導入について

中高一貫教育の在り方については、文部省からの研究の委嘱を受け、平成10年9月に「岩手県中高一貫教育研究会議」（船越昭治委員長）を設置して検討を重ねるとともに、実践研究を行う研究推進校（高校2校、中学校6校）を指定し、「岩手県中高一貫教育実践研究委員会」においても検討を進め、平成12年3月に中高一貫教育研究会議より報告書が提出された。

この報告を受け、軽米・葛巻地域は、連携型中高一貫教育の研究を行い、平成13年度には軽米地域が、平成14年度には葛巻地域が連携型中高一貫教育を導入した。

平成15年7月に「岩手県中高一貫教育検討委員会」を設置し、中等教育学校及び併設型中高一貫教育校の導入や連携型中高一貫教育校の推進について検討を進めた。平成17年9月には、この検討委員会を継承・発展した「岩手県新しいタイプの学校に関する検討委員会」を設置し、中高一貫教

育を中心としたコミュニティ・スクールを含めた新しいタイプの学校の在り方について検討を行い、平成18年3月に報告書が提出された。

この報告を受け、併設型中高一貫教育校の導入について検討し、平成19年2月に、平成21年度から一関第一高等学校に導入する方針を決定した。

平成19年5月に「岩手県立一関第一高等学校中高一貫教育検討委員会」を設置し、併設型中高一貫教育校の教育内容や県立中学校の入学者選抜方針などについて検討を行い、同年11月に報告書が提出された。この報告を受け、一関第一高等学校に設置する併設型中高一貫教育校の目指す教育などについて検討し、平成20年1月には一関第一高等学校に併設する県立中学校の方針を決定した。平成20年4月から、県教育委員会事務局学校教育室の高校改革担当内に併設型の県立中学校準備担当（3人）を配置し、具体的な準備を開始した。7月には「岩手県立学校設置条例の一部を改正する条例」が6月県議会定例会で議決され、平成21年4月に「岩手県立一関第一高等学校附属中学校」を設置した。

平成23年度末には、第1回入学生が卒業し、全員一関第一高等学校に入学することとなった。

平成24年度の岩手県立一関第一高等学校附属中学校入学者選抜検査は、223人（男子108人、女子115人）が受検し、80人（男子40、女子40人）が入学することとなった。

4 公立高等学校入学者選抜について

(1) 県教育委員会は、平成13年8月29日に「岩手県立高等学校入学者選抜方策検討委員会」（委員長：沼田俊昭 岩手県立大学教授）から「報告」が提出されたことを受け、平成13年11月12日の教育委員会議において県立高等学校入学者選抜の方針を決定した。

県教育委員会は、この方針をもとに、受検生の意欲や個性をより適切に評価できるよう、平成16年度入学者選抜から選抜方法や通学区域等を改善した。

ア 選抜方法の変更

校長の定める異なる評価尺度（ABC選考）による合否判定をする。

イ 通学区域（学区）の変更

普通科の通学区域（学区）について、平成6年度から県内19学区としてきたが、地域の意見を勘案して、8学区に改めた。

ウ 学区外許容率の変更

学区（通学区域）の拡大に伴って、学区外許容率を15%から10%に引き下げた。

今回の変更は、昭和53年に20%から15%に引き下げて以来の変更となる。

エ 再募集の要件の変更

平成15年度まで「再募集人員が定員の30%より少ない場合は、再募集を行わないことができる」とした、ただし書きを平成16年度入学者選抜から撤廃した。

(2) 平成16～18年度入学者選抜まで3年間実施後、入試制度の問題点・改善点を検討することを目的に、平成17年9月20日に「県立高等学校入試改善検討委員会」を設置し（委員長：沼田俊昭 岩手県立大学副学長）、平成18年6月1日に提言を受けた。

それをもとに平成18年7月18日の教育委員会議において、県立高等学校入学者選抜の方針を決定した。

ア 全日制課程及び定時制課程

一般入学者選抜及び推薦入学者選抜を行う。

第3章 教育施策の推進状況

第6節 学校教育を支える教育環境の充実

第1 県立高校の望ましい教育環境の整備

一般入学者選抜においては、調査書、学力検査、面接の結果（学校によっては小論文・作文または適性検査）を資料とし、校長の定める異なる評価尺度（ABC選考）により選抜する。

推薦入学者選抜においては、校長が推薦基準を決定し、志願理由書、調査書及び面接（学校によっては、小論文・作文または適性検査）の結果により選抜する。

イ 通信制課程

調査書その他必要な書類、面接の結果及び作文の評価に基づいて選抜する。

(3) 県教育委員会では、この方針に基づき平成19年度入学者選抜から、次のように改善した。

ア 推薦入学者選抜の実施

高等学校全学科を対象とし、各高等学校は推薦基準を公表する。

応募資格は、スポーツ、文化・芸術等において顕著な成績を収めた者とする。

イ 一般入学者選抜日程の変更

2日間の日程を改め、1日とした。

ウ 一般入学者選抜学力検査内容の変更

英語応答試験を廃止した。

エ 募集の要件の改善

平成18年度までの「合格者が募集定員に達しなかった学校は、その課程及び学科別に再募集を行う」を改め、「欠員が、募集定員の概ね10%より多い高等学校は、その学科別に再募集を行うことができる」とした。

オ 普通科と理数科の一括募集

すべての理数科を対象として、普通科と理数科を一括募集することとした。

(4) 平成20年度入学者選抜では、推薦入学者選抜において「志願先高等学校に二つ以上の学科（学系、コース）がある場合には、第2、第3志望まで出願できる」と変更した。

(5) 平成21年度入学者選抜では、体育科、体育コース、体育学系、スポーツ健康科学学系、芸術学系の推薦入学者選抜の募集定員を、定員の20%以内から50%以内に変更した。

(6) 入試制度の問題点及び改善点を検討することを目的に、平成22年6月25日に「県立高校入試改善検討委員会」（委員長：望月善次盛岡大学学長）を設置し、計6回の会議を経て、平成23年12月に「平成27年度以降の県立高校入試の改善について（提言）」が提出された。県教育委員会では、提言をもとに素案を作成し、パブリックコメント等で寄せられた意見等も踏まえながら、「平成28年度以降の岩手県立高等学校入学者選抜の実施方法」をまとめた。（平成24年3月23日）

主な改善点は以下のとおり

ア 推薦入試合格（内定）者に対して、学力検査問題を活用した学力調査を実施する。

イ 現行では、2、3年生が対象となっている調査書の評定換算点に1年生も加える。

ウ ABC選考で学校裁量を広げる。（A選考のみ、AB選考のみ、AC選考のみも設定可能とした。）

エ 「再募集」を「二次募集」と名称変更し、「定員の概ね10%より多い欠員」としていた実施基準を「定員の10%以上の欠員」と明確にした。

第3章 教育施策の推進状況

第6節 学校教育を支える教育環境の充実

第2 学校施設の耐震化の推進

第2 学校施設の耐震化の推進

(文部科学省公立学校施設の耐震改修状況調査、平成24年4月1日現在)

1 県立学校施設の耐震化状況

(1) 非木造施設の耐震化率

	岩手県		全国平均		比較	
	H22.4.1 現在	H24.4.1 現在	H22.4.1 現在	H24.4.1 現在	岩手県	全国平均
(小) 中学校	100.0%	100.0%	73.3%	84.8%	±0.0%	+11.5%
高等学校	74.7%	79.5%	72.9%	82.4%	+4.8%	+9.5%
特別支援学校	97.8%	100.0%	87.9%	92.9%	+2.2%	+5.0%
幼稚園	—	—	66.2%	75.1%	—	+8.9%
計 (平均)	78.9%	83.3%	73.5%	84.4%	+4.4%	+10.9%

※1 (小)中学校の岩手県欄については、一関第一高等学校附属中学校に係る数値。(以下、同様)

2 「耐震化率」とは、全建物のうち、耐震性がある建物(昭和57年以降建築の棟数及び、昭和56年以前建築で耐震性がある棟と耐震補強済みの棟)の割合のこと。(以下、同様)

3 東日本大震災のためH23.4.1現在の岩手県にかかる調査は未実施。(以下、同様)

(2) 木造施設の耐震化率

	岩手県		全国平均		比較	
	H22.4.1 現在	H24.4.1 現在	H22.4.1 現在	H24.4.1 現在	岩手県	全国平均
(小) 中学校	—	—	67.6%	78.8%	—	+11.2%
高等学校	95.7%	95.5%	61.5%	66.4%	-0.2%	+4.9%
特別支援学校	—	—	92.0%	93.1%	—	+1.1%
幼稚園	—	—	79.1%	83.5%	—	+4.4%
計 (平均)	95.7%	95.5%	69.6%	78.9%	-0.2%	+9.3%

2 市町村立学校施設の耐震化状況

(1) 非木造施設の耐震化率

	岩手県		全国平均		前年比較	
	H22.4.1 現在	H24.4.1 現在	H22.4.1 現在	H24.4.1 現在	岩手県	全国平均
小中学校	73.0%	84.4%	73.3%	84.8%	+11.4%	+11.5%
高等学校	27.3%	81.8%	72.9%	82.4%	+54.5%	+9.5%
特別支援学校	—	—	87.9%	92.9%	—	+5.0%
幼稚園	73.3%	82.1%	66.2%	75.1%	+8.8%	+8.9%
計 (平均)	72.8%	84.3%	73.5%	84.4%	+11.5%	+10.9%

(2) 木造施設の耐震化率

	岩手県		全国平均		前年比較	
	H22.4.1 現在	H24.4.1 現在	H22.4.1 現在	H24.4.1 現在	岩手県	全国平均
小中学校	80.8%	87.8%	67.6%	78.8%	+7.0%	+11.2%
高等学校	—	—	61.5%	66.4%	—	+4.9%
特別支援学校	—	—	92.0%	93.1%	—	+1.1%
幼稚園	80.0%	81.8%	79.1%	83.5%	+1.8%	+4.4%
計 (平均)	80.7%	87.2%	69.6%	78.9%	+6.5%	+9.3%

第3 修学資金の支援等

1 特別支援教育就学奨励費補助金

(1) 経費の種類別給与人員及び給与額

[単位：人、円]

経費の種類	給与人員			給与額			
	小学校	中学校	計	小学校	中学校	計	
学校給食費	557	253	810	11,773,247	5,357,758	17,131,005	
交通費（通学費）	108	25	133	2,534,469	2,463,106	4,997,575	
職場実習交通費		1	1		14,240	14,240	
交流学习交通費	14	6	20	7,472	8,600	16,072	
修学旅行費	100	79	179	920,711	2,175,024	3,095,735	
校外活動費	宿泊を伴わないもの	360	127	487	215,112	109,915	325,027
	宿泊を伴うもの	40	63	103	35,866	90,115	125,981
学用品等購入費	563	253	816	2,957,099	2,607,610	5,564,709	
新入学児童・生徒用学用品費等	58	71	129	577,100	812,950	1,390,050	
体育実技用具費	柔道		3		5,000	5,000	
	剣道			0		0	
	スキー	11	8	19	122,984	124,910	247,894
	スケート			0		0	
拡大教材費			0			0	
合計	644	261	905	19,144,060	13,769,228	32,913,288	

※給与人員の合計の欄は、実給与人員であること。

(2) 市町村別補助金交付額

[単位：千円]

市町村名	国庫補助金額
盛岡市	2,992
八幡平市	137
雫石町	70
葛巻町	50
岩手町	164
滝沢村	464
紫波町	162
矢巾町	235
花巻市	1,509
遠野市	210
北上市	1,199
西和賀町	26

市町村名	国庫補助金額
奥州市	678
金ケ崎町	216
一関市	1,688
平泉町	37
藤沢町	0
大船渡市	270
陸前高田市	126
住田町	15
釜石市	66
大槌町	21
宮古市	427
山田町	15

市町村名	国庫補助金額
岩泉町	91
田野畑村	0
久慈市	197
洋野町	204
野田村	20
普代村	64
二戸市	259
軽米町	118
九戸村	10
一戸町	208
合計	11,948

第3章 教育施策の推進状況

第6節 学校教育を支える教育環境の充実

第3 修学資金の支援等

2 要保護児童生徒援助費補助金

(1) 経費の種類別給与人員及び給与額 [単位：人、円]

経費の種類	給与人員			給与額		
	小学校	中学校	計	小学校	中学校	計
学用品費、通学用品費、 校外活動費（宿泊を伴わないもの）			0			0
校外活動費（宿泊を伴うもの）			0			0
新入学児童・生徒用学用品費等			0			0
修学旅行費	114	140	254	2,196,105	8,824,419	11,020,524
通学費			0			0
体育実技用具費	柔道		0			0
	剣道		0			0
	スキー		0			0
	スケート		0			0
医療費	153	84	237	3,369,682	2,307,078	5,676,760
学校給食費			0			0
合 計	—	—	—	5,565,787	11,131,497	16,697,284

※平成17年度から準要保護児童生徒援助費補助金が廃止され、市町村へ財政措置されていること。

(2) 市町村別補助金交付額 [単位：円]

市町村名	学用品費等	医療費	計
盛岡市	1,931,000	745,374	2,676,374
八幡平市	27,000	24,000	51,000
雫石町	54,000	33,000	87,000
葛巻町	29,000	2,050	31,050
岩手町	125,000	18,000	143,000
滝沢村	251,000	221,000	472,000
紫波町	220,000	17,000	237,000
矢巾町	28,000	21,000	49,000
花巻市	289,000	150,000	439,000
遠野市	265,000	42,000	307,000
北上市	286,000	184,000	470,000
西和賀町	0	0	0
奥州市	225,000	240,000	465,000
金ケ崎町	0	5,000	5,000
一関市	342,000	102,847	444,847
平泉町	41,000	5,000	46,000
藤沢町	0	0	0
大船渡市	17,000	27,000	44,000
陸前高田市	8,000	0	8,000
住田町	30,000	21,000	51,000
釜石市	219,000	52,010	271,010
大槌町	130,000	0	130,000
宮古市	159,000	68,000	227,000
山田町	134,000	96,000	230,000
岩泉町	67,000	232,975	299,975
田野畑村	33,000	22,000	55,000
久慈市	226,000	132,000	358,000
洋野町	131,000	132,000	263,000
野田村	0	0	0
普代村	0	0	0
二戸市	79,000	4,800	83,800
軽米町	66,000	36,000	102,000
九戸村	0	2,000	2,000
一戸町	68,000	64,000	132,000
合 計	5,480,000	2,700,056	8,180,056

第3章 教育施策の推進状況

第6節 学校教育を支える教育環境の充実

第3 修学資金の支援等

3 被災児童生徒就学支援等臨時特例交付金（被災児童生徒就学援助事業）

(1) 経費の種類別給与人員及び給与額

[単位：人、円]

経費の種類	給与人員			給与額		
	小学校	中学校	計	小学校	中学校	計
学用品費	2,684	1,745	4,429	30,453,399	39,545,049	69,998,448
体育実技用具費	36	11	47	728,445	43,900	772,345
新入学用品費	373	606	979	7,431,700	13,889,600	21,321,300
通学用品費	2,027	1,077	3,104	4,049,131	2,021,965	6,071,096
通学費	1,172	768	1,940	178,307,017	75,654,796	253,961,813
修学旅行費	400	348	748	6,658,541	21,269,436	27,927,977
校外活動費（宿泊無し）	325	197	522	281,184	244,914	526,098
校外活動費（宿泊有り）	85	71	156	137,770	189,391	327,161
クラブ活動費	8	649	657	6,701	15,108,440	15,115,141
生徒会費	203	577	780	451,069	1,080,625	1,531,694
P T A会費	797	452	1,249	1,517,990	1,130,350	2,648,340
医療費	26	12	38	189,890	123,506	313,396
学校給食費	2,677	1,745	4,422	98,685,205	69,516,807	168,202,012
合計	—	—	—	328,898,042	239,818,779	568,716,821

(2) 市町村別補助金交付額

[単位：円]

市町村名	学用品費等	医療費	学校給食費	計
盛岡市	3,452,000	0	3,180,000	6,632,000
八幡平市	294,000	0	227,000	521,000
雫石町	249,000	0	379,000	628,000
葛巻町	55,000	0	95,000	150,000
岩手町	62,000	0	82,000	144,000
滝沢村	511,000	3,000	738,000	1,252,000
紫波町	375,000	0	648,000	1,023,000
矢巾町	191,000	0	178,000	369,000
花巻市	1,270,000	36,780	1,958,220	3,265,000
遠野市	267,000	0	382,000	649,000
北上市	376,000	0	456,000	832,000
西和賀町	0	0	0	0
奥州市	1,122,000	0	1,505,000	2,627,000
金ヶ崎町	85,000	1,890	134,110	221,000
一関市	5,157,000	14,000	4,822,000	9,993,000
平泉町	0	0	0	0
藤沢町	0	0	0	0
大船渡市	43,718,000	60,000	40,157,000	83,935,000
陸前高田市	41,877,000	48,000	32,909,000	74,834,000
住田町	346,000	0	614,000	960,000
釜石市	54,420,000	29,000	6,673,000	61,122,000
大槌町	130,128,000	0	16,375,000	146,503,000
宮古市	78,953,000	0	37,886,000	116,839,000
山田町	9,538,000	0	2,405,000	11,943,000
岩泉町	18,654,000	0	2,393,000	21,047,000
田野畑村	1,731,000	60,000	2,441,000	4,232,000
久慈市	2,825,000	59,000	3,757,000	6,641,000
洋野町	31,000	0	43,000	74,000
野田村	2,093,000	0	2,437,000	4,530,000
普代村	2,213,000	0	1,811,000	4,024,000
二戸市	193,000	0	284,000	477,000
軽米町	0	0	0	0
九戸村	0	0	0	0
一戸町	0	0	0	0
合計	400,186,000	311,670	164,969,330	565,467,000

第3章 教育施策の推進状況

第6節 学校教育を支える教育環境の充実

第3 修学資金の支援等

4 へき地児童生徒援助費等補助金

(1) 経費の種類別給与人員及び給与額

[単位：台、人、円]

経費の種類	給与人員			給与額		
	小学校	中学校	計	小学校	中学校	計
スクールバス購入費(台)	4	2	6	8,220,000	5,000,000	13,220,000
寄宿舎居住費(人)						
高度へき地修学旅行費(人)	3	15	18	43,000	460,000	503,000
遠距離通学費(人)						

※スクールバスについて、小学校・中学校で共用している場合は、小学校に計上している。()内が共用している台数・金額(内数)

(2) 市町村別補助金交付額

[単位：千円]

市町村名	スクールバス購入費	寄宿舎居住費	高度へき地修学旅行費	遠距離通学費	保健管理費	計
盛岡市			139			139
八幡平市					65	65
雫石町						
葛巻町	1,540				379	1,919
岩手町					183	183
滝沢村						
紫波町						
矢巾町						
花巻市						
遠野市					35	35
北上市						
西和賀町					218	218
奥州市					25	25
金ヶ崎町						
一関市	10,000					10,000
平泉町						
藤沢町						
大船渡市						
陸前高田市						
住田町					31	31
釜石市						
大槌町						
宮古市					78	78
山田町						
岩泉町	1,680		364		52	2,096
田野畑村					210	210
久慈市					274	274
洋野町					85	85
野田村						
普代村						
二戸市						
軽米町					39	39
九戸村						
一戸町						
合計	13,220		503		1,674	15,397

第3章 教育施策の推進状況

第6節 学校教育を支える教育環境の充実

第3 修学資金の支援等

5 育英・奨学（財団法人岩手育英奨学会）

県内に住所を有する者の子弟で、有能な素質を有しながら経済的理由により高等学校等への就学が困難なものに対し、学資の貸与その他育英奨学上必要な事業を行った。

また、東日本大震災津波に被災した世帯の高校生を対象とした奨学金の貸付事業（タイプC：震災特例）を新設し、事業を行った。

(1) 奨学金の種類と額

ア タイプA（予約・在学・緊急採用共通）

区 分		貸与月額
国公立	自宅通学	18,000円
	自宅外通学	23,000円
私 立	自宅通学	30,000円
	自宅外通学	35,000円

イ タイプB（予約採用）

- (ア) 貸与月額（選択制）
15,000円、20,000円、25,000円、
30,000円
- (イ) 入学一時金
公立50,000円、私立100,000円

ウ タイプC（震災特例）

区 分		貸与月額
国公立	自宅通学	18,000円
	自宅外通学	23,000円
私 立	自宅通学	30,000円
	自宅外通学	35,000円

(2) 奨学生の採用

ア タイプA（平成23年度採用）

[単位：人]

採用人数		内 訳			
		国公立・自宅	国公立・自宅外	私立・自宅	私立・自宅外
予 約	152	106	11	24	11
在 学	393	218	14	135	26
緊 急	24	10	3	3	8
合 計	569	334	28	162	45

イ タイプB（平成23年度採用、予約採用のみ）

[単位：人]

採用人数	貸与月額				区 分	
	15,000円	20,000円	25,000円	30,000円	母子・父子家庭	経済困難
36	4	2	8	22	21	15

ウ タイプC（平成23年度採用）

[単位：人]

採用人数		内 訳			
		国公立・自宅	国公立・自宅外	私立・自宅	私立・自宅外
165		121	21	4	19

第3章 教育施策の推進状況

第6節 学校教育を支える教育環境の充実

第3 修学資金の支援等 第4 教育環境の整備

(3) 奨学金の貸与状況

ア タイプA (平成23年度) [単位：人、千円]

区 分		貸与人数	奨学金
国公立	自宅通学	1,012	217,962
	自宅外通学	85	23,222
私 立	自宅通学	447	159,390
	自宅外通学	125	52,080
合 計		1,669	452,654

イ タイプB (平成23年度) [単位：人、千円]

区 分	貸与人数	奨学金		
		年 額	入学一時金	計
15,000円	14	2,520	50	2,620
20,000円	13	3,120	0	3,940
25,000円	19	5,700	300	3,750
30,000円	60	21,420	1,000	24,710
合 計	106	32,760	1,350	34,110

ウ タイプC (平成23年度) [単位：人、千円]

区 分		貸与人数	奨学金
国公立	自宅通学	121	26,244
	自宅外通学	21	5,658
私 立	自宅通学	4	1,440
	自宅外通学	19	7,980
合 計		165	41,322

第4 教育環境の整備

1 県立学校の教育環境整備

(1) 平成23年度高等学校及び特別支援学校校舎等施設整備状況 [単位：㎡、千円]

補助・単独の別	事業内容	学校名	構造	事業実施面積		工事費	工期等
					うち国庫補助対象面積		
国庫補助	校舎増築	一関清明	鉄筋	2,197	2,197	391,295	H22～23
	校舎改築	盛岡商業	鉄筋	9,363	1,777	1,439,750	H23～24
	体育館改築	一関第一附属	鉄骨	1,001	649	183,600	H23
	校舎大規模改造等	水沢	鉄筋	2,756	2,756	43,278	H23
		水沢商業	鉄筋	2,221	2,221	46,824	H23
		宮古商業	鉄筋	1,737	1,737	42,759	H23
		釜石商工	鉄筋	1,810	1,810	24,795	H23
	体育館耐震補強等	宮古	鉄骨	1,361	1,361	6,132	H23
		盛岡商業	鉄骨	1,340	1,340	4,515	H23
		水沢工業	鉄骨	913	913	5,472	H23
	寄宿舎改修等	杜陵	鉄筋	993	993	73,629	H23
		盛岡視覚	鉄筋	2,008	2,008	37,476	H23
		盛岡聴覚	鉄筋	2,301	2,301	15,244	H23
		盛岡峰南	鉄筋	864	864	4,358	H23
久慈拓洋		鉄筋	1,791	1,791	42,495	H23	
県単独	体育館新築	杜陵・奥州校	鉄骨	416		82,833	H23
	校地整備	岩谷堂		22,810		83,872	H22～23

第3章 教育施策の推進状況

第6節 学校教育を支える教育環境の充実

第4 教育環境の整備

(2) 産業教育施設整備の状況（平成23年4月1日現在）

基準面積(A)	現有面積(B)	現有率(B/A)
306,605 m ²	153,277 m ²	50.0%

(3) 平成23年度特殊教育設備事業 [単位：千円]

区 分	金 額
特殊教育設備	26,681
一般教育設備	7,507
情報処理教育設備	1,997
校舎等増改築設備	21,749
計	57,934

(4) 高等学校産業教育設備の整備状況（平成23年4月1日現在）

基準金額(A)	現有金額(B)	現有率(B/A)
26,602,952,000 円	5,519,278,132 円	20.7 %

(5) 理科教育等設備

ア 平成23年度補助金受領状況

(ア) 高等学校

[単位：千円]

学校名	国庫補助 交付額	設置者 負担額	学校名	国庫補助 交付額	設置者 負担額
盛岡第二	472	477	大槌	57	59
盛岡第四	1,031	1,058	久慈工業	470	470
花巻南	1,062	1,064			
水沢農業	183	184			
大船渡東	1,071	1,071			
釜石商工	412	413			
計				4,758	4,796

(イ) 中学校

[単位：千円]

学校名	国庫補助 交付額	設置者 負担額
一関一高付属中	288	304

(ウ) 特別支援学校

[単位：千円]

学校名	国庫補助 交付額	設置者 負担額
-	-	-

第3章 教育施策の推進状況

第6節 学校教育を支える教育環境の充実

第4 教育環境の整備

イ 学校種別現有状況（平成22年度末）

[単位：校、千円、%]

区分	学校種別	学校数	基準総額[A]	現有の状況		平成23年度補助金 交付校数	
				現有金額[B]	現有率[B/A]		
1 理科教育振興法第9条第1項第1号に基づく補助	理科設備	中学校	1	27,445	1,205	4.4	1
		高等学校	67	5,390,484	701,966	13.0	8
		特別支援学校	14	984,256	41,158	4.2	0
		計	82	6,402,185	744,329	11.6	9
	算数数学特別設備	中学校	1	4,037	0	0	0
		高等学校	67	915,287	21,766	2.4	0
		特別支援学校	14	106,625	8,103	7.6	0
		計	82	1,025,949	29,869	2.9	0

(注) 1 県立学校分を記載（被災により高田高校除く）

2 一関一高付属中学校は、平成21年4月開校

(6) 平成23年度情報処理教育設備

整備学校名	整備金額
【高等学校】 22 校 杜陵、盛岡工業、花北青雲、大迫、北上翔南、黒沢尻工業、水沢農業、水沢工業、水沢商業、岩谷堂、一関第二、大東、千厩、大船渡東、釜石商工、大槌、遠野緑峰、宮古商業、岩泉、久慈東、久慈工業、一戸 【特別支援学校】 8 校 盛岡青松、盛岡みたけ、盛岡みたけ（奥中山）、花巻清風、花巻清風（中部）前沢明峰、気仙光陵、久慈拓陽	97,512千円

2 市町村立学校の教育環境整備への支援

(1) 市町村立小中学校の施設及び校地の保有状況

【公立学校施設の保有状況】

[単位：m²]

区分	必要面積 [a]	保有面積				整備資格面積 (注2) [c]	c/a	危険面積 (注3) [d]	d/b	
		鉄筋コンクリート造	鉄骨その他造	木造	計 [b]					
小学校	校舎	1,245,170	(89.8%) 1,032,212	(3.1%) 35,738	(7.1%) 82,059	1,150,009	171,380	13.8%	25,410	2.2%
	屋体	396,498	(16.4%) 51,185	(80.3%) 251,002	(3.4%) 10,535	312,722	90,414	22.8%	4,499	1.4%
	計	1,641,668	(74.1%) 1,083,397	(19.6%) 286,740	(6.3%) 92,594	1,462,731	261,794	15.9%	29,909	2.0%
中学校	校舎	680,691	(92.8%) 630,454	(3.0%) 19,688	(4.3%) 29,279	679,421	50,929	7.5%	32,776	4.8%
	屋体	230,308	(18.0%) 35,665	(79.8%) 158,484	(2.3%) 4,522	198,671	42,132	18.3%	3,027	1.5%
	計	910,999	(75.9%) 666,119	(20.3%) 178,172	(4.8%) 33,801	878,092	93,061	10.2%	35,803	4.1%
合計	校舎	1,925,861	(90.9%) 1,662,666	(3.0%) 55,426	(6.1%) 111,338	1,829,430	222,309	11.5%	58,186	3.2%
	屋体	626,806	(17.0%) 86,850	(80.1%) 409,486	(2.9%) 15,057	511,393	132,546	21.1%	7,526	1.5%
	計	2,552,667	(74.7%) 1,749,516	(19.9%) 464,912	(5.4%) 126,395	2,340,823	354,855	13.9%	65,712	2.8%

注1：平成22年度の公立学校施設台帳を集計したもの。保有面積欄の上段の数値は、構成比。

※平成23年度は東日本大震災の影響により調査未実施。

2：整備資格面積とは、各学校ごとに必要面積から保有面積を差し引いた面積（負数となる場合は、ゼロとする）。

3：危険面積とは、耐力度点数が、鉄筋造及び鉄骨造にあっては4,500点以下、木造にあっては5,500点以下の建物の面積。ただし、平成19年度までに実施した耐力度調査の結果が5,000点以下のものも含む。

第3章 教育施策の推進状況

第6節 学校教育を支える教育環境の充実

第4 教育環境の整備

【公立学校校地の保有状況】

[単位：㎡]

区分	保有校地面積				借用校地面積
	建物敷地	運動場	実験実習地その他	小計	
小学校	2,543,281	3,321,056	1,287,014	7,151,351	114,525
中学校	1,663,977	2,763,793	842,313	5,270,083	113,662
計	4,207,258	6,084,849	2,129,327	12,421,434	228,187

注：数値は平成22年度のもの（平成23年度は東日本大震災の影響により調査未実施）

(2) 市町村立幼稚園及び市町村立小中学校の整備状況

【事業別の状況】

[単位：㎡、千円]

区分	単年度事業			国債事業			計		
	事業数	補助対象面積	負担(交付)金額	事業数	補助対象面積	負担(交付)金額	事業数	補助対象面積	負担(交付)金額
小学校・校舎	1	249	23,375	3	6,495	408,079	4	6,744	431,454
中学校・校舎	3	886	80,833				3	886	80,833
小学校・屋体	5	2,060	202,409				5	2,060	202,409
中学校・屋体	1	460	43,297				1	460	43,297
統合				1	4,106	89,576	1	4,106	89,576
危険改築	9	9,281	578,682				9	9,281	578,682
不適格(地震)改築	17	10,279	734,570				17	10,279	734,570
大規模改築	13	14,734	197,825				13	14,734	197,825
地震補強	36	59,751	574,633				36	59,751	574,633
その他	16	26,196	211,438				16	26,196	211,438
合計	101	123,896	2,647,062	4	10,601	497,655	105	134,497	3,144,717

注：「屋体」は屋内体育館、「その他」は学校水泳プール、調理場、グラウンド、太陽光発電等の整備

【市町村別の状況（単年度事業分）】

[単位：㎡、千円]

市町村名	学校名	補助対象面積												負担(交付)金額			備考	
		小校	中校	小屋	中屋	統合		危険改築		不適格(地震)改築		合計		大規模改築	地震補強	その他		
						校舎	屋体	校舎	屋体	校舎	屋体	校舎	屋体					
盛岡市	向中野小			1,258													115,410	
	青山小													9,811			9,811	
	河北小												5,759			5,759		
	藪川中													3,553			3,553	
	厨川中								1,656		1,656						117,765	
八幡平市	西根中												14,168	18,501			32,669	
滝沢村	滝沢中														23,110		23,110	武道場
紫波町	長岡小			223						385		385					64,206	
	紫波二中													40,810			40,810	
矢巾町	矢巾中		409		460		2,964	796	1,310	67	4,274	863					417,329	
北上市	江釣子小													6,051			6,051	
	南中		365														33,325	
西和賀町	沢内小													10,895			10,895	
奥州市	岩谷堂小			304			1,454		52	80	1,506	80					73,546	
	羽田小													392			392	
	真城小						414		364		778						5,483	
	衣里小													2,445			2,445	
	水沢中													-2,143			-2,143	
	水沢南中													3,866			3,866	
金ヶ崎町	第一小								1,900		1,900						253	
	三ヶ尻小													2,199			2,199	
	西小													13,471			13,471	

第3章 教育施策の推進状況

第6節 学校教育を支える教育環境の充実

第4 教育環境の整備

市町村名	学校名	補助対象面積												負担(交付)金額				備考	
		小校	中校	小屋	中屋	統合		危険改築		不適格(地震)改築		合計		大規模改造	地震補強	その他			
						校舎	屋体	校舎	屋体	校舎	屋体	校舎	屋体						
一関市	大原小															33,893	33,893	プール	
	千厩小														21,050		21,050		
	長坂小														2,523		2,523		
	一関中															35,601	35,601	武道場	
	川崎中									3,020	1,162	3,020	1,162				451,614		
	興田中														15,589		15,589		
平泉町	平泉中							1,666		48		1,714					104,418		
大船渡市	第一中													63,679			63,679		
陸前高田市	高田小他															1,332	1,332	地デジ	
	小友小														5,009		5,009		
	米崎小														4,410		4,410		
	第一中									1,237		1,237					83,752		
釜石市	釜石小														41,496		41,496		
	白山小														3,019		3,019		
	大平中														3,785		3,785		
遠野市	遠野中							364		235		599					79,087		
大槌町	給食センター															17,337	17,337	共同調理場	
宮古市	重茂小	249		275						386			386			12,120	118,556	太陽光発電	
	鉾ヶ崎小													17,626	30,079		47,705		
	愛宕小														2,800		2,800		
	磯鷗小														25,643		25,643		
	山口小														39,769		39,769		
	津軽石小														2,868		2,868		
	田老一小														3,976		3,976		
	和井内小														15,324		15,324		
	藤原小													23,914	29,652		53,566		
	第一中														158,112		158,112		
	崎山中														2,651		2,651		
	田老一中														15,539		15,539		
	津軽石中													12,979	10,806		23,785		
給食センター																69,444	69,444	共同調理場	
久慈市	山根中		112															10,542	
	久慈中														19,325		19,325		
	侍浜中														17,408		17,408		
洋野町	大野小															6,743	6,743	教員宿舎	
	大野一中													53,649		6,964	60,613	教員宿舎	
軽米町	晴山小															4,894	4,894	クラブ	
計		249	886	2,060	460			6,862	2,419	8,585	1,694	15,447	4,113	197,825	574,633	211,438	2,647,062		

※ 交付決定単位で事業が完了したものを計上。(概算払いのみで繰越した事業は含まない)

第3章 教育施策の推進状況

第6節 学校教育を支える教育環境の充実

第4 教育環境の整備

【市町村別の状況（国債事業分）】

[単位：㎡、千円]

市町村名	学校名	補助対象面積								負担金交付決定額		備考
		小校	中校	小屋	中屋	統合		合計		左のうち 当該年度分		
						校舎	屋体	校舎	屋体			
盛岡市	向中野小	5,296						5,296		416,416	318,905	繰越分含む
奥州市	真城小	172						172		15,660	12,749	21 事故繰、22 繰越分
	岩谷堂小	1,027						1,027		93,509	76,425	21 事故繰、22 繰越分
一関市	大東小					4,106		4,106		471,458	89,576	一部H24に繰越
計		6,495				4,106		10,601		997,043	497,655	

(3) 理科教育等設備

(ア) 平成23年補助金交付状況

[単位：千円]

市町村	理科設備	算数・数学設備	計
盛岡市	2,266	0	2,266
岩手町	596	0	596
雫石町	433	67	500
葛巻町	524	0	524
八幡平市	1,080	0	1,080
滝沢村	859	95	954
紫波町	739	0	739
矢巾町	549	148	697
花巻市	1,108	0	1,108
遠野市	872	80	952
北上市	1,006	181	1,187
奥州市	2,323	416	2,739
一関市	2,690	0	2,690
平泉町	450	53	503
藤沢町	416	323	739
陸前高田市	1,016	0	1,016
釜石市	750	300	1,050
大槌町	438	123	561
宮古市	1,087	0	1,087
山田町	1,305	0	1,305
岩泉町	533	97	630
久慈市	2,413	0	2,413
洋野町	640	102	742
軽米町	1,030	0	1,030
九戸村	765	88	853
一戸町	762	78	840
計	26,650	2,151	28,801

第3章 教育施策の推進状況

第6節 学校教育を支える教育環境の充実

第4 教育環境の整備

(イ) 学校種別現有状況（平成22年度末）

[単位：校、千円、%]

区 分	学校種別	学校数	基準総額[A]	現有の状況		平成23年度補助金交付校数	
				現有金額[B]	現有率[B/A]		
理科教育振興法第9条第1項第1号に基づく補助	理科設備	小学校	376	3,966,432	1,335,072	33.7	132
		中学校	185	5,201,497	1,072,735	20.6	88
		高等学校	1	81,674	12,851	15.7	0
		計	562	9,249,603	2,420,658	26.2	220
	算数数学特別設備	小学校	376	795,677	143,230	18.0	34
		中学校	185	759,442	70,181	9.2	17
		高等学校	1	13,661	0	0.0	0
		計	562	1,568,780	213,411	13.6	51

第7節 教育振興運動を基盤とした地域ぐるみで取り組む教育の推進

第1 学校・家庭・地域が連携するための仕組みづくり

目標達成型の学校経営の取組と教育振興運動が軌を一にして展開することにより、学校、家庭、地域が一体となって、地域ぐるみで子どもを育てていく環境づくりを推進した。

1 「いわて教育の日」推進事業

(1) 趣旨

県民の教育に対する関心と理解を深め、学校、家庭及び地域社会が連携して、次代を担う豊かな人間性を備えた子どもを育成するため、県民一人一人が教育の重要性を認識し、本県における教育のあり方を考える契機として、いわて教育の日を設け、本県における教育の充実と発展に資することを目的に、平成17年3月に県議会で「いわて教育の日に関する条例」が制定され、平成17年4月から施行された。

この条例の目的の実現を図るため、教育に関する活動の奨励、広報その他の取組を行うとともに、市町村や関係団体の取組もあわせて実施状況を取りまとめた。

○ いわて教育の日 11月1日

○ 教育週間 11月1日～7日

(2) 「いわて教育の日」県教育委員会主催事業

「いわて教育の日」記念行事

テーマ 『一人ひとりの学びの場の復興をめざして』

期 日 平成23年11月22日（火）

会 場 盛岡劇場 メインホール

参加者 県内教育関係者及び一般県民約450人

内容

第1部 記念式典

○教育表彰 5団体、27個人（⇒23～24ページ「平成23年度岩手県教育表彰」（1）事績顕著者を参照）

第2部 児童生徒による発表

○釜石市立大平中学校

震災関連事例発表 「復興、支え合い・助け合い、感謝の気持ち」

○岩手県立大船渡東高等学校太鼓部

演目 「長安寺ばやし」「怒涛太鼓」「祭り太鼓」

第3部 記念講演

演題 「大震災と心のケア—いわての教育復興の取り組みから」

講師 富永 良喜 氏（兵庫教育大学大学院 教授）

(3) 「いわて教育の日」関連事業

「いわて教育の日」前後の10月と11月の2箇月間に実施される、県・市町村・学校・民間団体などによる教育・文化・スポーツ・青少年健全育成等の教育関連事業（行事）を、「いわて教育の日」関連事業として県教育委員会のホームページで周知し、広く参加を求めることにより、教育振興の機運の醸成を図った。

登録事業数：536事業

参加者数：延べ271,624人

2 地域の教育力向上支援事業

学校教育と社会教育の連携をコーディネートする「地域教育推進員配置事業」の成果を踏まえ、地域連携窓口教員に対する研修の機会の充実を通して地域全体の教育力向上を支援した。

公立小中学校の校内体制としての「地域教育担当（地域連携担当）」係の位置付けを推進し、公立小中学校では全校で位置付けられた（平成23年6月調査）。

3 子どもの読書活動の推進

平成21年6月に策定した「いわて子ども読書プラン2009」により、子どもの読書活動推進事業として次の事業を実施した。

(1) 読書ボランティアのための研修会 [震災の影響により、23年度開催取り止め]

(2) 学校図書館担当者研修会 [震災の影響により、23年度開催取り止め]

(3) 読書活動の普及・啓発

ア 「いわて子ども読書プラン2009」の周知

啓発リーフレットを配布するとともに、HP等を通じた周知を行った。

イ 「いわての中高生のためのおすすめ図書100選」の再配付・増刷

東日本大震災津波等により紛失した生徒数を調査し、再配付にあたった。

平成24年度新中1年生分を増刷し、配付した。(H24年3月)

(4) 読書活動の推進体制の整備

ア 岩手県子どもの読書活動推進委員会 [震災の影響により、23年度開催取り止め]

イ 各地区推進体制の整備 [震災の影響により、23年度開催取り止め]

4 教育振興運動

平成23年度は、「みんなで教振！10か年プロジェクト」の第2ステージ「定着と検証の2年」の初年度であったが、東日本大震災津波の影響により県事業は開催を取りやめ、メールマガジンによる啓発及び情報提供、県社会教育主事による市町村支援にあたった。

○ 全県共通課題（「家庭学習の充実」、「読書活動の推進」）を設定し、県内各市町村実践組織においての取組みを支援する。

(1) 県段階における推進活動

ア 幹事会 [震災の影響により、23年度開催取り止め]

イ 市町村担当者研修会 [震災の影響により、23年度開催取り止め]

ウ 市町村実践組織関係者研修会 [震災の影響により、23年度開催取り止め]

エ 教育振興運動推進研修会 [震災の影響により、23年度開催取り止め]

第3章 教育施策の推進状況

第7節 教育振興運動を基盤とした地域ぐるみで取り組む教育の推進

第1 学校・家庭・地域が連携するための仕組みづくり

オ 市町村支援体制事業

東日本大震災津波の被災地における社会教育事業、県内各地域の実情に応じた教育振興運動の推進のために県社会教育主事が各市町村を訪問し支援にあたった。

(2) 市町村段階における推進活動

※震災の影響により、陸前高田市及び釜石市は未回答、また、大船渡市、大槌町、宮古市田老地区及び山田町については部分回答。

ア 推進組織の状況 [陸前高田市・釜石市を除く]

単独の組織で教育振興運動を推進	28市町村
他の運動体や組織と合わせて推進	10市町村
その他（他団体が運動を推進）	6市町村

※旧市町村単位の組織も1市町村として計上

イ 実践組織の状況 [陸前高田市・釜石市を除く]

(ア) 実践組織の数

区分	数(割合)
小学校区	249(52.9%)
中学校区	80(17.0%)
公民館区	21(4.5%)
町内会区	84(17.8%)
その他	37(7.9%)
計	471

(イ) 実践組織が取り組む主題の数（のべ数） [陸前高田市・釜石市・大槌町を除く]

区分	主題の数
学習活動	779
社会参加	611
自然体験	159
郷土芸能	199
文化芸能	132
生活健康	583
世代間交流	323
勤労体験	133
国際理解	38
スポーツ・レクリエーション	231
その他	71
計	3,259

5 学校支援地域本部事業

学校と地域の連携体制を構築し、ボランティアによる多様な形態の教員支援を行い、地域全体で学校教育を支援するとともに、地域の教育力を向上させるため、学校支援地域本部事業を実施した。

(1) 岩手県学校・家庭・地域の連携による教育支援活動促進委員会

ア 委員会の開催

(平成23年6月22日、平成24年2月20日)

イ 合同研修会の開催

(平成23年6月1日 88人)

ウ 実地調査

(平泉町、軽米町、矢巾町)

イ 市町村ごとの事業実施状況

市町村名	本部数
盛岡市	8
八幡平市	—
雫石町	—
葛巻町	—
岩手町	—
滝沢村	—
紫波町	—
矢巾町	1
花巻市	—
遠野市	2
北上市	—
西和賀町	1
奥州市	5
金ケ崎町	—
一関市	3
平泉町	1
藤沢町	—
大船渡市	—
陸前高田市	—
住田町	—
釜石市	2
大槌町	—
宮古市	3
山田町	—
岩泉町	—
田野畑村	—

第3章 教育施策の推進状況

第7節 教育振興運動を基盤とした地域ぐるみで取り組む教育の推進

第1 学校・家庭・地域が連携するための仕組みづくり

久慈市	2
洋野町	4
野田村	2
普代村	1
二戸市	—
軽米町	2
九戸村	1
一戸町	2
計	40本部

第3章 教育施策の推進状況

第7節 教育振興運動を基盤とした地域ぐるみで取り組む教育の推進

第2 多様な体験活動の充実（学習機会の確保）

第2 多様な体験活動の充実（学習機会の確保）

放課後子ども教室推進、青少年団体の支援等を通じ、多様な体験活動の充実を図った。また、社会教育施設における体験活動の内容の充実を図り、成果の普及に努めた。

1 放課後子ども教室

地域に根ざした多様な活動の機会を提供するため、放課後子ども教室事業を実施した。子どもたちの放課後における安全・安心な居場所づくりを進めた。

(1) 岩手県学校・家庭・地域の連携による教育支援活動促進委員会

ア 促進委員会の開催

（平成23年6月22日、平成24年2月20日）

イ 指導者合同研修会の開催

（平成23年7月8日 266人、9月4日 147人、11月13日 128人）

ウ 実地調査

（紫波町、北上市、奥州市、一関市、野田村）

(2) 市町村ごとの事業実施状況

市町村名	運営委員会	子ども教室数
盛岡市	○	6
八幡平市	—	—
雫石町	—	—
葛巻町	○	4
岩手町	—	—
滝沢村	○	2
紫波町	○	4
矢巾町	○	4
花巻市	○	3
遠野市	○	11
北上市	○	4
西和賀町	—	—
奥州市	○	13
金ヶ崎町	○	1
一関市	○	20
平泉町	○	2
大船渡市	—	—

陸前高田市	—	—
住田町	○	2
釜石市	○	2
大槌町	—	—
宮古市	○	9
山田町	—	—
岩泉町	—	—
田野畑村	○	1
久慈市	○	8
洋野町	○	5
野田村	—	—
普代村	○	1
二戸市	○	6
軽米町	○	4
九戸村	○	4
一戸町	○	5
計	23市町村	121教室

2 少年団活動の支援

(1) 子ども会等少年団体の組織状況

（平成23年5月1日現在）

団体名	団体数	会員人数
ボーイスカウト	22	714
ガールスカウト	12	245
地域子ども会	12	30,471

第3章 教育施策の推進状況

第7節 教育振興運動を基盤とした地域ぐるみで取り組む教育の推進

第2 多様な体験活動の充実（学習機会の確保）

(2) 少年団体の活動状況

団体名	主な事業
日本ボーイスカウト岩手連盟	指導者育成事業／プログラム事業
ガールスカウト日本連盟岩手県支部	リーダー養成講習会／ガールスカウト支部ギャザリング
岩手県子ども会育成連合会	子ども会活動活性化事業／指導者世話人研修会

3 青年団体活動の支援

(1) 組織状況（平成23年5月1日現在）

団体名	構成団体数	会員人数
岩手県青年団体協議会	14	772

(2) 事業内容

ア 地域開発実践活動【震災の影響により、23年度開催取り止め】

青年問題研究集会、地域づくり運動事業等

イ 第60回岩手県青年大会

（ア）体育部門

期 日……平成23年8月27日～28日

場 所……西和賀町

種 目……バレーボール、バスケットボール、軟式野球、剣道、柔道、フットサル

（イ）文化部門

期 日……平成23年9月4日

場 所……岩手県青少年会館

種 目……人形劇

ウ 第58回全国青年大会

期 日……平成23年11月11日～14日

場 所……東京体育館、日本青年館他

種 目……バレーボール、バスケットボール、バドミントン、軟式野球、卓球、柔道、剣道、ボウリング、フットサル、演劇、人形劇、合唱、郷土芸能、写真展、生活文化展、意見発表

4 青年教室・講座

項 目	開設数	参加者数	内 容
30人以上で20時間以上	19教室（2市町村）	545人	1 人間関係に関すること 2 市民性、社会性に関すること 3 職業、家庭に関すること 4 郷土理解に関すること
上記以外（自立開設）	53教室（9市町村）	1,462人	
合 計	72教室（10市町村）	2,007人	

5 青少年教育施設の利用状況

(1) 運営の基本方向

次代の担い手である青少年に、恵まれた自然環境の中で規律ある共同生活を体験させ、友情・協同・奉仕等の相互扶助の精神を養い、地域社会の発展に寄与し得る自主的で創造性豊かな青少年の育成を図る。

（生活方針）「規律」「友情」「協同」「奉仕」

陸中海岸青少年の家は、平成23年5月までは東日本大震災津波による被災者の避難所として、また、平成23年5月以降は大槌町立大槌小学校、山田町立船越小学校の2校による仮校舎として活用されてきたことから、社会教育主事を配置せず、青少年教育施設としての機能を停止させることとなった。

(2) 青少年の家の利用者数 [単位：団体、人]

	利用団体数	実利用者数	延利用者数
県南青少年の家	496	28,135	43,535
陸中海岸青少年の家	53	1,756	1,756
県北青少年の家	389	19,815	27,169
計	938	49,706	72,460

(3) 県北青少年の家スケート場利用者数 [単位：人]

	研修利用者数	普通利用者数	計
幼児	335	463	798
小学生・中学生	3,966	3,708	7,674
高校生・大学生	86	224	310
一般	1,819	7,199	9,018
計	6,206	11,594	17,800

(4) 類型別実利用者数 [単位：人]

		県南青少年の家	陸中海岸青少年の家	県北青少年の家
事業参加	施設主催事業	5,325	0	3,208
	県主催事業	301	0	372
学校利用	大学・短大	620	0	0
	各種学校	576	0	154
	高等学校	4,959	11	738
	中学校	7,243	565	1,974
	小学校	11,753	49	5,462
地域団体利用	サークル(勤労青年)	86	0	34
	サークル(一般)	1,656	0	466
	子ども会	2,641	0	1,625
	スポ少団体	3,864	1,131	3,061
	児童館・公民館	1,450	0	633
	幼稚園・保育園	232	0	1,126
企業体		1,559	0	775
その他		1,270	0	187
合計		43,535	1,756	19,815

※陸中海岸青少年の家における (2) (4) のデータ集計時期は、平成23年11月～平成24年3月

第3 地域の教育課題の解決・家庭教育の充実

子どもたちが基本的な生活習慣を身に付けることができるよう、幼児期からの家庭での取組を支援するとともに、子育て支援に関わるグループ・団体・NPO等や企業との連携・協力をしつつ、家庭教育支援を推進した。

1 学習機会の提供

親等に対する様々な機会を活用した家庭教育に関する学習機会を提供した。

(1) 子育て・親育ち講座（県事業）

ア 目的……家庭教育や子育てに関する広域的な現状と課題を踏まえ、家庭教育の充実を図る。

イ 期 日……盛岡教育事務所（滝沢ふるさと交流館） 平成23年10月24日 55人

ウ 内 容……子育て支援を促進する学習機会の提供

(2) 子育て・親育ち講座（国庫補助事業 市町村への補助事業）

ア 目的……親等が多数集まる機会を利用して、子どもの心理や親子の関係について学習する。

イ 期 日……平成23年5月～平成24年3月

ウ 内 容……軽米町、金ケ崎町、久慈市の3市町において、次の機会を利用して各種講座を実施した。

- ① 幼児期講座
- ② 小学校入学時講座（就学時健診等の機会を活用）
- ③ 中学校入学時講座（入学説明会等の機会を活用）
- ④ 父親の家庭教育参加促進事業

エ 受講者数…4,857人

2 子育て支援体制の充実

地域との関わりの中で家庭教育や子育てを行うことができる支援体制の整備を図る。

(1) 岩手県学校・家庭・地域の連携による教育支援活動促進委員会

- ① 国庫委託事業の基本的方針等について 平成23年6月22日
- ② 国庫委託事業の成果・課題等について 平成24年2月20日

(2) 広域家庭教育支援体制整備（各教育事務所ごと）

【震災の影響により、23年度開催取り止め】

(3) 家庭教育支援基盤形成事業（国庫補助事業 市町村への補助事業）

【震災の影響により、23年度開催取り止め】

(4) 子育てサポーター養成講座

【震災の影響により、23年度開催取り止め】

○ 岩手県子育てサポーターの認定

岩手県子育てサポーター認定者数：368人、登録者数：233人（平成23年度末現在）

(5) 子育て支援ネットワークの充実

ア 目的…… 地域における子育て支援に指導的な立場で携わる子育てサポーターや子育て支援団体の資質の向上を図るとともに、相互のネットワークを形成することにより、本県の家庭教育の充実に資する。

イ 期 日……生涯学習推進センター 平成23年10月20日 89人
 県北教育事務所 ①久慈地区 平成23年11月07日 23人
 ②二戸地区 平成23年11月22日 31人

ウ 内 容……講義、情報交流会等

3 学習情報の提供と相談体制の充実

様々なメディアを活用して、家庭教育・子育てに関する情報を全ての親に提供するとともに、家庭教育に悩む親等が気軽に相談できる窓口を設置し、その周知に努めた。

(1) 子育て電話相談「すこやかダイヤル」

ア 目的

家庭教育、特に子育てに関する悩みや不安を抱く親に対して、電話(面接)による相談を行い、家庭教育の充実に資する。

イ 内 容

生涯学習推進センターに設置する専用電話「すこやかダイヤル」により、相談員が親等の家庭教育に関する相談に応じる。

【すこやかダイヤル】

電話番号：0198-27-2134

開設期間：通年(祝日、年末年始は除く)

相談対応：平日10時～17時は電話、夜間

・休日はFAX、留守番電話

ウ 相談件数 788件

相談領域	相談件数	割合
健康・安全	46	5.8%
しつけ全般	52	6.6%
遊び・友だち	68	8.6%
家庭・環境	95	12.1%
知能・ことば	14	1.8%
いじめ・不登校	34	4.3%
虐待・育児不安	25	3.2%
心理・性格	118	15.0%
集団生活・社会性	49	6.2%
学習・進路	45	5.7%
その他	242	30.7%
計	788	100%

(2) 子育てメール相談

ア 目的

子育てについて学ぶ余裕がない親、子育てに関心が薄い親、孤立しがちな親等、すべての親に対してきめ細かな家庭教育支援を行うため、ITを活用した家庭教育相談、情報提供を行う。

イ 内容

生涯学習推進センターが運営する「まなびネットいわて」を活用し、メール相談者に対する相談員によるアドバイスのメール回答や、配信希望登録者へのメールマガジン配信（毎週木曜日）等の情報提供を行う。

ウ 相談件数 494件（トップページカウント数4,647件）

相談領域	相談件数	割合
健康・安全	76	15.4%
しつけ全般	60	12.1%
遊び・友だち	10	2.0%
家庭・環境	67	13.6%
知能・ことば	5	1.0%
いじめ・不登校	1	0.2%
虐待・育児不安	14	2.8%
心理・性格	115	23.4%
集団生活・社会性	37	7.5%
学習・進路	12	2.4%
その他	97	19.6%
計	494	100%

第8節 広がりや深まりのある生涯学習の振興

第1 多様な学習活動を支援する環境の整備充実

学校教育ではぐくまれる「生きる力」を基盤とし、変化の激しい社会において、各個人が自立した一人の人間として力強く生きていくための総合的な力を身に付けることができるよう、学習情報提供や相談体制の充実、普及奨励、学習成果を生かす環境づくりなど、生涯にわたって学習を継続できるようにするための支援や環境等に取り組んだ。

1 生涯学習社会の実現を目指した推進体制の充実

近年における社会経済の急激な変化に伴う社会構造の変化、高度情報化や国際化の進展等の一方で、高齢化社会の進行も一層顕著になってきている。

生涯学習の推進においては、このような社会の変化に適切に対応しながら、一人一人が生きがいを感じながら学びを継続するとともに、学んだ成果を適切に生かしていくことが求められている。

平成18年12月には、時代の変化に対応すべく、教育基本法に「生涯学習の理念」(第3条)が新しく規定されたことをはじめ、「教育の目標(第2条)」、「家庭教育(第10条)」、「社会教育(第12条)」、「学校、家庭及び地域住民等の連携協力(第13条)」等、学校教育のみならず、生涯学習・社会教育関係の規定の充実も図られた。

本県においても、一人一人が真に生きがいのある人生を創造するとともに活力に満ちた地域社会を築くための施策の展開が求められている。

(1) 岩手県生涯学習審議会・岩手県社会教育委員会議の開催

生涯学習に関する基本的な施策を調査審議し、もって本県における生涯学習の総合的な振興を図るため、次の会議を開催した。

なお、平成19年度まで生涯学習審議会の開催を年1回とし、社会教育委員会議を年2回開催してきたが、両会議の関係は非常に密接であることから、平成20年度全員の委員が兼任し両会議を同時開催することとした。

【岩手県生涯学習審議会・岩手県社会教育委員会議】

ア 期日

第1回 平成23年7月27日

第2回 平成24年2月07日

イ 出席

第1回 委員16人中14人出席

第2回 委員16人中10人出席

ウ 内容

(ア) 平成23年度主要施策について

a 生涯学習文化課

b 学校教育室

- c スポーツ健康課
- d 県立生涯学習推進センター
- e 県立図書館
- f 県立博物館
- g 県立美術館
- h 公益財団法人岩手県スポーツ振興事業団

- (イ) 岩手県東日本大震災津波復興計画「復興基本計画（案）」について
- (ウ) 平成23年度優良PTA表彰・優良公民館表彰に係る選考について
- (エ) 平成24年度社会教育関係団体活動費補助金の交付について
- (オ) 平成22～23年度協議テーマ「本県における家庭教育の在り方」について

2 連携と協力による生涯学習の普及奨励

(1) 学習意識の啓発

県民の生涯学習に対する理解と意欲を高め、学習活動の充実を図るため、生涯学習推進センターにおいて、県内全市町村とのネットワークによる生涯学習情報提供システム「まなびネットいわて」等により、学習情報の提供や広報活動に努めた。なお、平成17年2月より、携帯電話によるアクセスも可能となっている。

ア【生涯学習情報提供事業】

- (ア) 生涯学習情報提供システム「まなびネットいわて」
 - a 情報量……………6,456件 [平成22年度15,084件、 8,628件減]
 - b 利用件数……………12,875件 [平成22年度23,709件、 10,834件減]
 - c トップページカウント数…… 20,571件 [平成22年度30,778件、10,207件減]

イ 生涯学習情報紙「岩手県立生涯学習推進センター情報」の発行

- (ア) 発行部数…………… 400部 [平成22年度400部] ※（県内小中学校へメール配信617件）
- (イ) 年間発行回数…………… 4回 [平成22年度4回]

(2) 学習活動の支援

県民の学習活動の成果を地域社会に生かすことができるよう生涯学習ボランティア活動推進事業を実施するとともに、所外学習情報提供システム「まなびネットいわて」において、広域的な学習機会と学習情報の提供に努めた。

また、電話による学習相談を行うとともに生涯学習推進専門研修講座を行った。

ア 生涯学習ボランティア活動推進事業（生涯学習推進センターボランティア登録数）

622人 [平成22年度614人、8人増]

イ 電話相談「マナビコール」の開設

- (ア) 開催日……………毎週月～金曜日
- (イ) 時間……………9時～17時
- (ウ) 相談員……………生涯学習推進センター専門職員
- (エ) 相談件数……………176件 [平成22年度262件、86件減]

第2 生涯にわたる学習機会の充実

生涯学習の中核を担う社会教育を充実するとともに、家庭教育をはじめとした生涯にわたる学習機会の充実を図り、自立した個人の育成や地域コミュニティの形成を促した。

1 成人の学習活動の支援

(1) 一般成人教育

ア 学級講座（成人大学講座等）

	市町村数	学級数	受講者数
成人大学講座	15	290	9,737
成人学級・講座	23	966	31,212
その他	18	171	14,948

イ 生涯学習ボランティア活動推進事業

県民の学習成果を地域社会における諸活動の中で生かすことのできる環境の整備に資する。

(ア) ボランティア登録者

登録者数……622人（生涯学習推進センター）

(イ) ボランティアの研修

岩手県読書をすすめるつどい

平成24年2月11日 アイーナ 220人参加 講演及び事例発表

ウ 成人団体活動の支援

(ア) P T Aへの補助【震災の影響により補助金交付中止】

補助団体	補助対象事業	事業内容	補助金額
(社) 岩手県P T A連合会	家庭教育セミナー	○平成23年9月10日、紫波地区(紫波町)、397人 ○平成23年12月3日、上閉伊地区(大槌町)、0人中止 ○アトラクション、映画鑑賞、トークショー、合唱	0千円
	岩手県P T Aリーダー研修会	○平成23年7月9日 ○盛岡市 ○「講話」及び「説明と意見交流」 ○参加者数467人	
	市町村P T A連合会	○33市町村 ○青少年の健全育成	
	会報発行	○「P T Aいわて」13,000部×3回	
岩手県高等学校P T A連合会	会長研修会	○平成23年10月28日～29日○花巻市ホテル千秋閣 ○研究協議・講演 ○参加者数54人	0千円
	事務局長研修会	○平成23年11月9日 ○盛岡市ホテルルイズ ○研究協議・講演 ○参加者数67人	
	母親委員研修会	○平成22年7月13日 ○盛岡市ホテルルイズ ○発表・講演 ○参加者数218人	

第3章 教育施策の推進状況

第8節 広がりや深まりのある生涯学習の振興

第2 生涯にわたる学習機会の充実

岩手県国公立幼稚園PTA連絡協議会		0千円
研究大会	○平成23年6月29日 ○一関市総合体育館 ○講演・研究協議 ○参加者数345人	
ブロック研修会	○平成23年6月～11月 ○4ブロック ○講演、実践交流会 ○参加者数372人	
会報発行	○2,500部×1回	

(イ) 岩手ユネスコ協会連盟への支援

事業名	実施期日	実施場所	対象及び人数		事業内容
			対象	人数	
東北ブロック・ユネスコ活動研究会岩手大会 ※ 第16回ユネスコ運動岩手県大会（平泉大会）		平泉町	東北ブロック連絡協議会、県内ユネスコ協会会員、一般県民	0人	・【震災の影響により、23年度開催取り止め】
ユネスコ活動顕彰事業（第16回いわてユネスコ賞）	11月15日（選考）	サンセール盛岡	ユネスコ賞選定委員会	13件	<ul style="list-style-type: none"> 科学賞：奥州市立白山小学校 盛岡農業高校森林文化研究班 文化賞：葛巻高校郷土芸能部 活動奨励賞：二戸市立金田一小学校 遠野市立青笹中学校 盛岡市立見前南中学校生徒会 教育賞：鈴木 泉 氏 特別賞：平泉文化財愛護少年団、水沢商業高校生徒会 水沢第一高校生徒会、大船渡市 片山和一良氏 NPO法人「体験村たのはたネットワーク」 田野畑交通有限会社
	11月29日 12月1日 12月15日（表彰）	田野畑・葛巻 水沢・平泉・盛岡 盛岡	表彰伝達		
国際交流活動研修会（第8回岩手県高校ユネスコ研究大会）	1月20日～21日	国立岩手山青少年交流の家	高校生、教員、ユネスコ会員、行政担当者、一般県民等	217人	テーマ 岩手ユネスコ2011「創ろう持続可能な未来 深めよう絆を」 ・講演「震災を乗り越えて～持続可能な未来へ～」 講師 鹿糠 敏和 氏 ・体験発表 ・分科会「世界遺産」「環境エネルギー」「平和」「世界の福祉」「被災地復興」 ・全体会 分科会学習発表 ・交流学习 ヴァイオリニスト 二村英仁 氏
高校ユネスコ活動充実事業	通年	盛岡市他	県高等学校ユネスコ委員会及び教員	—	県高等学校文化連盟国際理解専門部ユネスコ委員会と連携し、活動の促進を図り、助成
ユネスコ国際理解推進講師事業（地区講演会支援）	6月17日	二戸市浄法寺天台寺の湯	ユネスコ関係者他	25人	演題「私の背中を押し続けた一言」 講師 高橋 壯治 氏
	7月16日	北上市日本現代詩歌文学館	会員、一般市民	75人	演題「海洋2万哩(マイル)」 講師 三浦 茂男 氏
	11月16日	花巻市 大迫中学校	生徒、教職員、一般、会員	180人	演題「早池峰から世界が見える」 講師 加藤 哲郎 氏
	1月28日	平泉町 平泉文化遺産センター	高校生、一般、会員等	150人	演題「これからの平泉」 講師 近藤 誠一 氏

第3章 教育施策の推進状況

第8節 広がりや深まりのある生涯学習の振興

第2 生涯にわたる学習機会の充実

	2月25日	奥州市 前沢ふれあいセンター	会員、生徒	48人	演題「人と馬との絆」 講師 千葉 幹夫 氏
ユネスコ運動普及及広報活動（会報の発行及び普及講演会の実施）	5月20日	県内及び講演会等にて配布	ユネスコ協会、教員、県民	200部	26号
	8月10日			200部	27号
	2月20日			200部	28号
	10月2日	平泉町 平泉文化遺産センター	ユネスコ関係者、県民	76人	平泉文化遺産研修会 講演「世界遺産平泉の光」 講師 千葉 信胤 氏 中尊寺・毛越寺見学
	12月4日	盛岡市アイーナ	一般県民		「2011ワンワールドフェスタinいわて」で東日本大震災被災地の人々への激励色紙の展示
市町村ユネスコ活動懇談会	11月26日	盛岡市 岩手県公会堂	ユネスコ協会員、市民	36人	岩手県ユネスコ協会情報交換交流会 ・事例発表(気仙沼ユネスコ協会) 「東日本大震災とユネスコ活動」 ・情報交換・意見交換
	6月17日	浄法寺	ユネスコ会員	25人	浄法寺ユネスコ協会総会
	1月28日	平泉文化遺産センター	高校生、会員、一般県民	150人	スピリットOF平泉高校生英語スピーチコンテスト

(2) 女性教育

女性の地位向上と充実した人生の創造のため、多様で高度な学習機会を提供するとともに、女性の持つ豊かな感性を地域づくりに役立てる社会参加を促進した。

また、自主的な団体活動を促進するための指導者の養成に努めた。

ア 女性学級・講座

女性のライフスタイルや家庭生活の変化に伴い、女性の学習志向が一層高まり、婦人問題、生活上の課題を中心に、市町村を主体として計画的な学習が一定期間にわたり、継続して行われた。

【学級・講座開設状況】

区分	市町村数	学級数	学級生数
女性学級・講座	23	512	14,454
その他	11	124	2,641

イ 女性団体活動の支援

本県の女性団体は、女性の地位と福祉の向上及び相互の連携を図ることを目的とし、岩手県女性団体連絡協議会を組織している。

県教育委員会は、岩手県地域婦人団体協議会が行う社会的、公共的に意義のある事業に対してその経費の一部を補助し、また、その団体の自主性を尊重しつつ求めに応じて助言指導を行うなど、その活動の支援を図った。

【組織状況（平成23年4月1日現在）】

団体名	単位団体数	会員数
岩手県地域婦人団体協議会	38	9,331

- (ア) **リーダー研修会**（平成23年7月11日～12日 青少年会館 130人）
- a 講演「これからの社会教育と婦人会活動」
講師 石井山 竜平 氏（東北大学大学院教育学研究科准教授）
 - b 講演「婦人会のあゆみ」
講師 瀬川 智子 氏（特定非営利活動法人岩手県地域婦人団体協議会顧問）
 - c ビデオ視聴「ユキエ」
 - d リラックスタイム
フラダンス、簡単な手芸、健康体操
 - e 講話と報告
講話「結核と生活習慣病の話」
講師 松尾 洋一 氏（岩手県予防医学協会企画管理部 部長）
報告「結核予防関係婦人団体中央講習会に参加して」
岩手町 大坊 邦子会長、北上市 齋藤 和香子会長
 - f 東日本大震災津波について聴く
山田町 野田 和子会長、陸前高田市 佐々木 美代子会長
大船渡市 佐藤 ヒサ子会長、宮古市 山崎 セツ会長
- (イ) **第56回岩手県地域婦人大会**
【震災の影響により、23年度開催取り止め】

2 高齢者の学習活動の支援

○ 高齢者学級・講座

高齢者の高度で多様なニーズに対応するため、各市町村において今日的課題に関する講座や世代間交流事業などが、一定期間にわたり、継続して行われた。

区 分	市町村数	学級数	学級生数
高齢者学級・講座	27	696	38,092
その他	12	465	5,938

3 視聴覚教育

○ 視聴覚教育の推進

教育関係者には、視聴覚教材、機材を適切に活用し学習効果を高めるとともに、放送など視聴覚メディアの活用と併せ、メディアの研究開発による教育の機会の拡充を図ることが要請されている。また、指導者養成に当たっては、機器の操作や指導方法等について、専門的研修を実施し、指導法の浸透を図った。

ア 視聴覚教育指導者研修（社会教育関係）

視聴覚教育総合全国大会（宮城県仙台市） 平成23年11月11日 2人参加

イ 視聴覚ライブラリー専任職員研修会

視聴覚教育協議会専任職員等研修会（生涯学習推進センター）平成23年8月9日～10日 13人参加

ウ 16ミリ映写機操作技術講習会

[単位：回、人]

教育事務所	回数	修了者数
盛岡	3	55
中部	2	22
県南	2	26
沿岸南部	0	0
宮古	1	3
県北	0	0
計	8	106

エ 教材フィルム利用状況

[単位：本、人]

視聴覚ライブラリー名	利用状況	観覧者数
中央	1,462	25,360
花巻図書館	188	3,314
北上市	85	1,923
西和賀町	0	0
県南第一	1,078	29,425
沿岸第一	454	4,679
釜石市	8	149
遠野市	54	1,229
大槌町	0	0
久慈市	54	1,355
県北第二	176	3,720
二戸	222	5,277
計	3,777	76,431

4 指導体制の充実

社会教育活動を総合的、効果的に推進するため、市町村に社会教育主事が29人、社会教育指導員が58人配置されている。

県民の学習要求が高度化・多様化する中、社会教育関係職員の専門性が一層強く求められており、現職教育は重要な領域となっている。

平成23年度は、以下の研修等を行った。

(1) 新任社会教育関係職員研修講座

【期日 | 会場 | 参加者数】平成23年6月24日 | 生涯学習推進センター | 67人

【内容】生涯学習及び社会教育に関する基本的な事項及び職務に関する研修

(2) 生涯学習情報提供システム担当者研修会

【期日】平成23年7月20日

【会場 | 参加者数】生涯学習推進センター | 計23人

【内容】生涯学習情報提供システムの運用及び情報の更新、入力等に関する研修

(3) 社会教育指導員研修講座

【期日 | 会場 | 参加者数】平成23年6月13日 | 生涯学習推進センター | 102人

【内容】社会教育指導員としての任務、各分野における専門的事項に関する研修

(4) 放課後子どもプラン指導者合同研修会

【期日 | 会場 | 参加者数】(第1回)平成23年7月8日 | 生涯学習推進センター | 266人

(第2回)平成23年9月4日 | 生涯学習推進センター | 147人

(第3回)平成23年11月13日 | いわて子どもの森 | 128人

【内容】「放課後子ども教室」と「放課後児童クラブ」の指導者等の情報交換・情報共有・連携の促進、資質の向上を図る研修

第3章 教育施策の推進状況

第8節 広がりや深まりのある生涯学習の振興

第2 生涯にわたる学習機会の充実

(5) 岩手県社会教育委員・公民館運営審議会委員研究大会兼岩手県社会教育主事・公民館職員研修会

【震災の影響により、23年度は(6)と(7)の事業を同日開催】

【期日 | 会場 | 参加者数】 平成23年11月18日 | 盛岡市中央公民館 | 206人

【内容】 生涯学習及び社会教育に関する基本的な事項及び職務に関する研修

(6) 岩手県社会教育主事・公民館職員研修会

【震災の影響により、23年度は(5)と同日開催】

(7) 岩手県社会教育委員・公民館運営審議会委員研修会

【震災の影響により、23年度は(5)と同日開催】

(8) 教育メディア専門研修講座

期 日	会 場	参加者数	内 容
平成23年12月14日	生涯学習推進センター	17人	エクセル中級編
平成24年2月23日～24日	生涯学習推進センター	17人	ホームページ作成編

(9) 社会教育計画専門研修講座一

【震災の影響により、23年度開催取り止め】

(10) 事業プログラム作成専門研修講座

【震災の影響により、23年度開催取り止め】

(11) 読書ボランティア研修会

【期日 | 会場 | 参加者数】 平成23年11月25日 | 生涯学習推進センター | 215人

【内容】 読書ボランティアの資質向上とネットワーク形成に関する研修

(12) 移動研修講座

【期日 | 会場 | 参加者数】

期 日	会 場	参加者数
平成23年 5 月20日	二戸市	34人
平成23年 6 月 2 日	久慈市	47人
平成23年 6 月27日	西和賀町	23人
平成23年 7 月12日	雫石町	16人
平成23年11月29日	一関市	12人
平成23年12月 1 日	宮古市	22人
平成23年12月 9 日	金ケ崎町	18人
平成24年 2 月21日	釜石市	37人
平成24年 2 月24日	盛岡市	23人

【内容】 市町村の社会教育・生涯学習事業の充実を図るための専門的研修

(13) 図書館等職員研修

ア 新任図書館長等研修会

【期日 | 会場 | 参加者数】 平成23年11月29日～12月2日 | 県立図書館 | 2人

【内容】 (ア) 新任の図書館長及び公民館図書室等の長を対象にした基礎的研修

(イ) 講話 (市町村図書館等の運営)

(ウ) 講義 県立図書館等概況説明

(エ) 情報・意見交換

イ 生涯学習ボランティア活動推進事業

県民の学習成果を地域社会における諸活動の中で生かすことのできる環境の整備に資する。

岩手県読書をすすめるつどい (出典：岩手県立図書館統計資料)

平成24年1月29日 アイーナ 約280人参加 講演及び事例発表

(14) 図書館等職員研修 (出典：『要覧2012 (平成24年度版) 岩手県立図書館編集』)

ア 新任図書館長等研修会

【震災の影響により、23年度開催取り止め】

イ 初任職員研修会

【期日 | 会場 | 参加者数】 平成23年7月7日～8日 | 県立図書館 | 33人

【内容】

(ア) 市町村立図書館及び公民館図書室の経験年数3年未満の職員を対象にした実務に関する研修

(イ) 講話 (図書館の現状と今後のありかたについて)

(ウ) 講義 (被災地支援と県立図書館の役割、資料の受入～配架、図書館と著作権、レファレンスサービス、図書館の連携とホームページの利用)

(エ) 情報・意見交換

(オ) 館内見学

ウ 中堅職員研修会

【震災の影響により、23年度開催取り止め】

エ 図書館職員・図書館協議会委員合同研修会

【期日 | 会場 | 参加者数】 平成23年10月21日

| いわて県民情報交流センター (アイーナ) | 48人

【内容】

(ア) 基調講演 (災害を通してあらためて考える図書館の本質)

(イ) 事例発表 (被災館と支援館のネットワーク構築の経緯)

(被災図書館の支援：高田高校図書館の再開と『これから』)

(被災地でのBM運行への取り組み)

(ウ) 全体会

オ 市町村職員専門研修

期 日	会 場	参加者数	内 容
水損資料の応急処置	平成23年7月28日	県立図書館	45 報告、講義、演習
図書館によるビジネス支援に関するレファレンスツール紹介	平成23年11月1日	県立総合教育センター	33 講義、演習
資料修復 (被災防止)	平成23年11月17日	県立図書館	32 講義、演習
〃 (本の治療)	平成23年11月18日	県立図書館	36 講義、演習

(15) 文部科学省・国立教育政策研究所研修講座

ア 公民館職員専門講座

公民館職員に求められる専門的・実践的な知識技術についての研修

【期日 | 会場】平成23年6月27日～6月30日 | 国立教育政策研究所社会教育実践研究センター

【内容】講義、研究協議、事例研究等

【参加者数】3人（県立生涯学習推進センター、沿岸南部教育事務所、宮古教育事務所）

イ 全国生涯学習センター等研究交流会

生涯学習センター等の相互の連携協力を推進するため、当面する諸課題について研究協議する。

【期日 | 会場】平成23年6月2日～3日 | 国立教育政策研究所社会教育実践研究センター

【内容】基調講義、事例研究、総括討議等

【参加者数】なし

ウ 社会教育計画の立案と評価に関する研究セミナー

社会教育行政における計画、事業、施設経営等の評価を促進するため、計画の立案と評価の在り方について研究協議等を行う。

【期日 | 会場】平成23年11月7日～11日 | 国立教育政策研究所社会教育実践研究センター

【内容】基調講義、講義、演習等

【参加者数】なし

エ 全国社会教育主事研究協議会

都道府県・政令市の社会教育主事が一堂に会し、研究協議を行う。

【期日 | 会場】平成23年6月20日～21日 | 国立教育政策研究所社会教育実践研究センター

【内容】基調講演、事例発表、分科会、全体会等

【参加者数】2人（生涯学習文化課、中部教育事務所）

オ 新任図書館長研修

公共図書館の管理運営の向上及び情報提供サービスの高度化を図る

【期日 | 会場】

平成23年11月29日～12月2日 | (主)国立教育政策研究所社会教育実践研究センター、(副)岩手県立図書館

【内容】講義、実践報告等

【参加者数】2人（県立図書館、一戸町立図書館）

カ 美術館を活用した鑑賞教育充実のための指導者研修

鑑賞教育の重要性を踏まえ、全国の小中学校の教員と美術館の学芸員等が一堂に会し、研究協議を行う。

【期日 | 会場】平成23年8月1日～2日 | 東京国立近代美術館等

【内容】講義、研究討議、グループワーク等

【参加者数】2人（盛岡市立緑が丘小学校、県立美術館）

キ 地域教育力の向上に関する研究セミナー

地域教育力の活用を促す「コーディネーター」の役割等に視点をあて、地域教育力の向上に資する社会教育活動の推進方策及び事業の企画立案の在り方等について研究協議等を行う。

第3章 教育施策の推進状況

第8節 広がりや深まりのある生涯学習の振興

第2 生涯にわたる学習機会の充実

【期日 | 会場】平成23年9月28日～30日 | 国立教育政策研究所社会教育実践研究センター

【内容】研究協議、講義、事例研究、実践研修等

【参加者数】1人（県立生涯学習推進センター）

ク 社会教育主事専門講座

国の生涯学習施策についての理解をもとに研究協議を行い、都道府県・指定都市における生涯学習社会教育の充実・発展を図る立場としての力量を高める。

【期日 | 会場】平成23年11月16日～18日 | 国立教育政策研究所社会教育実践研究センター

【内容】特別報告、講義、シンポジウム、事例研究、グループ討議等

【参加者数】なし

ケ 生涯学習機関等の連携に関する実践研究交流会

生涯学習関係機関・団体の関係者がそれぞれの実践と研究成果をもとに交流し、連携・協力の推進方策等について研究協議等を行う。

【期日 | 会場】平成23年12月15日～16日 | 静岡県男女共同参画センター

【内容】基調講義、実践研究発表、パネルディスカッション等

【受講者数】なし

コ 社会教育主事講習への派遣

岩手大学社会教育主事講習

【期日 | 会場】平成23年7月19日～8月10日 | 岩手大学、いこいの村岩手

【内容】講義、演習、グループ研究等

【参加者数】21人：市町村職員9人、小学校教員5人、中学校教員5人、高等学校教員1人、特別支援学校教員1人

5 社会教育施設の整備充実（1 県立生涯学習推進センター）

(1) 運営の方針

本県生涯学習推進の中核機関として、県民の学習活動を支援、促進するため、生涯学習に関する情報提供、調査研究及び指導者養成等の事業を総合的、効果的に推進するとともに、市町村及び関係機関・団体との連携強化に努め、本県生涯学習の振興を図る。

(2) 運営の重点

ア 学習情報の提供

生涯学習情報システムなど、多様なメディアを活用した総合的な学習情報の提供及び学習相談の充実に努める。

(ア) 学習情報データベースの充実と生涯学習情報提供及び学習相談の充実

(イ) 家庭教育に関する情報提供及び相談の充実

(ウ) 生涯学習に関する広報活動の充実

イ 調査・研究

生涯学習に関する各種調査を実施するとともに、生涯学習推進上の諸課題に関する研究を推進し、本県生涯学習の振興に役立てる。

(ア) 生涯学習及び社会教育の推進状況等に関する調査の実施

(イ) 生涯学習推進上の諸課題に関する研究の推進

(ウ) 生涯学習推進研究発表会の開催

ウ 指導者の養成・研修

生涯学習関係職員及び有志指導者を対象とした研修を充実し、関係職員の資質の向上と指導者の養成を図る。

- (ア) 生涯学習推進上の課題を踏まえた基本研修、領域別研修、専門研修及び課題別研修の充実
- (イ) 有志指導者の養成研修の充実
- (ウ) 各機関・団体の学習課題に対応した希望研修の充実

(3) 事業等の実施状況

ア 学習情報の提供

- (ア) 生涯学習情報提供システム「まなびネットいわて」の管理運用
インターネットを活用し、各種の生涯学習情報を県民に提供した。

【生涯学習情報提供システム「まなびネットいわて」の利用状況】

分野	利用件数(前年比)	<参考>情報数(前年比)
講座・イベント	5,688 (△7,074)	626 (△3,636)
施設	933 (△712)	190 (△1,329)
団体・グループ	1,624 (△506)	569 (△1,544)
指導者	3,635 (△2,237)	172 (△442)
教材	995 (△305)	468 (△6,108)
計	12,875 (△10,834)	6,456 (△8,628)

(イ) 生涯学習情報紙の発行

【名称】岩手県立生涯学習推進センター情報

【内容】国・県・市町村における生涯学習の推進状況、県立生涯学習推進センターの事業に関する情報等

【発行部数・回数】50部・年4回 【配布先】県、市町村教育委員会、関係機関及び施設等

(ウ) 学習相談事業「マナビイコール」

【内容】生涯学習の推進に関する事業や学習活動についての電話相談

電話番号：0198-27-4563（月曜日～金曜日の9時～17時）

【相談件数】平成23年度176件

(エ) 子育て相談「すこやかダイヤル」

【内容】子育てに関する悩みや不安についての電話相談、面接相談

電話番号：0198-27-2134

（月曜日～金曜日の10時～17時、これ以外の夜間、休日はFAX、留守番電話対応）

【相談件数】平成23年度788件

(オ) 子育て相談「子育ていわてケータイサイト」

【内容】子育てに関する悩みや不安についての携帯電話メール相談、子育て情報提供

【相談件数】平成23年度494件

【子育て情報提供】毎週木曜日メールマガジン配信

第3章 教育施策の推進状況

第8節 広がりや深まりのある生涯学習の振興

第2 生涯にわたる学習機会の充実

イ 調査・研究

(ア) 研究紀要「いわての生涯学習」の発行

【震災の影響により、23年度発行休止・次年度再開】

(イ) 岩手県生涯学習推進研究発表会

【期日】平成24年2月9日～10日 【会場】生涯学習推進センター

【参加者数】128人（延べ204人）

【内容】 a 講演「社会教育による復興とまちづくり」

b 研究発表・協議「東日本大震災津波をふまえた公民館等の役割と課題に関する調査研究」

c パネルフォーラム「復興に向かって～今、私たちにできること～」

ウ 指導者の養成・研修

【生涯学習推進センター利用状況】

利用区分	事業数・団体数(前年比)	利用人数(前年比)
主催事業	11 (△7)	1,974 (△510)
随時研修	0 (0)	0 (0)
施設利用	38 (+1)	3,815 (△ 52)
その他	0 (0)	0 (0)
計	61(△17)	5,817 (△534)

【各種研修事業実施状況】 [単位：人]

区分	研修・講座名	期日	受講者数	
基本研修	新任社会教育関係職員研修講座	平成23年6月24日	67	
領域別研修	社会教育指導員研修講座	平成23年6月13日	102	
	放課後子どもプラン指導者合同研修会 第1回	平成23年7月8日	266	
	放課後子どもプラン指導者合同研修会 第2回	平成23年9月4日	147	
	生涯学習情報提供システム担当者研修会	平成23年7月20日	22	
	学校支援地域本部事業推進研修会	平成23年8月26日	96	
	家庭教育子育て電話相談員研修会	平成23年10月20日	7	
	子育て支援ネットワーク研修会	平成23年10月20日	89	
	読書ボランティア研修会	平成23年11月25日	215	
	岩手県社会教育主事・公民館職員研修会 [共催]	【震災の影響により取止め】		
	岩手県社会教育委員、公民館運営審議会委員研修会 [共催]	【震災の影響により取止め】		
専門研修	社会教育指導員等研修講座	【震災の影響により取止め】		
	事業周知・広報スキルアップ専門研修講座	平成23年10月7日	91	
	事業プログラム作成専門研修講座	【震災の影響により取止め】		
	教育メディア専門研修講座	エクセル中級編	平成23年12月14日	17
		ホームページ作成編	平成24年2月23日～24日	17
	対人関係スキルアップ研修講座	【震災の影響により取止め】		
移動研修講座（8回、8日）	平成23年5月20日 ～平成24年2月24日	232		
養成研修	家庭教育子育てサポーター養成講座 （生涯学習推進センター会場）	【震災の影響により取止め】		

第3章 教育施策の推進状況

第8節 広がりや深まりのある生涯学習の振興

第2 生涯にわたる学習機会の充実

	家庭教育子育てサポーター養成講座 (沿岸南部教育事務所会場)	【震災の影響により取止め】	
	親・地域との関係づくりセミナー	【震災の影響により取止め】	
その他	第1回高等学校卒業程度認定試験	平成23年8月3日～4日	438
	第2回高等学校卒業程度認定試験	平成23年11月19日～20日	341
	岩手県生涯学習推進研究発表会	平成24年2月9日～10日	128
	計		2,275

5 社会教育施設の整備充実（2 県立図書館）

(1) 運営の方針

ア 運営体制の充実と広報活動の推進

- (ア) 図書館の運営に関し協議等を行うため、図書館法第14条に基づく「岩手県立図書館協議会」を置く。
- (イ) 的確な図書館運営に対応するため、派遣研修等により職員の資質の向上に努める。
- (ウ) 県立図書館及び市町村立図書館等の活動に関する情報を広く県民に提供するため、各種印刷物やホームページ等を活用し、広報の充実を図る。

イ 図書館資料の収集、整理、保存と活用の推進

- (ア) 「岩手県立図書館資料収集方針」等に基づき、図書館資料を収集し、各種目録の整備を行い、県民及び市町村立図書館等の利用に供する。
- (イ) 郷土関係資料の保存機関として、東日本大震災に関する資料についても網羅的な収集、整理、保存に努め、その活用を図る。
- (ウ) 貴重資料の保存及び公開のため、昨年度に引き続きデジタルライブラリーの構築を図る。
- (エ) 県内の市町村立図書館等とのネットワークを構築し、県内総合目録の整備など、多くの県民が図書館資料を利用できる環境の整備を行う。

ウ 相談機能の強化

- (ア) レファレンス・サービスなどの情報提供や読書案内等を通じ、県民の学習活動の支援を行う。また、市町村立図書館等を支援する協力レファレンスや各種の情報提供を行う。
- (イ) 岩手県が抱える課題の解決に向け、ビジネス支援コーナーを引き続き設置するなどしながら、各種相談や情報提供を行う。
- (ウ) 郷土資料に関する各種データベースを構築し、ホームページ等を通じて県民及び市町村立図書館等に提供する。

エ 市町村立図書館等の支援の強化

- (ア) 多くの県民が図書館サービスを楽しむことができるよう、市町村訪問を積極的に実施するなどして市町村のニーズを把握し、図書館運営等に関する助言・支援を行うとともに、協力貸出等の各種支援を実施する。
- (イ) 市町村立図書館におけるレファレンス・サービスや児童サービスの充実、郷土に関する書誌情報の発掘・情報提供、学校図書館との連携など、図書館を取り巻く様々なテーマについて、市町村立図書館等と共同した調査・研究などの取組みを行う。
- (ウ) 市町村立図書館職員を対象とした専門研修など、時宜を得た研修を企画し、実施する。

オ 学習機会の提供と読書活動の奨励

- (ア) 他の社会教育施設や複合施設内の各施設、大学等との連携により、展示会、講演会及び映画会等の学習機会の提供を行うとともに、読書普及活動などに関する県民の活動成果を発表する場を提供する。
- (イ) 「岩手の読書週間」をはじめとする各種週間に合わせ、「岩手県読書をすすめるつどい」などの事業を実施するとともに、県内の読書サークルや各種団体、企業、学校、市町村等に対し、読書普及用の図書の貸出（団体貸出、セット貸出）を行い、県内の読書活動の促進を図る。

カ 関係機関・団体との連携強化

- (ア) 複合施設内の各施設との連携を図り、来館者の多様な学習ニーズに対応する。
- (イ) 県内外の公立図書館、岩手県図書館協会、岩手県読書推進運動協議会、各種ボランティアグループ及び読書グループ等との連携を密にし、図書館サービスの向上や読書の普及・奨励を図る。
- (ウ) 他の社会教育施設、大学や専門機関等との連携を強化し、情報提供等サービスの拡充を図る。

(2) 実施状況

ア 県立図書館協議会開催状況

【期日】平成23年10月25日

【協議事項】・東日本大震災に係る被災地・被災者等支援について

- ・平成22年度県立図書館事業実施状況等について
- ・平成23年度県立図書館利用状況等について
- ・平成24年度県立図書館事業計画等について

イ 広報活動

各種機関誌を発行するとともに、報道機関等への情報提供やホームページの充実に努めた。

ウ 図書館資料の収集（出典：岩手県立図書館統計資料）

岩手県立図書館資料収集方針に基づき図書館資料を収集した。郷土資料については、網羅的な収集に努めた。特に、東日本大震災津波に関する資料は各方面に呼びかけ、積極的に取り組んだ。資料収集等の実績は次のとおり。

(ア) 図書資料

[単位：冊]

区分	購入	寄贈	除籍	年度末総冊数
一般用	7,515	4,033	341	569,920
団体用	1,439	12	1,355	122,426
計	8,954	4,045	1,696	692,346

(イ) 視聴覚資料

[単位：点]

区分	購入	寄贈	除籍	年度末総点数
16ミリ映画フィルム	0	0	0	1,529
ビデオテープ	0	0	443	3,142

第3章 教育施策の推進状況

第8節 広がりや深まりのある生涯学習の振興

第2 生涯にわたる学習機会の充実

DVD	81	65	12	1,906
CD	24	41	29	3,828
レコード	0	0	0	1,492
録音テープ	0	0	0	1,448
レリーフ・巧芸画	0	0	5	97
計	105	106	489	13,442

(ウ) 新聞・雑誌 [単位：タイトル数]

区 分	年度末総タイトル数
新 聞	294
雑 誌	4,465
計	4,759

(エ) マイクロフィルム [単位：点]

区 分	購 入	寄 贈	除 籍	年度末総点数
マイクロフィルム	26	0	0	10,546

(オ) 電子資料 [単位：点]

区 分	年度末総点数
CD-ROM等	522
オンラインデータベース	17
計	539

(カ) 震災関連資料[単位：点](内数)

区 分	年度末総点数
図書資料等	2,811
視聴覚資料	8
計	2,819

(キ) デジタル化資料[単位：点]

資 料 名	年度末総点数
陸前国気仙郡絵図面他	13

エ 利用者サービス（出典：『要覧2012（平成24年度版）岩手県立図書館編集』）

(ア) 入館者数及び新規貸出登録者数

入館者数………512,250人[前年度比12,164人増]

新規貸出登録者数…6,945人[前年度比300人減]

(イ) 個人への館外貸出数

区 分	冊数又は点数
図書資料	282,919
視聴覚資料	19,579
うちビデオテープ	1,809
DVD	7,322
CD	10,448

(ウ) 図書館映画会及び読み聞かせ会

映画会は、一般向け38回、児童向け20回、計58回開催した。

また、児童向け読み聞かせ会を65回開催した。

(エ) 参考調査（レファレンス・サービス）

調べものや読書相談等に前年度に比べ3,355件増の延べ12,839件の利用があった。

第3章 教育施策の推進状況

第8節 広がりや深まりのある生涯学習の振興

第2 生涯にわたる学習機会の充実

(オ) ビジネス支援サービス（平成23年6月～）

区 分	総数
利用者数	4,542
相談件数	662
貸出冊数	7,660

注：「利用者数」は（ア）入館者数の、「相談件数」は（エ）の参考調査の件数の、貸出冊数は（イ）図書資料の館外貸出冊数の、それぞれの内数であること。

【ビジネス支援コーナー特別講演】

講 演 タ イ ト ル	開 催 日	参加者数
「色の力で楽しく働く楽しく育てる」	平成23年11月23日	60
「成功事例に学ぶ！ゼロからの起業を実現させるビジネスプラン作成術」	平成24年1月21日	41

(カ) 二次資料の作成

利用者のレファレンスサービス利用の便宜を図るため、二次資料を整備して提供した。

- ・レファレンス事例データベース
- ・国立国会図書館レファレンス共同データベース
- ・郷土関係雑誌目次集

オ 市町村への支援協力（出典：『要覧2012（平成24年度版）岩手県立図書館編集』等）

(ア) 市町村立図書館等職員専門研修

- ・水損資料の応急処置1回
- ・図書館によるビジネス支援に関するレファレンスツール紹介1回
- ・資料修復2回

(イ) 市町村立図書館等への訪問 126回

(ウ) 図書館等調査研究会の開催 委員16人 2回

(エ) 協力貸出

図書資料： 865件、1,736冊
視聴覚資料：(延べ14件) 14点

(オ) 団体貸出

図書資料： 31団体、36,047冊
視聴覚資料：25団体、46点

(カ) 展示資料の貸出

県立図書館で展示した図書資料を、希望する市町村立図書館延べ70館に一定期間貸し出した。

【貸出展示資料】

延べ452点：「文学賞受賞図書展」「原敬一立志の時代とゆかりの人々」「世界の平泉へ」「賢治資料展」「手づくり絵本展」他

(キ) 図書館等実態調査

県内の図書館等の図書施設の実態を市町村に提供するため、平成23年4月1日現在で調査を実施した。

カ 展示事業（出典：『要覧2012（平成24年度版）岩手県立図書館編集』等）

(ア) 4階展示コーナー企画展示

実施内容	展示点数	開催期間
大槻文彦と辞書の世界－『言海』刊行120周年－	110	平成23年4月29日～6月5日
岩手に残る教科書	179	平成23年6月14日～7月24日
世界の平泉へ	221	平成23年8月5日～9月25日
第30回賢治資料展	268	平成23年10月7日～11月27日
いわての手仕事	183	平成23年12月9日～平成24年1月22日
第32回手づくり絵本・紙芝居展	124	平成24年1月27日～2月3日
いわての歴史シリーズⅣ「いわてに生きる① 海とともに」	80	平成24年2月10日～4月15日

第3章 教育施策の推進状況

第8節 広がりや深まりのある生涯学習の振興

第2 生涯にわたる学習機会の充実

(イ) 各カウンターミニ展示

場 所	実施内容	開催回数
総合カウンター	「心に響くことばのちから—あの名言・文学から」など	81
児童コーナー	「おひっこし」など	
新聞・雑誌コーナー	「平泉を中心に、世界遺産」など	
音と映像コーナー	「職人の技法」など	

5 社会教育施設の整備充実（3 県立青少年の家）

(1) 県南青少年の家

ア 主催事業

- (7) 自然環境や地域の特性を生かした研修内容の充実を図った。
- (4) ボランティアの育成と活用による研修活動の充実を図った。
- (7) 関連施設・団体との連携による機能の活用を図った。

イ 研修活動

- (7) 団体等の研修目的や活動計画に対応した弾力的な運営に努めた。
- (4) 研修プログラム作成のための事前協議の奨励に努めた。
- (7) 職員研修の計画的な推進と利用団体に対する助言・指導の充実を図った。

ウ 利用の促進

- (7) 関係教育機関、団体との連携による年間にわたる効果的な利用の促進に努めた。
- (4) 施設開放と利用形態の多様化に対応した。
- (7) 親しみやすい施設運営と利用者層の拡大に努めた。

エ 環境の整備

- (7) 施設・設備の計画的な補修整備を行った。
- (4) 掲示資料等の収集と研修環境の整備を図った。
- (7) 施設・設備の点検と安全の確保に努めた。

(2) 陸中海岸青少年の家

ア 主催事業

【震災の影響により、23年度事業取り止め】

イ 研修活動

【震災の影響により、当所が避難所及び小学校として活用されたため、10月末まで活動を取止め、小学校1校が仮設校舎に移行したことにより、11月以降、研修活動の一部を開始】

- (7) 利用者の目的が達成するよう支援に努めた。
- (4) 施設の整備に努め柔軟な運営を図った。

ウ 利用の促進

- (7) 関係機関・団体へ利用周知・促進を図った。
- (4) 利用者が満足できる接遇に努めた。

エ 環境の整備

- (7) 施設・設備の整備・充実に努めた。
- (4) 活動環境の保全と美化の促進に努めた。
- (7) 情報収集及び提供に努めた。
- (5) 活動エリアの施設等点検と安全確保に努めた。

(3) 県北青少年の家

ア 主催事業

- (7) 自然体験プログラムやボランティア養成プログラム、指導者を対象にしたセミナー等、様々なニーズに応えられる事業の展開を図った。
- (4) 宿泊体験事業の拡大・充実に努めた。
- (7) 関係機関・NPO団体等との連携強化を図った。

イ 研修活動

- (7) 団体の研修目的や活動計画に対応した弾力的な運営に努めた。
- (4) 職員研修計画に基づき、意識改革、スキルアップ等の研修を行い、資質の向上を図った。

ウ 利用の促進

- (7) 訪問活動による利用団体の開拓を図った。
- (4) 施設開放事業を行い県民に親しまれるよう努めた。
- (7) 利用者の意向に沿った管理運営に努め、満足度の向上を図った。
- (5) 積極的な臨時開所の継続や「出前講座」の実施、月2回の地元FMラジオ番組への電話出演、ホームページ・ポスター・チラシ等で広報活動を展開した。

エ 環境の整備

- (7) 施設・設備の安全点検、補修整備を計画的に行った。
- (4) 研修環境の整備・改善及び情報提供を図った。
- (7) 自然環境に優しい施設及び環境美化に努めた。

第3章 教育施策の推進状況

第8節 広がりや深まりのある生涯学習の振興

第2 生涯にわたる学習機会の充実

【県立県南青少年の家 平成23年度主催事業及び自主事業】

(1) 「かるがも親子体験教室」

【目的】親子で共同体験や交流活動を行うことにより、相互の理解と関係を深めるとともに、親同士の交流を通して子育てをする仲間づくりを促進する。

【対象】小・中学生の子どもを持つ家族20家族40人程度

【内容|期日|参加者数】

①親子でアウトドアクッキング編|7月2日|44人

②親子でキャンプ!編|9月3日~4日|台風の影響で中止

(2) 自然ワンダークラブ

【目的】四季を通してさまざまな活動を体験することにより、環境についての考えを深め、自然を大切にしようとする心を育てる。

【対象】小学校4年生~中学生25人、高校・大学生等ボランティア

【内容|期日|参加者数】

①春 緑と友だち | 6月4日~5日 | 30人

②夏 川と友だち | 8月27日~28日 | 28人

③秋 山と友だち | 10月8日~9日 | 27人

④冬 雪と友だち | 1月28日~29日 | 27人

(3) 水と緑のフレンドシップ

【目的】異年齢集団による野外体験活動等を通して、主体的に活動する心豊かでたくましい青少年の育成を図る。

【内容】仲間づくりレク、キャンプ、野外炊事、創作活動等

【対象】小学校5年生~中学生30人、高校・大学生等ボランティア

【期日|参加者数】7月27日~7月31日|30人

(4) みんなdeスクラム

【目的】親子が気軽にさまざまな体験活動を行い、活動の喜びを共有しながら、経験の拡大と参加者相互の交流を図る。

【対象】特別な支援を要する児童・生徒とその保護者20人、高校・大学生等ボランティア

【内容|期日|参加者数】

①新緑の季節を体感しよう! | 6月11日 | 18人

②秋の実りを味わおう! | 9月17日 | 9人

(5) 冬のおもしろ体験ランド

【目的】冬の自然に触れながら、野外活動の喜びを体験するとともに、創作活動等を通じて参加者相互の交流を図る。

【内容】Enjoy!! スキー&スケート [スキー・スケート体験等]

【対象】小学校4年生~中学生30人、高校・大学生ボランティア

【期日|参加者数】2月4日~5日|24人

(6) 冬のわくわく創作ランド

【目的】長期休業を利用し、子どもたちに創作活動の機会を提供することで、物作りの楽しさを体験してもらうとともに、参加者相互の交流を深める。

【内容】「ライントレースカー」製作

【対象】小学校4年生~中学生30人

【期日|参加者数】1月7日|29人

(7) アドバイザースタッフ養成講座

【目的】児童生徒の学校外活動を援助する高校生・大学生等の育成を図り、施設におけるボランティア活動を推進する。

【内容】ニュースポーツ、創作活動、野外炊事等

【対象】高校生・大学生等ボランティア20人

【期日|参加者数】5月14日~15日|32人

(8) 集団宿泊指導研修会

【目的】宿泊研修を効果的に実施するための知識・技術の習得を図るとともに、利用団体間の計画調整を図る。

【内容】野外活動、創作活動、情報交換等

【対象】利用団体関係者等

【期日|参加者数】4月27日|85人

(9) 県南は~とふるDay

【目的】日常と異なる環境の中で、さまざまな体験活動を通して参加者相互の交流と経験の拡大を図る。

【内容】野外活動、創作活動等

【対象|期日|参加者数】学校不応児児童・生徒|8月30日|8人

(10) [自主事業] みどりのキャンパスふれあいフェスティバル

【目的】スポーツや創作活動等を通して、県南青少年の家に対する理解と親しみを深めるとともに、生涯スポーツ等への参加の契機とする。

【内容】ニュースポーツ体験、創作体験、作品展、食の祭典等

【期日|参加者数】10月1日~2日|1,507人

(11) [自主事業] 開所30周年記念事業「栗駒山トレッキング」

【目的】夏・秋の山という自然を舞台に、より安全なトレッキングの知識や技術を身につけながら余暇の充実を図る。

【内容|期日|参加者数】①夏山トレッキング|7月13日|16人

②夏山トレッキング|7月20日|13人

③紅葉トレッキング|9月21日|

台風の影響で中止

(12) [自主事業] みどりのキャンパスカップ「グラウンドゴルフ大会」

【目的】グラウンド・ゴルフを通し、心身の健康の増進を図るとともに、参加者の交流を広げ、生涯にわたってスポーツに親しむ機会を提供する。

【内容】グラウンド・ゴルフ大会

【対象】近隣市町村在住・60歳以上のグラウンド・ゴルフ愛好家288人

【期日|参加者数】10月26日|震災の影響により中止

(13) [自主事業] 県南青少年の家所長杯「サッカーフェスティバル」

【目的】スポーツを通して、青少年の健全育成を図るとともに、参加団体相互の交流を促進する。

【内容】サッカー試合、サッカー講習会

【対象】サッカースポーツ少年団15チーム

【期日|参加者数】10月1日~2日|1,096人

(14) [自主事業] 親子deチャレンジ!

【目的】体験活動をおとして親子のふれあいを高め、同行家族との親睦を深めるとともに、郷土の素晴らしさを知る。

【内容】親子でクリスマスキャンドル作り、もちつき

ダッチオープンでローストビーフ&もちもちベーグル

【対象】小中学生の子どもをもつ10家族25人

【期日|参加者数】11月19日|20人

(15) [自主事業] レッツ! スケート

【目的】青少年の余暇利用として、冬季野外活動の機会を提供するとともに、スケートを楽しみながら親子のふれあいや、参加者相互の交流を深める。

【対象】小学生~家族、一般40人

【期日|参加者数】①2月29日、②2月5日|①61人、②42人

(16) [自主事業] 親子de手作りクリスマス

【目的】親子で共同の創作体験や交流活動を行うことにより、相互の理解と関係を深めるとともに、親同士の交流を通して子育てをする仲間づくりを促進する。

【対象】小・中学生の子どもをもつ家族、

【期日|参加者数】①12月10日午前、②12月10日午後
|①68人、②42人

第3章 教育施策の推進状況

第8節 広がりや深まりのある生涯学習の振興

第2 生涯にわたる学習機会の充実

【県立陸中海岸青少年の家 平成23年度主催事業及び自主事業】

※ 震災の影響により、平成23年度主催事業及び自主事業開催はすべて取り止め

- | | |
|---|---|
| (1) 自然体験活動セミナー
【震災の影響により、平成23年度は取り止め】 | (10) やまびこキャラバン
【震災の影響により、平成23年度は取り止め】 |
| (2) 創作ひろば
【震災の影響により、平成23年度は取り止め】 | (11) ハートフルキャラバン
【震災の影響により、平成23年度は取り止め】 |
| (4) ワンダフルネイチャー
【震災の影響により、平成23年度は取り止め】 | (12) [自主事業] マリンランド杯交流ミニバスケットボール大会
【震災の影響により、平成23年度は取り止め】 |
| (5) 海釣り道場
【震災の影響により、平成23年度は取り止め】 | (13) [自主事業] マリンランド杯交流フットサル大会
【震災の影響により、平成23年度は取り止め】 |
| (6) 「家族ふれあい塾」
【震災の影響により、平成23年度は取り止め】 | (14) [自主事業]
ア マリンランド杯交流ミニバスケットボール大会
【震災の影響により、平成23年度は取り止め】 |
| (7) 自然体験塾
【震災の影響により、平成23年度は取り止め】 | イ グラウンドゴルフ大会
【震災の影響により、平成23年度は取り止め】 |
| (8) レッツスケート
【震災の影響により、平成23年度は取り止め】 | イ ゲートボール大会
【震災の影響により、平成23年度は取り止め】 |
| (9) アドバイザースタッフセミナー
【震災の影響により、平成23年度は取り止め】 | (15) 親子Deチャレンジ!!
【震災の影響により、平成23年度は取り止め】 |

【県立県北青少年の家 平成23年度主催事業及び自主事業】

- | | |
|---|--|
| (1) 野外活動セミナー
【目的】野外活動プログラムの展開に必要な実技研修を行うことにより、当施設利用において円滑な活動を行う資質を培う。
【内容】施設見学、利用説明、野外炊事、プログラム相談等
【対象】利用団体の担当者・野外活動担当者 定員なし
【期日 参加者数】①4月27日 13人 ②5月25日 31人 | (5) プラネタリウム鑑賞デー
【目的】季節の星座の紹介など、プラネタリウム鑑賞を通して、天文や宇宙への興味を喚起する。
【内容 対象】
プラネタリウム投影等 子どもから大人まで 60人
【期日 参加者数】①7月3日 80人 ②9月18日 71人
③12月18日 155名 |
| (2) ジュニアフォレスト大作戦
【目的】森林に関する学習や体験活動等を季節ごとに行うことにより、自然を大切にすることを育み、環境保全の実践意欲を育てる。
【内容】森林学習、自然観察、野外炊事、創作活動等
【対象】小学校4年生～小学校6年生 40人
【期日 参加者数】①5月14日～15日 51人
②10月1日～2日 44人 ③1月21日～22日 36人 | (6) サマースクール
【目的】野外活動等を通して、自然を大切にすることを、豊かな感性や思いやりの心を育むとともに、活動意欲に満ちたリーダーの育成を図る。
【内容】自然体験、野外活動、創作活動等
【対象】小学校3年生～4年生 40人
【期日 参加者数】7月16日～17日 40人 |
| (3) ボランティア研修会
【目的】高校生等のボランティア活動への参加意欲を高め、当施設におけるボランティア育成を図る。
【内容 対象】講話及び実習等 高校大学生等、一般 定員なし
【期日 参加者数】①6月3日～5日 5人 ②9月23日～25日 10人 | (7) サマーわくわく体験
【目的】中期にわたる多彩な活動を通して、自主性や忍耐力、協調性を育むとともに、活動意欲に満ちたリーダーの育成を図る。
【内容】自然体験、野外活動、野外炊事、キャンプ体験等
【対象】小学校5年生～6年生 30人
【期日 参加者数】7月26日～29日 17人 |
| (4) わんぱく広場
【目的】体験活動を通して、多様な事柄に興味関心を持つ心を育むとともに、友達や親子のふれあいを深める。
【内容】創作体験
【対象】子どもから大人まで 60人程度
【期日 参加者数】6月5日 131人 | (8) サマーチャレンジキャンプ
【目的】中期にわたる自然体験活動を通して、自主性や忍耐力、社会性を育むとともに、活動意欲に満ちたリーダーの育成を図る。
【内容】自然体験、野外活動、野外炊事、キャンプ体験等
【対象】小学校5年生～中学生 30人
【期日 参加者数】8月7日～11日 32人 |

第3章 教育施策の推進状況

第8節 広がりや深まりのある生涯学習の振興

第2 生涯にわたる学習機会の充実

(9) あつまれキッズランド

【目的】自然に親しむことができる学びの場において自立心や協調性を育むとともに、参加者同士の交流を図る。

【対象】小学校1年生～2年生 各回30人

【内容】レクリエーション、テント泊、野外炊事等

【期日 | 参加者数等】①9月23日～24日 | 31人
②9月24日～25日 | 28人

(10) 星友の日

【目的】青少年の家等で、学校不適応児童・生徒が生活範囲を広げる機会を提供することにより、参加者の行動意欲を高める。

【内容】創作活動、スケート

【対象】小・中学校の学校不適応児童・生徒 定員なし

【期日 | 参加者数】12月19日 | 4人

(11) スケート実技セミナー

【目的】スケート利用団体の指導者の各技能別による技術の向上を図るとともに、各技能別指導法を研修する。

【内容】スケート教室の展開（実技・説明）、プログラム相談等

【対象】11月から3月までのスケート場利用団体担当者 定員なし

【期日 | 参加者数】10月28日 | 6人

(12) スケート場感謝デー

【目的】「いわて教育の日」の趣旨を踏まえて、県北青少年の家のスケート場を開放し、家庭・地域のふれあいを促進するとともに、健全育成を図る。

【内容】スケート場無料開放、氷上スポーツ体験等

【対象】子どもから大人まで 定員なし

【期日 | 参加者数】11月3日 | 748人

(13) だれでも氷上スポーツ

【目的】冬季スポーツの振興を図るとともに、青少年の健全育成を図る。

【内容】①～③技能別スケート教室等 ④カーリング教室等

【対象】①～④子どもから大人まで 各回50人程度

【期日 | 参加者数】①11月5日 | 66人 ②11月26日 | 54人
③12月3日 | 56人 ④2月4日 | 69人

(14) [自主事業] 県北さくらまつり

【目的】桜の開花時期に合わせて屋外施設を一般開放し、日頃の利用に感謝するとともに、当施設の本格的な活動時期の到来を広く県民に周知する。

【内容】うどん打ち体験、流しうどん

【対象】子どもから大人まで 定員なし

【期日 | 参加者数】5月8日 | 50人

(15) [自主事業] いきいきスポーツ大会

【目的】高齢者がお互いに交流を持ちながら、いきいきと活動できる場を提供し健康増進を図る。

【内容】グラウンド・ゴルフ大会

【対象】グラウンド・ゴルフ愛好者 100人程度

【期日 | 参加者数】5月18日 | 147人

(16) [自主事業] 県北フェスティバル

【目的】施設を開放し、生涯学習の拠点としての青少年の家への理解を深め、各種体験活動の中で参加者相互の交流を図る。

【内容】創作体験、盆踊り、プラネタリウム鑑賞等

【対象】子どもから大人まで 定員なし

【期日 | 参加者数】8月21日 | 618人

(17) [自主事業] 親子deチャレンジ!

【目的】体験活動を通して、親子のふれあいを高め、同行家族との親睦を深めるとともに、郷土の素晴らしさを知る。

【内容】創作体験、もちつき体験、わんこそば体験、情報交換会等

【対象】小学生以上の子どもの持つ家族 10家族30人程度

【期日 | 参加者数】11月19日～20日 | 8家族27人

(18) [自主事業] 氷上綱引きカップ

【目的】団体競技を通して、お互いの親交を深め、青少年の健全育成と健康づくりを図る。

【内容】氷上綱引き

【対象】小学生の部、大人の部（中学生以上）合計20チーム

【期日 | 参加者数】3月3日 | 211人

(19) [自主事業] スケートキッズ感謝デー

【目的】氷上スポーツの普及と冬季における体力・健康増進を図るとともに、中学生以下のスケート場入場料を無料とし開放することにより利用促進を図る。

【内容】スケート教室等

【対象】中学生以下の子ども 定員なし

【期日 | 参加者数】3月20日 | 436人

5 社会教育施設の整備充実（4 県立博物館）

岩手県立博物館は、本県における教育、学術及び文化の発展と、新しい郷土を築く県民意欲の高揚に寄与することを基本姿勢として運営に努めている。平成23年度は、テーマ展の開催、各種講演会、セミナーの開催など、館の内外にわたる積極的な活動を展開するとともに、東日本大震災により被災した文化財等資料を救出するため、岩手県教育委員会主導のもと、文化財レスキュー活動を行った。

第3章 教育施策の推進状況

第8節 広がりや深まりのある生涯学習の振興

第2 生涯にわたる学習機会の充実

(1) 博物館協議会開催状況

ア 平成23年度岩手県立博物館協議会

- ① 期日 平成23年11月29日
- ② 会場 岩手県立博物館会議室
- ③ 協議事項
 - a 平成23年度博物館事業実施状況について
 - b 平成24年度博物館事業計画(案)について
 - c 博物館の今後の在り方について

(2) 平成23年度利用状況

総利用者数：40,833人
 入館者数……………30,643人
 教育普及事業参加者数……………10,190人
 移動展入館者数……………【震災の影響により中止】

【平成23年度入館者数】

[単位：人、日]

区分 月	個人利用				団体利用				免除利用				総利用人員				開館 日数	1日平均 利用人数
	一般	高大学生	小中学生	計	一般	高大学生	小中学生	計	一般	高大学生	小中学生	計	一般	高大学生	小中学生	計		
4	473	18	376	867	0	0	0	0	276	23	76	375	749	41	452	1,242	25	49
5	1,202	39	764	2,005	50	0	9	59	610	150	581	1,341	1,862	189	1,354	3,405	26	130
6	554	9	322	885	47	105	0	152	514	0	1,799	2,313	1,115	114	2,121	3,350	26	128
7	1,078	40	867	1,985	108	0	103	211	733	27	658	1,418	1,919	67	1,628	3,614	27	133
8	1,329	71	1,028	2,428	218	5	531	754	365	9	447	821	1,912	85	2,006	4,003	28	142
9	666	38	411	1,115	65	0	0	65	712	126	1,217	2,055	1,443	164	1,628	3,235	17	190
10	711	36	433	1,180	159	0	29	188	557	194	574	1,325	1,427	230	1,036	2,693	26	103
11	650	40	422	1,112	68	0	0	68	650	5	410	1,065	1,368	45	832	2,245	26	86
12	432	13	290	735	35	0	65	100	270	0	209	479	737	13	564	1,314	24	54
1	522	27	406	955	6	0	36	42	270	0	206	476	798	27	648	1,473	24	61
2	420	10	249	679	28	0	0	28	929	0	216	1,145	1,377	10	465	1,852	25	74
3	796	33	567	1,396	46	0	33	79	472	0	270	742	1,314	33	870	2,217	27	82
計	8,833	374	6,135	15,342	830	110	806	1,746	6,358	534	6,663	13,555	16,021	1,018	13,604	30,643	301	101

(3) 博物館活動

ア 資料の収集保管活動

(ア) 資料の収集整理

平成23年度は、右の11,172点の資料
 についての受け入れ、登録事務を行っ
 た。

【収集資料数】 [単位:点]	地質	生物	考古	歴史	民俗	計
平成22年度末 累計	8,721	109,364	40,841	36,947	17,273	213,146
平成23年度登録点数	67	10,212	91	324	478	11,172
計	8,788	119,576	40,932	37,271	17,751	224,318

(イ) 資料の貸出状況

他の博物館、美術館などに展示や研究等の目的で貸出した資料は、次のとおりである。

- a 地質 アケボノゾウ生体復元1/7縮小模型ほか 99点
- b 生物 岩手県産タヌキ骨格標本ほか 3点
- c 考古 土偶（一関市寺場遺跡）ほか 39点
- d 歴史 三閉伊日記ほか 138点
- e 民俗 浄法寺絵皿ほか 179点

(ウ) 文化財科学

資料の保存と活用のため、適切な環境の維持、調整に努めた。

また、資料の保存管理のために必要なくん蒸消毒と科学的保存処理を行った。

第3章 教育施策の推進状況

第8節 広がりや深まりのある生涯学習の振興

第2 生涯にわたる学習機会の充実

イ 調査研究活動

博物館における調査研究活動は、共通テーマのほか地質、生物、考古、歴史、民俗及び文化財科学の各分野ごとに行う研究テーマと全分野で取り組む総合調査とがある。

平成23年度は23テーマについて年次計画に従い研究を進めた。

分野	調査研究テーマ
地質	「地域地質に関する研究」ほか2テーマ
生物	「地域生態系の研究」ほか4テーマ
考古	「考古学史の研究」ほか2テーマ
歴史	「近世史の研究」ほか3テーマ
民俗	「有形民俗資料の保存・修復に関する研究」ほか4テーマ
文化財科学	「文化財の保存環境に関する研究」ほか2テーマ

ウ 展示活動

(ア) 常設展示の充実

「総合展示」「いわて文化史展示室」「いわて自然史展示室」等の展示替え

(イ) 特別展示等の開催

種別	名称	会期
テーマ展	くらしと古文書	平成23年4月9日～5月8日
トピック展	「平泉の文化遺産」パネル展	平成23年9月17日～10月10日

※平成23年度の特別展示は東日本大震災津波のため中止となった。

※テーマ展「くらしと古文書」は平成23年3月19日～5月8日までの開催予定であったが、東日本大震災の影響で平成22年度内の開催ができなかったものである。

※トピック展「平泉の文化遺産」パネル展は、「平泉の文化遺産」が世界遺産に登録されたことを記念して行われた事業のひとつである。

(ウ) 解説会

以下のとおり、計175回催し、2,765人の参加があった。

a 特別展示・展示解説会 (2回開催、延べ50人参加)

期日	場所	担当	テーマ
平成23年4月9日	特別展示室	歴史	テーマ展「くらしと古文書」
平成23年5月3日	特別展示室	歴史	テーマ展「くらしと古文書」

b 常設展示・展示解説会 (173回開催、延べ2,715人参加)

区分	回数	参加者数	場所	担当	内容
定時解説	49回 (日曜日を除く毎日)	延べ148人	総合展示室	学芸第三課 (解説員)	総合展示室の展示資料についての展示解説会
通覧解説	124回 (随時)	延べ2,567人			

第3章 教育施策の推進状況

第8節 広がりや深まりのある生涯学習の振興

第2 生涯にわたる学習機会の充実

エ 教育普及活動

【講演会、観察会等の開催事業一覧】

No.	開催事業名	開催回数	参加者数
1	県博日曜講座	21回	711人
2	館長講座	1回	76人
3	考古学セミナー	2回	81人
4	文化財レスキューフォーラム	1回	70人
5	特別講演会	1回	100人
6	文化講演会	1回	82人
7	博物館秋期セミナー	3回	218人
8	冬期文化講演会	1回	142人
9	民俗講座	1回	73人
10	国際博物館の日記念事業	1回	24人
11	博物館写生会	1回（21日）	48人
12	ミュージアムシアター	10回	294人
13	伝統芸能鑑賞会	2回	536人
14	第61回自然観察会	1回	18人
15	第62回自然観察会	1回	19人
16	第61回地質観察会	1回	26人
17	第62回地質観察会	1回	20人
18	古文書入門講座	8回	120人
19	古文書初・中級講座	8回	196人
20	いわて学	1回	83人
21	博物館実習	1回（7日）	110人
22	文化財取扱講習会	1回（3日）	35人
23	体験教室みんなでためそう！	50回	1,497人
24	チャレンジ！博物館	51回	1,320人
25	やってみ体験	4回	233人
26	博物館夏休み子どもバスツアー	4回	258人
27	県博出前講座	25回	1,035人
	計	—	7,425人

第3章 教育施策の推進状況

第8節 広がりや深まりのある生涯学習の振興

第2 生涯にわたる学習機会の充実

1 県博日曜講座（21回開催、延べ711人参加）

期 日	場 所	テ ー マ
4月10日	講堂	古文書に見る江戸時代の旅
4月24日	講堂	くらしと書き物 昔と今
5月8日	講堂	大名行列がやってくる～参勤交代と花巻～
5月22日	講堂	身近にいる知られていない生物変形菌
6月12日	講堂	美しい砂の世界～砂の話あれこれ～
6月26日	講堂	岩手の砂
7月10日	講堂	クズヤの由来について
7月24日	講堂	土偶のはなし
8月14日	講堂	松平定信の文化財調査～南部氏ゆかりの鎧～
8月28日	講堂	海を渡った鉄～蕨手刀と擦文・オホーツク文化～
9月11日	講堂	岩手県内の鍾乳洞探検と状況について
10月9日	講堂	藩成立当初の八戸藩（秋期セミナーを兼ねる）
10月23日	講堂	絵図からたどる八戸藩の歴史（秋期セミナーを兼ねる）
11月13日	講堂	岩手のどぶろく小話
11月27日	講堂	平泉と世界遺産登録
12月11日	講堂	クマガラの巣穴を利用する鳥獣
12月25日	講堂	津波と「つつちい」～クジラ標本救出の前と後～
1月8日	教室	救出された鳥羽源蔵標本の重要性
1月22日	教室	被災した古文書等の修復～文化財レスキュー活動を通して～
2月12日	教室	平泉勢力圏の範囲と内部構造
2月26日	教室	バーチャル土偶展
3月11日	教室	光の中の宮沢賢治
3月25日	教室	いわての“めん”から見える世界

2 館長講座（76人参加）

【期日】9月19日 【場所】講堂

【テーマ】岩手の地名に日本語の源流をたどるⅡ

3 考古学セミナー（2回開催、延べ81人参加）

期 日	場 所	テ ー マ
7月31日	講堂	縄文世界の土偶～多彩な造形とその魅力～
8月20日	八戸市	現地見学会「国宝土偶詣で」

4 文化財レスキューフォーラム（70人参加）

【期日】3月22日 【場所】遠野市文化研究センター

【テーマ】文化財レスキューについて

5 特別講演会（100人参加）

【期日】9月25日 【場所】講堂

【テーマ】ツキノワグマを調べる～森には何頭のクマさんが？～

6 文化講演会（82人参加）

【期日】11月3日 【場所】講堂

【テーマ】日記からさぐる八戸藩士の江戸暮らし

7 博物館秋期セミナー（3回開催、延べ218人参加）

期 日	場 所	テ ー マ
10月9日	講堂	藩成立当初の八戸藩（県博日曜講座を兼ねる）
10月23日	講堂	絵図からたどる八戸藩の歴史（県博日曜講座を兼ねる）
10月30日	岩手町 花巻市	現地見学会 「初代八戸藩主夫人壺松院ゆかりの地を訪ねて」

8 冬期文化講演会（142人参加）

【期日】2月2日 【場所】講堂

【テーマ】戊辰東北戦争と明治維新

9 民俗講座（73人参加）

【期日】3月20日 【場所】講堂

【テーマ】復興祈念特別講演会「立ちあがる人間のちから」

10 国際博物館の日記念事業（24人参加）

【期日】5月15日 【場所】全館

【内容】収蔵庫等のバックヤード見学ツアー

11 博物館写生会（21日間開催、延べ48人参加）

【期日】12月17日～1月15日 【場所】館内

【内容】盛岡北部の小学生、幼稚園・保育園児を対象に実施

12 ミュージアムシアター（10回開催、延べ294人参加）

【期日】第一土曜日 【場所】講堂

【内容】博物館資料や展示・季節等に関連する16ミリ映画上映

13 伝統芸能鑑賞会（2回開催、延べ536人参加）

期 日	場 所	テ ー マ
9月23日	グランドホール	川西大念仏剣舞～祈りと鎮めの心～
2月11日	グランドホール	春を招く若人の舞 (青森県立田子高等学校郷土芸能部)

14 第61回自然観察会（18人参加）

【期日】6月5日 【場所】滝沢村・八幡平市

【テーマ】湿原の成り立ちを知ろう

15 第62回自然観察会（19人参加）

【期日】6月26日 【場所】盛岡市

【テーマ】北上川グリーンベルトを歩こう！

16 第61回地質観察会（26人参加）

【期日】7月3日 【場所】奥州市

【テーマ】赤金鉱山跡を訪ねて

17 第62回地質観察会（20人参加）

【期日】10月9日 【場所】田野畑村

【テーマ】田野畑村の宮古層群

18 古文書入門講座（8回開催、延べ120人）

【期日】6月中 【場所】教室

【内容】基礎的な仮名文字・崩し字を学ぶ

19 古文書初・中級講座（8回開催、延べ196人）

【期日】7月中 【場所】教室

【内容】入門講座修了者程度を対象に古文書の形式を学ぶ

20 いわて学（83人参加）

【期日】6月18日 【場所】講堂

【内容】大学生を対象に「いわて」についての全体学習

21 博物館実習（7日間開催、延べ110人実習）

【期日】8月19日～8月26日 【場所】全館

【内容】学芸員資格取得を希望する学生への館務実習を実施

第3章 教育施策の推進状況

第8節 広がりや深まりのある生涯学習の振興

第2 生涯にわたる学習機会の充実

22 文化財等取扱講習会

(3日間開催、35人受講)

【期日】2月1日～2月3日 【場所】全館

【対象】県内市町村の文化財担当職員
及び博物館等職員

23 体験教室みんなでためそう!

(50回開催、延べ1,497人参加)

【期日】毎週日曜日 【場所】実技室ほか

【内容】博物館に親しむためのプログラム

24 チャレンジ! 博物館

(51回開催、延べ1,320人参加)

【期日】第二・第三土曜日と日曜日 【場所】展示室

【内容】月ごとにテーマを設定し、オリエンテーリング形式のワークシートによる資料探索

25 やってみ体験 (4回開催、延べ233人参加)

期日	場所	内容及び体験団体
7月26日	実技室	ちぎり絵のうちわ (盛岡市立大新児童館)
7月30日	実技室	石のオリジナルはんこ (紫波八幡子ども会)
10月14日	実技室	スライムであそぼう (水道橋くるみ幼稚園すみれ組)
12月10日	実技室	スライムであそぼう (石神子ども会)

26 博物館夏休み子どもバスツアー

(4回開催、延べ258人参加)

【期日】7月23日、8月5日、8月6日、8月8日

【場所】全館

【内容】博物館遠方居住児童を対象に無料送迎バスを運行し、博物館にて体験教室等に参加していただく

27 県博出前講座 (25回開催、延べ1,035人)

期日	場所	テーマ
7月8日	滝沢村立姥屋敷小中学校	春子谷地に学ぶ
7月22日	岩手県立水産科学館	ウミホタルの発光原理解説
7月23日	八幡平市博物館	世界遺産と平泉
7月30日	岩手大学・春子谷地	春子谷地の生物
7月31日	一戸町	平糠のイヌブナ林
8月26日	盛岡市立太田小学校	水生生物による水質調査
8月27日	八幡平市博物館	八幡平の植物について
9月13日	もりおか老人大学松園分校	平泉とその周辺
9月25日	ひづめ館懇話会	平泉と比爪
10月2日	宮古高校PTA	瀬戸内寂聴記念館と天台寺
10月14日	二戸市議会事務局	南部氏系譜と八戸藩成立過程
10月25日	盛岡市婦人ボランティア野の花会	盛岡の大地から地球の歴史を考える
10月29日	野村胡堂・あらえびす記念館協力会	発掘調査から見た江戸時代の人々の暮らし
11月15日	岩手大学付属中学校	被災文化財について
11月18日	岩手県立軽米病院	いわての漆
12月1日	茨城県自然博物館	被災自然史標本の救出から広がる博物館活動
12月10日	盛岡市中央公民館	古文書にみる暮らしと習慣
12月17日	自然史学会連合会	被災自然史標本の救出から広がる博物館活動
1月7日	盛岡市中央公民館	盛岡藩御釜師小泉仁左衛門の仕事
1月18日	文化財愛護協会	八戸藩をつくった母と子
2月23日	九戸村教育委員会	岩手の年中行事と衣食住
2月23日	紫波町立古館小学校	むかしの暮らしについて
2月26日	NPO体験村たのはたネットワーク	たのはたジオのお宝発見ツアー
3月9日	北日本銀行館坂支店	考古学でさぐる平泉と奥州藤原氏
3月11日	岩手町中央公民館	川口源之丞とその娘たち

[参考] 県内社会教育施設の設置・利用状況（県立を除く）

(※各項目の利用実績は、平成22年度実績)

1 図書館（平成23年4月1日現在）

	合 計	図書館	公民館等館
施設数	51	44	7
職員数	415	384	31
（うち専任）	105	100	5
蔵書総冊数	4,109,869	3,901,452	208,417
年間受入冊数	139,091	133,418	5,673
貸出冊数	4,949,678	4,792,616	157,062

※ 震災のため、調査対象外となった下記図書館を除く

図書館：陸前高田市立図書館、大槌町立図書館、山田町立図書館、野田村立図書館

公民館等館：田野畑村教育委員会

2 公民館（平成23年10月1日現在）

	合 計	本館 計	本館		分館
			中央館	地区館	
施設数	365	219	22	197	146
職員数	862	691	132	559	171
（うち本務）	175	175	44	131	0
（〃 兼務）	194	172	44	128	22
（〃 非常勤）	493	344	44	300	149
利用団体数	90,499	80,119	6,415	73,704	10,380
利用者数	3,164,463	2,878,379	530,718	2,347,661	286,084
（うち団体）	2,922,571	2,647,944	505,672	2,142,272	274,627
（〃 個人）	241,892	230,435	25,046	205,389	11,457

3 博物館等（平成23年10月1日現在）

	合 計	教育委員会所管	他所所管
施設数	103	67	36
職員数	441	258	183
（うち本務）	200	83	117
（〃 兼務）	72	72	0
（〃 非常勤）	169	103	66
※学芸員数（内数）	(63)	(52)	(11)
来館者数	2,255,647	550,714	1,704,933

4 青少年教育施設（平成23年10月1日現在）

	合 計	教育委員会所管	その他所管
施設数	12	8	4
職員数	60	41	19
（うち本務）	19	16	3
（〃 兼務）	20	13	7
（〃 非常勤）	21	12	9
利用団体数	661	661	0
利用者数	89,877	55,866	34,011
（うち団体）	43,939	43,939	0
（〃 個人）	45,938	11,927	34,011

5 文化施設（平成23年10月1日現在）

	合 計	教育委員会所管	その他所管
施設数	31	24	7
職員数	186	88	98
（うち本務）	109	43	66
（〃 兼務）	34	34	0
（〃 非常勤）	43	11	32
利用団体数	36,522	29,778	6,744
利用者数	2,006,603	1,597,237	409,366
（うち団体）	1,484,676	1,144,923	339,753
（〃 個人）	521,927	452,314	69,613

6 その他の社会教育施設（平成23年10月1日現在）

	合 計	教育委員会所管	その他所管
施設数	119	69	50
職員数	286	113	173
（うち本務）	89	3	86
（〃 兼務）	68	68	0
（〃 非常勤）	129	42	87
利用団体数	47,710	15,278	32,432
利用者数	1,030,863	436,530	594,333
（うち団体）	938,269	368,713	569,556
（〃 個人）	92,594	67,817	24,777

第9節 地域の「創造力」向上を目指した文化芸術の振興

第1 文化振興基金を活用した支援等

1 創作・発表・鑑賞機会の拡充

文化振興基金を活用した支援等により、各地域において優れた芸術芸能に触れ、鑑賞する機会の拡大を図ったほか、若い世代の活動や発表を行う機会の拡大を推進した。

また、優れた芸術文化を広く県民に鑑賞する機会を提供するため、各種の舞台芸術事業を開催した。

さらに、創作活動を奨励するため、県人作家の文芸作品、美術活動等の奨励を行い、芸術活動の振興と水準の向上を図った。

(1) 公益財団法人岩手県文化振興事業団文化振興基金助成事業

ア 既存事業

[単位：件、千円]

事業区分	件数	助成額	事業内容
文化活動成果発表事業	6	4,400	全国太鼓フェスティバルほか
各種大会参加事業	1	2,000	ミュージカル平泉上演実行委員会
文化活動研修事業	4	2,400	芸術文化講座ほか
文化団体備品整備事業	20	4,530	「盛岡さんさ踊り清流会」備品整備ほか
刊行物発行业	2	500	「葛巻町風と恋の俳句コンテスト作品集」の発刊ほか
参加する文化活動推進事業	6	2,890	いしがきMUSIC FESTIVAL2011
特認事業	1	950	岩手県芸術文化活動記録集刊行
計	40	17,670	

イ 新規特別枠事業

[単位：件、千円]

事業区分	件数	助成額	事業内容
芸術情報化事業	2	1,800	岩手県中学校総合文化祭記録DVD作製ほか
芸術の里づくり事業	3	4,970	まちかど美術館アート@つちざわほか
新進・若手芸術家等派遣事業	1	2,999	(社)岩手県芸術文化協会新進・若手芸術家等派遣事業
アートマネージャー育成事業	7	625	「久慈市文化会館」アートマネージャー育成事業ほか
アートマネジメント推進事業	3	6,000	岩手県内広域公立文化会館複数連携「参加型子ども舞台創作体験」事業ほか
計	16	16,394	

ウ 復興支援・備品整備事業

[単位：件、千円]

事業区分	件数	助成額	継承する演舞等
備品整備事業	38	32,344	赤澤鎧剣舞ほか

第3章 教育施策の推進状況

第9節 地域の「創造力」向上を目指した文化芸術の振興

第1 文化振興基金を活用した支援等

エ 復興支援・公演等支援事業

[単位：件、千円]

事業区分	件数	助成額	事業名
備品整備事業	8	3,334	加油日本中国江蘇省演芸集団東日本大震災被災者支援チャリティ公演ほか

(2) 第64回岩手芸術祭

ア 開幕式典・開幕フェスティバル

【期日】平成23年10月1日（土）【会場】岩手県民会館中ホール 【鑑賞者数】530人

イ 美術展

種目	期間	会場	入選点数／応募点数	鑑賞者数
洋画	平成23年10月1日～10月4日	岩手県民会館	226点 / 226点	4,843 人
彫刻			18点 / 18点	
工芸	平成23年10月7日～10月10日		73点 / 73点	
書道			221点 / 251点	
日本画	平成23年10月13日～10月16日		57点 / 57点	
版画			33点 / 33点	
水墨画			129点 / 143点	
写真	平成23年10月20日～10月23日		135点 / 145点	
デザイン			71点 / 71点	
現代美術			33点 / 33点	

ウ 巡回美術展

期間	会場	鑑賞者数
平成23年10月26日～10月30日	奥州市文化会館展示室	1,865人
平成23年11月12日～11月13日	久慈市文化会館	
平成23年11月19日～11月20日	岩泉町民会館	
平成23年11月22日～11月24日	一戸町コミュニティセンター	

エ 小・中学校美術展（小学校書写、中学校書写、小学校絵画、中学校美術）

期間	会場	入賞・入選点数／応募点数	鑑賞者数
平成23年11月18日～11月20日	岩手県民会館展示室	1,372点 / 7,822点	2,255人

オ 巡回小・中学校美術展（小学校書写、中学校書写、小学校絵画、中学校美術）

期間	会場	展示点数	鑑賞者数
平成23年12月2日～平成24年2月23日	7市町村7会場	305点	2,887人

カ 映像フェスティバル

【期日】平成23年10月30日 【会場】プラザおでって（盛岡市） 【鑑賞者数】84人

第3章 教育施策の推進状況

第9節 地域の「創造力」向上を目指した文化芸術の振興

第1 文化振興基金を活用した支援等

キ 演劇

[単位：人]

内容	期日	会場	鑑賞者数
「劇団岩手ぶどう座」公演	平成23年10月15日	銀河ホール（西和賀町）	200
「劇団赤い風」公演	平成23年11月3日～11月5日	いわてアートサポートセンター/風のスタジオ	150
「劇研青い海」公演	平成23年11月20日	釜石ステーションホテル/5Fホール	50
「劇団我夢」公演	平成23年12月18日	奥州市文化会館/中ホール	365
「二戸演劇協会the雲人」公演	平成24年3月25日	二戸市文化会館/大ホール	300

ク 伝統芸能

[単位：人]

内容	期日	会場	鑑賞者数
茶会	平成23年10月2日	盛岡市中央公民館	768
吟詠剣詩舞道祭	平成23年10月16日	岩手県民会館大ホール	1,085
華道展	平成23年10月28日～10月31日	岩手県民会館展示室	2,139
謡と仕舞の会	平成23年11月6日	岩手県民会館中ホール	420
邦楽のつどい	平成23年11月13日	岩手県民会館中ホール	385

ケ 音楽

[単位：人]

内容	期日	会場	鑑賞者数
ソロと室内楽の調べ	平成23年10月16日	岩手県民会館中ホール	462
ピアノコンクール&演奏会	平成23年10月22日	岩手県民会館中ホール	300
三曲演奏会	平成23年10月23日	岩手県民会館大ホール	408
声楽部門演奏会	平成23年11月5日	岩手県民会館中ホール	272
ギター音楽の夕べ	平成23年11月19日	岩手県民会館中ホール	221
吹奏楽演奏会	平成23年11月20日	盛岡市民文化ホール大ホール	895
合唱祭	平成23年12月11日	さくらホール（北上市）	1,030

コ 舞踊

[単位：人]

内容	期日	会場	鑑賞者数
洋舞発表会	(中止)		
日本舞踊公演	平成23年11月20日	岩手県民会館大ホール	1,487

サ 演芸

[単位：人]

内容	期日	会場	鑑賞者数
民謡まつり	平成23年11月6日	岩手県民会館大ホール	987
新舞踊発表会	平成23年11月13日	さくらホール（北上市）	1,350

シ 文芸祭

[単位：人]

内容	期日	会場	鑑賞者数
小説大会	平成23年10月16日	岩手県民会館	14
戯曲大会	平成23年11月5日～6日	盛岡劇場（盛岡市）	43

第3章 教育施策の推進状況

第9節 地域の「創造力」向上を目指した文化芸術の振興

第1 文化振興基金を活用した支援等

文芸評論大会	平成23年10月9日	岩手大学図書館（盛岡市）	10
随筆大会	平成23年10月30日	Zホール会議室（奥州市）	49
児童文学大会	平成23年11月6日	野村胡堂・あらえびす記念館（紫波町）	11
詩の大会	平成23年10月23日	なはんプラザ（花巻市）	21
短歌大会	平成23年10月8日	共済ビル（盛岡市）	102
俳句大会	平成23年10月8日	岩手県公会堂（盛岡市）	77
川柳大会	平成23年10月23日	盛岡南SCナックスホール（紫波町）	88

ス 県民文芸作品集第42集刊行

【発行日】平成23年12月10日

【掲載点数】138点

【応募点数】477点

セ 移動公演

[単位：人]

内容	期日	会場	鑑賞者数
演劇	平成23年11月26日	一戸町コミュニティセンター	50
新舞踊	平成23年12月18日	サンホテル衣川荘（奥州市）	219

(3) 創作活動奨励事業

ア 芸術選奨

分野	受賞者	受賞作品
文芸（随筆）	村田 久（一関市）	エッセイ集「家を抜け出し、川に佇つ」
文芸（俳句）	工藤 節郎（盛岡市）	第三句集「勾玉」
文芸（短歌）	藤原 保子（山田町）	歌集「際海」

イ 美術選奨

受賞者	分野	受賞対象活動
泉田 之也（野田村）	窯芸	個展（盛久ギャラリー 9月）
伊藤 暢浩（盛岡市）	写真	個展（イエロープラントギャラリー 4月）
斎藤 由朋（宮城県）	ビデオインスタレーション	企画展（彩園子 2月）
佐佐木 實（東京都）	書	個展（盛久ギャラリー 2月）
南館 麻美子（神奈川県）	版画	個展（諄子美術館 9月）

第3章 教育施策の推進状況

第9節 地域の「創造力」向上を目指した文化芸術の振興

第1 文化振興基金を活用した支援等

2 拠点施設の機能の充実

文化活動の拠点施設として、岩手県民会館、県立博物館、県立美術館及び県立埋蔵文化センターの管理運営の充実と施設設備の機能の向上を図った。県民会館においては自主文化事業の充実、県立博物館においては展示内容等の充実（⇒P120～124）、県立美術館において地元作家の作品収集と企画展の充実、及び県立埋蔵文化財センターにおいては発掘調査等を推進した（⇒P133～134）。

(1) 県民会館

ア 施設利用状況

芸術文化普及振興の拠点施設として、県民の活動発表や鑑賞等の芸術文化関係の催し物のほか、学会、大会等に利用されるとともに、演奏会、展示会、講演会等に数多く利用されている。

【県民会館の利用状況】[単位：日、%]

	大ホール		中ホール		第1展示室		第2展示室		会議室(5室)	
	利用日数	利用率	利用日数	利用率	利用日数	利用率	利用日数	利用率	利用日数	利用率
4月	3	15.8	7	36.8	11	57.9	11	57.9	7	36.2
5月	9	31.0	9	33.3	23	79.8	13	44.8	13	44.8
6月	17	65.4	18	69.2	28	100.0	28	100.0	16	61.5
7月	25	89.3	24	85.7	19	63.3	19	63.3	19	66.0
8月	22	81.5	17	56.7	28	93.3	12	40.0	21	70.6
9月	18	69.2	17	63.0	12	41.4	12	41.4	20	71.4
10月	24	82.8	26	89.7	25	86.2	25	86.2	24	85.5
11月	19	70.4	26	92.9	19	65.5	18	62.1	20	73.6
12月	16	64.0	17	68.0	20	76.9	15	57.7	14	55.5
1月	0	100.0	0	100.0	0	100.0	0	100.0	0	100.0
2月	13	65.0	15	68.2	19	76.0	17	68.0	16	67.2
3月	19	65.5	20	83.3	21	70.0	21	70.0	19	64.6
計	185	64.9	196	68.8	225	74.0	191	62.8	193	64.3

イ 自主文化事業の実施状況

(ア) 参加型・育成型事業

[単位：人]

期日(回数)	公演名	主な出演者等	会場	入場者数
9月17日	いわてJAZZ2011	出演者：ボブ・ジェームス、松居慶子、寺井尚子カルテット 他	大ホール	753
10月15日	弦楽合奏団パディヌリ第15回定期演奏会	演目：平和への賛歌 他	大ホール	471
11月4日	ざ・CLASSIC2011	出演者：松岡淳、花坂義孝、菅野祥子 他	中ホール	336
12月27日	岩手の民謡をたずねて	出演者：藤沢東清、菊池信夫、千葉栄人、漆原栄美子 他	大ホール	910
2月12日	岩手県民オーケストラ・岩手県合唱連盟復興祈念	指揮：今村能 ヴァイオリン独奏：原田智子 他	大ホール	1,180
7月20日他8回	ロビーコンサート	出演者：太田代将孝、N響メンバーとその仲間たち 他	ロビー	785
6月6日	バックステージツアー	参加者：岩手大学教育学部		12
4月30日他12回	慰問演奏会	演奏先：大船渡リアスホール、甫嶺小学校 他		

(イ) コンサートサロン

[単位：人]

期日	公演名	会場	入場者数
5月12日	第181回 錦織健テノール・リサイタル	中ホール	577
9月13日	第182回 吉田恭子ヴァイオリン・リサイタル	中ホール	333
11月28日	第183回 アンサンブル・ベルリンコンサート	中ホール	480

(ウ) 鑑賞サービス事業

[単位：人]

期日(回数)	公演名	主な出演者等	会場	入場者数
7月3日	レ・フレールコンサート	出演者：レ・フレール	大ホール	981

第3章 教育施策の推進状況

第9節 地域の「創造力」向上を目指した文化芸術の振興

第1 文化振興基金を活用した支援等

9月5日	ミュージカル「アテルイ」北の耀星	出演者：劇団わらび座	大ホール	1,100
9月27・28日	文楽	出演者：豊竹咲大夫、鶴澤清治、吉田義助 他	大ホール	2,250
10月31日	シルヴィ・ギエム&東京バレエ団「HOPE JAPAN盛岡特別公演」	出演者：シルヴィ・ギエム、チャイコフスキー記念東京バレエ団	大ホール	1,842
12月13日	西本智実指揮「クリスマス・アダージョ」 withシンフォニエッタ・クラコヴィア	指揮：西本智実 出演者：リ・ミード、イ・ソジョン 他	大ホール	1,154

(2) 県立美術館

ア 岩手県立美術館協議会の開催状況

区分	期 日	場 所	内 容
第1回	平成23年10月26日	岩手県立美術館会議室	① 平成23年度美術館事業実施状況 ② 平成24年度美術館企画展開催計画案 ③ 美術館運営
第2回	平成24年2月28日	岩手県立美術館会議室	①平成23年度美術館事業実施状況 ②平成24年度美術館企画展開催計画案 ③美術館運営

イ 利用状況

[単位：人、日]

区分	常設展					開催日数
	観覧者数				小 計	
	小・中・高生	大学生等	一 般	小 計		
4月	32	17	344	393	22	
5月	403	107	1,017	1,527	27	
6月	356	28	749	1,133	26	
7月	221	59	966	1,246	26	
8月	452	77	1,455	1,984	26	
9月	371	79	1,289	1,739	24	
10月	334	195	1,138	1,667	26	
11月	813	108	2,538	3,459	26	
12月	204	35	710	949	24	
1月	123	51	689	863	22	
2月	337	58	721	1,116	25	
3月	99	71	1,435	1,605	27	
計	3,745	885	13,051	17,681	301	

第3章 教育施策の推進状況

第9節 地域の「創造力」向上を目指した文化芸術の振興

第1 文化振興基金を活用した支援等

ウ 展示事業

(ア) 常設展の開催

[単位：人]

区 分	会 期	観覧者数
第4期展示	平成23年1月13日～4月24日	292(4月1日以降)
第1期展示	平成23年4月27日～7月10日	3,195
第2期展示	平成23年7月13日～9月25日	4,437
第3期展示	平成23年9月29日～平成24年1月9日	6,425
第4期展示	平成24年1月13日～4月22日	3,332(3月31日まで)

(イ) ワンデイ・ミュージアム・ツアー

県北・沿岸地域に居住する県民を対象に無料バスツアーを実施し、美術鑑賞の機会を提供。

【期日】平成24年3月4日

【参加者数】223人

エ 教育普及事業

(ア) 展示関連事業

a 復興支援展示事業プログラム

○ギャラリートーク………学芸員による展示作品の解説

【期日】平成23年10月28日、11月3日、11月18日、12月2日

【参加者数】57人

展示関連講座等

[単位：人]

内 容	講 師 等	期 日	参加者数
ハートマーク♥ビューイング	日比野克彦 氏	平成23年7月10日	40
絵本・児童文学作家たちによる応援メッセージ・直筆画展		平成23年8月9日 ～8月21日	1,681
デイリリー・アート・サーカス	同事業実行委員会	平成23年9月1日	56
ワークショップ「木でつくるー根付／広野流ー」	広野 じん氏	平成23年9月23日	41
コンサート チェロが語る「ふるさとへの思い、こころ」	渡辺 宏 氏 川田健太郎氏	平成23年10月8日	80
フォーラム「震災と芸術」	吉増 剛造 氏 酒井 忠康 氏	平成23年11月26日	50
キャンドルナイト&コンサート	西村 康信 氏	平成23年12月23日	162
末森千枝子氏講演会	末森千枝子 氏	平成24年3月20日	118
希望への絵画		平成24年3月3日 ～3月25日	132
おかえりアルバムづくりWS	藤井 敬子 氏 岡本 幸治 氏	平成24年3月20日	20
復興支援展示事業 アーティストトーク (年6回)	鎌田紀子 氏他	平成23年9月～ 平成24年3月	237

第3章 教育施策の推進状況

第9節 地域の「創造力」向上を目指した文化芸術の振興

第1 文化振興基金を活用した支援等

b あーとキャラバン

アートデオヤコ「ユメノマチ」ができるまで

【期日】 平成23年5月21日、22日（陸前高田） 平成23年6月18日、19日（大船渡）
 平成23年7月23日、24日（釜石） 平成23年8月27日（宮古）
 平成23年9月25日（田老） 平成23年9月26日（田野畑・岩泉）
 平成23年10月15日、16日（野田・久慈） 平成23年11月20日（洋野）
 平成23年12月11日（山田）

【参加者数】 545人

b 常設展教育プログラム

- コレクショントーク……学芸員による常設展示作品の解説

【期日】 毎月第2・第4土曜日に、年間24回開催

【参加者数】 112人

- 子ども向け鑑賞カードの運用
- 音声ガイドの更新

(イ) 美術普及事業

a スタジオプログラム

- 油絵体験講座

【期日】 平成23年6月11日、6月18日、6月25日
 平成23年11月26日、12月3日、12月10日
 平成24年2月18日、2月25日、3月3日

【参加者数】 11人

【参加者数】 12人

【参加者数】 12人

- オープンスタジオ 【期日】 平成23年11月3日

- アートデオヤコ……親子でいろいろな素材に触れて楽しむワークショップ。

【期日】 毎月実施 【対象】 3～6歳児と保護者 各10組

【参加者数】 497人

- 子供向けワークショップ

・ジュニアワークショップ 夏「クッションに描くー浅倉伸の描き方ー」

【期日】 平成23年8月28日、9月3日

【参加者数】 39人

・ジュニアワークショップ 冬「テツで編む」

【期日】 平成24年2月11日、12日

【参加者数】 33人

b 教育プログラム

・学生サポートスタッフの育成

【登録者数】 18人

c 美術プログラム

[単位：人]

内 容	期日	参加者数
館長講座 (年6回)	平成23年5月7日、7月16日、9月17日、11月19日 平成24年1月21日、3月17日	201
学芸普及課長講座(年3回)	平成23年10月2日、12月4日、平成24年2月5日	56
学芸員講座 (年4回)	平成23年5月28日、7月24日、11月20日 平成24年2月11日	91
ミーツ・ザ・アーティスト (年2回)	平成23年11月23日、平成24年1月29日	307

第3章 教育施策の推進状況

第9節 地域の「創造力」向上を目指した文化芸術の振興

第1 文化振興基金を活用した支援等

d 映像プログラム

○ アートシネマ上映会……美術に関連する作品等幅広いラインナップで上映 [単位:人]

期 日	内 容	鑑賞者数
平成23年4月17日	ポール・グリモー短編傑作集	10
平成23年5月15日	黄金の七人	32
平成23年6月19日	消えたフェルメールを探して	51
平成23年7月17日	禁じられた遊び	57
平成23年8月14日	アンリ・カルティエ＝ブレッソン「瞬間の記憶」	38
平成23年9月18日	エルミタージュ美術館	32
平成23年10月23日	日本のアウトサイダーアート 人のカタチ	22
平成23年11月27日	水の花	40
平成23年12月25日	レベッカ・ホルン	20
平成24年1月22日	ハーダー・ゼイ・カム	25
平成24年2月12日	モンド	28
平成24年3月18日	フリーダ・カーロ	37

(ウ) 来館者対応事業

- a 美術館探検「てくてくツアー」 【期日】 毎月開催（年6回） 【参加者数】 73人
 b 団体対応 【期日】 随時 【利用者数】 1,733人
 c 美術相談 【期日】 随時

d ライブラリー企画

[単位:人]

期 日	内 容	参加者数
平成23年5月3日、8日	手作り豆本講座	89
平成23年9月10日	トピ°アと朗読による宮澤賢治の世界	45
平成23年12月17日	美術館でおはなし会	28

オ 広報事業

- (ア) 美術館ニュース「アプリーレ」……年2回
 (イ) 常設展展示目録、ポスター……常設展の展示替えの都度
 (ウ) 美術館スケジュール等……年4回

カ 美術品修復保存事業

美術品をより良い状態で保存し展示に活用するため、所蔵作品の修復を実施。

- [修復作品] 佐藤 祐司《題名不詳》 ブロンズ4点、合成樹脂1点
 堀江 尚志《兎》セメント 長さ26cm

第3章 教育施策の推進状況

第9節 地域の「創造力」向上を目指した文化芸術の振興

第1 文化振興基金を活用した支援等

キ 自主事業

(ア) 復興支援展示：通年テーマ「アートのチカラ、いわてのタカラ」

[単位：人]

会 期	内 容	鑑賞者数
平成23年7月2日～ 9月28日	「'70、'80年代生まれの美術家たち、 I MA (いま) ここで」展	7,194
平成23年10月8日～ 12月11日	「いわて 美術の歴史」展	5,451
平成23年12月18日～ 平成24年2月26日	「私たちがI MA (いま) 在ること」展	2,992
平成24年3月3日～ 3月25日	「1年後のI MA (いま) -岩手芸術祭受賞作品 ・推薦作家展+岩手県美術選奨受賞者作品展-」	2,110

(イ) 美術館まつり

【期 日】平成23年11月3日

【参加者数】1,325人

(ウ) コンサート事業

[単位：人]

内 容	出演者	期 日	参加者数
祈り・いやし・願い ～うたごえを春風にのせて～	太田代将孝 不来方高校音楽部	平成23年5月15日	286
マリンバ・ヴィブラフォン・ブレッソンによる Autumn Charity Concert	江越 海 鈴木 佳奈子 松坂 千恵	平成23年9月11日	84
チェロとピアノ 名曲の調べ	渡邊 辰紀 平賀 寿子	平成23年10月23日	130
フルートの調べ	土川 舞 千葉 由紀枝 佐藤 浩子	平成23年11月27日	218
ミュージアムコンサート (年5回)		平成23年12月～ 平成24年3月	367

(エ) 出前美術館

[単位：人]

期 日	内 容	参加者数
平成23年5月26日、6月10日	豆本づくり	31
平成23年9月9日、9月30日	心の星々	35
平成23年5月26日～平成24年3月31日	出前ライブラリー	

3 文化交流・連携の促進

本県文化の全国への発信及び出演団体の資質の向上を図るため、国民文化祭への派遣団体に対し、交通費の一部を補助した。

○ 国民文化祭参加推進事業

【期 日】平成23年10月29日～11月6日

【場 所】京都府

【参 加】3団体、計80人

【補助額】1,680千円

第3章 教育施策の推進状況

第9節 地域の「創造力」向上を目指した文化芸術の振興

第2 中学生・高校生に対する文化活動支援

第2 中学生・高校生に対する文化活動支援

中学生・高校生の文化活動を支援することにより、本県芸術文化の次代の担い手が育つ体制づくりを推進した。

1 青少年劇場

(1) 本公演

[単位：公演、人]

種目	演目	期日	会場	公演数	鑑賞者数
声楽	よだかの星	平成23年6月6日～6月14日	釜石市ほか3市町村	5	1,851
器楽	姜建華とシルクロードアンサンブル	平成23年5月31日～6月8日	雫石町ほか7市町村	12	6,822
児童劇	青少年「狂言」鑑賞会	平成23年6月13日～6月30日	一関市ほか4市町村	9	3,091

(2) 小公演

[単位：公演、人]

種目	演目	期日	会場	公演数	鑑賞者数
器楽	古館由佳子ジプシーヴァイオリンコンサート	平成23年9月6日～9月9日	盛岡市、岩泉町 釜石市	7	316

2 次代を担う子どもの文化芸術体験事業（巡回公演事業）

[単位：公演、人]

種目・演目	期日	会場	公演数	鑑賞者数
オーケストラ、児童劇、音楽劇、演劇、能楽、バレエ、合唱	平成23年9月20日～平成23年11月25日	奥州市立白山小学校ほか12校	13	2,934

次代を担う子どもの文化芸術体験事業（派遣事業）

[単位：公演、人]

種目・演目	期日	会場	事業数	鑑賞者数
生活文化（茶道、着付け）	平成23年10月27日～平成23年12月8日	水沢第一高等学校	1	216

3 第34回岩手県高等学校総合文化祭

[単位：人]

部門	期日	会場	参加校数等	入場者数
総合開会式	平成23年10月7日	岩手県民会館	105校	約1,900
書道	平成23年11月22日～11月28日	岩手県民会館展示室	48校 1,252点	約640
美術工芸	平成23年11月11日～11月14日	岩手県民会館展示室	66校 982点	約1,960
合唱	平成23年7月12日	二戸市民文化会館	41団体800人	約1,000
	平成23年8月27日	岩手県民会館大ホール	29校 約720人	約1,000
吹奏楽	平成23年7月30日	一関文化センター	12校 780人	約1,226
	平成23年8月7日	岩手県民会館大ホール	20校 1,048人	約2,036
演劇	平成23年10月17日、19日～23日	北上市文化交流センター中ホール	13校 143人	約283
文芸	平成23年10月14日	日本現代詩歌文学館	48校 4,742作品	—
囲碁	平成23年10月14日～10月15日	岩手県高校教育会館	20校 86人	—
将棋	平成23年10月21日～10月22日	岩手県高校教育会館	26校 179人	—
器楽	平成23年10月28日	岩手県民会館中ホール	5校	—
写真	平成23年9月23日～9月27日	岩手県民会館展示室	31校 435作品	約504
放送	平成23年6月7日	岩手県民会館中ホール	23校 175人	約277
	平成23年11月8日	岩手県民会館中ホール	21校 169人	約230
郷土芸能	平成23年10月15日	岩手県民会館大ホール	16校 350人	約500

第3章 教育施策の推進状況

第9節 地域の「創造力」向上を目指した文化芸術の振興

第2 中学生・高校生に対する文化活動支援

新聞	平成23年10月21日	岩手県公会堂	4校	10作品	—
自然科学	平成23年12月14日	岩手県立総合教育センター	14校	165人	—
英語	平成23年9月28日	岩手県民会館中ホール	15校	23人	約123
吟詠剣詩舞	平成23年10月21日	岩手県民会館中ホール	7校	13人	30
日本音楽	平成23年10月4日	岩手県民会館中ホール	7校	60人	約110
国際理解	平成23年9月22日	盛岡市勤労福祉会館	4校	6人	約50
	平成23年10月7日	岩手県赤十字会館	14校	74人	—
マーチングバンド・バトントワリング	平成23年9月24日	水沢総合体育館	9校	148人	約1,500
小倉百人一首かるた	平成23年10月29日	二戸市民文化会館	5校	20人	—
軽音楽	平成23年9月2日	岩手県民会館中ホール	19校	29団体	約600

4 第35回全国高等学校総合文化祭

平成23年8月に福島県等で開催された全国高等学校総合文化祭に計200人の高校生を派遣した。

部門	期日	会場	派遣学校名(派遣生徒数)
パレード	※開催取り止め		
演劇	平成23年8月5日～7日	福島県文化センター	岩手女子高等学校[演劇部](15)久慈高等学校[演劇部](1)
合唱	平成23年8月5日	福島市音楽堂	軽米高等学校[音楽部](22)
吹奏楽	※開催取り止め		
器楽・管弦楽	平成23年8月6日～7日	福島市音楽堂	久慈高等学校[マンドリン部](17)
日本音楽	平成23年8月3日～4日	棚倉町文化センター倉美館	盛岡第二高等学校[箏曲部](21) 遠野高等学校[邦楽部](9)
吟詠剣詩舞	平成23年8月7日	會津風雅堂	盛岡第三高等学校(1) 盛岡南高等学校(1) 岩手女子高等学校(1) 大迫高等学校(1) 一関工業高等学校(1) 一関修紅高等学校(2) 久慈高等学校(2)
郷土芸能	平成23年7月27日～29日	盛岡市民文化ホール	大東高等学校(20) 大船渡東高等学校(29)
マーチングバンド・バトントワリング	※開催取り止め		
美術・工芸	平成23年8月3日～8月7日	福島県立美術館・コラッセふくしま	遠野高等学校(1) 一関第一高等学校(1) 一関第二高等学校(1) 紫波総合高等学校(1) 黒沢尻北高等学校(1) 盛岡第一高等学校(1) 不来方高等学校(1)
書道	※作品審査		
写真	平成23年8月3日～8月7日	福島県立博物館、会津若松市文化センター	盛岡第二高等学校(1) 盛岡農業高等学校(3) 千厩高等学校(1)
放送	※作品審査		
囲碁	平成23年8月4日～5日	コラッセふくしま	盛岡白百合学園高等学校(1) 黒沢尻北高等学校(4) 盛岡第二高等学校(1) 宮古高等学校(2) 盛岡第三高等学校(1) 岩谷堂高等学校(3) 花巻北高等学校(3)
			岩手高等学校(2) 水沢高等学校(1) 不来方高等学校(1) 久慈高等学校(1)

第3章 教育施策の推進状況

第9節 地域の「創造力」向上を目指した文化芸術の振興

第2 中学生・高校生に対する文化活動支援

将棋	平成23年8月4日～5日	南東北総合卸センター	岩手高等学校(4) 釜石高等学校(1) 盛岡第二高等学校(1) 宮古工業高等学校(1)	花巻南高等学校(3) 盛岡第一高等学校(1) 盛岡第三高等学校(1)
弁論	平成23年8月5日～6日	白河市東文化センター	水沢農業高等学校(1)	
小倉百人一首かるた	平成23年8月4日～6日	アピオスペース	盛岡第一高等学校(2) 一関第一高等学校(2) 福岡高等学校(2)	水沢高等学校(1) 一関工業高等専門学校(1)
新聞	平成23年8月3日～7日	会津大学	黒沢尻工業高等学校(1)	水沢工業高等学校(2)
文芸	平成23年8月4日～6日	磐梯青少年交流の家	盛岡第四高等学校(1) 花巻南高等学校(1)	花巻北高等学校(2) 岩泉高等学校(1)
自然科学	平成23年8月3日～5日	日本大学工学部	盛岡農業高等学校(2) 福岡高等学校(2)	大槌高等学校(2)

5 平成23年度 セミナーサポート事業

以下の各部門の延べ357校、2,919人の高校生を対象とした技術講習会を開催する経費を補助した。

部門	期日	会場	参加者数等
書道	平成23年11月28日	岩手県民会館中ホール	48校 642人
合唱	平成23年5月31日～6月2日	一関文化センター、盛岡市民文化ホール、二戸市文化会館	12校
	平成23年6月21日～24日	一関文化センター、盛岡市民文化ホール、北上市文化交流センター、岩手県民会館	17校
演劇	平成23年6月3日～4日	岩手県民会館、岩手県公会堂	27校 358人
文芸	平成23年10月14日	日本現代詩歌文学館	48校 180人
囲碁	平成23年7月1日	岩手県高校教育会館	18校 100人
将棋	平成23年7月9日	岩手県高校教育会館	24校 219人
器楽	平成23年6月25日	岩手県高校教育会館	4校
写真	平成23年9月23日	岩手県民会館中ホール	31校 228人
放送	平成23年7月16日	NHK盛岡放送局	6校 22人
	平成23年9月18日	おでってホール	16校 165人
	平成23年10月12日	岩手県民会館、テレビ岩手	18校 197人
	平成23年11月26日	テレビ岩手	9校 65人
	平成23年12月24日	岩手県民会館	10校 40人
郷土芸能	平成23年10月15日	岩手県民会館大ホール	16校 350人
新聞	平成23年10月21日	岩手県公会堂	4校 15人
自然科学	平成23年8月9日	岩手県立大学	5校 10人
	平成23年8月9日～11日	国立天文台水沢V L B I観測所	2校 4人
吟詠剣詩舞	平成23年10月21日	岩手県民会館中ホール	5校 13人
日本音楽	平成23年7月5日	一関文化センター	6校 108人
マーチングバンド・バトントワリング	平成24年1月7日	岩手女子高等学校	6校 53人
小倉百人一首かるた	平成23年7月9日～10日	盛岡桜山神社和室・盛岡劇場和室	6校 20人
軽音楽	平成23年9月2日	岩手県民会館中ホール	19校 130人

第3章 教育施策の推進状況

第9節 地域の「創造力」向上を目指した文化芸術の振興

第2 中学生・高校生に対する文化活動支援 第3 文化芸術による地域振興体制づくりへの支援

6 岩手県中学校文化連盟への補助

【補助事業】 第11回全国中学校総合文化祭

〔開催日〕 平成23年8月18日～19日……………開会式、舞台部門：参加者数6,892人

平成23年8月18日～19日……………展示部門：参加者数3,176人

〔会 場〕 岩手県民会館

【補助額】 1,256千円

第3 文化芸術による地域振興体制づくりへの支援

優れた文化芸術の鑑賞への橋渡しを行う窓口の設置により、県民が気軽に紹介、アドバイス等を受けられる体制づくりと文化芸術活動を行う団体、企業、行政等のネットワーク構築を政策地域部と連携して推進した。

○ 文化芸術ネットワークの設置

文化芸術活動者が必要とする支援をタイムリーに提供できるよう、支援を必要とする者と支えようとする者のマッチングを行いうる「文化芸術ネットワーク」を4広域圏に設置することを目指しており、平成22年2月に盛岡広域圏のネットワークが設立されているが、平成24年2月には県南広域振興圏においてネットワークが設立された。

第10節 郷土への誇りと愛着を深める歴史遺産の継承と伝統文化の振興

第1 世界遺産登録の推進と柳之御所遺跡の整備活用

地域の優れた歴史、文化を十分認識することにより、県民が地域の誇りと保存管理の重要性を再確認し次代に継承していくことのひとつとして、「平泉の文化遺産」の世界遺産登録に向けた取組みを着実に推進した結果、中尊寺ほか5資産が「平泉—仏国土（浄土）を表す建築・庭園及び考古学的遺跡群—」として登録された。また、柳之御所遺跡ほかの資産について、追加登録への取組を開始した。あわせて、柳之御所遺跡については、史跡公園としての整備活用を推進した。

「北海道・北東北を中心とした縄文遺跡群」及び「九州・山口の近代化産業遺産群」について、関係道県や関係市町と連携を図りながら、世界遺産登録に向けた取組を推進した。

1 世界遺産登録の推進

(1) 世界遺産登録推進事業

「平泉の文化遺産」は平成23年の再審査によって、「平泉—仏国土（浄土）を表す建築・庭園及び考古学的遺跡群—」として、中尊寺、毛越寺、観自在王院跡、無量光院跡、金鶏山の5資産が世界遺産として登録された。

今後、柳之御所遺跡、達谷窟、白鳥館遺跡、長者ヶ原廃寺跡、骨寺村荘園遺跡について、拡張による追加登録を目指していくため、有識者による平泉の文化遺産世界遺産拡張登録検討委員会を設置し、2回開催した。

また、「平泉の文化遺産」の世界遺産登録を受けて、平泉文化に対する県民の理解と関心を促し、資産の保存管理に関する意識の向上を図るため、シンポジウム、県内の小中学校、高校等における「平泉出前授業」（10校）などの普及啓発事業を実施した。

【総事業費】 14,927千円

○ シンポジウム

【期日】 平成23年11月6日 【会場】 盛岡市民文化ホール 【入場者数】 約600人

【内容】 弦楽四重奏、パネルディスカッション

○ 平泉出前授業

実施校数：小学校7校、中学校2校、高等学校1校

○ 教員を対象とする平泉現地研修会

【期日】 平成24年3月28日

【参加者】 15名（小学校7名、中学校6名、高等学校2名）

(2) 縄文世界遺産登録支援事業

北海道・青森県・岩手県・秋田県の4道県に所在する縄文遺跡群は、「北海道・北東北を中心とした縄文遺跡群」として、平成21年1月5日にユネスコ世界遺産センターの世界遺産暫定一覧表に記載された（本県では一戸町の御所野遺跡が構成資産）。

この「北海道・北東北を中心とした縄文遺跡群」の世界遺産登録を推進するため、専門家委員会及び国際会議等を開催し、構成資産及び縄文時代・縄文文化についての定義づけ等の

検討を行った。

併せて、4道県共通リーフレットを世界遺産委員会で配布した。また、岩手県縄文フォーラムを開催し、縄文遺跡群の価値についての普及活動を行った。

【総事業費】 5,860千円

○岩手県縄文フォーラム

【期日】 平成23年10月16日 【会場】 岩手県公会堂 【入場者数】 300人

【内容】 コンサート、縄文トーク

(3) 九州・山口の近代化産業遺産群世界遺産登録推進事業

「九州・山口の近代化産業遺産群」は、産業遺産分野におけるシリアル・ノミネーションによる世界遺産登録を目指しており、平成21年1月に世界遺産暫定一覧表に追加記載され、10月の専門家委員会において「橋野鉦山と製鉄遺跡（釜石市）」などが構成資産候補として提言された。

県では釜石市と協議し、平成23年度からは正式な構成機関として参加し、九州・山口の関係自治体と協力しながら、世界遺産登録に向けた取組を行った。

【総事業費】 6,874千円

2 柳之御所遺跡の整備活用

(1) 柳之御所遺跡整備調査事業

奥州藤原氏の政庁「平泉館」と推定されている柳之御所遺跡の史跡整備及び内容確認のための発掘調査を行った。あわせて調査整備指導委員会を開催した。

【総事業費】 74,992千円

(2) 柳之御所遺跡土地公有化事業

史跡の恒久的な保全を図るため、柳之御所遺跡内の民有地の公有化を推進した。

【総事業費】 83,536千円

(3) 平泉文化研究機関整備推進事業

平泉文化の研究成果を公開する場として、平泉文化フォーラムを開催した。また、共同研究を推進し、平泉文化研究年報」第12号として、その成果をまとめた。

【総事業費】 2,928千円

○ 平泉文化フォーラム

【期日】 平成24年2月4～5日 【会場】 一関文化センター

【入場者数】 460人

【内容】 基調講演、共同研究発表、調査成果報告

第3章 教育施策の推進状況

第10節 郷土への誇りと愛着を深める歴史遺産の継承と伝統文化の振興

第2 伝統芸能等の伝承や郷土理解のための学校教育との連携

第2 伝統芸能等の伝承や郷土理解のための学校教育との連携

地域の歴史や風土の中で培われてきた伝統芸能や文化財等を内外に広く情報発信したほか、次代を担う子どもたちが郷土の歴史や文化を十分に理解し、進んで継承していけるような取組を支援した。

1 文化財の保存と管理

(1) 岩手県文化財保護審議会の開催状況

	期 日	会 場	審議事項
第1回岩手県文化財保護審議会	平成23年9月16日	県民会館第2会議室	東日本大震災津波にかかる文化財の被災状況

(2) 文化財の指定

【天然記念物の指定】

平成23年5月10日 岩手県教育委員会告示第3号

指定番号	種別	名 称	員数
有第239号	彫刻	木造六観音立像	6体
有第240号	彫刻	木造青面金剛立像 二童子・三猿・台座共 附 寿牌	6体 1基 1基
有第241号	歴史資料	豊吉之墓	1基

平成23年5月10日 岩手県教育委員会告示第4号

指定番号	名 称	保持団体
無民第33号	鶺鴒神楽	鶺鴒神楽保存会
無民第34号	篠木神楽	篠木神楽保存会
無民第35号	さんさ踊り	三本柳さんさ踊り保存会 黒川参差踊連中 大宮さんさ踊り保存会 山岸さんさ踊り保存会

(3) 文化財の保存修理及び保護対策事業

ア 文化財保存修理事業

[単位：千円]

事業名	補助事業者	総事業費	うち県費補助額
国指定文化財・指定史跡等保存整備（一般）事業	平泉町ほか1件	35,660	8,500
国指定文化財・指定史跡等購入事業	平泉町	31,651	3,165
県指定文化財・天然記念物保護増殖事業	雫石町	366	183

イ カモシカ保護対策事業

[単位：千円]

事業名	補助事業者	総事業費	うち県費補助額
食害対策	大船渡市ほか3市町	3,130	1,565

(4) 文化財の調査

ア 指定候補物件調査

種 別	名 称	実施期日
有形文化財	木造阿弥陀如来坐像	平成23年6月8日
有形文化財	木造伝阿弥陀如来立像	平成23年6月19日、12月14日
有形文化財	木造地藏菩薩半跏像	平成23年10月6日
有形文化財	木造十一面観音立像	平成23年10月6日

イ 文化財パトロール事業

【総事業費】 0千円

ウ カモシカ特別調査事業

【総事業費】 3,537千円

エ カモシカ通常調査事業

【総事業費】 0千円

(5) 美術銃砲刀剣類の登録

【平成23年度登録件数】 107件

【総登録件数】 33,204件

2 埋蔵文化財の保護

(1) 県内遺跡発掘調査事業

ア 発掘調査

事業名	調査地区
一般国道4号渋民バイパス建設事業（芋田沢田IV遺跡3次、鶴飼遺跡）	盛岡市
東北横断自動車道釜石秋田線新直轄事業（中嶋遺跡、大畑Ⅲ遺跡・新田Ⅱ遺跡）	花巻市、遠野市
北上川中流域河川改修工事（千苺遺跡）	北上市
胆沢ダム建設事業（大平野Ⅱ遺跡）	奥州市
四十四田ダム堰堤改良事業（笹平遺跡及び奥州道中）	盛岡市
主要地方道盛岡和賀線道路改良工事（二又遺跡）	盛岡市
一般県道改良事業（不動館跡）	二戸市
経営体育成基盤整備事業 白山地区（彼岸田遺跡、田高Ⅱ遺跡、安久沢東遺跡）	奥州市
経営体育成基盤整備事業 南下幅北部地区（銭倉遺跡、石田Ⅰ・Ⅱ遺跡、要害遺跡、沢田遺跡）	奥州市
経営体育成基盤整備事業 都鳥3期地区（堤遺跡、作屋敷遺跡）	奥州市
経営体育成基盤整備事業 古城2期地区（中畑城跡、八反町遺跡、古城林遺跡）	奥州市
経営体育成基盤整備事業 日形地区（小野遺跡、中神四日市遺跡、小野Ⅱ遺跡）	一関市
盛岡南新都市土地区画整理事業（飯岡才川遺跡18・19次、矢盛遺跡28次）	盛岡市
北部環状線整備事業（佐原Ⅱ遺跡）	宮古市

イ 試掘調査

事業名	調査地区
一般国道45号 高田道路	陸前高田市
東北横断自動車道釜石秋田線	遠野市
一般国道4号水沢東バイパス	奥州市
一般国道46号盛岡西バイパス	盛岡市
北上川中流部治水対策事業（二子地区）	北上市
畑地帯総合整備事業（担い手支援型）	一戸町
地方特定道路整備委事業	花巻市
中山間地域総合整備事業	葛巻町
経営体育成基盤整備事業 日形地区	一関市
経営体育成基盤整備事業 古城2期地区	奥州市
経営体育成基盤整備事業 都鳥3期地区	奥州市
津付ダム建設事業	住田町
経営体育成基盤整備事業（通作条件整備型）	陸前高田市
災害公営住宅整備事業	大槌町
保育所建設事業	野田村

ほか48件

第3章 教育施策の推進状況

第10節 郷土への誇りと愛着を深める歴史遺産の継承と伝統文化の振興

第2 伝統芸能等の伝承や郷土理解のための学校教育との連携

ウ 分布調査

事業名	調査地区
一般国道45号 三陸沿岸道路	陸前高田市～宮古市
農地等災害復旧事業（土取場候補地）	陸前高田市・大船渡市
北上川治水対策事業（廿木地区）	紫波町
交通安全施設整備事業	奥州市・金ヶ崎町
災害公営住宅整備事業	大槌町
農地整備事業（経営体育成型）鳥海地区	一戸町
経営体育成基盤整備事業 石山地区	奥州市
築川ダム建設事業（付替県道盛岡大迫東和線及び付替林道）	盛岡市
経営体育成基盤整備事業（通作条件整備型）	陸前高田市・住田町
一関遊水地事業（第2管理用通路）	平泉町

(2) 埋蔵文化財緊急発掘調査事業

遺跡等の埋蔵文化財の実態把握及び開発事業との調整のために、市町村が実施する調査に対して、その経費の一部を助成した。

○ 発掘調査等 10市4町で実施

(3) 岩手県立埋蔵文化財センターの充実

発掘調査により得られた諸資料の整理及びデータ化を進めるとともに、機関誌の発行や研修会を主催して文化財の普及活用を図るなど、管理運営や教育普及活動事業を充実した。

【埋蔵文化財センター受託事業】

ア 発掘調査【計29遺跡】

委託元	所在地	遺跡名
国土交通省	盛岡市	芋田沢田IV遺跡3次 鶴飼遺跡 笹平遺跡及び奥州道中
	北上市	千苺遺跡
	遠野市	大畑III遺跡 新田II遺跡
	奥州市	大平野II遺跡
	花巻市	中嶋遺跡
岩手県	盛岡市	二又遺跡
	一関市	小野遺跡 中神四日市遺跡 小野II遺跡
	奥州市	彼岸田遺跡 田高II遺跡 安久沢東遺跡 銭倉遺跡 石田I・II遺跡 要害遺跡 沢田遺跡 堤遺跡 作屋敷遺跡 中畑城跡 八反町遺跡 古城林遺跡
	二戸市	不動館跡
宮古市	宮古市	佐原II遺跡
盛岡市	盛岡市	飯岡才川遺跡18次・19次 矢盛遺跡28次

イ 報告書の発刊【計20遺跡】

14冊、各300部発刊

委託元	所在地	遺跡名
国土交通省	盛岡市	川目A遺跡第5次補
	北上市	滝ノ沢遺跡
	遠野市	向III遺跡
	田野畑村	尾肝要市遺跡 姫松I遺跡 姫松II遺跡
	奥州市	大平野II遺跡
岩手県	盛岡市	小屋野遺跡2次
	矢巾町	高畑遺跡
	住田町	山脈地遺跡
	奥州市	国分遺跡 川端遺跡 堤遺跡 堰田遺跡 机地遺跡
	一関市	石崎貝塚
盛岡市	盛岡市	野古A遺跡第30次 矢盛遺跡27第次 細谷地遺跡第26次
野田村	野田村	中平遺跡

第3章 教育施策の推進状況

第10節 郷土への誇りと愛着を深める歴史遺産の継承と伝統文化の振興

第2 伝統芸能等の伝承や郷土理解のための学校教育との連携

ウ 調査報告書

平成23年度発掘調査略報 330部

エ 普及事業

(ア) 第33回埋蔵文化財展

震災により事業取り止めのため中止

(イ) 第32回埋蔵文化財発掘調査技術講習会

【期日】平成23年12月9日

【場所】岩手県工業技術センター

【内容】新版「発掘調査のてびき」について

講師 文化庁文化財部記念物課埋蔵文化財部門 水ノ江 和同 氏

講師 御所野縄文博物館長 高田 和徳 氏

(ウ) 第14回遺跡報告会

【期日】平成24年2月18日

【場所】岩手県民会館中ホール

【内容】大畑Ⅲ遺跡、石田Ⅰ・Ⅱ遺跡、二又遺跡、中畑城跡、不動館跡の調査成果を報告
なお、埋蔵文化財公開講座は、震災により事業取り止めのため中止

(エ) 所報「わらびて」の発行

年2回発行（124号～125号）

3 文化財の積極的な活用

(1) 遺跡周知事業

文化財保護法第95条第1項の規定に基づき、遺跡に関する諸資料の整備とその周知徹底を継続して行うとともに、市町村担当職員の研修で指導・助言を行った。

ア 遺跡台帳の改訂（電算化）

イ 遺跡基本図の改訂（電算化）

ウ 台帳、基本図の複製配布

エ 現地確認調査等の事前協議

オ 市町村文化財担当職員等の研修会における指導・助言

カ 文化財保護法関連諸文書類処理

(2) 伝統芸能伝承活動促進事業

民俗芸能団体のネットワーク組織である県民俗芸能団体協議会において、団体相互の情報交換や共通課題の解決に取り組んでいる（平成24年3月31日現在364団体加入）。

なお、東日本大震災津波の影響により、例年実施している岩手県青少年民俗芸能フェスティバル及び岩手県民俗芸能大会については、取り止めとなった。

第11節 生涯スポーツの振興

県民のだれもがそれぞれのライフステージにおいて、興味関心、目的や適性等に応じて、「する、みる、支える」スポーツに親しみ、スポーツが生活の一部として日々の暮らしに定着していくことを目指し各事業を展開した。

第1 運動・スポーツに親しむ人々の広がり

「する・みる・支える」といった多様なスポーツ参加を推し進め、県民のだれもが、生涯にわたって、自主的にスポーツに親しむ生涯スポーツの振興を図った。

1 「生涯スポーツ推進月間」の充実

「生涯スポーツ推進月間」を設定し広く県民に周知したことにより、各市町村において、それぞれの地域の特色ある各種スポーツ大会等が多数開催され、多くの県民が参加した。

事業名	事業件数	参加人数
生涯スポーツ推進月間	178件	106,477名

2 全国スポーツ・レクリエーション祭への選手派遣

富山県で開催された第24回全国スポーツ・レクリエーション祭（スポレクエコとちぎ2011）に、選手を派遣し、各種目別団体及び市町村におけるスポーツ・レクリエーション活動への促進を図った。

事業名	参加種目数	参加者数
全国スポレク祭参加推進事業	13種目	114名

第2 運動・スポーツに親しめる場の広がり

生涯スポーツ振興の拠点となる総合型等の地域スポーツクラブの創設・育成を図るとともに、県民の多様なニーズに対応できるよう、専門的知識と実践力を持った生涯スポーツ指導者の養成や資質向上を図った。

1 総合型地域スポーツクラブの創設・育成

県広域スポーツセンターが中心となり、関係機関と連携をとりながら巡回指導等を行い、総合型地域スポーツクラブの創設・育成を図った。

【総合型地域スポーツクラブ創設状況（平成23年7月1日現在）】

[単位：クラブ、人]

市町村名	創設済クラブ		創設準備中 クラブ数	クラブ数 合計	市町村名	創設済クラブ		創設準備中 クラブ数	クラブ数 合計
	クラブ数	加入者数				クラブ数	加入者数		
盛岡市	3	443	3	6	陸前高田市	—	—	—	—
八幡平市	—	—	—	—	住田町	1	—	—	1
雫石町	1	3,365	—	2	釜石市	2	220	—	2
葛巻町	1	0	—	1	大槌町	1	50	—	1
岩手町	—	—	1	1	宮古市	1	151	—	1
滝沢村	1	350	—	1	山田町	—	—	—	—
紫波町	1	95	—	1	岩泉町	—	—	1	1
矢巾町	1	213	—	1	田野畑村	—	—	1	1
花巻市	1	2	—	1	久慈市	1	139	3	4
遠野市	9	4,078	—	9	洋野町	—	—	—	—
北上市	4	13,935	1	5	野田村	—	—	1	1
西和賀町	—	—	1	1	普代村	1	121	—	1
奥州市	4	6,110	—	4	二戸市	2	380	—	2
金ヶ崎町	7	465	—	7	軽米町	—	—	2	2
一関市	1	9,154	6	7	九戸村	—	—	—	—
平泉町	—	—	1	1	一戸町	2	318	—	2
大船渡市	—	—	1	1	計	45	39,589	23	68

2 指導者の養成確保及び資質向上

各種講習会、研修会等を開催し、指導者の養成確保及び資質の向上を図った。

【生涯スポーツ関係事業等実施状況】

(1) 市町村生涯スポーツ担当者研修会

【期日】平成23年10月7日 【場所】盛岡市 【参加者数】20人

(2) 総合型地域スポーツクラブ運営研修会

【期日】平成23年6月18日～19日 【場所】金ヶ崎町 【参加者数】52人

(3) 生涯スポーツ指導者講習会

【期日】平成23年8月9日 【場所】盛岡市 【参加者数】54人

(4) 岩手県体育指導委員研修会

【期日】平成23年9月16日 【場所】岩泉町 【参加者数】227人

(5) 生涯スポーツ推進研究大会兼体育施設関係者講習会

【期日】平成23年11月29日 【場所】盛岡市 【参加者数】91人

3 施設の整備充実

(1) 県営体育施設の状況

県営体育施設は、本県の中心的スポーツ施設として、全国規模の大会をはじめ、全県的な各種競技会の開催を通じて、本県スポーツの振興に大きな役割を果たしている。

県教育委員会で所管する体育施設は、次の7施設であり、住民サービスの向上を図るとともに、経費の節減等を図るため、指定管理者制度を導入している。

県営運動公園ほか5施設は公益財団法人岩手県スポーツ振興事業団が、県営スキージャンプ場は八幡平市が指定管理者に指定されている。

- ア 県営運動公園（陸上競技場、補助競技場、野球場、ラグビー場、サッカー場、テニスコート、登はん競技場、交通公園）
- イ 県営体育館
- ウ 県営野球場（グラウンド、屋内練習場、トレーニング室）
- エ 県営スケート場
- オ 県営武道館（大道場、柔道場、剣道場、弓道場、相撲場、トレーニング室）
- カ 県立御所湖広域公園艇庫
- キ 県営スキージャンプ場

(2) 県営体育施設設備の整備

利用者が安全に楽しく利用できるよう、平成23年度は、次の施設・設備の改修工事等を行った。

- ア 県立沼宮内高等学校グラウンド整備工事
- イ 県営スケート場ボイラー改修工事
- ウ 県営体育館屋根等改修工事
- エ 県営体育館トイレ等改修工事
- オ 県立御所湖広域公園艇庫深井戸水中ポンプ等更新工事
- カ 県営野球場内野緩衝フェンス等改修工事
- キ 県営野球場スタンド塗装等改修工事
- ク 県立御所湖広域公園艇庫外階段補修工事
- ケ 県立御所湖広域公園艇庫会議室天井ボード補修等工事
- コ 県営運動公園照明設備災害復旧工事
- サ 県営運動公園園路災害復旧工事

(3) 県営体育施設の利用状況

[単位：日、件、人]

施設名	区分	開館日数	利用件数	利用人数
県営運動公園		366	10,466	400,152
県営体育館		337	1,130	89,603
県営野球場		280	1,878	139,456
県営スケート場		289	736	30,312
県営武道館		329	3,219	197,233
県立御所湖広域公園艇庫		164	889	8,240
県営スキージャンプ場		340	50	636
計		—	18,368	865,632

4 公益財団法人岩手県スポーツ振興事業団の事業

公益財団法人岩手県スポーツ振興事業団は、県教育委員会等から指定管理者の指定及び業務委託を受け、施設管理及び各種事業を行っている。

県立青少年の家3施設における開催事業は、110～113ページのとおり。

それ以外の県営体育施設等における開催事業は、以下147ページまでのとおり。

【公益財団法人岩手県スポーツ振興事業団事務局 平成23年度受託事業及び自主事業】

1 震災被災者スポーツ支援事業

【期日】4月～3月 計23回

【場所】県内避難所・被災地等 【参加者数】261人

2 ノルディックウォーキング&カヤック教室

【期日】6月29日

【場所】県立御所湖広域公園艇庫 【参加者数】35人

3 クライミング無料体験会

期日	場 所	参加者数
8月20日	県営運動公園登はん場	140人
10月10日		309人

4 武道教室

	期日	場 所	参加者数
柔道	月・火・金曜日123回	県営武道館柔道場	5,496人
剣道	月・金曜日85回	県営武道館剣道場	1,804人
なぎなた	木・土曜日89回	県営武道館剣道場	941人
弓道	火・木・金曜日128回	県営武道館弓道場	1,363人
空手道	火・木曜日89回	県営武道館剣道場	409人
少林寺拳法	土・日曜日80回	県営武道館柔道場・剣道場	1,636人
合気道	木・日曜日89回	県営武道館柔道場	1,223人
鏡開き	1月9日	県営武道館	300人

5 親子スポーツ教室

【内容】ランニング教室、野球教室、リズム体操教室等

【期日】5月～10月 計7回

【場所】県営運動公園陸上競技場他 【参加者数】553人

6 指導者派遣事業

【期日】5月～2月 計47回

【場所】各市町村施設等（11市町村） 【参加者数】1,778人

7 第23回湖上フェスティバル

【期日】7月31日

【場所】県立御所湖広域公園艇庫 【参加者数】239人

8 高齢者健康・体づくり指導者セミナー

【期日】9月15日

【場所】県営武道館 【参加者数】153人

9 スポーツフェスティバル2011

【期日】10月10日

【場所】県営体育施設・花巻広域公園他 【参加者数】19,455人

10 スケート場オープニング事業

【期日】11月3日

【場所】県営スケート場 【参加者数】542人

11 スケートキッズonサタデー

【期日】11月～2月の土曜日 計16回

【場所】県営スケート場 【参加者数】7,413人

12 ジャグリング教室

【期日】11月13日

【場所】身障者体育館 【参加者数】53人

第3章 教育施策の推進状況

第11節 生涯スポーツの振興

第2 運動・スポーツに親しめる場の広がり

- 13 第24回水上フェスティバル
【期日】12月17日
【場所】県営スケート場 【参加者数】849人
- 14 スポーツボランティア養成事業
【期日】通年
- 15 健康・体づくりの指導プログラムに関する研究
【期日】通年
- 16 [自主事業] 健康歩き方教室
【期日】6月11日
【場所】県営運動公園～岩手牧場 【参加者数】16人
- 17 [自主事業] すまいるグラウンド・ゴルフ練習会
【期日】5月～11月 計18回
【場所】県営運動公園陸上競技場他 【参加者数】1,723人
- 18 [自主事業] すまいるソフトテニス教室
【期日】5月～10月 計16回
【場所】県営運動公園テニスコート 【参加者数】320人
- 19 [自主事業] 理事長杯グラウンド・ゴルフ交流会
- | 期 日 | 場 所 | 参加者数 |
|-------|--------------|------|
| 6月22日 | 県営運動公園陸上競技場他 | 153人 |
| 11月9日 | | 180人 |
- 20 [自主事業] すまいるテニス教室
【期日】5月～7月 計6回
【場所】県営運動公園テニスコート 【参加者数】34人
- 21 [自主事業] 親子で雪っこ体験教室
【期日】1月28日
【場所】県営運動公園 【参加者数】45人
- 22 [自主事業] 運動公園フォトコンテスト
【期日】作品募集：5月～、作品展示：～2月
【場所】県営運動公園 【参加者数】25人
- 23 [自主事業] 植物・樹木観察会
【期日】6月14日
【場所】県営運動公園日本庭園 【参加者数】127人
- 24 [自主事業] 夏休み1dayキッズサッカースクール
【期日】8月2日
【場所】県営運動公園陸上競技場他 【参加者数】58人
- 25 [自主事業] すまいるボルダリング教室
【期日】1月～3月 計8回
【場所】県営運動公園ボルダリング場 【参加者数】200人
- 26 [自主事業] すまいる卓球Room
【期日】通年
【場所】県営運動公園ふれあいハウス 【参加者数】293人
- 27 [自主事業] すまいるウォーキングクラブ
【期日】通年
【場所】県営運動公園 【参加者数】13人

【県営体育館 平成23年度自主事業】

1 ぶらんちスポーツクラブ

	期 間	参加者数
第1回	5月12日～7月28日 計7回	507人
第2回	8月25日～10月27日 計7回	407人

2 スポーツナイト on Tuesday

【期日】6月～8月の火曜日 計11回
【参加者数】504人

3 中学生ハンドボール交流会

【期日】8月6日 【参加者数】250人

4 フレンドリーフットサル大会

【期日】11月10日 【参加者数】74人

5 木曜ヨガ教室

【期日】1月～3月 計4回 【参加者数】7人

6 スポーツカフェ2012盛年ソフトテニスミックスダブルス大会

【期日】2月29日 【参加者数】34人

第3章 教育施策の推進状況

第11節 生涯スポーツの振興

第2 運動・スポーツに親しめる場の広がり

【県営武道館 平成23年度自主事業】

1 ぶらんちスポーツクラブ

	期 間	参加者数
第1回	5月10日～7月28日 計15回	1,046人
第2回	8月16日～10月28日 計14回	763人
第3回	11月14日～2月16日 計16回	827人

2 弓道教室

【期日】6月～7月の月・木曜日 計10回
【参加者数】184人

3 スポーツフェスティバル2011

【内容】武道交流会
【期日】10月10日 【参加者数】1,170人

4 スポーツフェスティバル2011

【内容】ちびっこ相撲大会
【期日】10月10日 【参加者数】465人

5 少年柔道教室

【期日】12月24日～26日 【参加者数】224人

6 少年剣道教室

【期日】1月10日～12日 【参加者数】85人

【県営野球場 平成23年度自主事業】

1 県営野球場バランスボール教室

【期日】5月～2月 計22回 【参加者数】235人

2 スポーツフェスティバル2011

【内容】復興支援学童軟式野球大会
【期日】10月10日 【参加者数】1,717人

3 中学生野球教室（楽天野球塾）

【期日】11月13日 【参加者数】40人

4 室内グラウンド・ゴルフ練習会、記録会

【期日】11月～2月の火・金曜日 計28回
【参加者数】2,338人

【県立御所湖広域公園艇庫 平成23年度自主事業】

1 御所湖探検カヌー教室

	期 日	参加者数
第1回	5月29日	7人
第2回	6月11日	10人
第3回	8月20日	6人
第4回	8月21日	12人

2 親子カヌー教室

	期 日	参加者数
第1回	8月6日	12人
第2回	8月7日	15人

3 第23回湖上フェスティバル

【内容】スラローム艇体験
【期日】7月31日 【参加者数】7人

4 スポーツフェスティバル2011

【内容】カヌー・ボート無料体験
【期日】10月10日 【参加者数】107人

5 御所湖カヌー教室

	期 日	参加者数
第1回	8月21日	6人
第2回	8月22日	12人

【県営スケート場 平成23年度自主事業】

1 スケート教室

【期日】12月～2月の日曜日 計11回
【参加者数】83人

2 第25回氷上フェスティバルスケートレッスンタイム

【期日】12月17日 【参加者数】31人

第3章 教育施策の推進状況

第11節 生涯スポーツの振興

第2 運動・スポーツに親しめる場の広がり

【県立花巻広域公園 平成23年度自主事業】

1 ぎんがのもり探検隊 自然観察会

	期 日	参加者数
第1回	7月23日	20人
第2回	10月15日	雨天中止

2 ちびっこ写生会

【期日】5月4日～11月30日 【参加者数】16人

3 すまいるグラウンド・ゴルフ練習会

【期日】5月13日～10月21日 【参加者数】141人

4 ゴルフ教室

	期 間	参加者数
第1回	5月10日～5月31日の火曜日	39人
第2回	7月5日～26日の火曜日	31人
第3回	9月6日～10月4日の火曜日	25人

5 親子ゴルフ教室

【期日】7月30日～8月7日 計4回 【参加者数】16人

6 ゴルフ教室コンペ編

【期日】10月18日、11月8日 【参加者数】13人

7 被災地応援ゴルフコンペ

【期日】5月22日～11月20日 計7回
【参加者数】175人

8 ぎんがのもり夏まつり

【期日】7月24日 【参加者数】950人

9 ぎんがのもりグラウンド・ゴルフ薄暮練習会

【期日】7月28日 【参加者数】3人

10 ちびっこ花火大会

【期日】7月24日 【参加者数】20人

11 ぎんがのもりグラウンド・ゴルフ大会

	期 日	参加者数
第1回	7月1日	89人
第2回	9月8日	102人
第3回	11月4日	117人

12 ぎんがのもり写真展

【期日】9月1日～30日 【参加者数】3人

13 ぎんがのもり秋まつり

【期日】10月9日・10日 【参加者数】352人

14 ぎんがのもりフットサル体験

【期日】10月10日 【参加者数】60人

15 ぎんがのもり森の恵み工作

【期日】10月9日 【参加者数】100人

【県勤労身体障がい者体育館 平成23年度自主事業】

1 けやきカーニバル

【期日】10月2日 【参加者数】37人

2 第8回ニュースポーツ交流会

【期日】6月19日 【参加者数】49人

3 第4回ピンポン交流会

【期日】7月7日 【参加者数】20人

4 バスケットボールフェスタ兼4回けやき杯車椅子ツインバスケットボール大会

【期日】10月15日・16日 【参加者数】80人

5 ぶらんちスポーツクラブ

【期日】11月～2月 計10回 【参加者数】412人

6 フロアバレーボール交流会

【期日】12月4日 【参加者数】27人

7 第9回ニュースポーツ交流会

【期日】12月10日 【参加者数】26人

第3 ネットワークの広がり

生涯スポーツを推進する団体等の連携を充実させるため、広域スポーツセンター機能の拡大と充実を図るとともに、県民の多様なニーズに応えるネットワークの構築を図った。

1 生涯スポーツに関する情報提供

広域スポーツセンターホームページにより、県民に対し生涯スポーツに関する情報の提供を行うとともに、総合型地域スポーツクラブ等生涯スポーツを推進する団体間の連携強化を図った。

2 平成23年度各種登録指導者数

- | | | |
|--------------------------------|--------|-------------|
| (1) 県スポーツリーダーバンク登録者…… | 625人 | (前年比 31人減) |
| (2) 地域スポーツ指導者…… | 1,756人 | (前年比 281人増) |
| (3) 競技力向上指導者…… | 298人 | (前年比 32人増) |
| (4) 商業スポーツ施設指導者…… | 44人 | (前年比 3人増) |
| (5) フィットネス系資格指導者…… | 111人 | (前年比 50人減) |
| (6) メディカル・コンディショニング資格指導者…… | 77人 | (前年比 18人増) |
| (7) 総合型地域スポーツクラブアシスタントマネージャー…… | 60人 | (前年比 6人増) |
| (8) レクリエーション関係資格指導者…… | 1,097人 | (前年比 388人減) |
| (9) 県スポーツ少年団指導者…… | 5,664人 | (前年比 23人増) |

第12節 競技スポーツの強化

第1 中長期的な視点に立った選手育成並びに指導者養成

1 優れた素質を有する児童の早期発掘と系統的な能力開発

将来世界に羽ばたくアスリートの輩出を目指して、「いわてスーパーキッズ発掘・育成事業」を実施し、下記のプログラムを行うことにより、優れた素質を有する児童の早期発掘と系統的な能力開発を行った。

プログラム名	実施回数
知的能力開発プログラム	9回
身体能力開発プログラム	9回

2 中学生・高校生の競技力向上

平成23年岩手インターハイや平成28年岩手国体を見据えて、その中心となる中学生や高校生を中心に強化合宿や講習会を行う「センチュリー21 ジュニア選手強化事業」や「未来のエース育成強化事業」を実施した。

事業名	対象
未来のエース育成強化事業	39競技団体
センチュリー21 ジュニア選手強化事業	高体連・中体連

3 指導者の資質向上

最新の指導方法の研修を推進するため、岩手県スポーツ特別強化指定校や私立高校重点強化校の優秀指導者を国内トップレベルの強化合宿に派遣するとともに、各競技の日本を代表するトップコーチを県内に招聘し、ハイレベルな指導方法等の研修を行うなど、指導者の資質向上を図る。

【震災の影響により、23年度事業取り止め】

4 各種全国大会の結果

第66回国民体育大会の本県の成績は、スキー競技スペシャルジャンプ成年男子Aで小林（東海大学）、ウエイトリフティング競技少年男子56kg級で艾（岩谷堂高校）が優勝するなど14競技47種目に入賞し、男女総合成績（天皇杯）は715点を獲得し、41位であった。

大会名	入賞数
第66回国民体育大会	47
平成23年度全国高等学校総合体育大会	45
平成23年度全国中学校体育大会	11

第2 競技団体・学校体育団体等の組織体制の充実に向けた支援

1 学校体育団体との連携強化

ジュニア期の強化のため、その母体となっている学校体育団体との連携を一層強化することとし、「センチュリー21 ジュニア選手強化事業」の拡充や中学校・高等学校の連携による継続指導等、選手強化の重点化を図った。

2 一貫指導システムの構築

各競技団体において、系統的な選手育成を図るため、各中央競技団体の進めている一貫指導システムを積極的に取り入れ、小中高一貫指導プランの作成を推進した。（41 競技団体中 37 競技団体が作成）

3 主要体育大会（県内開催）

体育大会名	期 日	会 場
第63回岩手県高等学校総合体育大会	平成23年 5月19日～6月19日	盛岡市ほか
第58回岩手県中学校総合体育大会	平成23年 7月15日～7月18日	盛岡市ほか
平成23年度全国高等学校総合体育大会（夏季大会）	平成23年 7月27日～8月20日	盛岡市ほか
第61回岩手県高等学校スケート競技・アイスホッケー競技選手権大会	平成23年11月23日～12月16日	盛岡市
第44回岩手県中学校スケート大会	平成23年11月23日～12月11日	盛岡市
第61回岩手県中学校スキー大会	平成24年 1月13日～1月16日	八幡平市
第61回岩手県高等学校スキー大会	平成24年 1月14日～1月17日	八幡平市

4 学校体育団体助成

団体名	助成金額
岩手県中学校体育連盟	35,939千円
岩手県高等学校体育連盟	51,716千円

第3 広いスポーツの基盤に支えられたスポーツ拠点化に向けた支援

平成 28 年に開催予定の岩手国体に向けて競技者等の裾野を広げ、広範なサポート体制を形成しながら、国体会場地市町村を中心としたスポーツ拠点化を推進する。

【震災の影響により、23年度事業取り止め】

第3章 教育施策の推進状況

第12節 競技スポーツの強化

第4 スポーツ医・科学サポート体制の充実

第4 スポーツ医・科学サポート体制の充実

競技者の育成を組織的かつ戦略的に行うためには、スポーツ医・科学に基づいたトレーニング、コーチングの本格的実施が不可欠であるため、スポーツ医・科学サポートスタッフの養成やプログラムの研究や開発などを推進し、スポーツ医・科学体制の整備・拡充を図る。

【震災の影響により、23年度開催取りやめ（第1期生修了式のみ実施 H23.7.2開催）】

[参考] 各県営施設で開催された主な競技会・イベント等

平成23年度に各県営施設において開催された主な競技会・イベント等は以下のとおりであること。

[単位：人]

施設	競技会等の名称	期日	参加者数 (入場者数)
県営運動公園	東日本大震災復興支援サッカーチャリティーマッチ	平成23年4月17日	13,500
県営体育館	第81回全東北学生競技ダンス選手権大会	平成23年5月3日・4日	900
	第11回全国障がい者スポーツ大会	平成23年6月25日・26日	150
	日本フットサルリーグ公式戦	平成23年8月21日	300
	2011年全国ブロック選抜U-12体操競技選手権大会	平成23年8月27日・28日	900
	日本プロバスケットボールリーグ公式戦	平成23年11月19日・20日	3,500
	日本フットサルリーグ公式戦	平成23年11月26日	500
	大日本プロレス盛岡大会	平成23年12月14日	400
	日本プロバスケットボールリーグ公式戦	平成23年12月17日・18日	3,500
	日本フットサルリーグ公式戦	平成24年1月8日	600
	日本プロバスケットボールリーグ公式戦	平成24年2月11日・12日	2,500
県営野球場	新日本プロレス盛岡大会	平成24年3月18日	1,300
	第10回東北・北海道中学生KB野球大会	平成23年7月31日・8月1日	565
	プロ野球パ・リーグ公式戦	平成23年8月31日	15,279
県営スケート場	天皇賜杯第66回全日本軟式野球大会	平成23年9月16日～22日	3,765
	第12回全日本マスターズスピードスケート	平成24年2月11日・12日	600
県営武道館	第64回東北弓道大会	平成23年6月12日	1,202
	第47回東北地区医科学生弓道大会	平成23年6月18日	191
	平成23年度全国高等学校総合体育大会弓道競技	平成23年8月4日～7日	21,087
	第25回東北高等学校空手道選抜大会	平成24年1月19日～21日	3,750
	北海道・東北ブロック空手道ジュニア選手権大会	平成24年3月11日	650

第4章 厚生福利

第1節 公立学校共済組合

公立学校共済組合の事業には、短期及び長期の給付事業と、組合員の福利厚生事業、組合員に対する貸付事業並びに宿泊施設の経営等があり、これらに必要な費用は、組合員の掛金と地方公共団体の負担金をもって充てている。

【組合員及び被扶養者数（平成23年度末）】 [単位：人]

区 分	組合員数	被扶養者数
一般	13,285	——
うち男	6,918	——
女	6,367	——
長期	0	——
船員	29	——
任意継続	333	——
計	13,647	13,788

第1 短期給付事業

○ 収支状況（平成23年度）

【収入】 [単位：千円]

区 分	金 額
短期負担金	3,435,237
介護負担金	328,245
短期掛金	3,400,195
介護掛金	328,181
短期任意継続掛金	111,057
介護任意継続掛金	13,410
利息及び配当金	0
賠償金	2,730
計	7,619,055

【支出】 [単位：千円]

区 分	金 額
法定給付	4,409,955
附加給付	571,563
一部負担金払戻金	52,800
短期任意継続掛金還付	3,448
介護任意継続掛金還付	399
計	5,038,165

収支差額（本部送金）	2,580,890
------------	-----------

第2 長期給付事業

年金給付等の財源として本部へ送金した。

【収入の状況（平成23年度）】 [単位：千円]

区 分	金 額
負担金	11,475,324
追加費用負担金	7,409,218
掛金	7,643,668
利息及び配当金	0
計	26,528,210

第3 福利厚生事業

1 人間ドック

利用を希望する組合員805人を対象に、以下の8医療機関において、事業費37,527千円で実施した。

【利用状況】 [単位：人]

医療機関名	利用人数
公立学校共済組合東北中央病院	200
県立中央病院	45
岩手医科大学附属病院	29
北上済生会病院	30
盛岡赤十字病院	138
松園第二病院	30
岩手県予防医学協会	308
滝沢中央病院	25
計	805

2 脳ドック

脳疾患の早期発見、早期治療を目的として、45歳以上の希望する組合員496人を対象に、以下の6医療機関において、事業費18,662千円で実施した。

【利用状況】 [単位：人]

医療機関名	利用人数
公立学校共済組合東北中央病院	99
県立中央病院	30
県立中部病院	89
盛岡赤十字病院	94
北上済生会病院	99
県予防医学協会 本所	85
計	496

3 ライフプラン総合講座

組合員の健康管理意識を高め、健康の保持・増進を図るため、健康管理講座を実施した。

【受講者数】 154人 【事業費】 1,140千円

4 メンタルヘルスサポート事業

こころの健康の保持・増進とこころの病気の早期発見・早期対応、再発予防を図るため、県教育委員会と共催で、メンタルヘルスに関する以下のセミナーを実施した。 [単位：人]

区分	目的	対象者	期日	回数(開催地)	参加者数
教職員のためのメンタルヘルスセミナー	メンタルヘルスに関する基礎知識と理解を深め、相互支援できる職場環境の醸成を図る。	一般教職員	平成23年7月29日 ～ 平成24年1月12日	21回(盛岡市、大槌町、久慈市、一関市、奥州市、大船渡市、二戸市、陸前高田市、宮古市ほか)	1,255
管理監督者のためのメンタルヘルスセミナー	メンタルヘルスに関する知識や対応方法について習得を図る。	管理監督者	平成23年7月4日 平成23年7月28日	5回(久慈市、大船渡市、釜石市、宮古市、盛岡市)	438
管理監督者メンタルヘルス実践セミナー	災害起因の心身不調、人事異動に伴う体調不良等への対応等について、専門医から助言を受ける。	沿岸地区の管理監督者	平成24年3月1日	1回(釜石市)	70

5 施設利用補助(サンセール盛岡利用補助)

組合員等によるサンセール盛岡の利用に対し、計57,156千円を補助した。

区分	利用人数等	補助額(千円)	補助の概要
宿泊	1,983人	3,966	宿泊利用1人につき、2,000円を補助
会食	16,043人	46,588	会食利用1人につき、利用額に応じ3,000円～1,000円を補助
婚礼	4組	600	婚礼披露宴利用1組につき、最高15万円を補助
法事・慶事	10組	310	法要・慶事利用1組につき、最高20万円を補助
その他	877件	5,692	会議室利用等に補助
計		57,156	

第4 貸付事業

組合員が臨時に資金を必要とする場合に貸付を行っており、平成23年度における新規貸付の状況は次のとおりである。

【平成23年度新規貸付件数】

[単位：件、千円]

区分	件数	貸付金額	制度の概要
一般貸付	67	93,400	組合員が臨時に資金を必要とする場合 □限度額 200万円
住宅貸付	5	40,000	組合員が自己用の住宅の新築等をする場合 □限度額 1,800万円
住宅災害貸付	4	56,800	住宅に非常災害を受け、新築等をする場合 □限度額 1,900万円
教育貸付	17	28,600	組合員やその子弟が大学等に入学する場合 □限度額 550万円
医療貸付	2	2,400	組合員やその親族が医療を受ける場合 □限度額 120万円
結婚貸付	2	3,000	組合員やその子が結婚する場合 □限度額 200万円
葬祭貸付	1	2,000	組合員が親族の葬祭を行う場合 □限度額 200万円
高額医療貸付	0	0	組合員が高額療養費を支払う場合 □限度額：高額療養費相当額
災害貸付	1	1,000	組合員や被扶養者が非常災害を受けた場合 □限度額 200万円
出産貸付	0	0	組合員が出産費を支払う場合 □限度額：出産費相当額
計	99	227,200	

第5 宿泊施設

岩手支部は、組合員等の福利厚生施設として、盛岡宿泊所「サンセール盛岡」を設置している。当該施設は、組合員に限らず広く一般県民に利用されており、その利用状況は次のとおりである。

区分等		利用状況	備考
宿泊部門	収容定員	79人	
	宿泊可能人数	28,835人	収容定員79人×営業日数365日
	宿泊延べ人数	13,204人	
	利用率	45.7%	13,204人÷28,835人
宿泊外部部門	収容定員	848人	
	利用可能人数	309,520人	収容定員848人×営業日数365日
	利用延べ人数	95,088人	
	うち会議利用	42,445人	
	宴会利用	37,858人	
	婚礼利用	187人	
	Grill等	14,598人	
利用率	30.7%	95,088人÷309,520人	
計	108,292人	宿泊延べ人数13,204人+宿泊外利用延べ人数95,088人	

第2節 教職員互助会

本県における教育文化の振興発展に寄与し、併せて教職員及び教育関係職員の福利増進と生活の安定を図ることを目的として、以下の諸事業を実施した。

第1 短期給付事業

区 分	給付額 (円)	件数等	制度の概要
療養給付金	81,398,275	被扶養者 30,695件	被扶養者が療養を受けたとき給付
無給会員給付金	9,840,000	28条休職者 328件	会員が休職し無給となったとき給付 □28条休職者：3万円（平均12月）
出産保育費	7,710,000	会員…… 151人 配偶者… 106人	会員又は被扶養配偶者が出産したとき給付 □会員・配偶者：3万円
災害見舞金	286,840,000	345件	会員が火災等の災害を受けたとき損害の程度により給付 □3万円～60万円
弔慰金	10,600,000	会員………11人 配偶者……10人 被扶養者…31人	会員、配偶者又は被扶養者が死亡したとき給付 □会員：50万円、配偶者：20万円、被扶養者：10万円
計	396,388,275		

第2 長期給付事業

区 分	給付額 (円)	人 数	制度の概要
生きがい対策 支援助成金	102,838,272	505人 うち定年退職………219人 勸奨退職……… 82人 死亡退職……… 10人 普通退職……… 50人 特別会員……… 37人 その他（異動等）107人	会員資格6か月以上の会員が退会したとき給付 □会員期間1年につき8,500円を乗じて得た額 （1人平均174,991円）

第3 厚生福利事業

区 分	給付額 (円)	件数等	制度の概要
療養給付金	171,878,910	60,453件	会員が療養を受けたとき給付
入院見舞金	13,653,000	会員……… 11,193日 被扶養者… 16,107日	会員又は被扶養者が入院したとき給付 □会員・被扶養者：1日につき500円
介護休暇給付金	1,654,334	17件	会員が介護休暇を取得したとき給付。 □1日につき給料日額の100分の60に相当する額から 共済組合の介護休業手当金を控除した額。

第4章 厚生福利
 第2節 教職員互助会
 第3 厚生福利事業

区分	給付額 (円)	件数等	制度の概要
小学校入学祝金	5,930,000	593人	会員の被扶養者、配偶者の被扶養者に認定されている子が小学校に入学したとき給付 □10,000円
弔慰金	2,000,000	10人	会員、配偶者又は被扶養者が死亡したとき給付 □被扶養者以外の配偶者：200,000円
施設利用補助	6,550,000	宿泊利用……4,738件 うち全教互指定旅館 4,701件 サンセール盛岡 37件 会食利用……402件 婚礼利用……4件	宿泊利用補助：会員及び被扶養者が指定施設を宿泊で利用したとき補助 □全教互指定旅館：1泊につき1,000円 □サンセール盛岡：1泊につき2,000円（特別会員） 会食利用補助：特別会員が会食でサンセール盛岡を利用したとき補助 □1人1回につき6千円以上の利用：3,000円 5千円以上6千円未満の利用：2,000円 3千円以上5千円未満の利用：1,000円 婚礼利用補助：会員及びその子が、結婚披露宴でサンセール盛岡を利用したとき補助 □150,000円を上限に1組の利用額の25%
退職慰労記念品費	29,240,000	旅行券……467人 香典料……10人	退職又は異動により退会したとき旅行券を交付 □会員年数1年以上10年未満：20,000円 10年以上20年未満：40,000円 20年以上30年未満：60,000円 30年以上：80,000円 死亡により退会したとき遺族に香典料を支給 □香典料：50,000円
遺児育英資金	1,500,000	3人	会員が死亡したとき、被扶養者のうち、当該年度末までの間に満18歳以下である遺児があるとき給付 □遺児1人 500,000円
ライフプランセミナー	934,172		□ライフプランを基本に「健康管理」「年金」「生涯生活設計」について基礎研修と選択研修の講座を実施 □退職予定者を対象に退職準備セミナーを開催
公益文化事業費	408,498,719		□互助会報発行：年4回 □会報表紙写真募集 □岩手教育芸術祭開催（他団体と共催） □一般財団法人への移行に伴う特定寄付 □文化公演会（他団体と共催） □福祉のしおり
保険外医療給付金	2,612,559	マッサージ等…213件 妊婦検診……33件 歯科治療……48件 不妊治療……10件	会員が保険適用外医療（マッサージ等、歯科治療、妊婦検診及び不妊治療）を受けたとき給付 □1年度について10,000円以内
身体矯正器具等購入(修理)補助	20,415,536	眼鏡……2,046件 補聴器……2件	眼鏡、補聴器、補装具のいずれかを購入（修理）したとき補助 □2年度に1回に限り10,000円以内
ホームヘルパー雇用補助	469,418	7件	会員、配偶者、会員又は配偶者の扶養家族、会員又は配偶者の父母が、在宅療養中に介助者及び家事援助者を1年度に5日以上雇用して、その費用を負担したとき補助 □1日2,000円以内（1年度に60日を限度） ただし、介護保険の在宅支援給付を受けている場合は、その自己負担額の範囲内とする。
心身リフレッシュ支援助成	48,108,700	15年……376人 25年……558人	会員の会員継続年数が15年、25年に達したとき助成 □会員年数15年：40,000円、25年：60,000円 □助成品目：旅行券又は図書カード
災害特別支援金	269,935	4件	人事異動の内示後、住居を確保したものの、東日本大震災に伴い入居が不可能となり、かつ、契約の相手方の事情により所要経費の返還を求められなくなったとき助成
計	526,529,039		

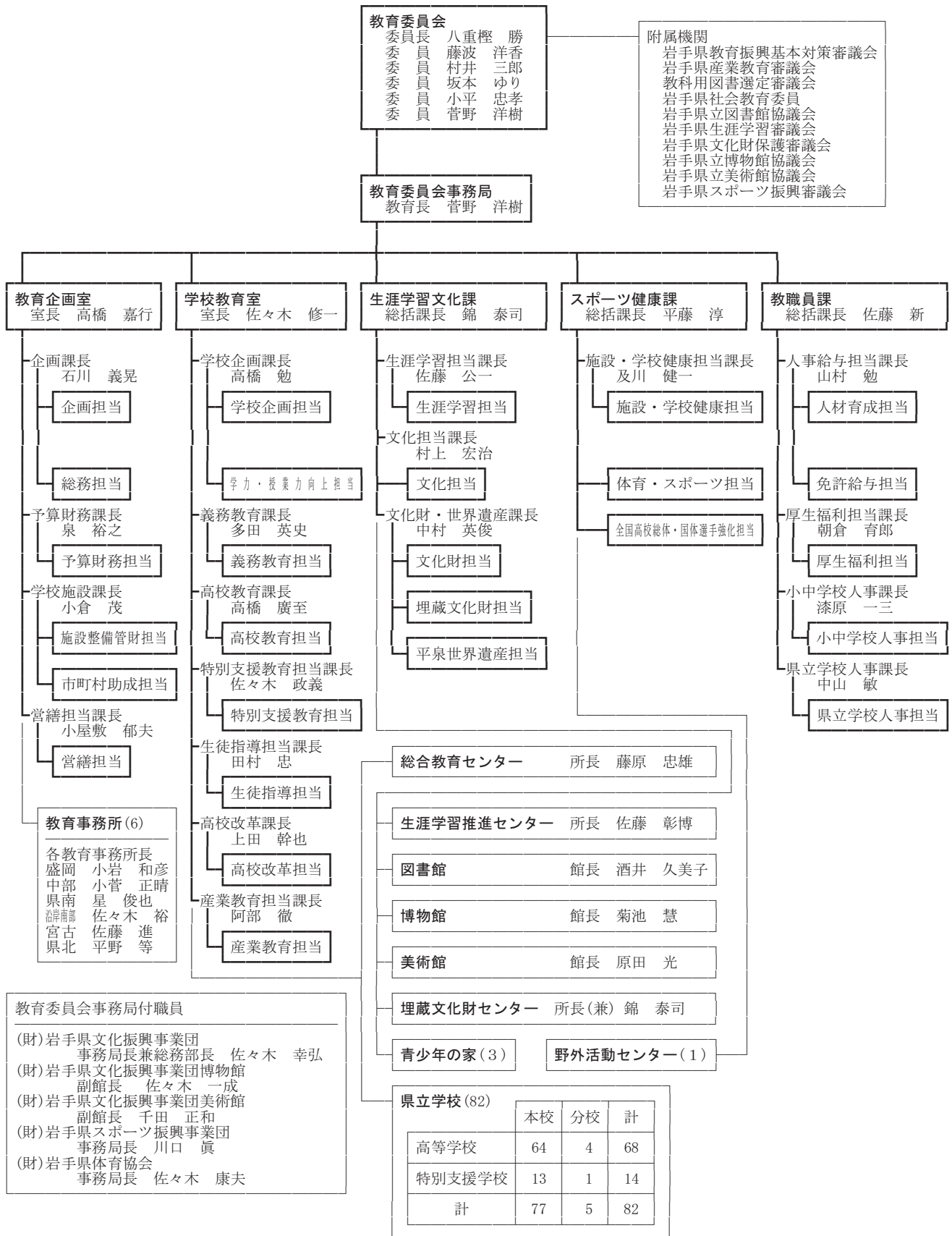
第4 特別弔慰積立事業

区 分	給付額 (円)	件数(人数)	制度の概要
特別弔慰金	4,550,000	会員…………… 11人 配偶者………… 9人 被扶養者…29人	会員、配偶者又は被扶養者が死亡したとき給付 □会員：20万円、配偶者：10万円、被扶養者：5万円
積立給付金	29,637,300	積立金… 522人	退会により会員の資格を失ったとき、積立金を給付 □積立金・毎月200円積立の累計額
計	34,187,300		

第5 貸付事業

区 分	貸付額 (円)	件 数	制度の概要
生活資金	275,500,000	192件	会員が臨時に資金を必要とするとき □貸付限度額200万円
奨学資金	64,000,000	39件	会員又はその子弟が高校、大学等に入学又は修学するため資金を必要とするとき □貸付限度額200万円
海外旅行資金	2,000,000	2件	会員が海外旅行をする場合で旅行日前2か月以内に資金を必要とするとき □貸付限度額100万円
結婚資金	4,000,000	2件	会員又はその子が結婚する場合で婚姻の前後6か月以内に資金を必要とするとき □貸付限度額200万円
災害特別資金	149,900,000	106件	
計	495,400,000	341件	

1 県教育委員会機構図（平成23年5月1日現在）



2 県教育委員会が所管する附属機関の委員

岩手県教育振興基本対策審議会委員（平成23年7月1日現在）

野田 武 則（釜石市長）
 高橋 由 一（金ヶ崎町長）
 似内 宏 和（遠野市教育委員会委員長）
 岩船 敏 行（山田町教育委員会教育長）
 鈴木 祐 子（(社)岩手県PTA連合会副会長）
 菅原 優 優（岩手県高等学校PTA連合会理事）
 佐藤 哲 郎（岩手県社会教育連絡協議会副会長）
 浅沼 道 成（(財)岩手県体育協会理事）
 野田 みどり（(社)岩手県芸術文化協会）
 遠藤 洋 一（元盛岡第一高等学校長）
 鎌田 文 聰（岩手大学教育学部教授）
 工藤 玲 子（滝沢村立柳沢小・中学校評議員）
 澤口 たまみ（エッセイスト、盛岡大学短期学部非常勤講師）
 高橋 寿 子（農事組合法人いさわ産直センターあじさい代表理事組合長）
 増田 久 士（釜石シーウェイブスRFC事務局長）
 三浦 光 子（臨床心理士）
 谷村 久 興（谷村電気精機株式会社代表取締役社長）
 吉田 道 一（盛岡教育事務所在学青少年指導員）
 （任期：平成23年7月1日～平成25年6月30日）

岩手県社会教育委員（平成23年7月1日現在）

阿部 幸 子（滝沢村立一本木小学校長）
 佐藤 東 吾（岩手県立盛岡青松支援学校長）
 鈴木 俊 俊（岩手県立盛岡第二高等学校長）
 泉田 将 治（岩手県青年団体協議会長）
 平賀 喜代美（特定非営利活動法人岩手県地域婦人団体協議会副会長）
 小野寺 明 美（(社)岩手県PTA連合会顧問）
 大橋 清 司（岩手県社会教育連絡協議会長）
 室井 麗 子（岩手大学教育学部准教授）
 佐藤 利 明（岩手県立大学総合政策学部教授）
 阿部 智衛子（特定非営利活動法人矢巾ゆりかご名誉理事）
 齋藤 肇 肇（財団法人滝沢村体育協会総務係長県事業係長(チャグチャグスポーツクラブ事務局長)）
 中野 寛 司（岩手県合唱連盟会員 盛岡市立大宮中学校教諭）
 近藤 英 一（特定非営利活動法人翔くつばさネット理事長）
 松島 智 子（特定非営利法人紫波未来研究所事務局長）
 熊坂 伸 子（普代村教育委員会教育長）
 千葉 清 清（公募委員）

（任期：平成22年7月1日～平成24年6月30日）

岩手県立図書館協議会委員（平成23年6月20日現在）

安 保 位 子（岩手県学校図書館協議会長）
 及 川 典 子（読み聞かせボランティアグループ「けやきの会」代表 おはなしキャラバン「すくすく」代表）
 宮 手 一 恵（NPO法人うれし野こども図書館理事）
 土 方 和 行（一関市役所川崎支所長）
 藤 原 哲 哲（岩手日報社編集局学芸部長）
 斎 藤 純 純（作家）
 佐々木 るみ子（遠野市教育委員会委員）
 澤 口 杜 志（公募委員：うすゆきそう文庫代表）
 （任期：平成22年7月1日～平成24年6月30日）

岩手県生涯学習審議会委員（平成23年7月1日現在）

阿 部 幸 子（滝沢村立一本木小学校長）
 佐藤 東 吾（岩手県立盛岡青松支援学校長）
 鈴木 俊 俊（岩手県立盛岡第二高等学校長）
 泉田 将 治（岩手県青年団体協議会長）
 平賀 喜代美（特定非営利活動法人岩手県地域婦人団体協議会副会長）
 小野寺 明 美（(社)岩手県PTA連合会顧問）
 大橋 清 司（岩手県社会教育連絡協議会長）
 室井 麗 子（岩手大学教育学部准教授）
 佐藤 利 明（岩手県立大学総合政策学部教授）
 阿部 智衛子（特定非営利活動法人矢巾ゆりかご名誉理事）
 齋藤 肇 肇（財団法人滝沢村体育協会総務係長県事業係長(チャグチャグスポーツクラブ事務局長)）
 中野 寛 司（岩手県合唱連盟会員 盛岡市立大宮中学校教諭）
 近藤 英 一（特定非営利活動法人翔くつばさネット理事長）
 松島 智 子（特定非営利法人紫波未来研究所事務局長）
 熊坂 伸 子（普代村教育委員会教育長）
 千葉 清 清（公募委員）

（任期：平成22年7月1日～平成24年6月30日）

参考資料

2 県教育委員会が所管する附属機関の委員

岩手県文化財保護審議会委員（平成23年5月1日現在）

朝日田 卓（北里大学海洋生命学部准教授）
大 島 晃 一（一関市博物館副館長）
大 矢 邦 宣（盛岡大学教授）
熊 谷 常 正（盛岡大学教授）
越 谷 信（岩手大学准教授）
佐 藤 由紀男（岩手大学教授）
月 舘 敏 栄（八戸工業大学教授）
中 屋 洋 子（盛岡簡易裁判所調停委員）
根 本 智 行（石巻専修大学教授）
橋 本 裕 之（盛岡大学教授）
（任期：平成22年5月1日～平成24年4月30日）

岩手県立博物館協議会委員（平成23年5月1日現在）

小笠原 洋 子（盛岡市立生出小学校長）
中 村 雅 英（盛岡市立城西中学校長）
藤 原 正 義（岩手県立盛岡第四高等学校長）
加 藤 国 雄（岩手県青年団体協議会会長）
柴 田 幸 榮（特定非営利活動法人岩手県地域婦人団体協議会副会長）
安 倍 互（(社)岩手県PTA連合会顧問）
野 沢 裕 美（小岩井農場展示資料館長）
盛 川 通 正（滝沢村教育委員会教育長）
前 田 千香子（岩手県立博物館友の会会員）
小 原 守 夫（(株)岩手日報社編集局次長兼編集委員室長）
名 越 利 幸（岩手大学准教授）
遠 山 稿二郎（岩手医科大学教授）
大 上 治 子（盛岡大学教授）
澤 口 たまみ（エッセイスト）
（任期：平成21年6月23日～平成23年6月22日）

岩手県立美術館協議会委員（平成23年5月1日現在）

阿 部 裕 之（岩手大学教育学部教授）
長 内 努（彫刻家・舞台美術家）
久 慈 浩 介（(社)日本青年会議所東北地区岩手ブロック協議会会長）
佐々木 繁 美（(財)盛岡市文化振興事業団事務局次長）
佐 藤 浩 子（岩手県立美術館友の会会長）
佐 藤 嘉 彦（滝沢村立滝沢第二中学校校長）
菅 原 和 彦（(株)岩手日報社論説委員）
鈴 木 祐 子（(社)岩手県PTA連合会副会長・母親委員長）
そのだ つくし（漫画家）
鳥 羽 真喜子（宮古市立津軽石小学校校長）
中 村 文 子（公募委員）
林 晶 子（(株)瑞光専務取締役）
柳 橋 好 子（特定非営利活動法人岩手県地域婦人団体協議会常務理事）
横 田 禮 子（学校法人スコレ盛岡スコレ高等学校校長）
吉 田 浩 次（(株)川徳常務取締役）
（任期：平成22年3月1日～平成24年2月29日）

岩手県スポーツ振興審議会委員（平成23年6月23日現在）

松 尾 光 則（矢巾町教育委員会教育長）
高 橋 三 男（岩手県商工会議所連合会理事）
鷹 背 文 昭（(財)岩手県体育協会副会長兼理事長）
松 尾 和 彦（岩手県高等学校体育連盟理事長）
西 郷 晃（岩手県中学校体育連盟理事長）
伊 東 ま さ（岩手県体育指導委員協議会会長）
朴 田 香 代（岩手県小学校体育研究会広報部員）
清 水 茂 幸（岩手大学教育学部教授）
押 切 昌 子（(社)岩手県薬剤師会理事）
首 藤 信 一（ソウルオリンピックハンドボール競技日本代表）
竹 村 馨（アトランタオリンピックシクロナイズドスミング団体銅メダリスト）
小 島 勝 子（公募委員）
工 藤 眞理子（公募委員）
（任期：平成22年6月23日～平成24年6月22日）

3 県教育委員会会議（平成23年度）

4 月定例会（平成23年4月18日）

- 事務報告1 平成23年2月県議会定例会の概要について
- 議案第1号 文化財の指定並びに追加指定及び保持団体の認定に関し議決を求めることについて
- 議案第2号 岩手県教育委員会代決専決規程の一部を改正する訓令の臨時専決処理に関し承認を求めることについて
- 議案第3号 教科用図書選定審議会委員の任命の臨時専決処理に関し承認を求めることについて
- 議案第4号から議案第6号まで 学校職員の懲戒処分に関し議決を求めることについて
- 議案第7号から議案第11号まで 学校職員の懲戒処分の臨時専決処理に関し承認を求めることについて
- 議案第12号 公立小中学校長の人事の議決に係る変更の臨時専決処理に関し承認を求めることについて
- 議案第13号 県立学校の校長及び事務長の人事の議決に係る変更の臨時専決処理に関し承認を求めることについて

5 月定例会（平成23年5月16日）

- 事務報告1 平成23年4月県議会臨時会の概要について
- 事務報告2 平成23年度全国高等学校総合体育大会競技種目別大会会場及び競技会場の変更について
- 議案第14号 学校職員の懲戒処分の臨時専決処理に関し承認を求めることについて
- 議案第15号から議案第16号まで 公立小学校長の人事の臨時専決処理に関し承認を求めることについて

6 月定例会（平成23年6月20日）

- 事務報告1 平成23年6月県議会臨時会の概要について
- 議案第17号 岩手県教育振興基本対策審議会委員の任命に関し議決を求めることについて
- 議案第18号 岩手県立図書館協議会委員の任命に関し議決を求めることについて
- 議案第19号 岩手県立博物館協議会委員の任命に関し議決を求めることについて
- 議案第20号 岩手県スポーツ振興審議会委員の任命及び解任に関し議決を求めることについて
- 議案第21号 学校教育法施行細則の一部を改正する規則
- 議案第22号 教科用図書選定審議会委員の任命の一部を変更する臨時専決処理に関し承認を求めることについて
- 議案第23号 学校職員の懲戒処分に関し議決を求めることについて
- 議案第24号 学校職員の懲戒処分の臨時専決処理に関し承認を求めることについて
- 議案第25号 学校職員の一般の退職手当等の全部を支給しないこととする処分の臨時専決処理に関し承認を求めることについて

7 月定例会（平成23年7月19日）

- 事務報告1 平成23年6月県議会定例会の概要について
- 議案第26号 公立小学校長の人事に関し議決を求めることについて

8 月定例会（平成23年8月22日）

- 事務報告1 平成23年8月県議会臨時会の概要について
- 事務報告2 平成23年度岩手県立高等学校入学者選抜学力検査実施概況について
- 議案第27号 教育委員会の事務に係る点検及び評価に関し議決を求めることについて
- 議案第28号 県立学校の分校、課程及び学科の廃止に関し議決を求めることについて
- 議案第29号から議案第31号まで 学校職員の懲戒処分に関し議決を求めることについて
- 議案第32号 学校職員の一般の退職手当等の全部を支給しないこととする処分に関し議決を求めることについて

9 月定例会（平成23年9月20日）

- 事務報告1 県立学校の改築について
- 事務報告2 平成24年度岩手県立一関第一高等学校附属中学校入学者選抜実施要項について
- 事務報告3 平成23年度全国高等学校総合体育大会・全国中学校体育大会の結果について
- 議案第33号 岩手県立特別支援学校の管理運営に関する規則の一部を改正する規則
- 議案第34号 岩手県教育委員会行政組織規則の一部を改正する等の規則

10月臨時会（平成23年10月6日）

- 第1 委員長選挙
- 第2 委員長職務代理者の指定
- 第3 委員長職務代理者の順位の決定
- 第4 議席の決定

10月定例会（平成23年10月24日）

- 事務報告1 平成24年度岩手県立高等学校入学者選抜実施要項について
- 事務報告2 平成24年度岩手県立特別支援学校高等部の学級数等について

- 事務報告 3 第66回国民体育大会の結果について
- 議案第35号 教育表彰の受賞者に関し議決を求めることについて
- 議案第36号 岩手県立高等学校の管理運営に関する規則の一部を改正する規則
- 議案第37号 平成24年度岩手県教育委員会定期人事異動方針の臨時専決処理に関し承認を求めることについて
- 議案第38号 学校職員の懲戒処分に関し議決を求めることについて

11月定例会（平成23年11月21日）

- 事務報告 1 平成23年9月県議会定例会の概要について

12月定例会（平成23年12月19日）

- 事務報告 1 平成23年12月県議会定例会の概要について
- 事務報告 2 岩手県指定有形文化財の指定の解除について
- 事務報告 3 第71回国民体育大会開催について
- 議案第39号 岩手県教育委員会が行う政策等の評価に関する規則の一部を改正する規則

12月臨時会（平成23年12月27日）

- 議案第40号 第71回国民体育大会の開催協議に同意することに関し議決を求めることについて

1月定例会（平成24年1月16日）

- 事務報告 1 平成24年度岩手県立一関第一高等学校附属中学校の入学選抜検査の実施について
- 議案第41号から議案第42号まで 学校職員の懲戒処分に関し議決を求めることについて

2月定例会（平成24年2月20日）

- 議案第43号 岩手県立美術館協議会委員の任命に関し議決を求めることについて
- 議案第44号 岩手県教育委員会行政組織規則の一部を改正する規則
- 議案第45号 岩手県教育委員会代決専決規程の一部を改正する訓令
- 議案第46号から議案第49号まで 学校職員の懲戒処分に関し議決を求めることについて
- 議案第50号 職員の懲戒処分に関し議決を求めることについて

2月臨時会（平成24年2月29日）

- 議案第51号 本庁の室課の長等の人事に関し議決を求めることについて
- 議案第52号 公立小中学校長の人事に関し議決を求めることについて
- 議案第53号 県立学校の校長及び事務長の人事に関し議決を求めることについて

3月定例会（平成24年3月23日）

- 事務報告 1 学校防災・災害対応指針及び教育委員会危機管理マニュアル【改訂版】について
- 事務報告 2 平成23年度全国高等学校総合体育大会冬季大会、平成23年度全国中学校体育大会冬季大会、第67回国民体育大会冬季大会の結果について
- 議案第54号 平成28年度以降の岩手県立高等学校入学選抜の実施方法に関し議決を求めることについて
- 議案第55号 教科用図書選定審議会委員の任命に関し議決を求めることについて
- 議案第56号から議案第60号まで 学校職員の懲戒処分に関し議決を求めることについて
- 議案第61号 学校職員の一般の退職手当等の全部を支給しないこととする処分に関し議決を求めることについて
- 議案第62号 博物館長の人事に関し議決を求めることについて
- 議案第63号 教育長の任命に関し議決を求めることについて

4 県教育委員会関係主要行事（平成23年度）

- 4月 11日 学校再開に向けた代表指導主事会議〔県庁舎〕
 12日 公所長会議〔県庁舎〕
 19～20日 県立学校等新任副校長研修講座〔盛岡二高〕
 18日 教育委員会議定例会〔教育委員室〕
- 5月10～12日 県立学校等新任校長研修講座〔サンセール盛岡〕
 16日 教育委員会議定例会〔教育委員室〕
 23日 第6回岩手県教育振興基本対策審議会〔サンセール盛岡〕
 18日 第1回県立学校長会議〔県産業会館〕
 19日～6月19日 第63回岩手県高等学校総合体育大会〔盛岡市ほか〕
 21日 岩手県ユネスコ連盟総会〔サンセール盛岡〕
 27日 県立学校副校長会議〔サンセール盛岡〕
- 6月 20日 教育委員会議定例会〔教育委員室〕
 22日 第1回学校・家庭・地域の連携による教育支援活動促進委員会〔盛岡地区合同庁舎〕
- 7月 8日 放課後子どもプラン指導者合同研修会①〔生涯学習推進センター〕
 14～24日 全国高等学校野球選手権大会岩手大会〔盛岡市ほか〕
 15日 県小・中学校教育課程説明会〔総合教育センター〕
 15日 第1回県指導主事会議〔総合教育センター〕
 15～18日 岩手県中学校総合体育大会〔盛岡市ほか〕
 19日 教育委員会議定例会〔教育委員室〕
 20日 第80回岩手県スポーツ振興審議会〔盛岡地区合同庁舎〕
 25日 第1回岩手県教育振興基本対策審議会〔サンセール盛岡〕
 27日 第1回岩手県生涯学習審議会・岩手県社会教育委員会議〔県庁舎〕
 27日 第35回全国高等学校総合文化祭郷土芸能部門（～29日）
 27日～8月20日 全国高等学校総合体育大会〔盛岡市ほか〕
- 8月 2日 第35回全国高等学校総合文化祭（2日から4日）
 18～19日 第11回全国中学校総合文化祭岩手大会・第10回岩手県中学校総合文化祭開会式〔県民会館〕
 17～25日 全国中学校体育大会〔近畿ブロック〕
 26～28日 第38回東北総合体育大会〔宮城県ほか〕
 22日 教育委員会議定例会〔教育委員室〕
- 9月1～2日 北海道・東北ブロック生涯学習・社会教育委主管課長会議〔青森県〕
 4日 放課後子どもプラン指導者合同研修会②〔生涯学習推進センター〕
 7日 第1回児童生徒表彰式（はばたき賞）〔県民会館〕
 16日 第1回岩手県文化財保護審議会〔県民会館〕
 22日 交通安全教育指導者講習会〔アイーナ〕
 20日 教育委員会議定例会〔教育委員室〕
- 10月 1日 第64回岩手芸術祭開幕フェスティバル〔県民会館〕
 1～11日 第66回国民体育大会〔山口県〕
 6日 教育委員会議臨時会〔教育委員室〕
 7日 第34回岩手県高等学校総合文化祭開会式〔県民会館〕
 15日 第34回県高総文祭 郷土芸能発表会開会行事〔県民会館〕
 24日 教育委員会議定例会〔教育委員室〕
 25日 第2回県立学校長会議〔サンセール盛岡〕
- 11月 8日 学習定着度状況調査の実施〔各小中学校〕
 14～15日 第2回岩手県社会教育主事等会議〔生涯学習推進センター〕
 18日 教育表彰〔県民会館〕
 21日 教育委員会議定例会〔教育委員室〕
 22日 「いわて教育の日」記念式典〔盛岡劇場〕
 22日 第2回代表指導主事会議〔県庁舎〕

参考資料

4 県教育委員会関係主要行事

- 12月 16日 岩手県美術選奨・芸術選奨表彰式〔サンセール盛岡〕
19日 教育委員会議定例会〔教育委員室〕
27日 教育委員会議臨時会〔教育委員室〕
- 1月 5日 第47回岩手県学校健康教育研究大会〔マリオス・アイーナ〕
16日 教育委員会議定例会〔教育委員室〕
20日 第2回県指導主事会議〔総合教育センター〕
26日 岩手県就学指導委員会〔県庁舎〕
27日 幼稚園等新規採用教員研修運営協議会〔県庁舎〕
30日 第1回岩手県スポーツ推進審議会〔県庁舎〕
28～31日 第67回国民体育大会冬季大会スケート競技会〔岐阜県・愛知県〕
- 2月 7日 第2回岩手県生涯学習審議会・岩手県社会教育委員会議〔県庁舎〕
9～10日 第3回代表指導主事会議〔県庁舎〕
9～10日 岩手県生涯学習推進研究発表会〔生涯学習推進センター〕
9日 第2回児童生徒表彰式（はばたき賞）〔エスポワールいわて〕
13日 第3回岩手県社会教育主事会議〔盛岡地区合同庁舎〕
15日 第3回県立学校長会議〔サンセール盛岡〕
20日 第2回学校・家庭・地域の連携による教育支援活動促進委員会〔盛岡地区合同庁舎〕
20日 教育委員会議定例会〔教育委員室〕
14～17日 第67回国民体育大会冬季大会スキー競技会〔岐阜県〕
29日 教育委員会議臨時会〔教育委員室〕
- 3月 23日 教育委員会議定例会〔教育委員室〕
30日 退職者感謝状贈呈式〔県民会館〕

5 私立学校

(1) 私立学校審議会

ア 委員（平成23年7月1日現在、五十音順）

- 大 森 紀代美 （盛岡生活文化研究室幹事）
- 荻 原 禮 子 （盛岡白百合学園中学校長 高等学校長）
- 柏 眞喜子 （東北公営企業株式会社代表取締役社長）
- 久 保 榮 子 （学校法人コアトレース理事長）
- 坂 水 か よ （聖パウロ幼稚園長）
- 咲 間 まり子 （岩手県立大学社会福祉学部准教授）
- 佐 藤 勝 （元岩手県教育委員会教育長）
- 田 代 高 章 （岩手大学教育学部准教授）
- 横 田 大 樹 （学校法人宮古泉学園理事長 宮古泉幼稚園長）
- 横 田 禮 子 （盛岡スコーレ高等学校長）

イ 審議の状況

私立学校審議会が知事の諮問により審議し、原案を可として答申した案件は次のとおり。

- (ア) 平成23年6月16日答申
 - 学校の廃止認可について
 - 葛巻幼稚園
 - 釜石南幼稚園
 - 北上服飾専門学院
 - 学校法人の解散認可について
 - 学校法人葛巻学園
 - 学校法人釜石南学園
- (イ) 平成23年9月29日答申
 - 専修学校の目的変更認可について
 - 専門学校盛岡カレッジオブビジネス
- (ウ) 平成24年3月30日答申
 - 学校の収容定員に係る学則変更認可について
 - 千厩小羊幼稚園

(2) 私立学校等認可の状況

平成23年度中に知事が認可した件数は次のとおり。

- ア 学校の廃止認可…………… 3件
- イ 学校法人の解散認可…………… 2件
- ウ 専修学校の目的変更認可…………… 1件
- エ 学校の収容定員に係る学則変更認可…………… 1件

(3) 助成の状況（平成23年度最終予算）

ア 県費補助

(ア) 私立学校運営費補助

幼稚園・小・中・高等学校補助	4,244,441千円
過疎地域私立高等学校補助（3校）	157,031千円
特別支援教育費補助（42幼稚園）	89,768千円
教育改革推進特別経費	248,160千円
特別支援学校補助（1校）	93,436千円
専修学校補助（15校）	68,487千円
(イ) 私立学校教職員退職金給付事業費補助	134,281千円
(ウ) 日本私立学校振興・共済事業団補助	47,531千円
(エ) 私立高等学校等授業料減免補助	15,740千円
(オ) 私立学校被災児童生徒等就学支援事業費補助	99,262千円
(カ) 私立学校等災害復旧事業費補助	30,411千円

イ 岩手県私学教育振興会貸付金

施設整備・経営資金貸付	174,500千円
-------------	-----------

(4) 私学教育表彰の実施

岩手県私学教育表彰実施要綱（昭和58年岩手県告示第1076号）に基づき、本県の私学教育に関し功労のあった次の者に対し、平成23年11月8日知事表彰を行った。

○ 団体 岩手女子高等学校

○ 個人 菅原 瑞秋（学校法人高田学園 理事長）
 佐々木 京子（ひかり幼稚園 副園長）
 小坂 恵子（愛心幼稚園 副園長）
 平賀 貞子（花巻ささま幼稚園 園長）
 小林 義孝（盛岡大学附属高等学校 教頭）
 村井 伸吾（岩手中学・高等学校 校長）
 佐藤 吉文（花巻東高等学校 教務部長）
 村谷 忠信（盛岡白百合学園中学・高等学校 生徒指導部長）
 和久井 修子（岩手リハビリテーション学院 事務員）

6 県教育委員会が所管する特例民法法人・公益信託

【特例民法法人（平成24年3月31日現在）】

番号	名称	許可年月日	目的・事業	所在地
1	(社)達古袋農業教育協会	大正3年6月15日	農業教育の普及	一関市萩荘字八幡153-1
2	(財)大慈会	大正11年11月18日	大慈寺の維持経営	盛岡市大慈寺町5-6（大慈寺内）
3	(財)岩手育英会	大正14年9月10日	育英奨学	盛岡市津志田14-37-2（盛岡市教委内）
4	(財)盛岡菅公会	昭和2年5月14日	育英・天満宮維持経営	盛岡市南大通2-8-5
5	(財)福岡高等学校奨学会	昭和5年11月11日	育英奨学	二戸市福岡字上平10
6	(財)岩手教育会館	昭和27年8月18日	教育関係者の福利厚生	盛岡市大通1-1-16
7	(財)重茂教育振興会	昭和30年3月30日	奨学金貸与	宮古市大字重茂第1地割字西大館61
8	(財)岩手県学校給食会	昭和33年5月1日	学校給食関係事業	盛岡市流通センター北1-12-1
9	(財)岩手県高校教育会館	昭和34年11月6日	高校関係教職員の福利厚生	盛岡市志家町11-13
10	(財)高村記念会	昭和40年11月4日	高村光太郎記念館の管理	花巻市花城町4-28（総合花巻病院内）
11	(財)岩手県体育協会	昭和41年4月28日	県民体育の普及振興	盛岡市青山4-13-30
12	(財)二十五菩薩像保存委員会	昭和42年2月23日	二十五菩薩像の保存	一関市東山町松川字町裏64
13	(財)岩手育英奨学会	昭和42年7月14日	育英奨学	盛岡市内丸10-1（県教委教育企画室内）
14	(社)岩手県文化財愛護協会	昭和44年7月1日	文化財愛護思想の普及	盛岡市上田字松屋敷34（県立博物館内）
15	(財)石川啄木記念館	昭和44年9月18日	石川啄木記念館の管理	盛岡市玉山区洪民字洪民9
16	(社)久慈学校給食協会	昭和47年3月24日	学校給食関係事業	久慈市寺里30-77
17	(財)岩手県教職員互助会	昭和47年4月1日	教育関係者の福利厚生	盛岡市大通1-1-16
18	(社)野田村学校給食協会	昭和47年3月24日	学校給食関係事業	九戸郡野田村野田22-114-13
19	(財)大船渡市体育協会	昭和47年4月24日	体育振興	大船渡市盛町字宇津野沢15（大船渡市教委内）
20	(財)岩手県退職教職員互助会	昭和48年7月3日	教育文化の振興	盛岡市大通1-1-16
21	(財)遠野市教育文化振興財団	昭和49年4月22日	教育文化の振興	遠野市新町1-10（遠野市教委内）
22	(財)大船渡市育英奨学会	昭和49年8月19日	育英奨学	大船渡市盛町字宇津野沢15（大船渡市教委内）
23	(財)岩手県青少年会館	昭和49年8月30日	社会教育の振興	盛岡市みたけ3-38-20
24	(財)軽米教育施設運営会	昭和50年4月1日	教育施設の管理	九戸郡軽米町大字軽米9-51-1
25	(社)岩手県芸術文化協会	昭和50年7月21日	芸術文化の振興	盛岡市内丸13-1（県民会館内）
26	(財)九戸教育施設運営会	昭和51年1月28日	教育施設の管理	九戸郡九戸村大字山根5-95
27	(財)宮沢賢治記念会	昭和51年5月28日	文化遺産の管理保全	花巻市鍛冶町4-13
28	(財)紫波社会体育振興会	昭和51年12月20日	社会体育の振興	紫波郡紫波町桜町字下川原100
29	(財)岩手県学校安全互助会	昭和52年4月1日	学校事故被災者救済	盛岡市中央通1-4-7
30	(財)三陸教育施設運営会	昭和52年4月18日	教育施設の管理	大船渡市三陸町越喜来字前田23
31	(財)岩手教育文化センター	昭和54年8月20日	教育文化の向上	盛岡市上田3-18-33（国立大学法人岩大教育学部内）
32	(社)奥州市体育協会	昭和54年10月22日	体育・スポーツの振興	奥州市水沢区秋葉町24-3
33	(財)盛岡市体育協会	昭和55年5月19日	体育・スポーツの振興	盛岡市上田3-17-60
34	(財)滝沢村体育協会	昭和56年3月23日	体育・スポーツの振興	岩手郡滝沢村大字鶴岡字御庭田1-1
35	(社)一関市体育協会	昭和56年3月23日	体育・スポーツの振興	一関市狐禅寺字石ノ瀬25-3

参考資料

6 県教育委員会が所管する特例民法法人・公益信託

番号	名称	許可年月日	目的・事業	所在地
36	(社)岩手囲碁センター	昭和56年3月23日	囲碁の普及	盛岡市大通1-1-16
37	(財)岩手町体育協会	昭和57年3月29日	体育・スポーツの振興	岩手郡岩手町大字子抱4-12
38	(財)紫波町体育協会	昭和58年3月23日	体育・スポーツの振興	紫波郡紫波町桜町字下川原100
39	(財)雫石町体育協会	昭和58年4月30日	体育・スポーツの振興	岩手郡雫石町第1地割字高前田104
40	(財)伊藤育英会	昭和58年9月19日	育英奨学	花巻市大通り1-12-14
41	(財)岩手県教育振興基金	昭和61年9月25日	教育研究団体等への助成	盛岡市菜園1-11-15
42	(財)小林奨学育英会	昭和62年12月21日	育英奨学	奥州市水沢区中町127 (株式会社マツヤ内)
43	(社)久慈市体育協会	平成元年1月23日	体育・スポーツの振興	久慈市新中の橋4-13-3
44	(財)三木育英会	昭和35年10月25日 (平成元年2月26日移管)	育英奨学	一関市川崎町薄衣字石畑37 (川崎コンクリート工業株式会社内)
45	(財)宮古市体育協会	平成元年5月22日	体育・スポーツの振興	宮古市小山田2-1-1
46	(財)日本ボーイスカウト岩手連盟維持財団	平成元年7月17日	ボーイスカウト運動の援助・普及啓蒙	盛岡市みたけ3-38-20 (岩手県青少年会館内)
47	(社)八幡平市体育協会	平成2年2月19日	体育・スポーツの振興	八幡平市大更37-105-12
48	(社)岩手県ピアノ音楽協会	平成3年3月20日	芸術文化の振興	盛岡市緑が丘2-2-11 カーサ・ヴェルデ102
49	(財)北上教育文化振興会	平成3年3月29日	社会教育・文化・スポーツの振興	北上市相去町小糠沢19
50	(財)奥州市文化振興財団	平成4年4月20日	文化の振興	奥州市水沢区佐倉河字石橋41
51	(財)岩手県スキー連盟	平成4年11月24日	スキーの振興	盛岡市大新町3-25
52	(財)金ケ崎町生涯スポーツ事業団	平成5年11月22日	生涯スポーツの振興	胆沢郡金ケ崎町西根森山31-2
53	(財)花巻市体育協会	平成6年3月22日	スポーツの振興	花巻市城内1-43
54	(財)北上市体育協会	平成7年3月17日	スポーツの振興	北上市相去町高前壇27-36
55	(社)深澤紅子野の花美術館	平成8年3月21日	画家深澤紅子の業績の公開展示	盛岡市紺屋町4-8
56	(財)盛岡市文化振興事業団	平成9年10月15日	文化の振興	盛岡市盛岡駅西通2-9-1
57	(社)岩手県PTA連合会	平成12年7月17日	PTA活動の振興	盛岡市みたけ3-38-20 (岩手県青少年会館内)
58	(財)北上市文化創造	平成15年2月13日	文化の振興	北上市さくら通り2-1-1
59	(社)岩手県サッカー協会	平成17年4月1日	サッカーの振興	盛岡市青山4-13-30

【公益信託（平成24年3月31日現在）】

名称	許可年月日	目的・事業	受託者	受託者
公益信託田村清蔵記念奨学基金	昭和57年8月25日	育英奨学	田村 清蔵	三菱UFJ信託銀行株式会社

参考資料

7 県教育関係諸団体

7 県教育関係諸団体（平成24年5月1日現在）

No.	団体名	事務局所在地	事務局電話番号	代表者
1	岩手県小学校長会	盛岡市紺屋町2-9 盛岡市勤労福祉会館内	019-623-8955	横 沢 幹 雄
2	岩手県中学校長会	盛岡市紺屋町2-9 盛岡市勤労福祉会館内	019-622-0572	熊 谷 雅 英
3	岩手県高等学校長協会	盛岡市上田3-2-1 盛岡第一高等学校内	019-623-4491	高 橋 和 雄
4	岩手県副校長会	盛岡市馬場町1-1 下橋中学校内	019-651-2858	平 俊 一
5	岩手県高等学校副校長協議会	盛岡市上田3-2-1 盛岡第一高等学校内	019-623-4491	安 藤 泰 彦
6	岩手県小学校教育研究会	盛岡市本町通2-18-1 仁王小学校内	019-623-4214	横 沢 幹 雄
7	岩手県中学校教育研究会	盛岡市上田2-1-1 上田中学校内	019-623-4237	伊 藤 好 男
8	岩手県高等学校教育研究会	盛岡市上ノ橋町7-57 盛岡第二高等学校内	019-622-5101	千 葉 仁
9	岩手県小規模・複式学校教育研究連盟	岩手町川口41-145-2 北山形小学校内	0195-62-9152	佐々木 則子
10	岩手県高等学校定時制通信制教育協会	盛岡市上田2-3-1 杜陵高等学校内	019-652-1813	清 水 輝 男
11	岩手県学校保健研究会	紫波町稲藤字牡丹野5-1 紫波第三中学校内	019-673-7305	西 川 勝 夫
12	岩手県学校給食研究会	盛岡市長田町16-1 河北小学校内	019-622-6256	稲 垣 キツ子
13	岩手県公立小中学校事務職員研究協議会	久慈市小久慈町39-2-2 長内中学校内	0194-53-3143	伊 藤 義 幸
14	岩手県公立学校事務長会	盛岡市上ノ橋町7-57 盛岡第二高等学校内	019-622-5102	栗 生 行 三
15	岩手県公立高等学校事務職員協会	遠野市六日町3-17 遠野高等学校内	0198-62-2823	菊 池 薫
16	岩手県特別支援学校連絡協議会	盛岡市手代森6-10-14盛岡となん支援学校内	019-623-3907	鈴 木 長 幸
17	岩手県特別支援教育研究会	盛岡市本町通2-18-1盛岡仁王小学校内	019-623-4214	横 沢 幹 雄
18	岩手県公立幼稚園協議会	北上市和賀町長沼6-6-3 藤根幼稚園内	0197-73-5335	佐 藤 拓 美
19	(社)岩手県私立幼稚園連合会	盛岡市菜園1-3-6 農林会館内	019-654-1434	坂 本 洋
20	(社)岩手県私学協会	盛岡市菜園1-3-6 農林会館内	019-626-7627	小田島 順造
21	岩手県市町村教育委員会協議会	盛岡市津志田14-37-2 盛岡市教育委員会総務課内	019-651-4111	八 卷 恒 雄
22	(社)岩手県専修学校各種学校連合会	盛岡市菜園1-3-6 農林会館内	019-626-7627	龍 澤 正 美
23	(社)岩手県PTA連合会	盛岡市みたけ3-38-20 県青少年会館内	019-641-6444	米 澤 慎 悦
24	岩手県高等学校PTA連合会	盛岡市上田3-2-1 盛岡第一高等学校内	019-625-6386	松 尾 正 弘
25	岩手県特別支援学校PTA連合会	盛岡市乙部4-78-2 盛岡聴覚支援学校内	019-696-2582	佐々木 裕
26	岩手県公立幼稚園PTA連絡協議会	一関市滝沢字水口103-2 一関市立真滝幼稚園内	0191-21-2156	岩 渕 弘 喜
27	岩手県私立幼稚園PTA連合会	盛岡市菜園1-3-6 農林会館内	019-654-1434	淋 代 美 穂
28	岩手県私立小中高等学校保護者会	盛岡市菜園1-3-6 農林会館内	019-626-7627	澤 口 寿
29	岩手県子ども会育成会連絡協議会	矢巾町又兵衛新田7-214-7	019-697-4957	三 浦 保 治
30	岩手県生涯学習振興協会	花巻市北湯口2-82-13 生涯学習推進センター内	0198-27-4555	高 橋 寛
31	岩手県図書館協会	盛岡市盛岡駅西通1-7-1 県立図書館内	019-606-1730	酒 井 久 美子
32	岩手県青年団体協議会	盛岡市みたけ3-38-20 県青少年会館内	019-641-6412	泉 田 将 治
33	(特活)岩手県地域婦人団体協議会	盛岡市みたけ3-38-20 県青少年会館内	019-648-6620	及 川 公 子
34	岩手県ユネスコ協会連盟	盛岡市内丸10-1 県教育委員会事務局生涯学習文化課内	019-629-6176	安 藤 厚
35	岩手県社会教育連絡協議会	盛岡市津志田14-37-2 盛岡市教育委員会生涯学習スポーツ課内	019-651-4111	大 橋 清 司
36	岩手県地域視聴覚教育協議会連絡協議会	盛岡市内丸10-1 県教育委員会事務局生涯学習文化課内	019-629-6176	千 葉 仁 一
37	ボーイスカウト岩手県連盟	盛岡市みたけ3-38-20 県青少年会館内	019-641-1995	内 宮 眞
38	ガールスカウト日本連盟岩手県支部	盛岡市みたけ3-38-20 県青少年会館内	019-641-1153	平 井 ふみ子
39	(社)岩手県文化財愛護協会	盛岡市上田字松屋敷34 県立博物館内	019-661-9688	佐 藤 宏
40	岩手県読書推進運動協議会	盛岡市盛岡駅西通1-7-1 県立図書館内	019-606-1730	酒 井 久 美子
41	岩手県中学校文化連盟	盛岡市馬場町1-1 下橋中学校内	019-604-0126	熊 谷 雅 英
42	岩手県高等学校文化連盟	盛岡市津志田26-17-1 盛岡第四高等学校内	019-635-1068	須 貝 竹 志
43	岩手県中学校体育連盟	盛岡市愛宕町1-1 下小路中学校内	019-651-1942	作 山 雅 宏
44	岩手県高等学校体育連盟	盛岡市高松4-17-16 盛岡第三高等学校内	019-661-8115	山 田 市 雄
45	(財)岩手県体育協会	盛岡市青山4-13-30	019-648-0400	達 増 拓 也
46	岩手県生涯スポーツ推進協議会	盛岡市みたけ1-10-1 (財)岩手県スポーツ振興事業団内	019-641-1127	大 矢 正 昭
47	岩手県学校保健会	盛岡市内丸10-1 県教育委員会事務局スポーツ健康課内	019-629-6193	石 川 育 成
48	(財)岩手県学校安全互助会	盛岡市中央通1-4-7	019-654-3027	菅 野 洋 樹
49	(財)岩手県学校給食会	盛岡市流通センター北1-12-1	019-638-9429	盛 川 通 正
50	公立学校共済組合岩手支部	盛岡市内丸10-1 県教育委員会事務局教職員課内	019-629-6126	菅 野 洋 樹
51	(財)岩手県教職員互助会	盛岡市大通1-1-16 岩手教育会館内	019-622-7762	菅 野 洋 樹
52	(財)岩手育英奨学会	盛岡市内丸10-1 県教育委員会事務局教育企画室内	019-623-2050	原 久 雄
53	公益財団法人岩手県文化振興事業団	盛岡市内丸13-1 県民会館内	019-654-2235	池 田 克 典
54	(社)岩手県芸術文化協会	盛岡市内丸13-1 県民会館内	019-626-1202	松 本 源 蔵
55	公益財団法人岩手県スポーツ振興事業団	盛岡市みたけ1-10-1	019-641-1127	大 矢 正 昭
56	(社)岩手県私学振興会	盛岡市菜園1-3-6 農林会館内	019-652-0960	龍 澤 正 美
57	岩手県産業教育振興会	盛岡市羽場18-11-1 盛岡工業高等学校内	019-639-7250	阿 部 正 樹

岩手県教育年報 平成23年度版

発行 岩手県教育委員会

編集 岩手県教育委員会事務局教育企画室

所在地 岩手県盛岡市内丸10番1号 岩手県庁10階

電話番号 019-629-6106

ファクシミリ番号 019-629-6119

電子メールアドレス DB0001@pref.iwate.jp